

守山市
男女共同参画に関する市民意識調査
報告書

令和（ ）年 月

守山市

目 次

I. 調査概要.....	1
1 調査の概要.....	1
2. 回答者の属性.....	2
II. 調査の結果.....	11
1 家庭生活について.....	11
2 職業生活について.....	30
3 地域・社会活動など仕事以外の活動について	42
4 防災について.....	54
5 セクハラ・DVについて.....	57
6 女性への支援について.....	78
7 男女平等意識について.....	88
8 そのほかのことについて.....	106
III. 自由回答記述について.....	123
IV. 考察.....	127
付録 調査票.....	1

I. 調査概要

1 調査の概要

1.1 調査の目的

本調査は、市民意識や男女共同参画についてのこれまでの取り組みの成果や実態を把握し、今後の施策検討の基礎資料とすることを目的として行った。

1.2 調査の方法

- (1) 調査地域：守山市全域
- (2) 調査対象：令和6年4月1日現在、住民基本台帳に登録のある満18歳以上の市民
- (3) 標本数：上記対象から無作為に抽出した2,000人
- (4) 調査方法：郵送による配布、郵送・インターネット回答の併用、無記名方式
- (5) 調査期間：令和6年7月1日（月）～7月22日（月）

1.3 発送・回収状況

市域全域に、18歳以上の住民の約3%である2,000票（男性1,000人、女性1,000人）を発送した。そのうち回答が寄せられたのは450票（郵送：275票、インターネット回答は175票）、回収率は22.5%であった。

1.4 アンケート調査結果集計時の留意事項

- ①設問ごとの有効回答数は「n=〇」と表示しており、回答比率はこれを100%として算出している。
- ②本報告書の数表における比率は百分率で表し、小数点以下第2位を四捨五入しているため、百分率の合計が100%にならない場合がある。
- ③複数回答の設問については、回答数を母数として算出している。
- ④学区別や職業別に集計結果を考察する場合、構成比が小さくなっている学区や職業に関しては、統計的に誤差が大きくなることを考慮しなければならない。
- ⑤調査は「男女共同参画および人権・同和問題に関する市民意識調査」として実施したが、本報告書は男女共同参画に関する調査の結果について取りまとめたものである。

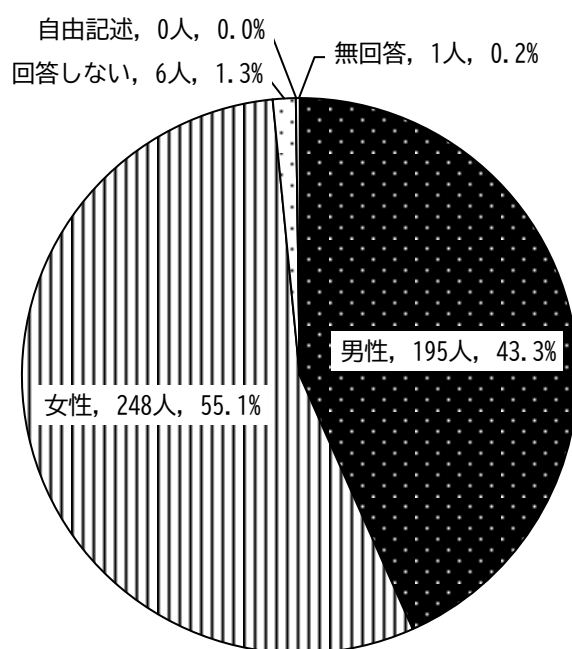
2. 回答者の属性

2.1 性別

回答者の性別は、男性 195人（43.3%）、女性 248人（55.1%）で女性が多くなっている。

表 2.1 性別構成

	回答数	構成比
男性	195人	43.3%
女性	248人	55.1%
回答しない	6人	1.3%
自由記述	0人	0.0%
無回答	1人	0.2%
合計	450人	100.0%



(n=450)

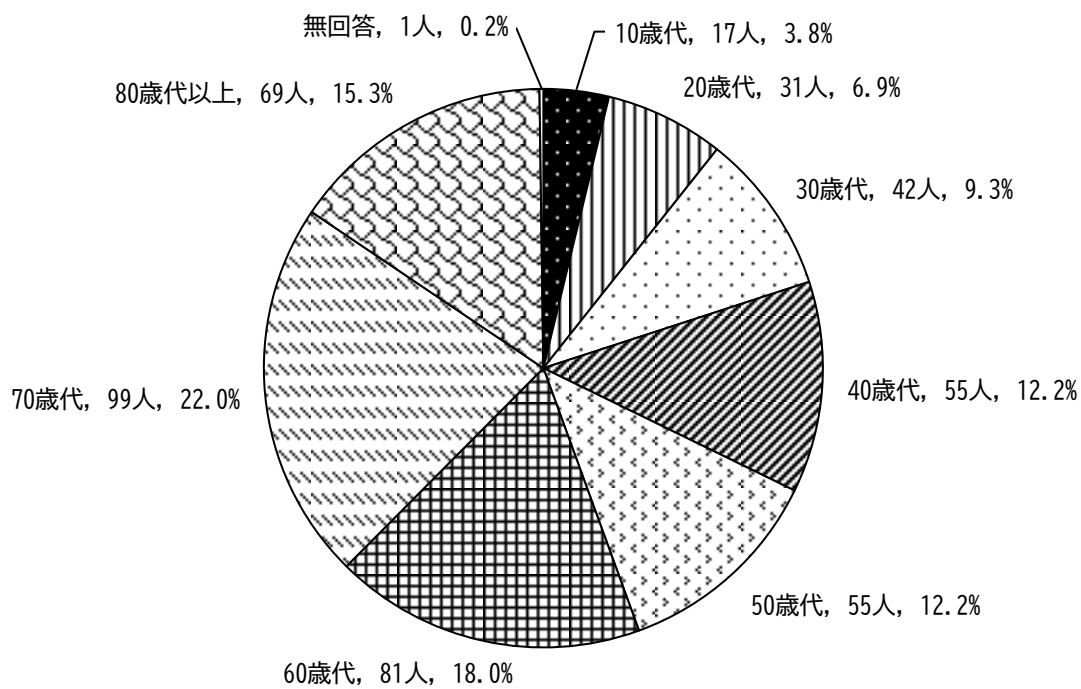
図 2.1 性別構成

2.2 年齢

回答者の年齢は「70歳代」が 22.0%と最も多く、次に「60歳代」が 18.0%、「80歳代以上」が 15.3%、「50歳代」「40歳代」が同率で 12.2%、「30歳代」が 9.3%となっている。

表 2.2 年齢構成

	回答数	構成比
10歳代	17人	3.8%
20歳代	31人	6.9%
30歳代	42人	9.3%
40歳代	55人	12.2%
50歳代	55人	12.2%
60歳代	81人	18.0%
70歳代	99人	22.0%
80歳代以上	69人	15.3%
無回答	1人	0.2%
合計	450人	100.0%



(n=450)

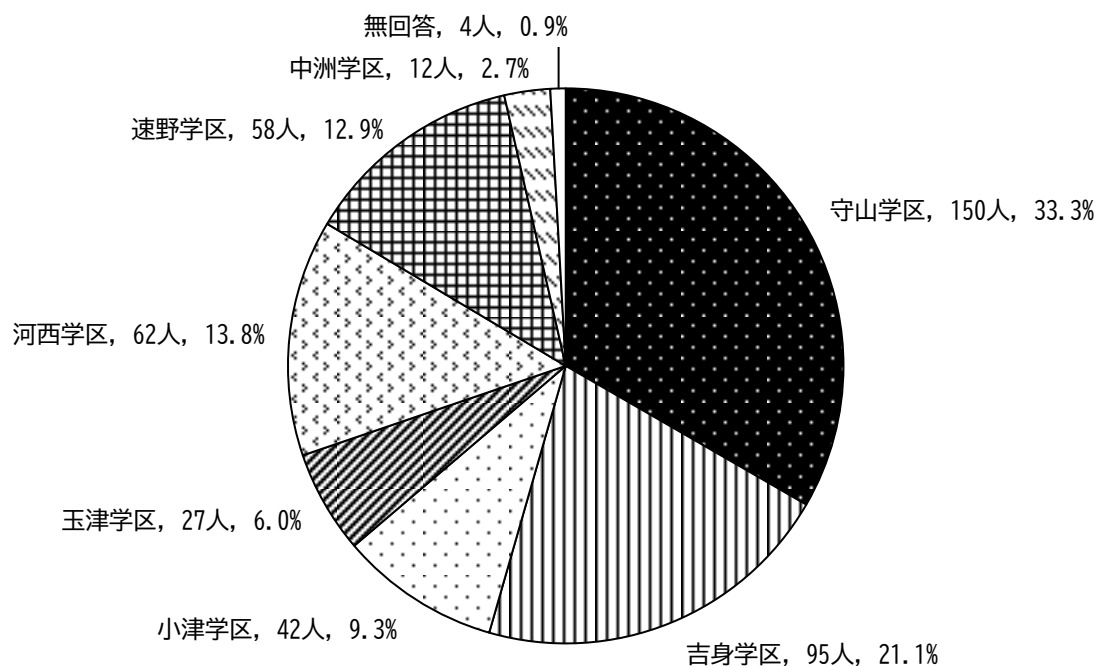
図 2.2 年齢構成

2.3 居住学区

回答者の居住学区は「守山学区」が最も多く 33.3%、次に「吉身学区」が 21.1%、「河西学区」が 13.8%、「速野学区」が 12.9%であった。概ね学区ごとの人口比率に応じた回答数であった。

表 2.3 居住学区構成

	回答数	構成比
守山学区	150人	33.3%
吉身学区	95人	21.1%
小津学区	42人	9.3%
玉津学区	27人	6.0%
河西学区	62人	13.8%
速野学区	58人	12.9%
中洲学区	12人	2.7%
無回答	4人	0.9%
合計	450人	100.0%



(n=450)

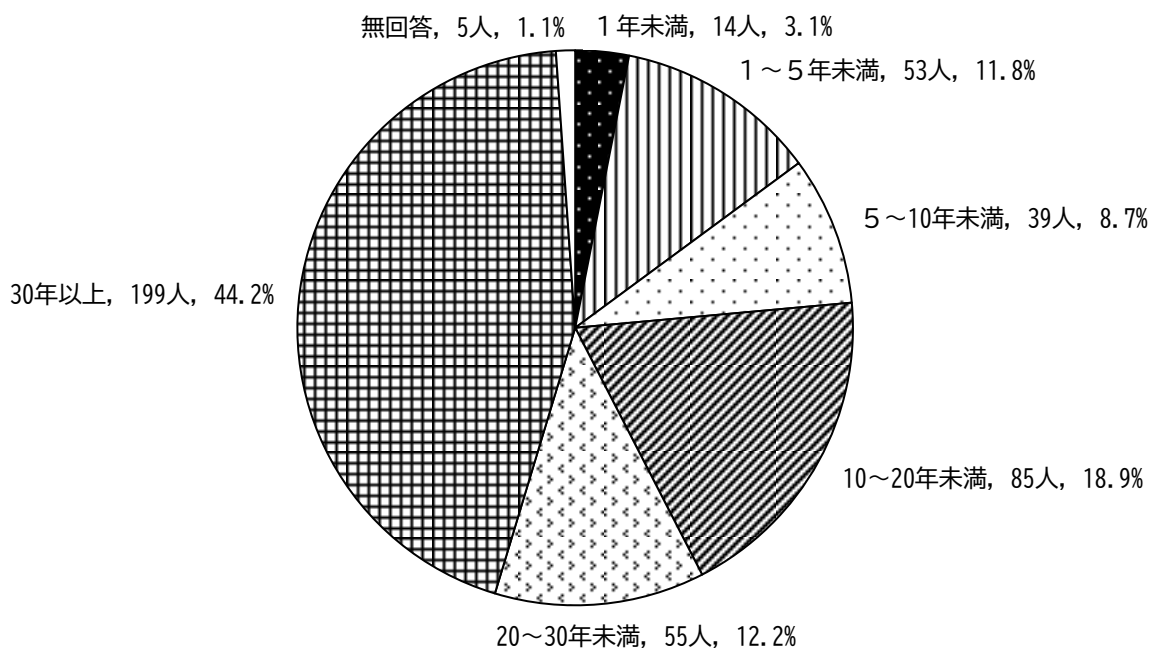
図 2.3 居住学区構成

2.4 居住年数

回答者の居住年数は「30年以上」が最も多く 44.2%、次に「10～20年未満」が 18.9%、「20～30年未満」が 12.2%であった。

表 2.4 居住年数構成

	回答数	構成比
1年未満	14人	3.1%
1～5年未満	53人	11.8%
5～10年未満	39人	8.7%
10～20年未満	85人	18.9%
20～30年未満	55人	12.2%
30年以上	199人	44.2%
無回答	5人	1.1%
合計	450人	100.0%



(n=450)

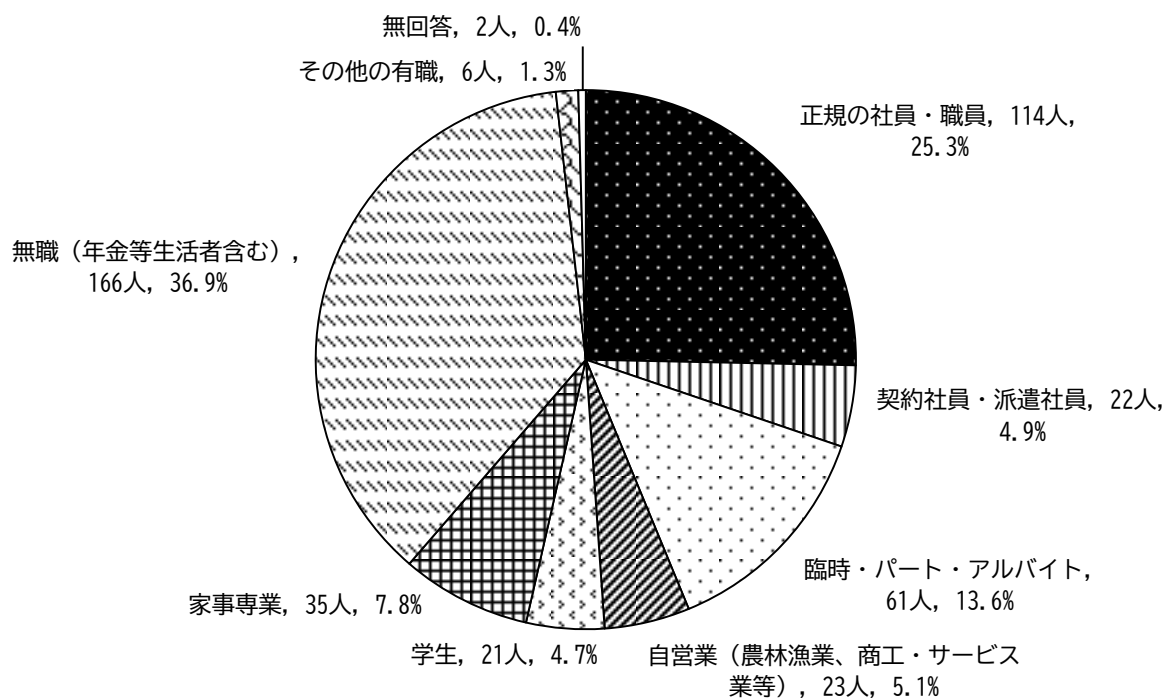
図 2.4 居住年数構成

2.5 職業

回答者の職業は「無職（年金等生活者含む）」が最も多く 36.9%、次に「正規の社員・職員」が 25.3%、「臨時・パート・アルバイト」が 13.6%、「家事専業」が 7.8%であった。「無職」の割合が高いのは、60歳代以上の回答者の割合が 55.3%と半数以上を占めているのが要因の一つと考えられる。

表 2.5 職業構成

	回答数	構成比
正規の社員・職員	114人	25.3%
契約社員・派遣社員	22人	4.9%
臨時・パート・アルバイト	61人	13.6%
自営業（農林漁業、商工・サービス業等）	23人	5.1%
学生	21人	4.7%
家事専業	35人	7.8%
無職（年金等生活者含む）	166人	36.9%
その他の有職	6人	1.3%
無回答	2人	0.4%
合計	450人	100.0%



(n=450)

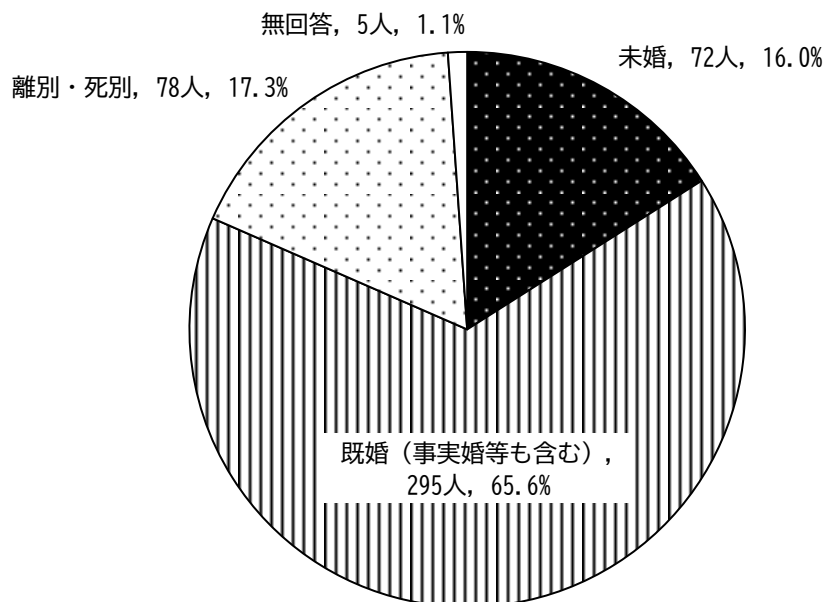
図 2.5 職業構成

2.6 未婚・既婚別

「未婚」は 16.0%、「既婚（事実婚等も含む）」は 65.6%、「離別・死別」は 17.3%であった。

表 2.6 未婚・既婚別構成

	回答数	構成比
未婚	72人	16.0%
既婚（事実婚等も含む）	295人	65.6%
離別・死別	78人	17.3%
無回答	5人	1.1%
合計	450人	100.0%



(n=450)

図 2.6 未婚・既婚別構成

2.7 配偶者・パートナーの職業

回答者の配偶者・パートナー（「既婚」と答えた方のみ）の職業は「無職（年金等生活者含む）」が最も多く 34.6%、次に「正規の社員・職員」が 32.5%、「臨時・パート・アルバイト」が 14.2%、「家事専業」が 6.1%であった。

表 2.7 配偶者・パートナーの職業構成

	回答数	構成比
正規の社員・職員	96人	32.5%
契約社員・派遣社員	13人	4.4%
臨時・パート・アルバイト	42人	14.2%
自営業（農林漁業、商工・サービス業等）	13人	4.4%
学生	0人	0.0%
家事専業	18人	6.1%
無職（年金等生活者含む）	102人	34.6%
その他の有職	4人	1.4%
無回答	7人	2.4%
合計	295人	100.0%

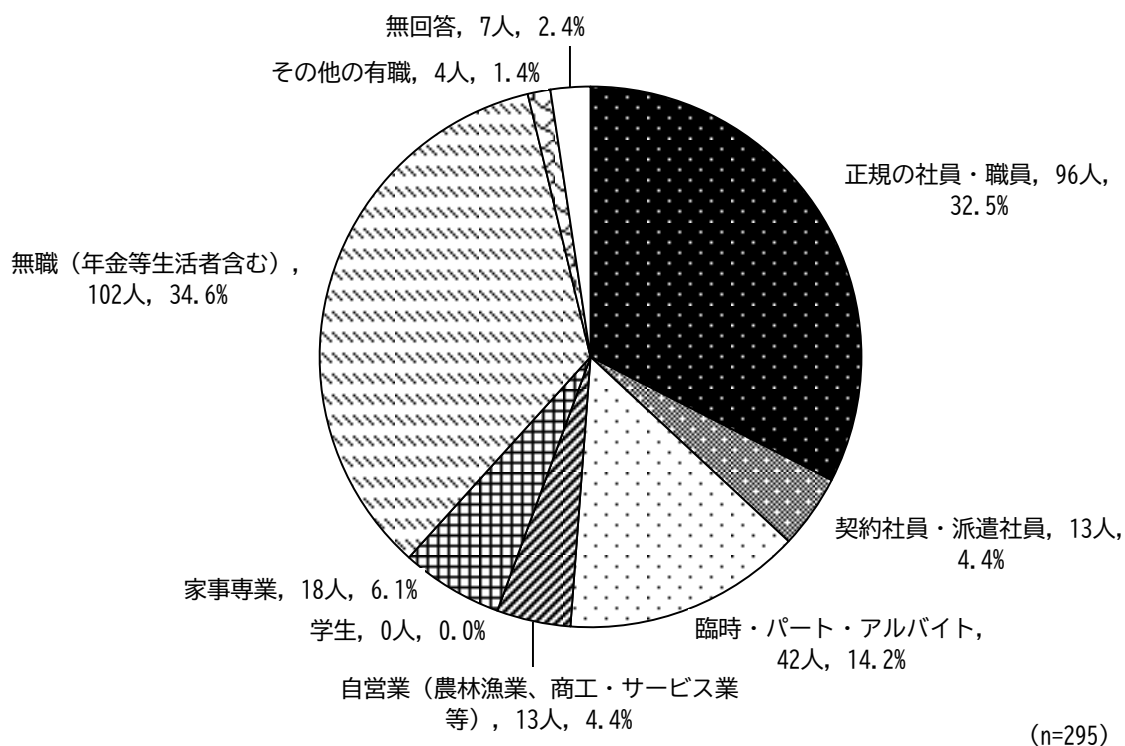


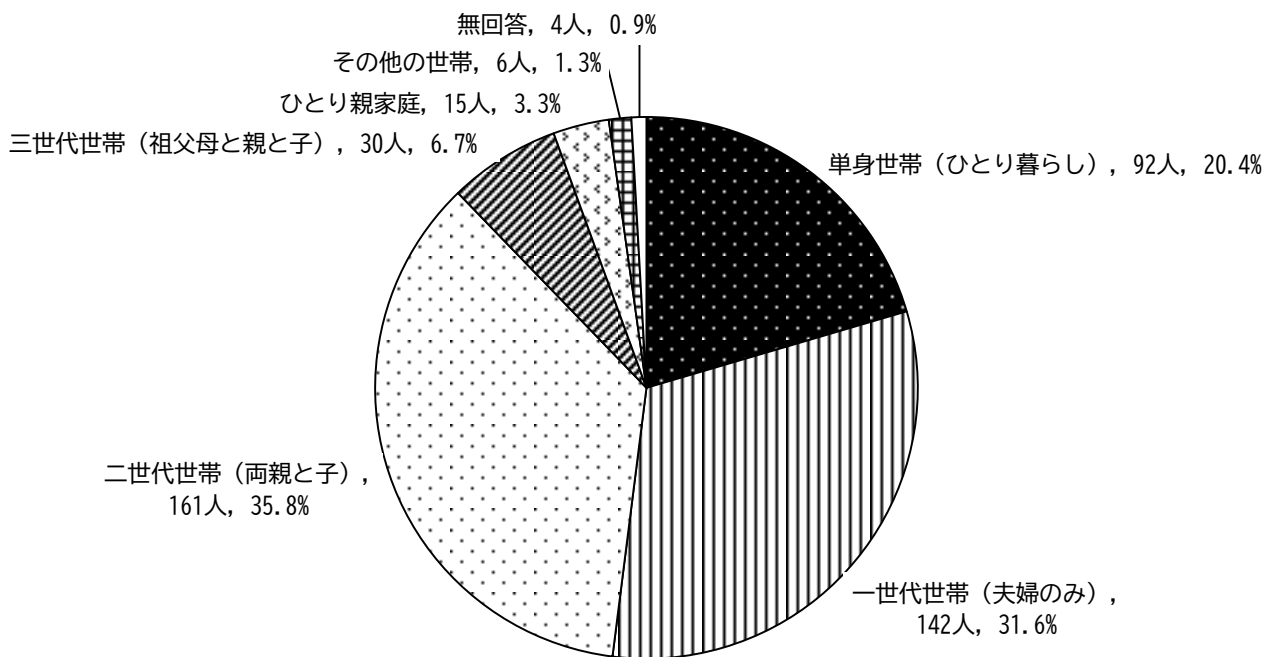
図 2.7 配偶者・パートナーの職業構成

2.8 家族構成

回答者の家族構成は「二世世代世帯（両親と子）」が最も多く 35.8%、次に「一世代世帯（夫婦のみ）」が 31.6%、「単身世帯（ひとり暮らし）」が 20.4%であった。

表 2.8 家族構成

	回答数	構成比
単身世帯（ひとり暮らし）	92人	20.4%
一世代世帯（夫婦のみ）	142人	31.6%
二世世代世帯（両親と子）	161人	35.8%
三世世代世帯（祖父母と親と子）	30人	6.7%
ひとり親家庭	15人	3.3%
その他の世帯	6人	1.3%
無回答	4人	0.9%
合計	450人	100.0%



(n=450)

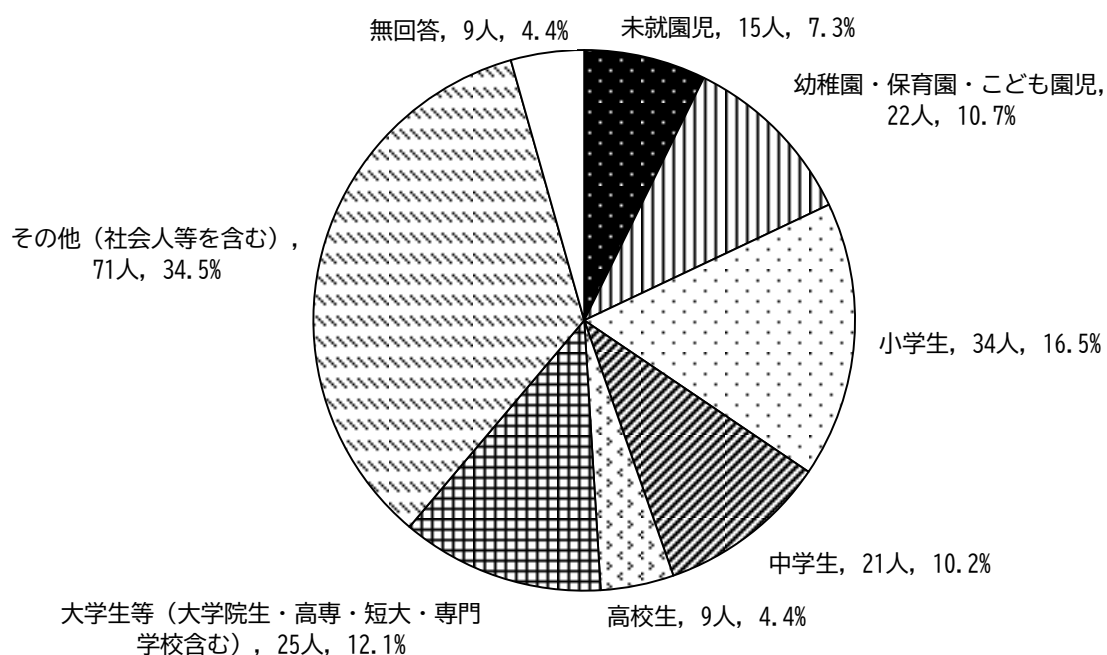
図 2.8 家族構成

2.9 最年少の子ども

回答者の最年少の子ども（「二世世代世帯（両親と子）」、「三世世代世帯（祖父母と親と子）」、「ひとり親家庭」と答えた方のみ）は「その他（社会人等を含む）」が最も多く 34.5%、次に「小学生」が 16.5%、「大学生等（大学院生・高専・短大・専門学校含む）」が 12.1%、「幼稚園・保育園・こども園児」が 10.7%であった。

表 2.9 一番下の子どもの構成

	回答数	構成比
未就園児	15人	7.3%
幼稚園・保育園・こども園児	22人	10.7%
小学生	34人	16.5%
中学生	21人	10.2%
高校生	9人	4.4%
大学生等（大学院生・高専・短大・専門学校含む）	25人	12.1%
その他（社会人等を含む）	71人	34.5%
無回答	9人	4.4%
合計	206人	100.0%



(n=206)

図 2.9 一番下の子どもの構成

Ⅱ. 調査の結果

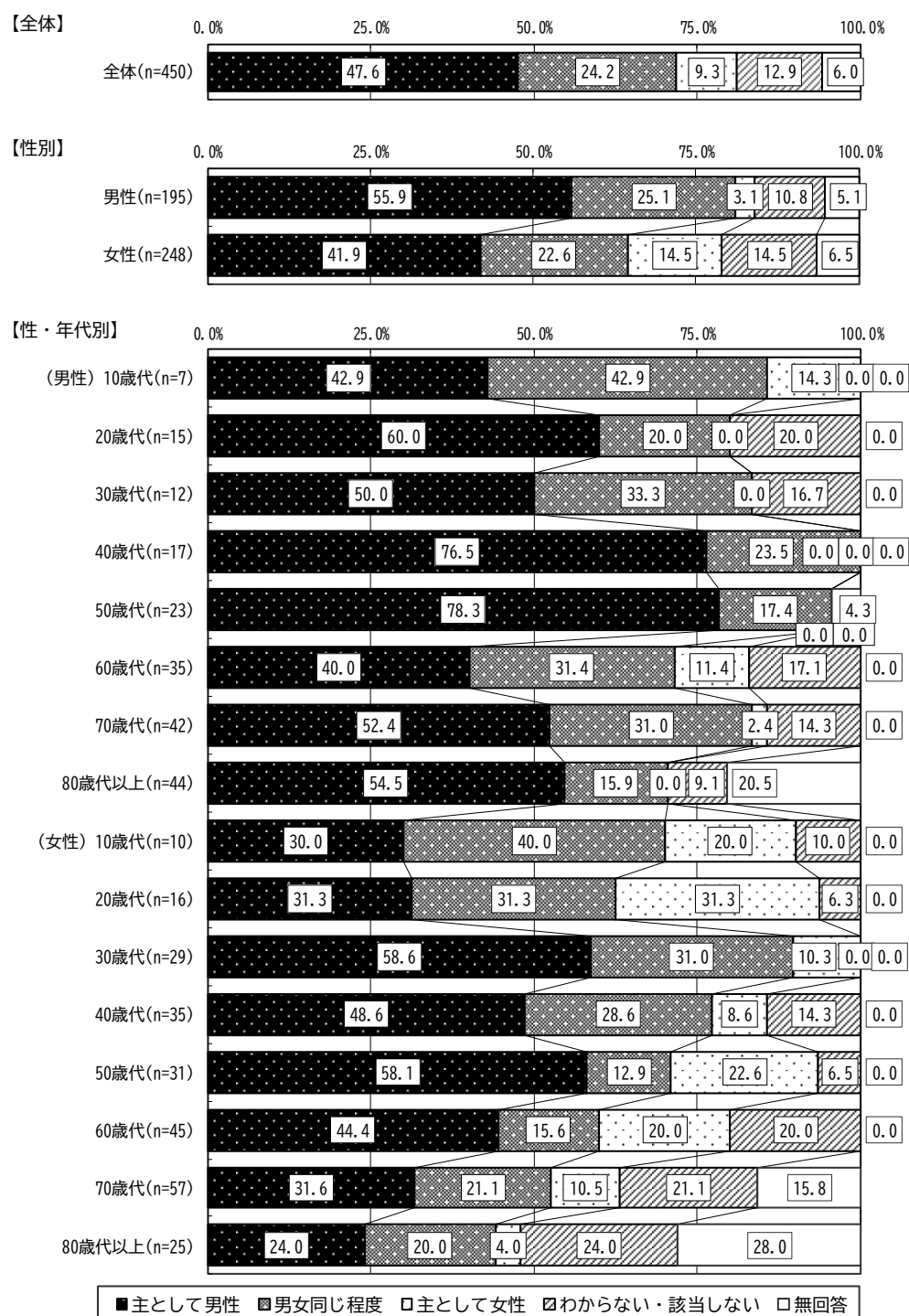
1 家庭生活について

問1 家庭では、次のような事を主として男性・女性どちらがされていますか。(〇はそれぞれ1つ)

① 生活費をかせぐ

「主として男性」が47.6%と最も多く、次いで「男女同じ程度」が24.2%、「主として女性」が9.3%となっている。

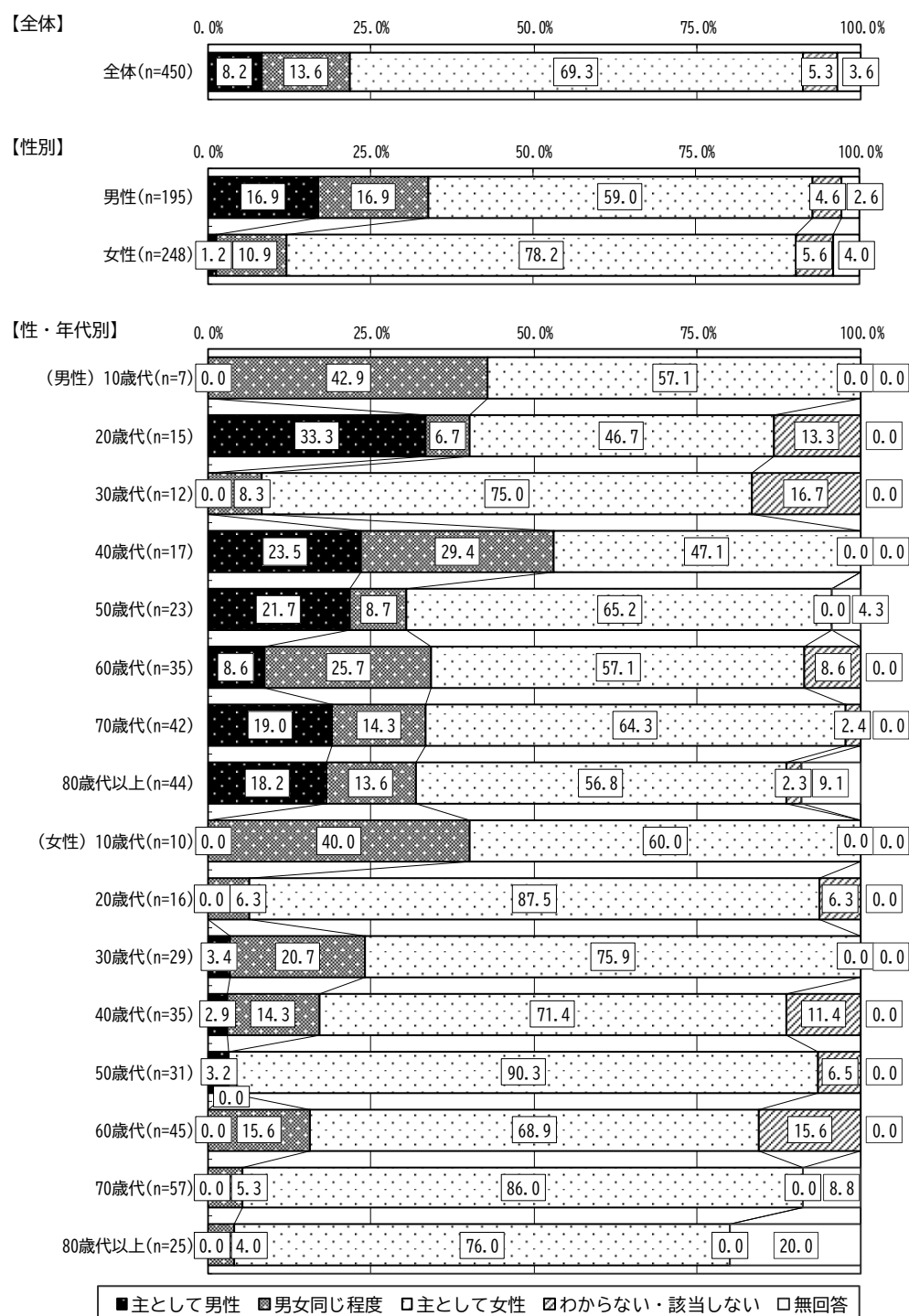
性別・年代別では、男性はどの年代も「主として男性」が最も多く、女性は10歳代で「男女同じ程度」が、概ねその他の年代で「主として男性」が最も多くなっている。(男性10歳代は「男女同じ程度」、女性10歳代は「男女同じ程度」「主として男性」と同率)



② 食事のしたく

「主として女性」が 69.3%と最も多く、次いで「男女同じ程度」が 13.6%、「主として男性」が 8.6%となっている。

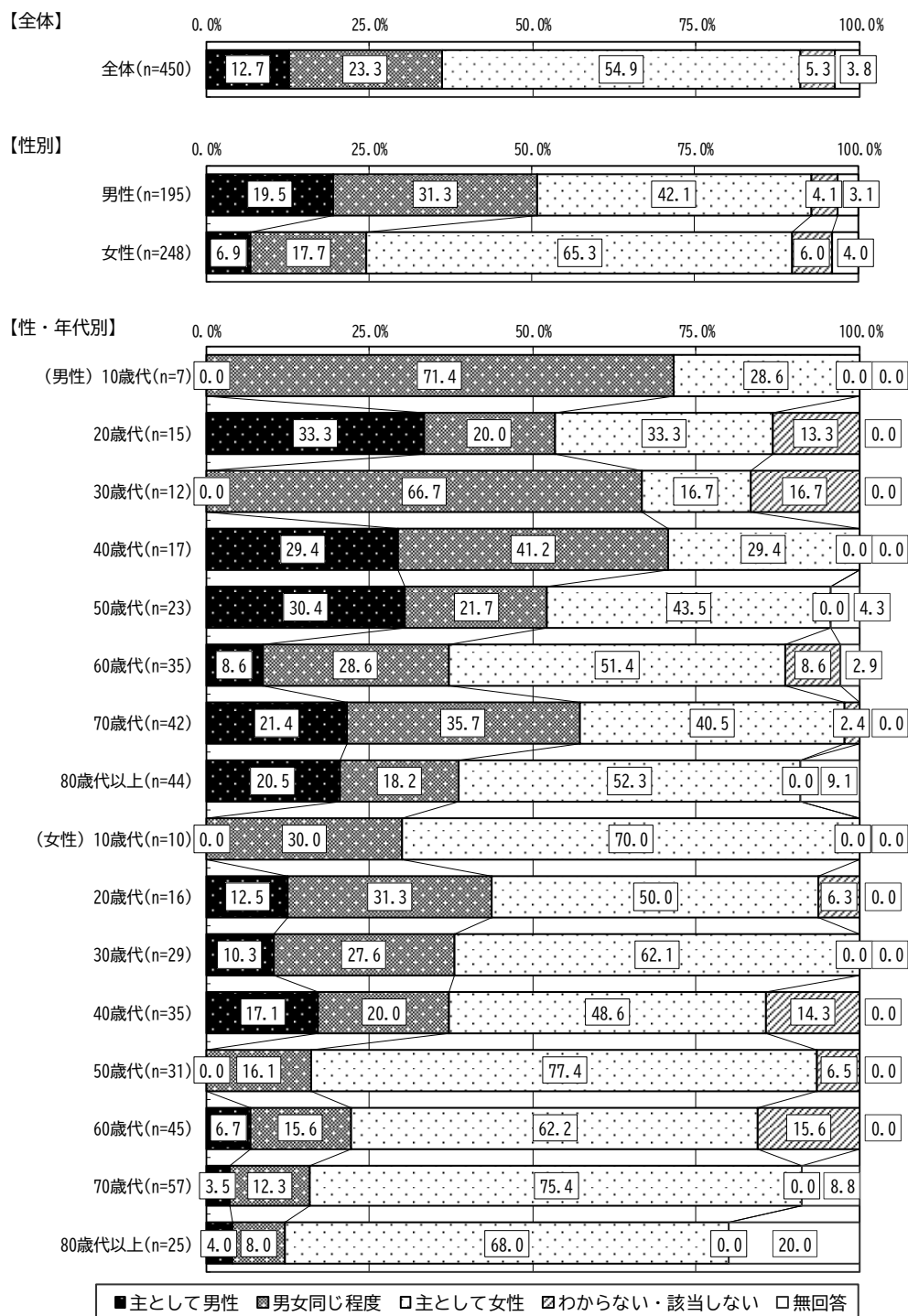
性別・年代別では、総じて「主として女性」が最も多くなっている。



③ 食事の後片付け

「主として女性」が 54.9%と最も多く、次いで「男女同じ程度」が 23.3%、「主として男性」が 12.7%となっている。

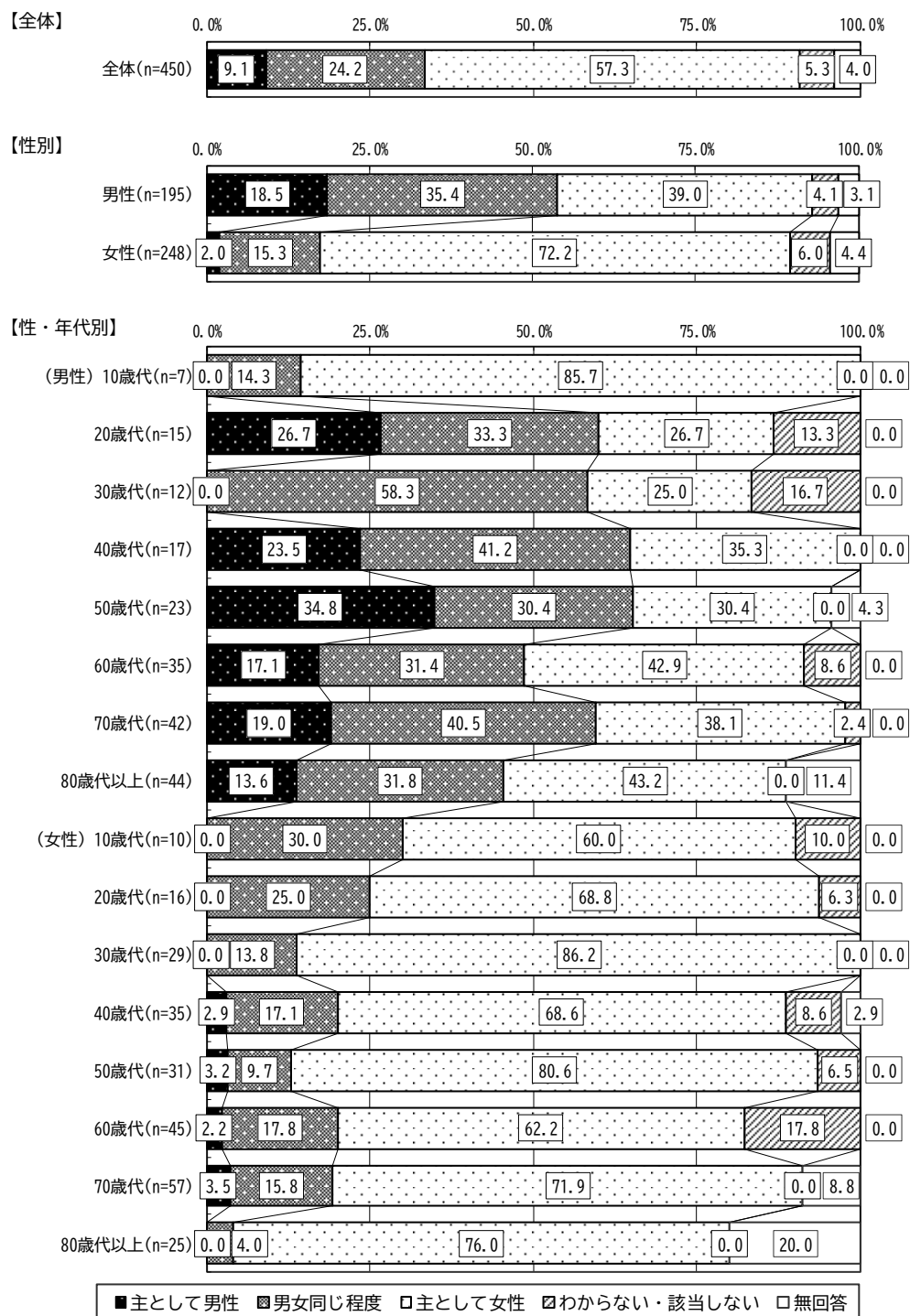
性別・年代別では、男性は 10 歳代、30 歳代、40 歳代で「男女同じ程度」が、その他の年代で「主として女性」が最も多くなっている。女性はどの年代も「主として女性」が最も多くなっている。（男性 20 歳代は「主として女性」と同率）



④ 掃除

「主として女性」が 57.3%と最も多く、次いで「男女同じ程度」が 24.2%、「主として男性」が 9.1%となっている。

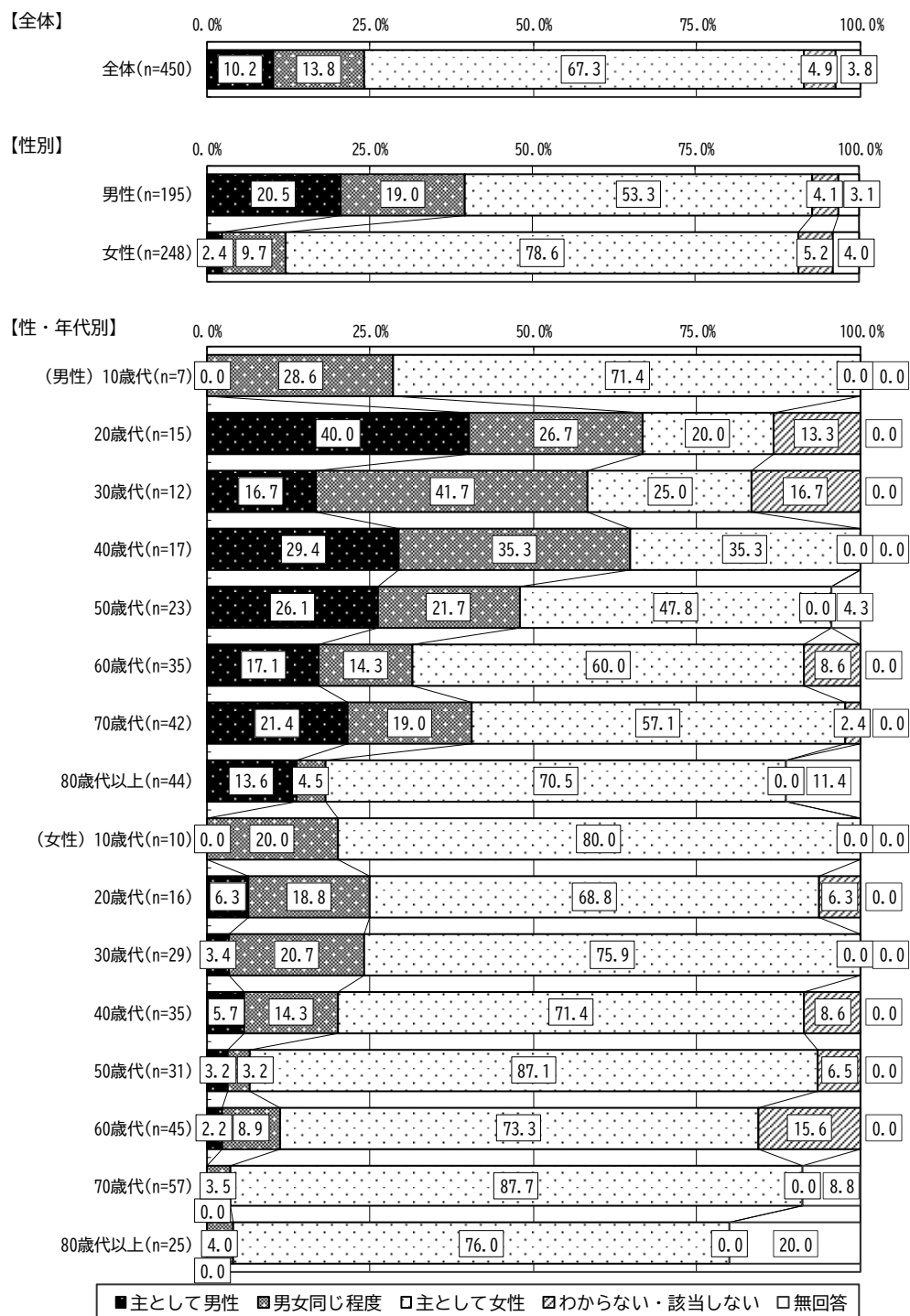
性別・年代別では、男性は 50 歳代で「主として男性」が、10 歳代、60 歳代で「主として女性」が、その他の年代で「男女同じ程度」が最も多くなっている。女性はこの年代も「主として女性」が最も多くなっている。



⑤ 洗濯

「主として女性」が 67.3%と最も多く、次いで「男女同じ程度」が 13.8%、「主として男性」が 10.2%となっている。

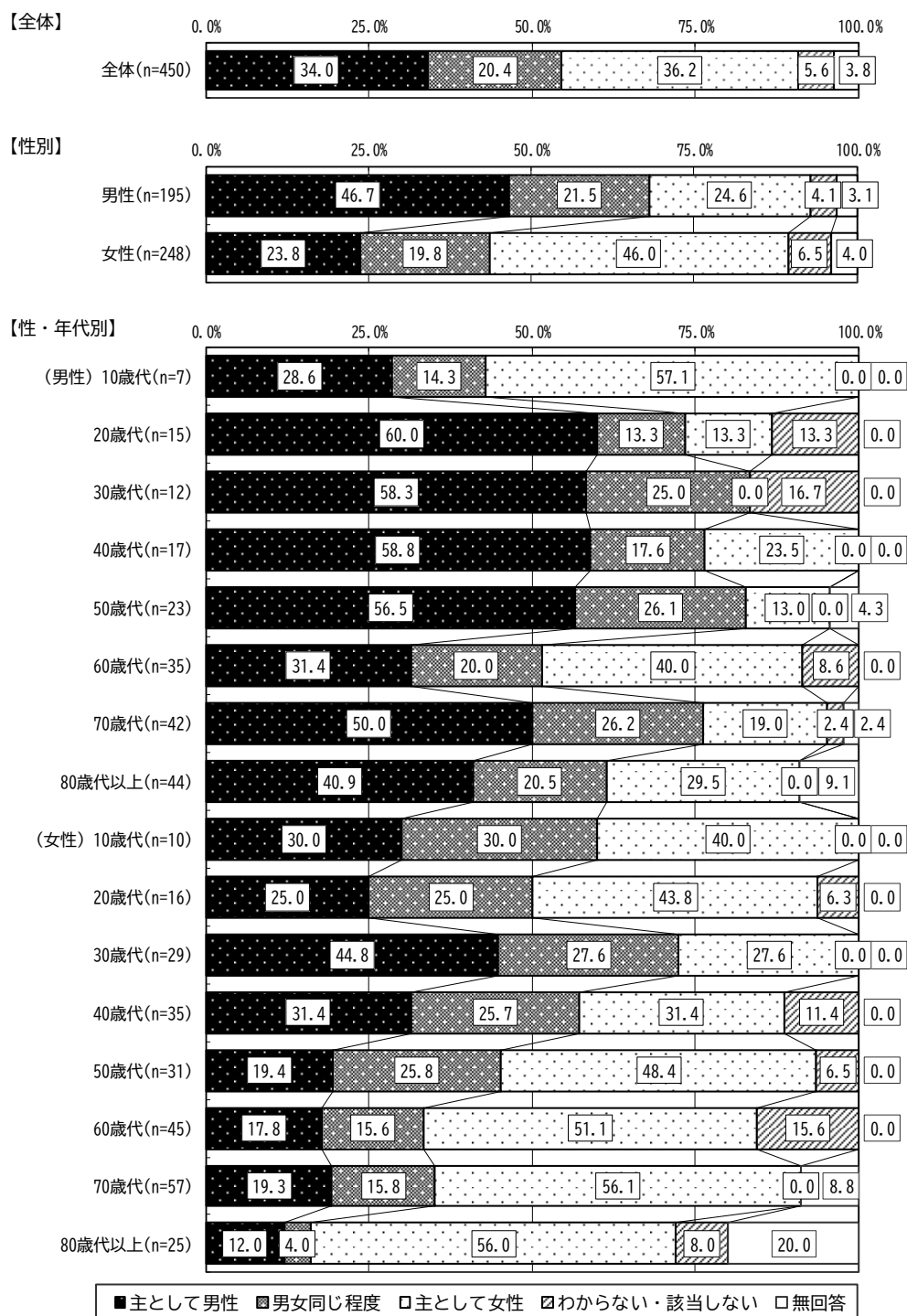
性別・年代別では、男性は 20 歳代で「主として男性」が、30 歳代、40 歳代で「男女同じ程度」が、その他の年代で「主として女性」が最も多くなっている。女性はこの年代も「主として女性」が最も多くなっている。(男性 40 歳代は「主として女性」と同率)



⑥ ごみ出し

「主として女性」が 36.2%と最も多く、次いで「主として男性」が 34.0%、「男女同じ程度」が 20.4%となっている。

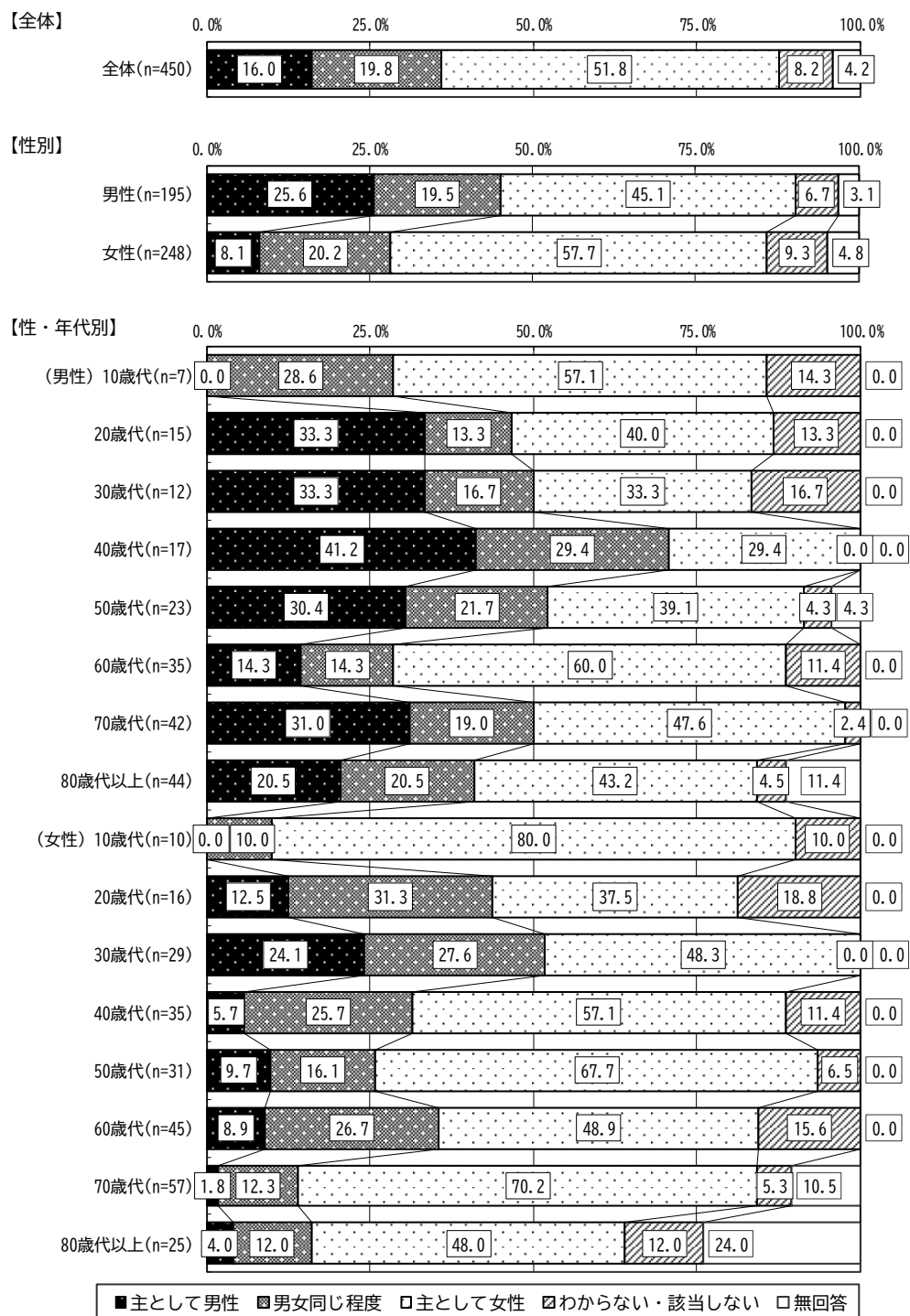
性別・年代別では、男性は 10 歳代、60 歳代で「主として女性」が、その他の年代で「主として男性」が最も多くなっている。女性は 30 歳代、40 歳代で「主として男性」が、その他の年代で「主として女性」が最も多くなっている。（女性 40 歳代は「主として女性」と同率）



⑦ 家計の管理

「主として女性」が 51.8%と最も多く、次いで「男女同じ程度」が 19.8%、「主として男性」が 16.0%となっている。

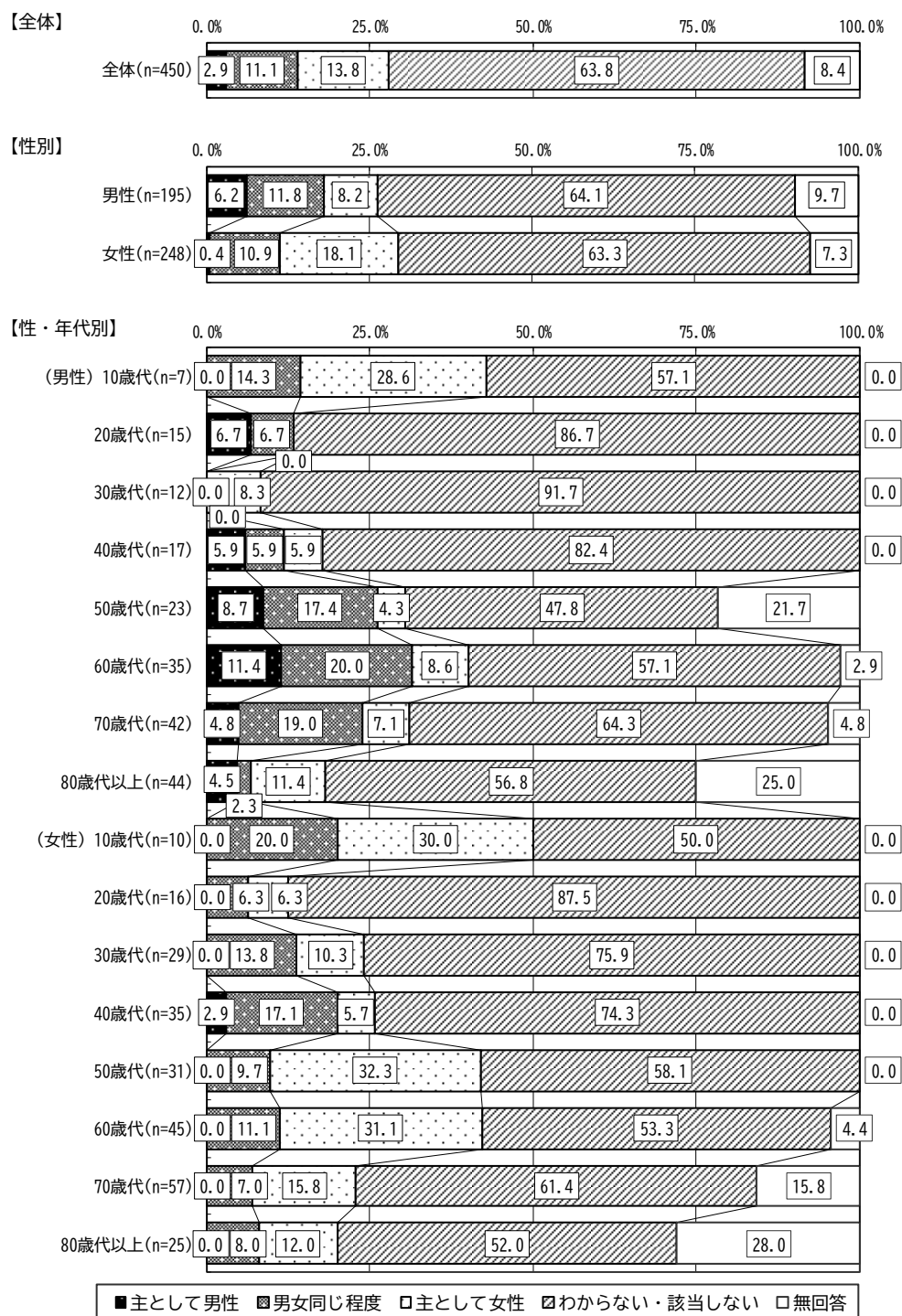
性別・年代別では、男性は 30 歳代、40 歳代で「主として男性」が、その他の年代で「主として女性」が最も多くなっている。女性はこの年代も「主として女性」が最も多くなっている。
(男性 30 歳代は「主として女性」と同率)



⑧ 介護が必要な高齢者や病人の世話

「わからない・該当しない」が 63.8%と最も多く、次いで「主として女性」が 13.8%、「男女同じ程度」が 11.1%、「主として男性」が 2.9%となっている。

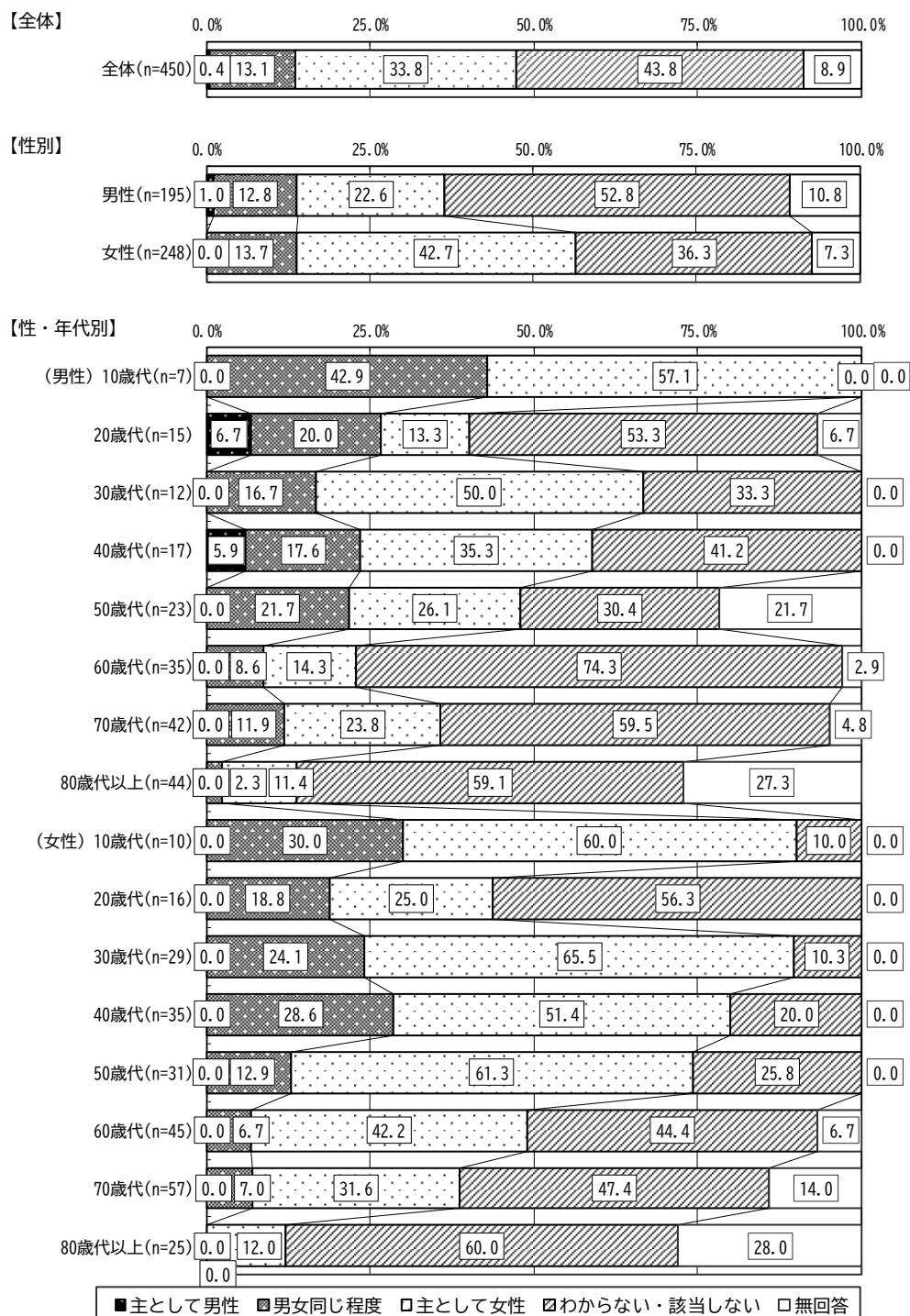
性別・年代別では、総じて「わからない・該当しない」が最も多くなっている。男性で「主として男性」と答えた割合は 60 歳代が 1 割、女性で「主として女性」と答えた割合は 10 歳代、50 歳代、60 歳代で 3 割を超えている。また、「男女同じ程度」は男性は 60 歳代、女性は 10 歳代で 2 割となっている。



⑨ 子育てや子どもの世話

「わからない・該当しない」が43.8%と最も多く、次いで「主として女性」が33.8%、「男女同じ程度」が13.1%、「主として男性」が0.4%となっている。

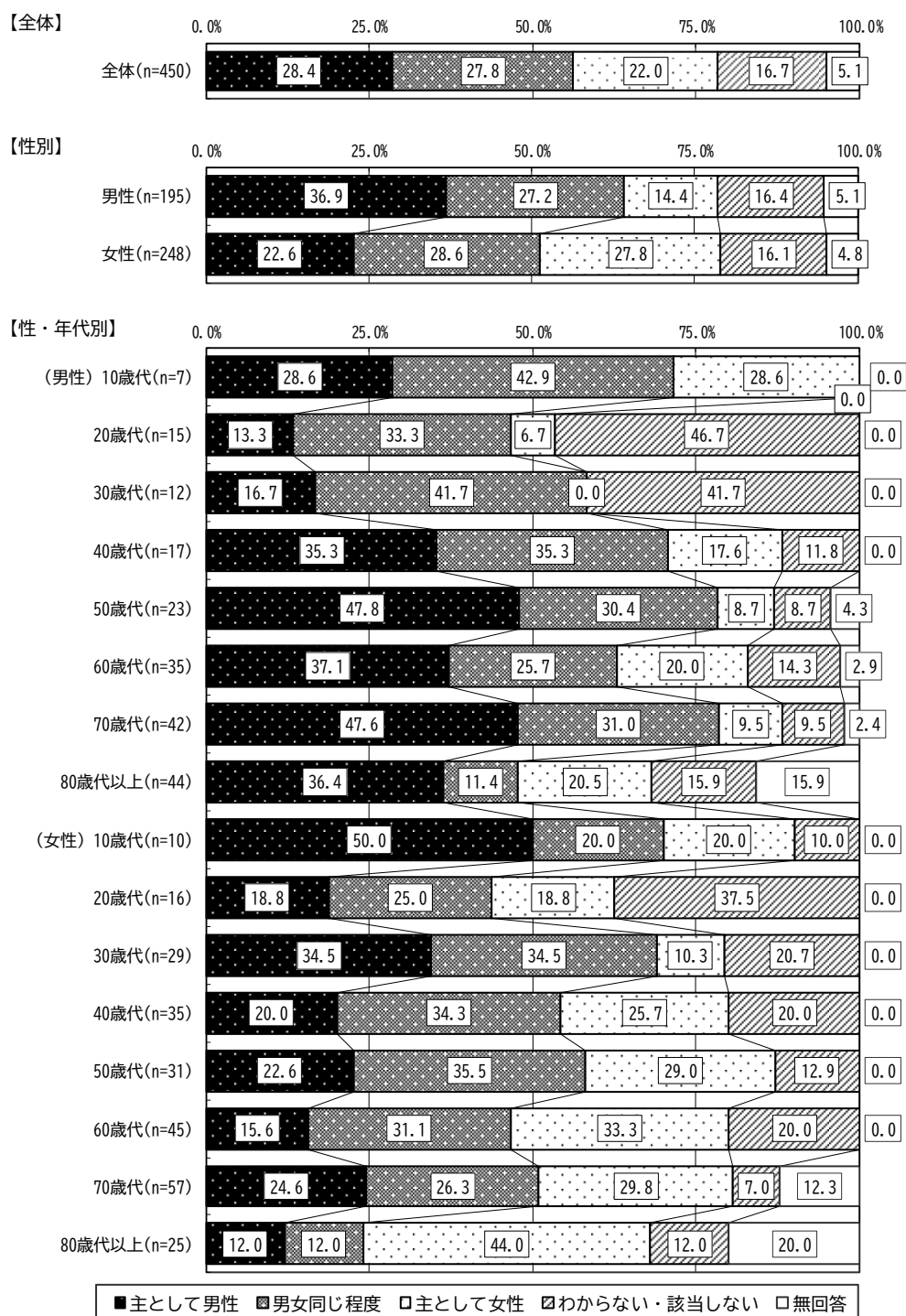
性別・年代別では、男性は10歳代、30歳代、女性は10歳代、30歳代から50歳代で「主として女性」が、その他の年代は「わからない・該当しない」が最も多くなっている。



⑩ 地域活動への参加（自治会活動など）

「主として男性」が28.4%と最も多く、次いで「男女同じ程度」が27.8%、「主として女性」が22.0%となっている。

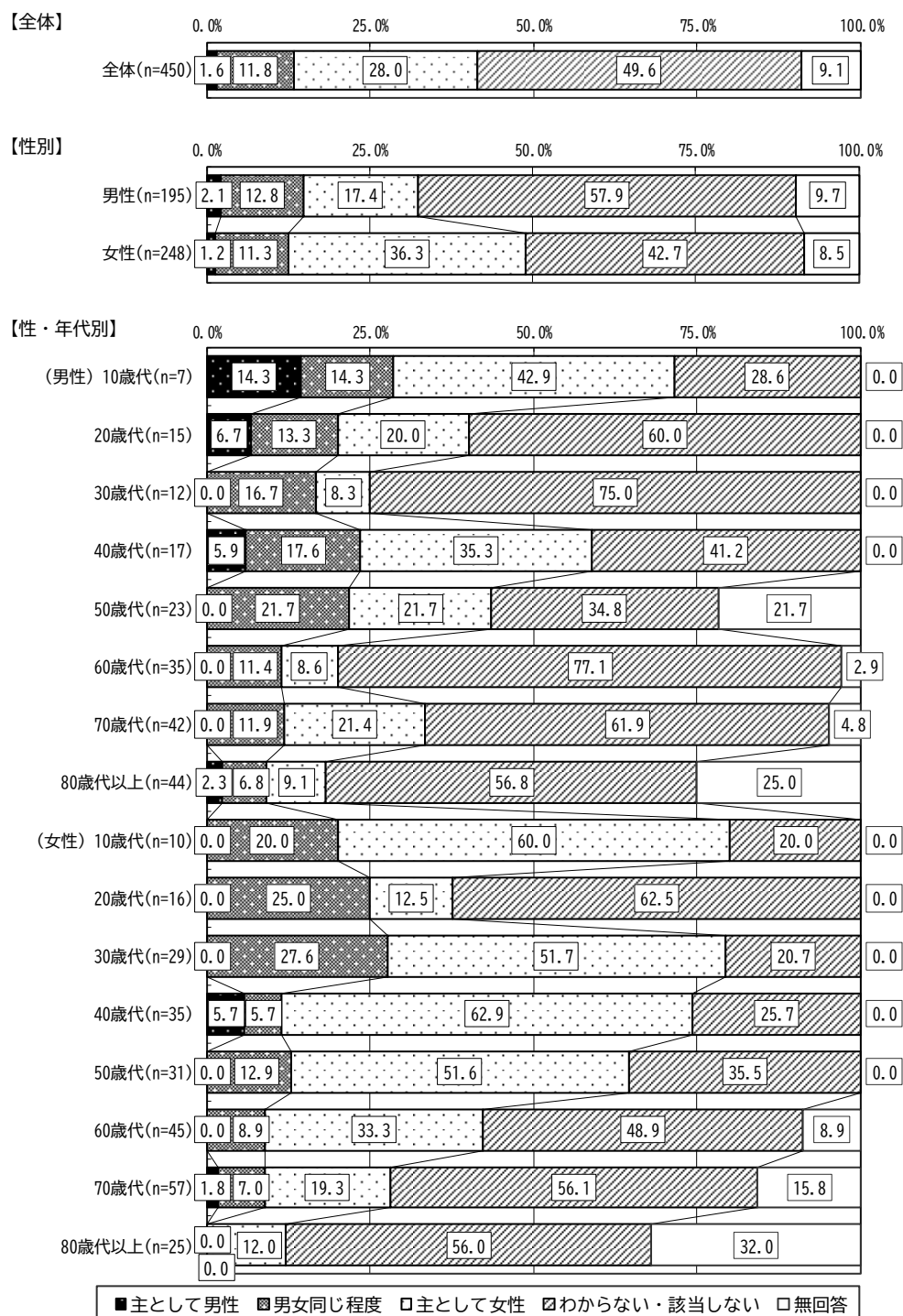
性別・年代別では、男性は40歳以上で「主として男性」が、10歳代、30歳代で「男女同じ程度」、20歳代で「わからない・該当しない」が最も多くなっている。女性は20歳代で「わからない・該当しない」が、30歳代から50歳代で「男女同じ程度」が、60歳以上で「主として女性」が最も多くなっている。（男性30歳代は「わからない・該当しない」、40歳代は「男女同じ程度」と、女性30歳代は「主として男性」と同率）



⑪ 学校行事、PTAなどの参加

「わからない・該当しない」が49.6%と最も多く、次いで「主として女性」が28.0%、「男女同じ程度」が11.8%、「主として男性」が1.6%となっている。

性別・年代別では、男性は10歳代で「主として女性」が、その他の年代で「わからない・該当しない」が最も多くなっている。女性は10歳代、30歳代から50歳代で「主として女性」が、その他の年代で「わからない・該当しない」が最も多くなっている。

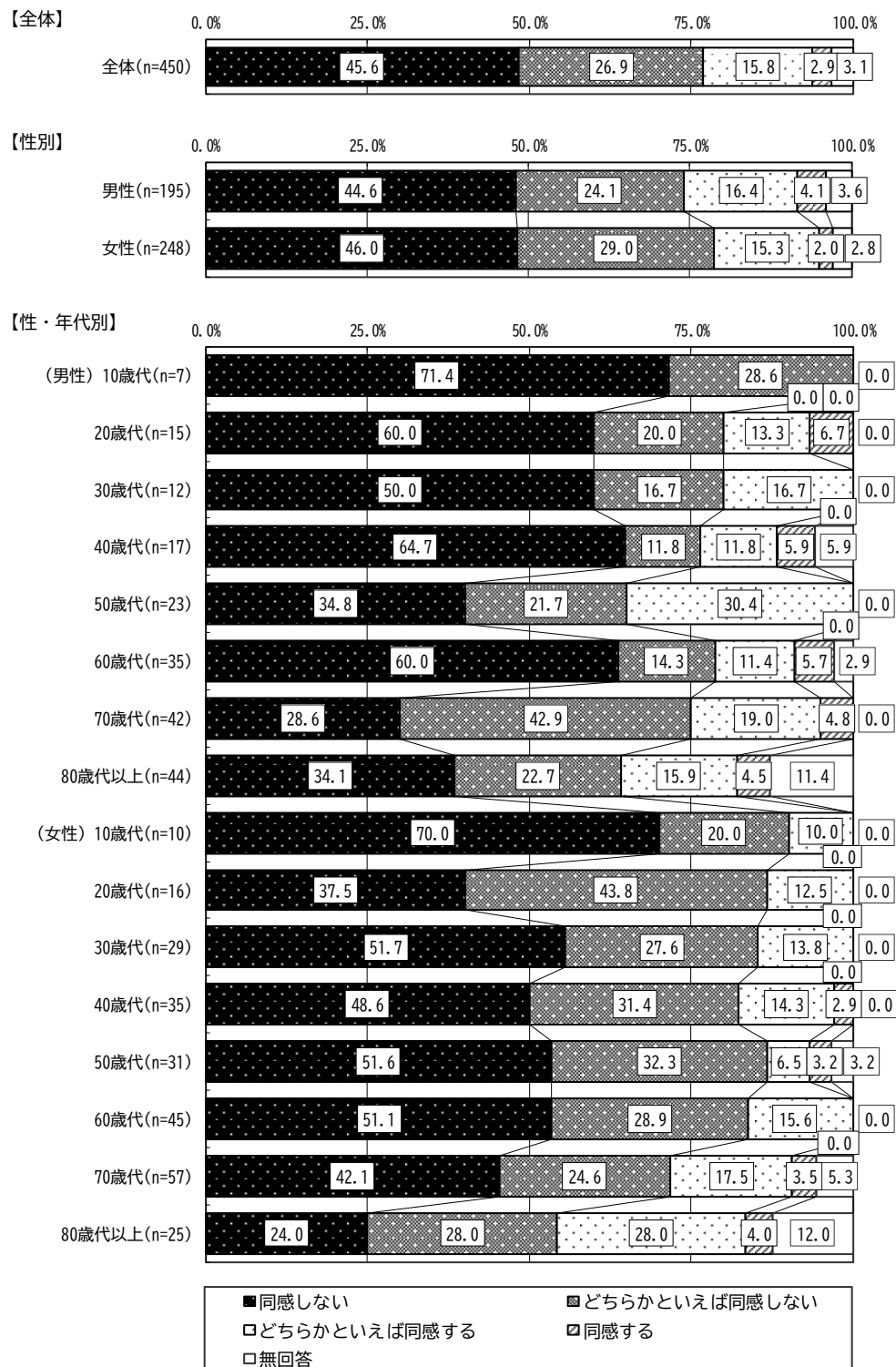


問2 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方がありますが、あなたはこの考え方に同感しますか。もっともあてはまるもの1つに○をつけてください。

「同感しない」が45.6%と最も多く、次いで「どちらかといえば同感しない」が26.9%、「どちらかといえば同感する」が15.8%、「同感する」が2.9%となっている。

「同感しない」、「どちらかといえば同感しない」の合わせた割合（『同感しない』）は7割を超えている。

性別・年代別では、男性、女性ともにどの年代も『同感しない』の割合が高く、なかでも10歳代は男性が100.0%、女性が90.0%となっている。

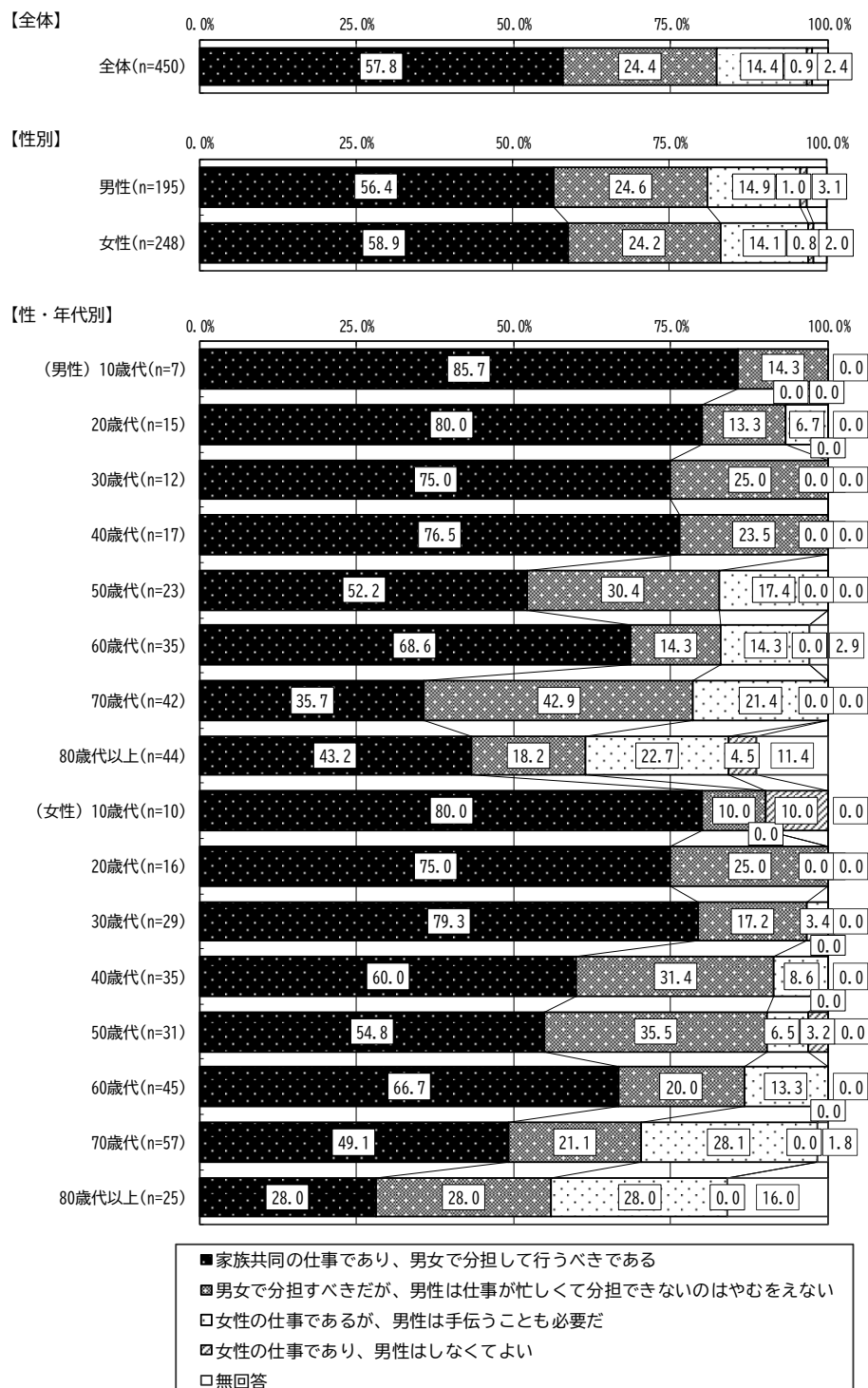


問3 家事と育児について、あなたの考えに近いものをお答えください。(○はそれぞれ1つ)

① 家事について

「家族共同の仕事であり、男女で分担して行うべきである」が 57.8%と最も多く、次いで「男女で分担すべきだが、男性は仕事が忙しくて分担できないのはやむをえない」が 24.4% 「女性の仕事であるが、男性は手伝うことも必要だ」が 14.4%となっている。

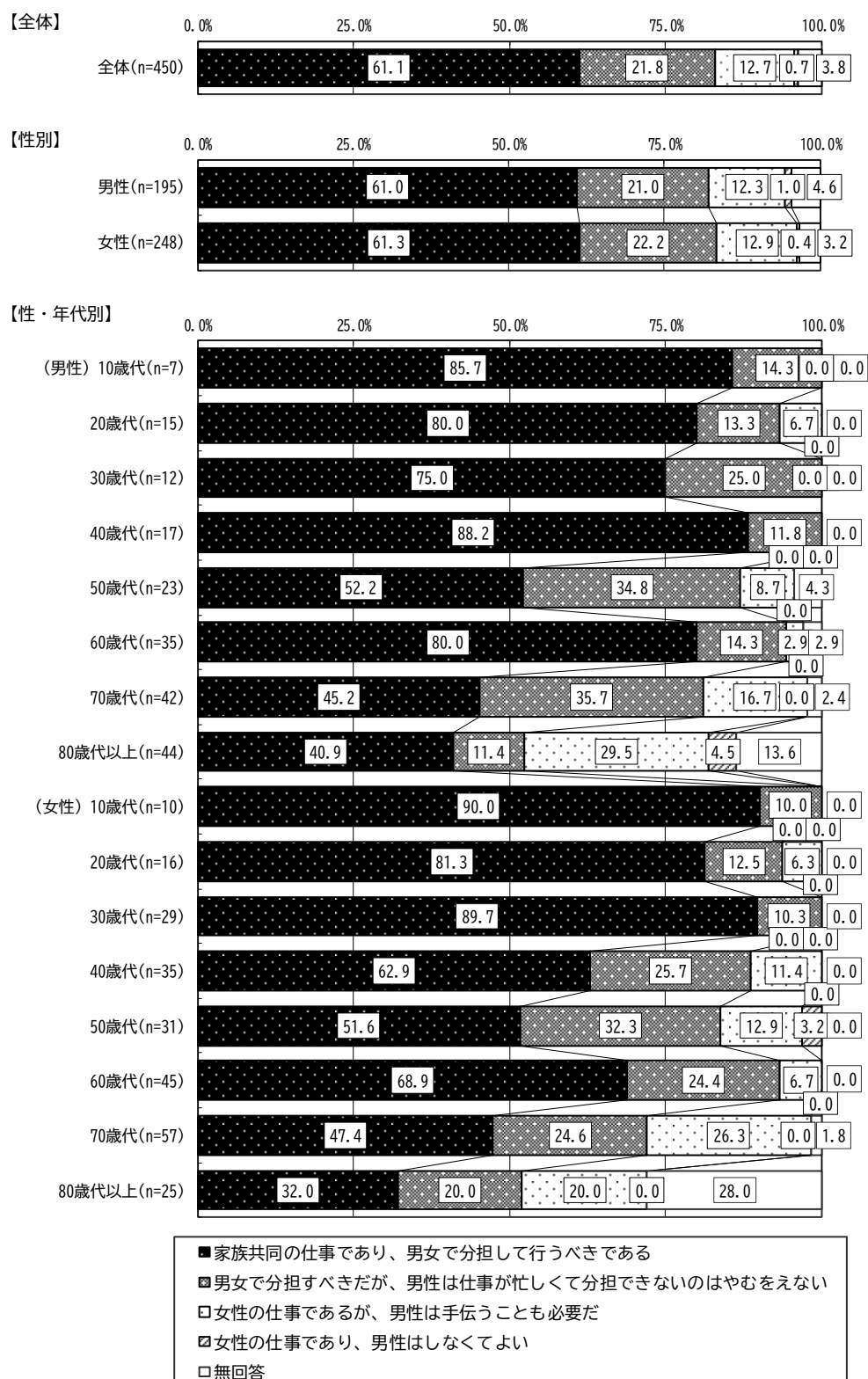
性別・年代別では、男性は 70 歳代で「男女で分担すべきだが、男性は仕事が忙しくて分担できないのはやむをえない」が、その他の年代で「家族共同の仕事であり、男女で分担して行うべきである」が最も多くなっている。女性はどの年代も「家族共同の仕事であり、男女で分担して行うべきである」が最も多くなっている。(80 歳代以上は「男女で分担すべきだが、男性は仕事が忙しくて分担できないのはやむをえない」「女性の仕事であるが、男性は手伝うことも必要だ」と同率)



② 育児について

「家族共同の仕事であり、男女で分担して行うべきである」が 61.1%と最も多く、次いで「男女で分担すべきだが、男性は仕事が忙しくて分担できないのはやむをえない」が 21.8%「女性の仕事であるが、男性は手伝えることも必要だ」が 12.7%となっている。

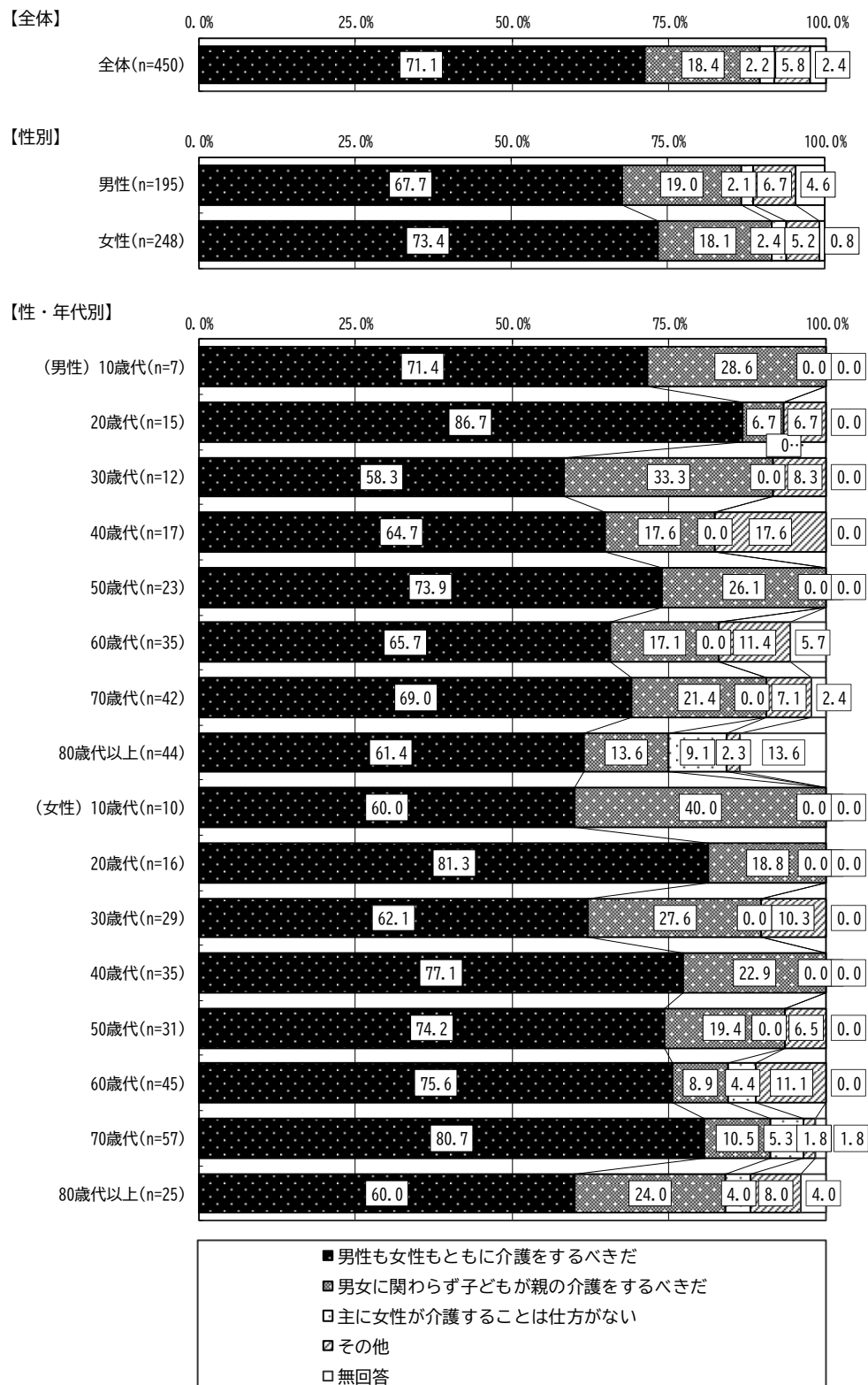
性別・年代別では、総じて「家族共同の仕事であり、男女で分担して行うべきである」が最も多くなっている。また、男性は 80 歳代以上、女性は 70 歳代以上で「女性の仕事であるが、男性は手伝えることも必要だ」の割合が他の年代に比べて高くなっている。



問4 あなたは、高齢者の介護を誰が担うべきだと思いますか。もっともあてはまるもの1つに○をつけてください。

「男性も女性もともに介護をするべきだ」が71.1%と最も多く、次いで「男女に関わらず子どもが親の介護をするべきだ」が18.4%、「主に女性が介護することは仕方がない」が2.2%となっている。

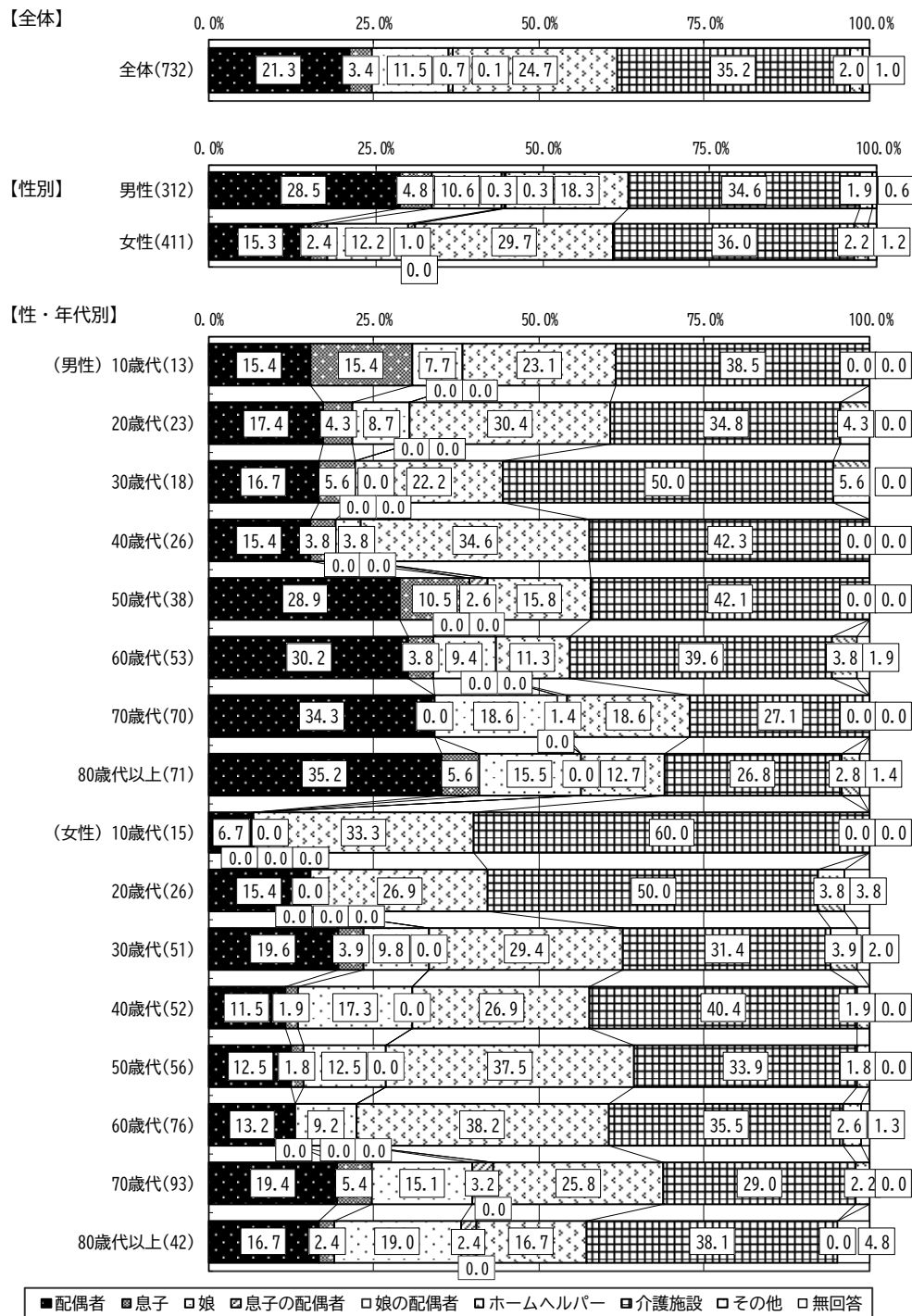
性別・年代別では、総じて「男性も女性もともに介護をするべきだ」が最も多くなっている。また、男性は30歳代、女性は10歳代で「男女に関わらず子どもが親の介護をするべきだ」の割合が他の年代に比べて最も高くなっている。



問5 あなた自身の介護が必要になった場合、誰に介護をしてもらいたいですか。あなたが希望する担い手を2つまで選び、○をつけてください。

「介護施設」が35.2%と最も多く、次いで「ホームヘルパー」が24.7%、「配偶者」が21.3%と続いている。

性別・年代別では、男性は70歳代以上で「配偶者」が、その他の年代で「介護施設」が最も多くなっている。女性は50歳代、60歳代で「ホームヘルパー」が、その他の年代で「介護施設」が最も多くなっている。また、女性は「介護施設」、「ホームヘルパー」、「娘」の割合が男性よりも高くなっている。



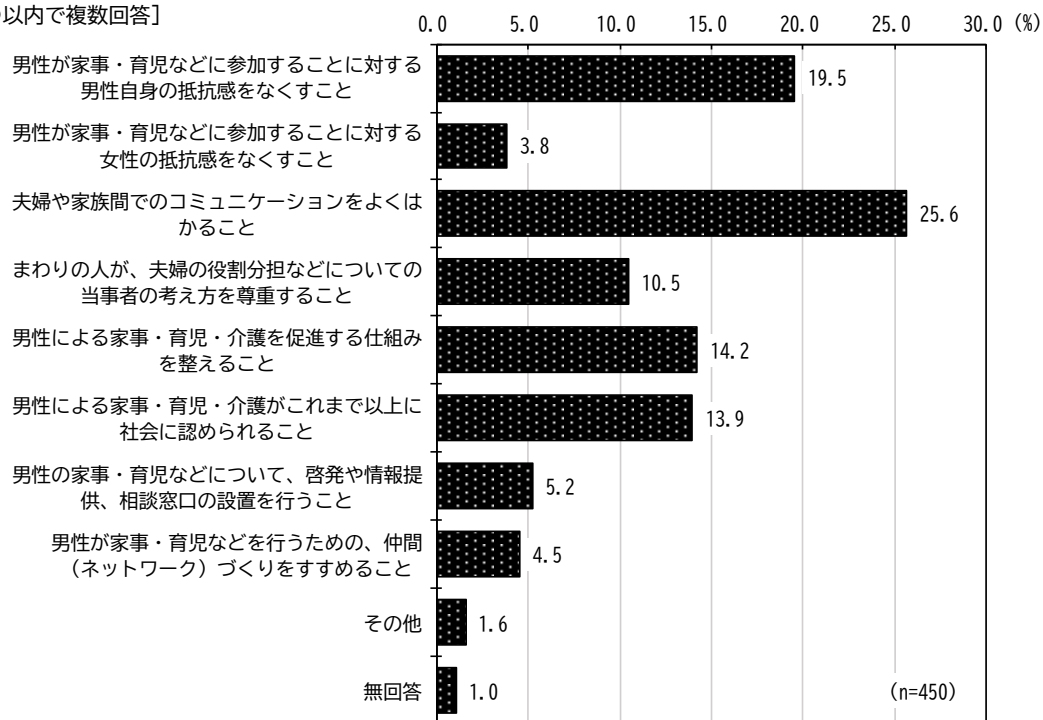
() : 回答数

問6 今後、男性が女性とともに家事・育児・介護を行うためには、あなたはどのようなことが必要だと思いますか。特に必要だと思うものを3つまで選び、○をつけてください。

「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること」が25.6%と最も多く、次いで「男性が家事・育児などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」が19.5%、「男性による家事・育児・介護を促進する仕組みを整えること」が14.2%と続いている。

【全体】

[3つ以内で複数回答]

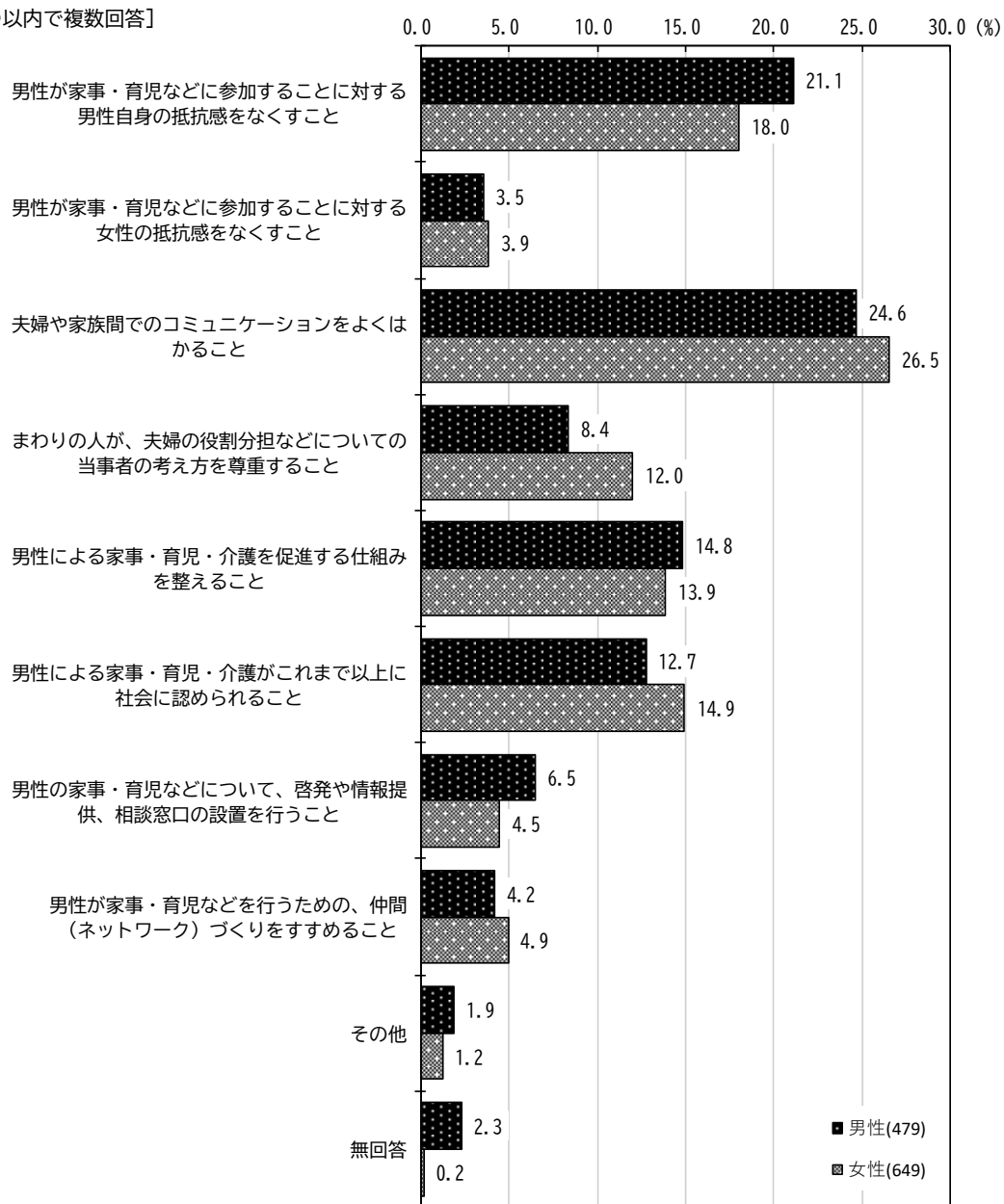


回答数：1,147

性別では、男性、女性ともに概ね全体と同様の傾向となっており、女性は「男性による家事・育児・介護がこれまで以上に社会に認められること」も多くなっている。

【性別】

[3つ以内で複数回答]



() : 回答数

【性・年代別】

※太字は上位3つ（「その他」・「無回答」を除く）、下線は最上位

[3つ以内で複数回答]	():回答数 全体 (1,147)	男性							
		10歳代 (19)	20歳代 (34)	30歳代 (29)	40歳代 (47)	50歳代 (57)	60歳代 (86)	70歳代 (107)	80歳代 以上 (100)
男性が家事・育児などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと	19.5	<u>21.1</u>	23.5	<u>24.1</u>	<u>23.4</u>	14.0	24.4	21.5	19.0
男性が家事・育児などに参加することに対する女性の抵抗感をなくすこと	3.8	0.0	2.9	10.3	2.1	3.5	2.3	4.7	3.0
夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること	<u>25.6</u>	15.8	<u>29.4</u>	13.8	<u>23.4</u>	<u>24.6</u>	<u>25.6</u>	<u>26.2</u>	<u>26.0</u>
まわりの人が、夫婦の役割分担などについての当事者の考え方を尊重すること	10.5	<u>21.1</u>	11.8	0.0	6.4	8.8	8.1	8.4	8.0
男性による家事・育児・介護を促進する仕組みを整えること	14.2	10.5	11.8	13.8	19.1	14.0	17.4	14.0	14.0
男性による家事・育児・介護がこれまでに以上に社会に認められること	13.9	10.5	5.9	13.8	14.9	21.1	14.0	10.3	11.0
男性の家事・育児などについて、啓発や情報提供、相談窓口の設置を行うこと	5.2	10.5	2.9	6.9	4.3	10.5	2.3	8.4	7.0
男性が家事・育児などを行うための、仲間(ネットワーク)づくりをすすめること	4.5	10.5	8.8	6.9	6.4	1.8	2.3	2.8	4.0
その他	1.6	0.0	2.9	10.3	0.0	1.8	1.2	1.9	1.0
無回答	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.3	1.9	7.0

単位：%

※太字は上位3つ（「その他」・「無回答」を除く）、下線は最上位

[3つ以内で複数回答]	():回答数 全体 (1,147)	女性							
		10歳代 (25)	20歳代 (42)	30歳代 (71)	40歳代 (88)	50歳代 (79)	60歳代 (121)	70歳代 (159)	80歳代 以上 (64)
男性が家事・育児などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと	19.5	8.0	<u>16.7</u>	9.9	14.8	22.8	19.8	20.1	21.9
男性が家事・育児などに参加することに対する女性の抵抗感をなくすこと	3.8	0.0	4.8	1.4	5.7	5.1	1.7	5.0	4.7
夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること	<u>25.6</u>	<u>28.0</u>	<u>28.6</u>	<u>26.8</u>	<u>23.9</u>	<u>29.1</u>	<u>24.8</u>	<u>25.2</u>	<u>31.3</u>
まわりの人が、夫婦の役割分担などについての当事者の考え方を尊重すること	10.5	20.0	14.3	9.9	11.4	12.7	9.9	14.5	7.8
男性による家事・育児・介護を促進する仕組みを整えること	14.2	16.0	<u>19.0</u>	18.3	14.8	10.1	14.9	11.3	12.5
男性による家事・育児・介護がこれまでに以上に社会に認められること	13.9	8.0	14.3	22.5	17.0	10.1	21.5	9.4	14.1
男性の家事・育児などについて、啓発や情報提供、相談窓口の設置を行うこと	5.2	8.0	0.0	2.8	5.7	2.5	1.7	8.8	3.1
男性が家事・育児などを行うための、仲間(ネットワーク)づくりをすすめること	4.5	12.0	0.0	5.6	4.5	5.1	5.0	5.7	3.1
その他	1.6	0.0	2.4	2.8	2.3	2.5	0.8	0.0	0.0
無回答	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.6

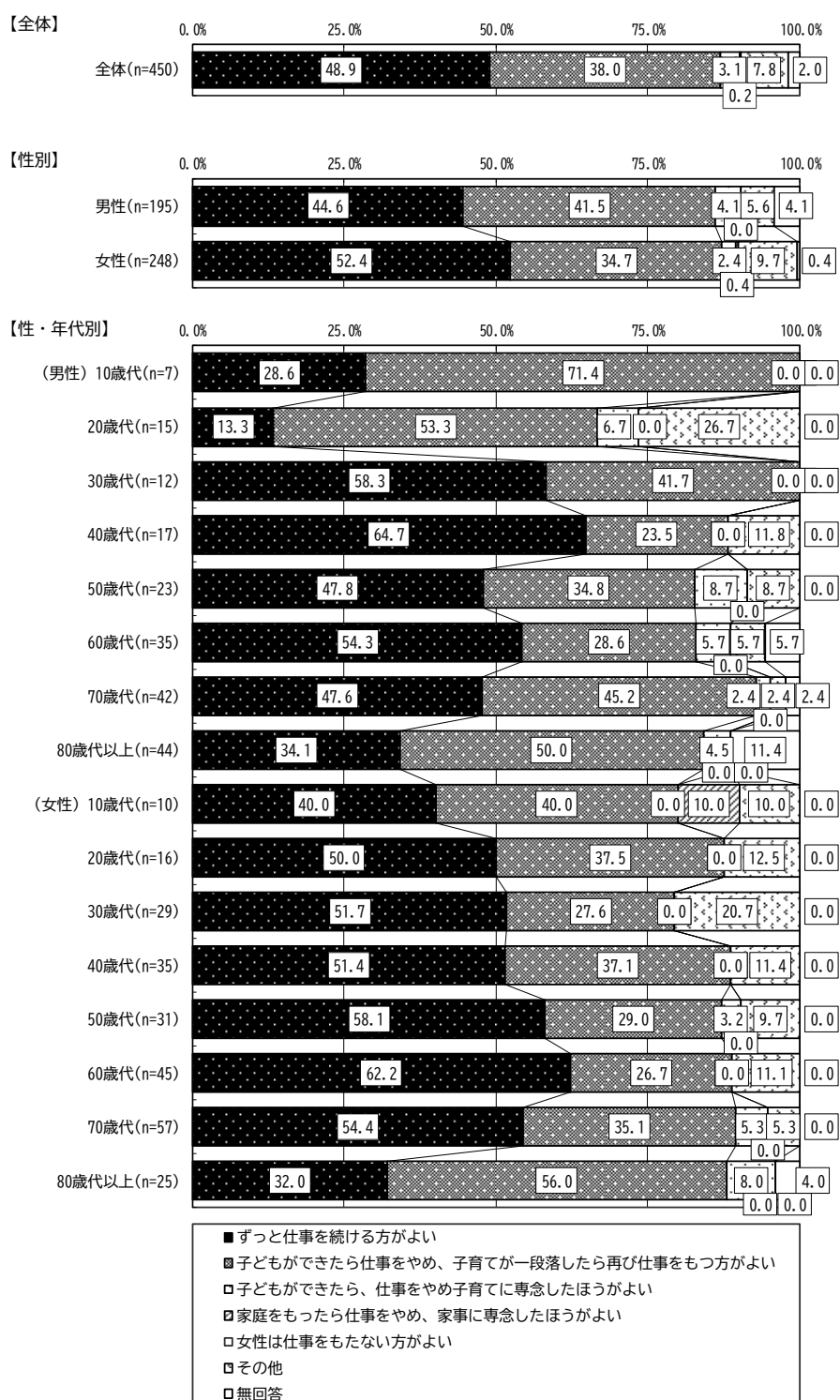
単位：%

2 職業生活について

問7 日本の女性の年齢別の就労率は、子育て世代において著しく低下し、子育てが一段落すると回復する、いわゆる「M字カーブ」を示していましたが、現在は解消しつつあります。そのような中、あなたは、女性が子育て（または家庭生活）と仕事を両立することについて、どのようにお考えですか。もっともあてはまるもの1つに○をつけてください。

「ずっと仕事を続ける方がよい」が48.9%と最も多く、次いで「子どもができたらず仕事をやめ、子育てが一段落したら再び仕事をもつ方がよい」が38.0%と続いている。

性別では、男性、女性ともに概ね全体と同様の傾向となっており、「ずっと仕事を続ける方がよい」「子どもができたらず仕事をやめ、大きくなったら再び仕事をもつ方がよい」を合わせた割合は約8割となっている。

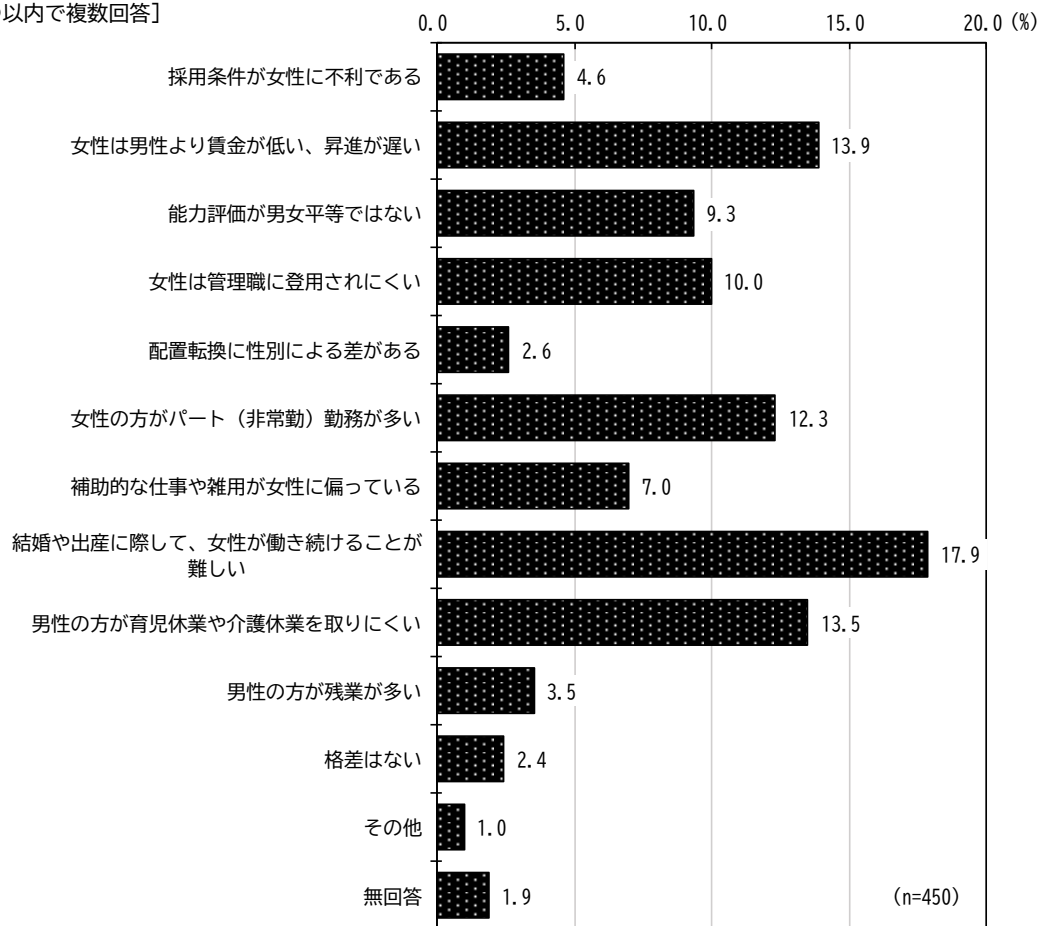


問8 職場において、男女の格差があると思いますか。特に格差があると思うものを3つまで選び、○をつけてください。

「結婚や出産に際して、女性が働き続けることが難しい」が17.9%と最も多く、次いで「女性は男性より賃金が低い、昇進が遅い」が13.9%、「男性の方が育児休業や介護休業を取りにくい」が13.5%と続いている。

【全体】

[3つ以内で複数回答]

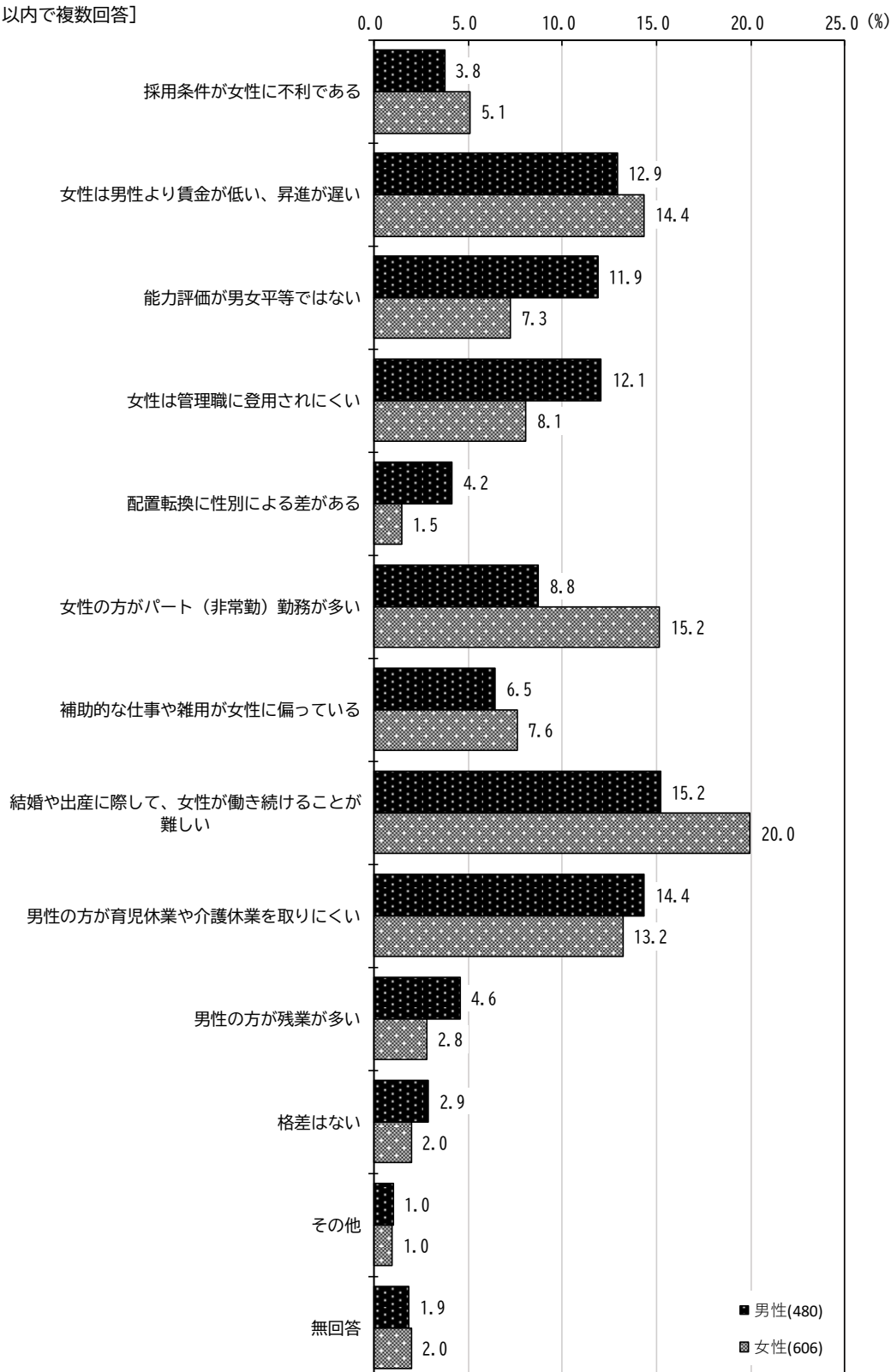


回答数：1,103

性別では、男性は「結婚や出産に際して、女性が働き続けることが難しい」が15.2%と最も多く、次いで「男性の方が育児休業や介護休業を取りにくい」が14.4%と続いている。女性は「結婚や出産に際して、女性が働き続けることが難しい」が20.0%と最も多く、次いで「女性の方がパート（非常勤）勤務が多い」が15.2%と続いている。

【性別】

〔3つ以内で複数回答〕



() : 回答数

【性・年代別】

※太字は上位3つ（「その他」・「無回答」を除く）、下線は最上位

[3つ以内で複数回答]	全体 (1,103)	男性							
		10歳代 (18)	20歳代 (32)	30歳代 (27)	40歳代 (41)	50歳代 (57)	60歳代 (86)	70歳代 (107)	80歳代 以上 (112)
採用条件が女性に不利である	4.6	5.6	0.0	3.7	2.4	5.3	4.7	3.7	3.6
女性は男性より賃金が低い、昇進が遅い	13.9	0.0	3.1	11.1	12.2	8.8	<u>18.6</u>	14.0	<u>15.2</u>
能力評価が男女平等ではない	9.3	<u>16.7</u>	9.4	11.1	12.2	8.8	12.8	12.1	12.5
女性は管理職に登用されにくい	10.0	<u>16.7</u>	<u>21.9</u>	14.8	9.8	12.3	11.6	12.1	8.9
配置転換に性別による差がある	2.6	5.6	6.3	0.0	2.4	1.8	3.5	4.7	6.3
女性の方がパート（非常勤）勤務が多い	12.3	11.1	6.3	14.8	4.9	10.5	7.0	10.3	8.0
補助的な仕事や雑用が女性に偏っている	7.0	5.6	9.4	0.0	9.8	8.8	4.7	3.7	8.9
結婚や出産に際して、女性が働き続けることが難しい	<u>17.9</u>	<u>16.7</u>	18.8	11.1	9.8	14.0	16.3	<u>19.6</u>	12.5
男性の方が育児休業や介護休業を取りにくい	13.5	<u>16.7</u>	12.5	<u>18.5</u>	<u>17.1</u>	<u>15.8</u>	16.3	13.1	11.6
男性の方が残業が多い	3.5	5.6	3.1	3.7	9.8	5.3	2.3	3.7	5.4
格差はない	2.4	0.0	3.1	7.4	7.3	8.8	1.2	0.9	0.9
その他	1.0	0.0	3.1	3.7	2.4	0.0	0.0	0.9	0.9
無回答	1.9	0.0	3.1	0.0	0.0	0.0	1.2	0.9	5.4

単位：％

※太字は上位3つ（「その他」・「無回答」を除く）、下線は最上位

[3つ以内で複数回答]	全体 (1,103)	女性							
		10歳代 (25)	20歳代 (38)	30歳代 (67)	40歳代 (77)	50歳代 (77)	60歳代 (118)	70歳代 (139)	80歳代 以上 (65)
採用条件が女性に不利である	4.6	4.0	2.6	9.0	3.9	5.2	5.1	5.0	4.6
女性は男性より賃金が低い、昇進が遅い	13.9	12.0	<u>18.4</u>	10.4	5.2	<u>20.8</u>	16.1	15.1	15.4
能力評価が男女平等ではない	9.3	4.0	5.3	4.5	2.6	10.4	8.5	7.9	10.8
女性は管理職に登用されにくい	10.0	12.0	10.5	9.0	7.8	3.9	9.3	7.2	9.2
配置転換に性別による差がある	2.6	0.0	0.0	0.0	2.6	2.6	0.8	2.9	0.0
女性の方がパート（非常勤）勤務が多い	12.3	<u>20.0</u>	7.9	16.4	16.9	18.2	16.1	12.9	13.8
補助的な仕事や雑用が女性に偏っている	7.0	8.0	10.5	1.5	5.2	7.8	7.6	10.8	7.7
結婚や出産に際して、女性が働き続けることが難しい	<u>17.9</u>	<u>24.0</u>	<u>21.1</u>	<u>23.9</u>	<u>23.4</u>	15.6	<u>22.9</u>	<u>15.8</u>	<u>18.5</u>
男性の方が育児休業や介護休業を取りにくい	13.5	12.0	13.2	16.4	22.1	10.4	11.0	12.2	9.2
男性の方が残業が多い	3.5	0.0	5.3	3.0	5.2	0.0	0.8	3.6	4.6
格差はない	2.4	0.0	5.3	4.5	3.9	2.6	1.7	0.0	0.0
その他	1.0	4.0	0.0	1.5	1.3	1.3	0.0	0.7	1.5
無回答	1.9	0.0	0.0	0.0	0.0	1.3	0.0	5.8	4.6

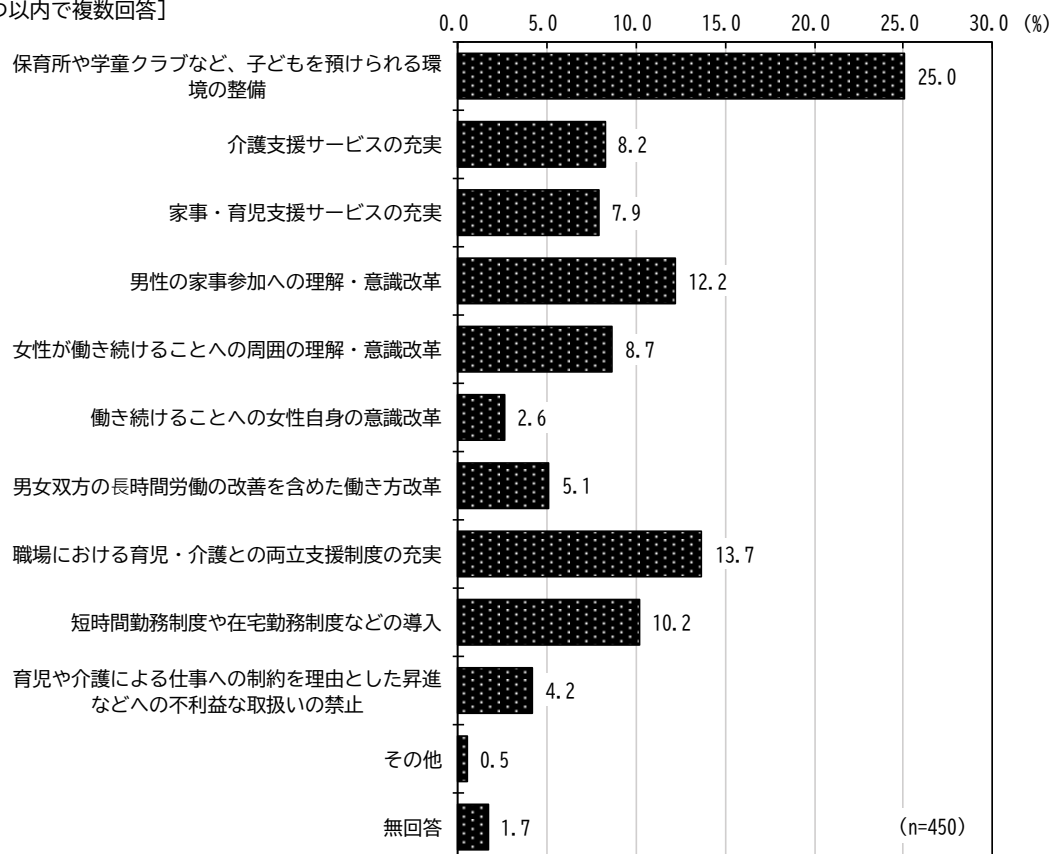
単位：％

問9 女性が離職せずに同じ職場で働き続けるために、あなたが家庭・社会・職場において必要なことは何だと思いますか。特に必要だと思うものを3つまで選び、○をつけてください。

「保育所や学童クラブなど、子どもを預けられる環境の整備」が25.0%と最も多く、次いで「職場における育児・介護との両立支援制度の充実」が13.7%、「男性の家事参加への理解・意識改革」が12.2%と続いている。

【全体】

[3つ以内で複数回答]

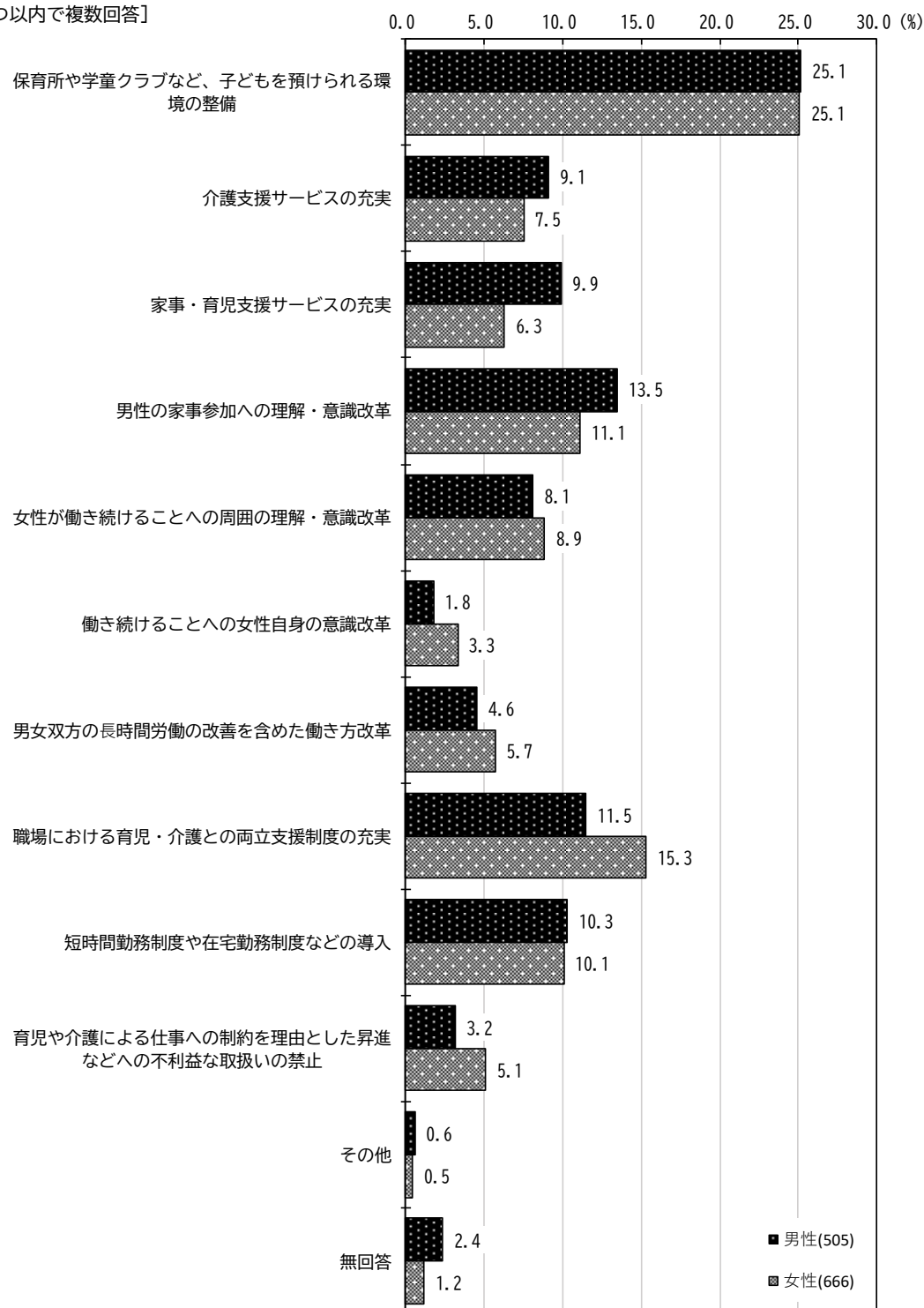


回答数：1,190

性別では、男性、女性ともに「保育所や学童クラブなど、子どもを預けられる環境の整備」が25.1%と最も多く、次いで男性は「男性の家事参加への理解・意識改革」が、女性は「職場における育児・介護との両立支援制度の充実」が多くなっている。

【性別】

[3つ以内で複数回答]



() : 回答数

【性・年代別】

※太字は上位3つ（「その他」・「無回答」を除く）、下線は最上位

〔3つ以内で複数回答〕	全体 (1,190)	男性							
		10歳代 (20)	20歳代 (35)	30歳代 (28)	40歳代 (44)	50歳代 (64)	60歳代 (92)	70歳代 (113)	80歳代 以上 (109)
保育所や学童クラブなど、子どもを預けられる環境の整備	25.0	25.0	31.4	25.0	29.5	28.1	20.7	24.8	23.9
介護支援サービスの充実	8.2	5.0	0.0	10.7	4.5	12.5	8.7	8.8	12.8
家事・育児支援サービスの充実	7.9	10.0	8.6	14.3	15.9	12.5	10.9	9.7	4.6
男性の家事参加への理解・意識改革	12.2	25.0	22.9	10.7	11.4	17.2	13.0	9.7	11.9
女性が働き続けることへの周囲の理解・意識改革	8.7	10.0	8.6	14.3	11.4	6.3	9.8	5.3	7.3
働き続けることへの女性自身の意識改革	2.6	0.0	0.0	0.0	4.5	0.0	2.2	1.8	2.8
男女双方の長時間労働の改善を含めた働き方改革	5.1	0.0	0.0	0.0	0.0	3.1	6.5	7.1	6.4
職場における育児・介護との両立支援制度の充実	13.7	10.0	2.9	10.7	6.8	10.9	14.1	15.9	10.1
短時間勤務制度や在宅勤務制度などの導入	10.2	10.0	20.0	10.7	9.1	7.8	7.6	10.6	11.0
育児や介護による仕事への制約を理由とした昇進などへの不利益な取扱いの禁止	4.2	5.0	0.0	3.6	4.5	0.0	3.3	4.4	3.7
その他	0.5	0.0	2.9	0.0	2.3	1.6	0.0	0.0	0.0
無回答	1.7	0.0	2.9	0.0	0.0	0.0	3.3	1.8	5.5

単位：％

※太字は上位3つ（「その他」・「無回答」を除く）、下線は最上位

〔3つ以内で複数回答〕	全体 (1,190)	女性							
		10歳代 (22)	20歳代 (42)	30歳代 (79)	40歳代 (88)	50歳代 (85)	60歳代 (129)	70歳代 (154)	80歳代 以上 (67)
保育所や学童クラブなど、子どもを預けられる環境の整備	25.0	27.3	28.6	29.1	26.1	27.1	26.4	20.8	20.9
介護支援サービスの充実	8.2	0.0	2.4	2.5	3.4	15.3	7.8	9.1	10.4
家事・育児支援サービスの充実	7.9	13.6	2.4	7.6	11.4	8.2	6.2	3.9	1.5
男性の家事参加への理解・意識改革	12.2	13.6	16.7	10.1	8.0	9.4	10.9	10.4	16.4
女性が働き続けることへの周囲の理解・意識改革	8.7	0.0	14.3	6.3	10.2	7.1	7.0	11.7	9.0
働き続けることへの女性自身の意識改革	2.6	9.1	2.4	0.0	2.3	2.4	3.9	3.9	6.0
男女双方の長時間労働の改善を含めた働き方改革	5.1	4.5	0.0	3.8	2.3	3.5	7.0	10.4	6.0
職場における育児・介護との両立支援制度の充実	13.7	18.2	9.5	19.0	14.8	11.8	16.3	18.2	10.4
短時間勤務制度や在宅勤務制度などの導入	10.2	9.1	16.7	16.5	12.5	10.6	9.3	3.9	10.4
育児や介護による仕事への制約を理由とした昇進などへの不利益な取扱いの禁止	4.2	4.5	4.8	5.1	6.8	3.5	5.4	4.5	6.0
その他	0.5	0.0	2.4	0.0	1.1	1.2	0.0	0.0	0.0
無回答	1.7	0.0	0.0	0.0	1.1	0.0	0.0	3.2	3.0

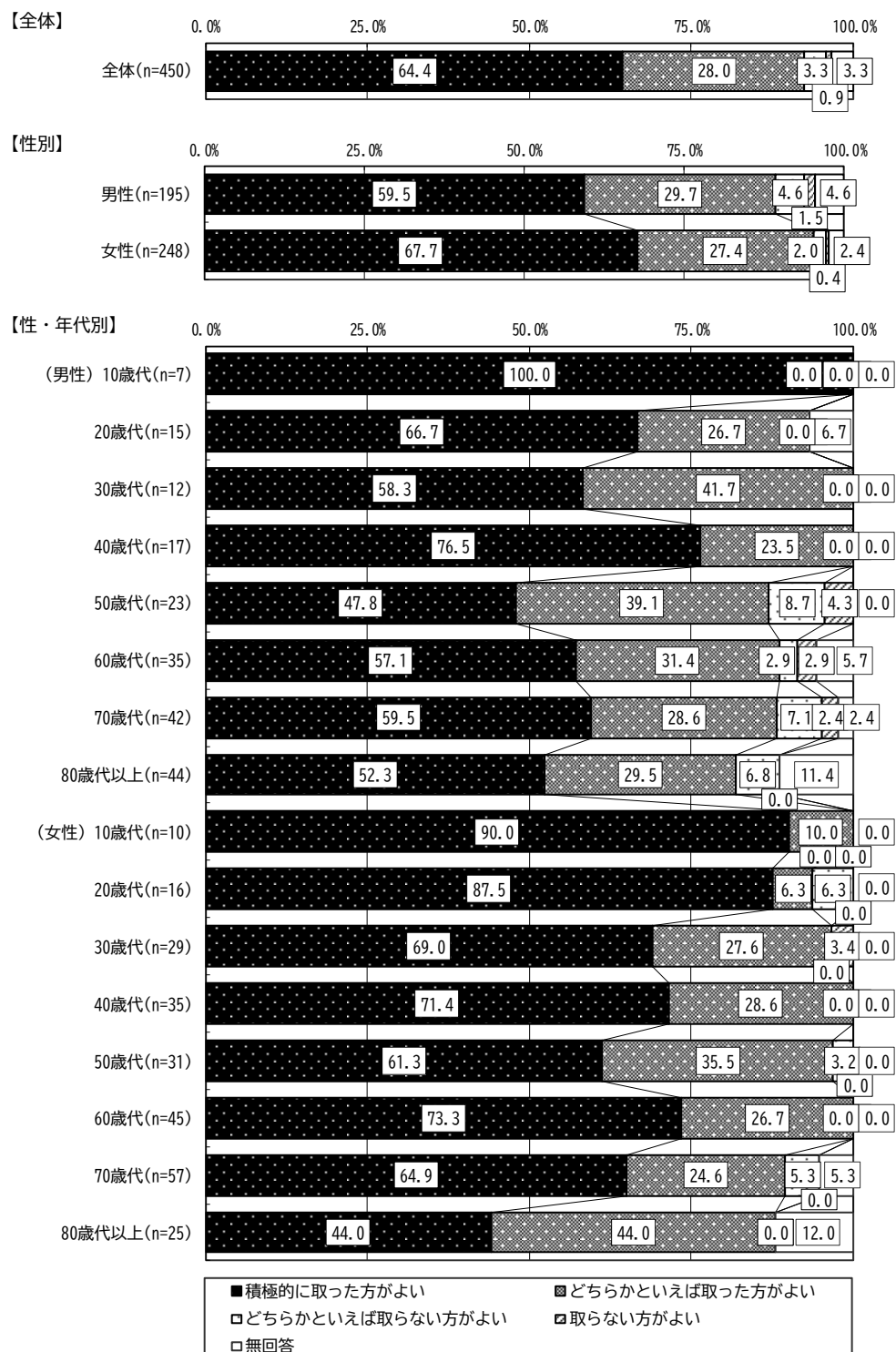
単位：％

問10-1 育児や家族介護を行うために、法律に基づき育児休業や介護休業を取得できる制度があります。
この制度を利用して、男性が育児休業や介護休業を取ることにについて、あなたはどのように思いますか。(〇はそれぞれ1つ)

① 育児休業について

「積極的に取った方がよい」が 64.4%と最も多く、次いで「どちらかといえば取った方がよい」が 28.0%、「どちらかといえば取らない方がよい」が 3.3%、「取らない方がよい」が 0.9%となっている。

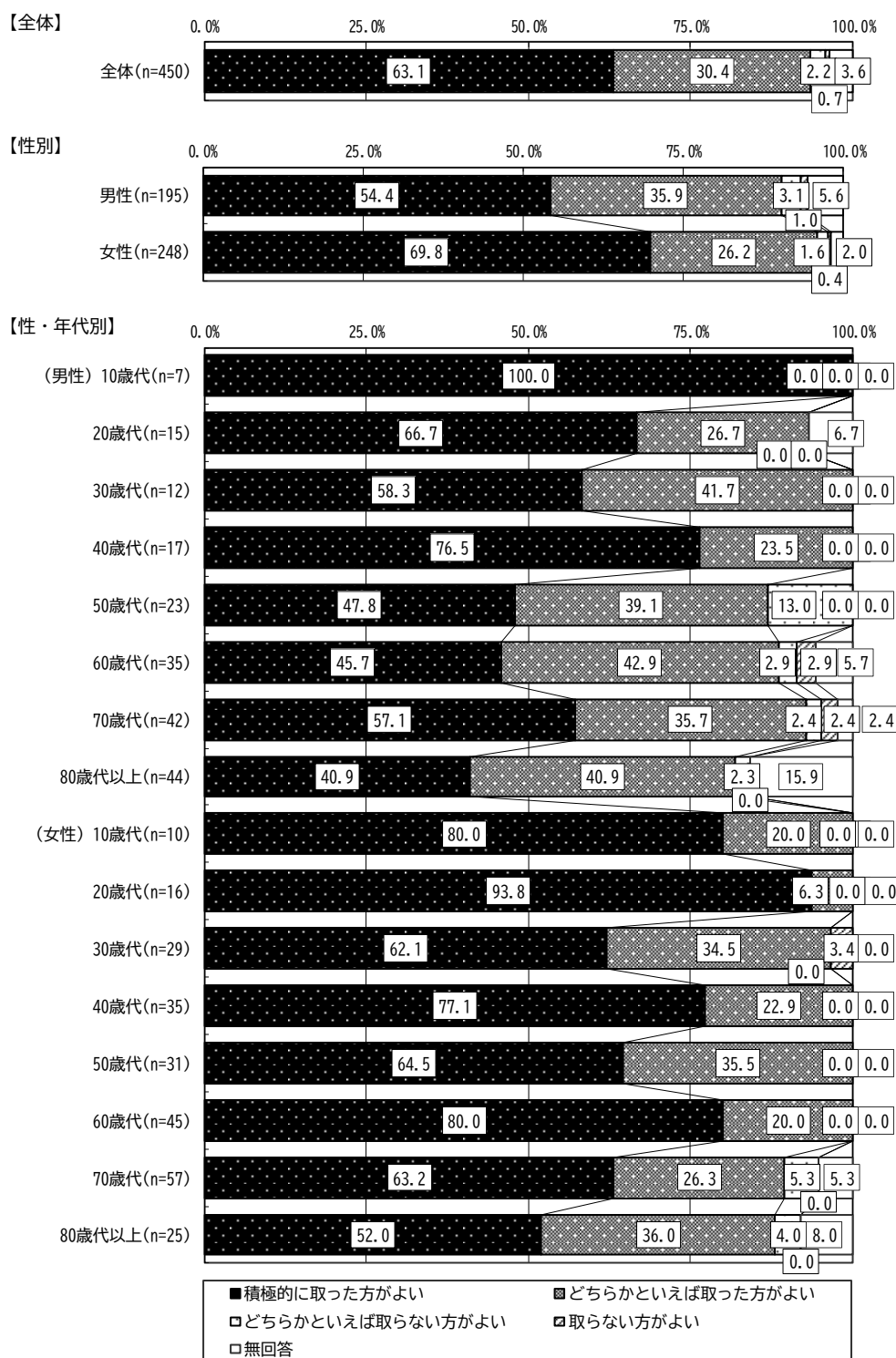
性別では、男性、女性ともに「積極的に取ったほうがよい」が最も多く、「積極的に取った方がよい」「どちらかといえば取った方がよい」を合わせた割合は約9割となっている。



② 介護休業について

「積極的に取った方がよい」が 63.1%と最も多く、次いで「どちらかといえば取った方がよい」が 30.4%、「どちらかといえば取らない方がよい」が 2.2%、「取らない方がよい」が 0.7%となっている。

性別では、男性、女性ともに「積極的に取ったほうがよい」が最も多く、「積極的に取った方がよい」「どちらかといえば取った方がよい」を合わせた割合は約 9 割となっている。

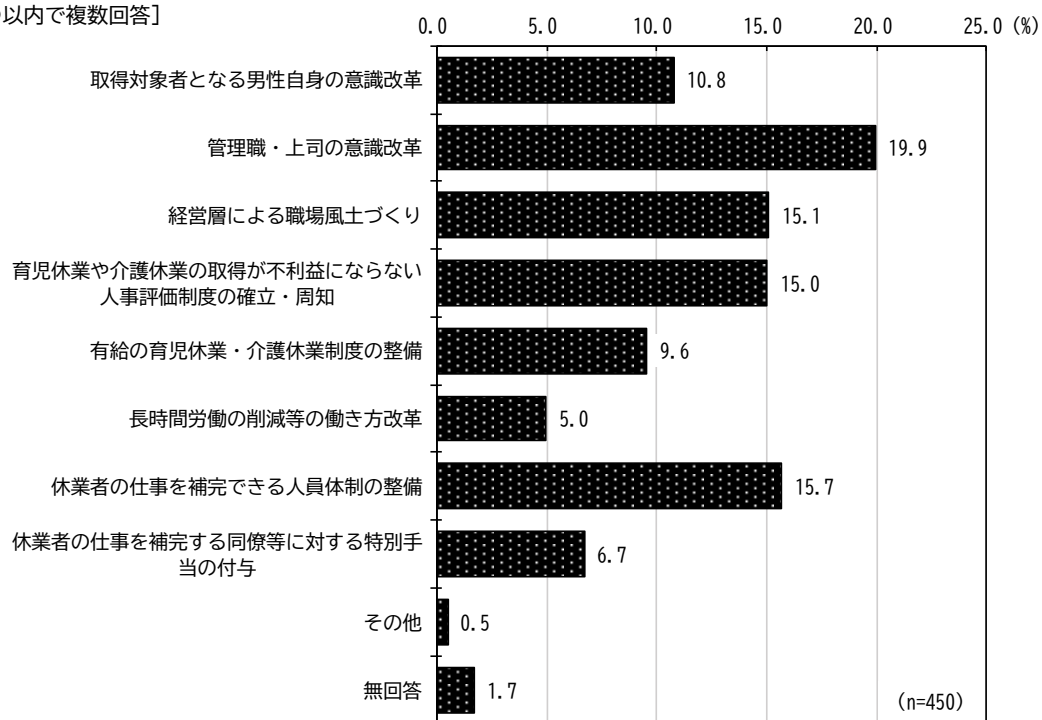


問10-2 男性が育児休業や介護休業の取得をより進めるために、職場においてどのような取組が必要だと思われますか。特に必要だと思うものを3つまで選び、○をつけてください。

「管理職・上司の意識改革」が19.9%と最も多く、次いで「休業者の仕事を補完できる人員体制の整備」が15.7%、「経営層による職場風土づくり」が15.1%と続いている。

【全体】

[3つ以内で複数回答]

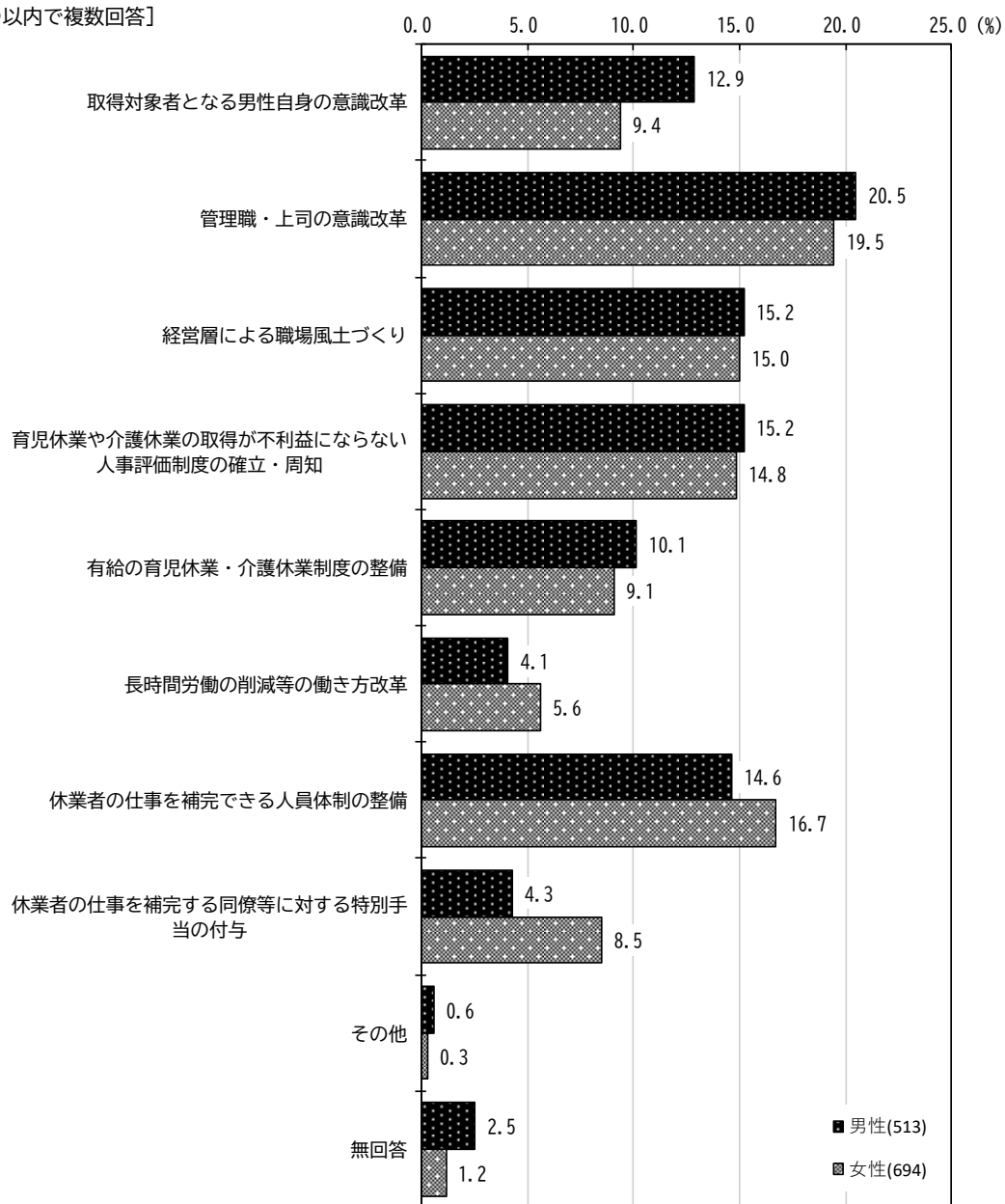


回答数：1,224

性別では、男性は「管理職・上司の意識改革」が20.5%と最も多く、次いで「経営層による職場風土づくり」「育児休業や介護休業の取得が不利益にならない人事評価制度の確立・周知」が同率で15.2%となっている。女性は「管理職・上司の意識改革」が19.5%と最も多く、次いで「休業者の仕事を補完できる人員体制の整備」が16.7%となっている。

【性別】

[3つ以内で複数回答]



() : 回答数

【性・年代別】

※太字は上位3つ（「その他」・「無回答」を除く）、下線は最上位

[3つ以内で複数回答]	全体 (1,224)	男性							
		10歳代 (21)	20歳代 (36)	30歳代 (32)	40歳代 (47)	50歳代 (63)	60歳代 (88)	70歳代 (116)	80歳代 以上 (110)
取得対象者となる男性自身の意識改革	10.8	9.5	11.1	12.5	10.6	12.7	12.5	12.9	15.5
管理職・上司の意識改革	19.9	23.8	22.2	18.8	17.0	19.0	19.3	23.3	20.0
経営層による職場風土づくり	15.1	14.3	11.1	15.6	17.0	20.6	14.8	17.2	10.9
育児休業や介護休業の取得が不利益にならない人事評価制度の確立・周知	15.0	19.0	13.9	9.4	17.0	6.3	17.0	16.4	18.2
有給の育児休業・介護休業制度の整備	9.6	14.3	13.9	9.4	8.5	11.1	10.2	11.2	7.3
長時間労働の削減等の働き方改革	5.0	4.8	8.3	12.5	8.5	6.3	3.4	0.9	0.9
休業者の仕事を補完できる人員体制の整備	15.7	0.0	8.3	12.5	12.8	19.0	14.8	14.7	18.2
休業者の仕事を補完する同僚等に対する特別手当の付与	6.7	14.3	8.3	6.3	6.4	4.8	4.5	1.7	1.8
その他	0.5	0.0	0.0	3.1	2.1	0.0	1.1	0.0	0.0
無回答	1.7	0.0	2.8	0.0	0.0	0.0	2.3	1.7	7.3

単位：％

※太字は上位3つ（「その他」・「無回答」を除く）、下線は最上位

[3つ以内で複数回答]	全体 (1,224)	女性							
		10歳代 (30)	20歳代 (43)	30歳代 (83)	40歳代 (97)	50歳代 (87)	60歳代 (132)	70歳代 (155)	80歳代 以上 (67)
取得対象者となる男性自身の意識改革	10.8	13.3	11.6	8.4	3.1	11.5	7.6	11.6	11.9
管理職・上司の意識改革	19.9	20.0	23.3	21.7	15.5	18.4	18.9	21.3	17.9
経営層による職場風土づくり	15.1	13.3	18.6	9.6	16.5	16.1	16.7	13.5	16.4
育児休業や介護休業の取得が不利益にならない人事評価制度の確立・周知	15.0	13.3	7.0	12.0	16.5	12.6	20.5	15.5	11.9
有給の育児休業・介護休業制度の整備	9.6	10.0	14.0	7.2	9.3	8.0	9.8	7.7	10.4
長時間労働の削減等の働き方改革	5.0	3.3	2.3	6.0	6.2	5.7	3.0	9.0	4.5
休業者の仕事を補完できる人員体制の整備	15.7	16.7	11.6	24.1	18.6	17.2	15.2	14.8	14.9
休業者の仕事を補完する同僚等に対する特別手当の付与	6.7	10.0	11.6	10.8	13.4	8.0	8.3	3.9	7.5
その他	0.5	0.0	0.0	0.0	1.0	1.1	0.0	0.0	0.0
無回答	1.7	0.0	0.0	0.0	0.0	1.1	0.0	2.6	4.5

単位：％

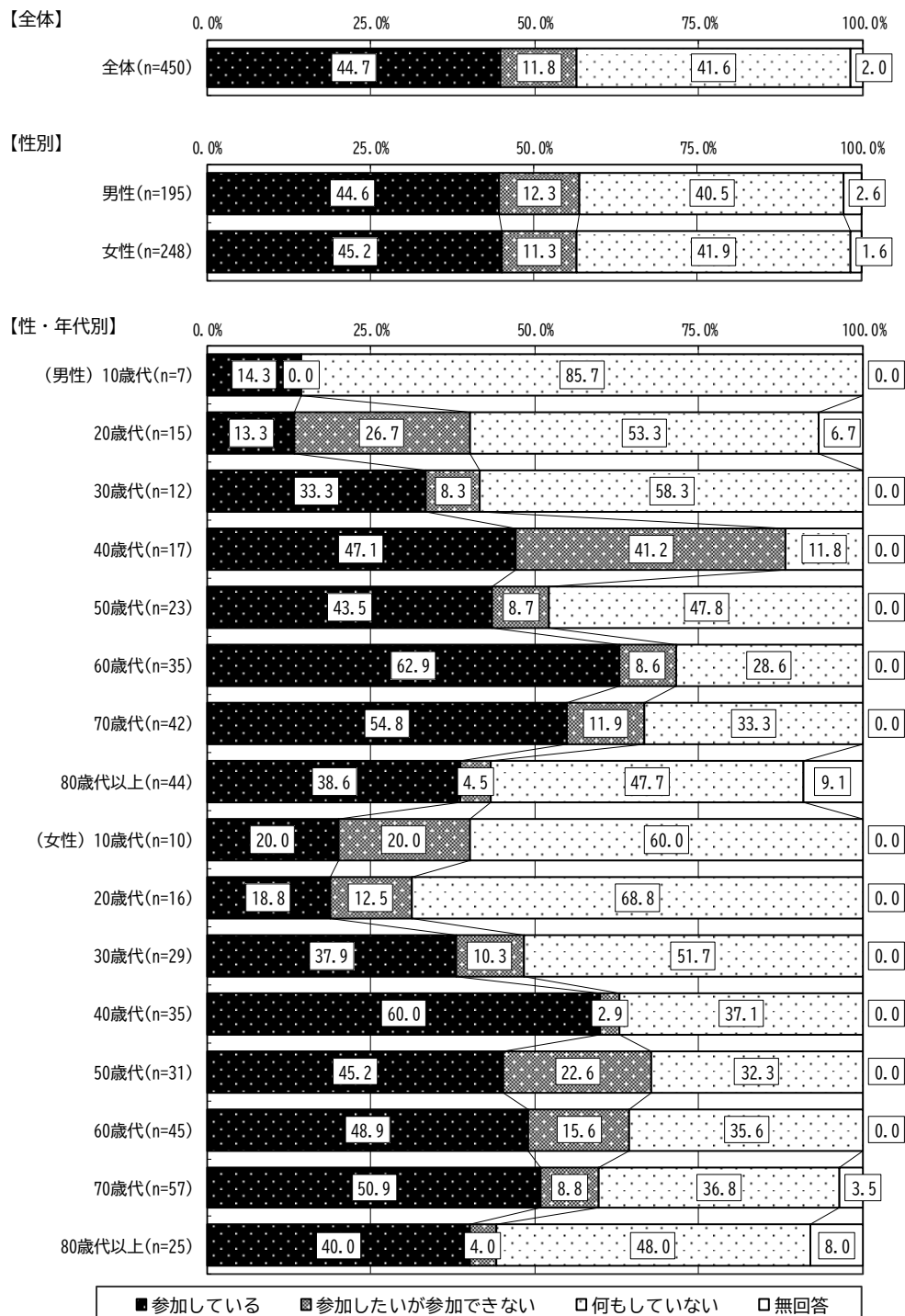
3 地域・社会活動など仕事以外の活動について

問11 現在、あなたは地域・社会活動に参加していますか。

「参加している」が44.7%と最も多く、次いで「何もしていない」が41.6%、「参加したいが参加できない」が11.8%となっている。

性別では、男性、女性ともに概ね全体と同様の傾向となっている。

性別・年齢別では、男性は40歳代、60歳代、70歳代で「参加している」が、その他の年代で「何もしていない」が最も多くなっており、なかでも10歳代は8割を超えている。女性では10歳代から40歳代から70歳代で「参加している」が、その他の年代で「何もしていない」が最も多くなっており、なかでも10歳代、20歳代で6割を超えている。



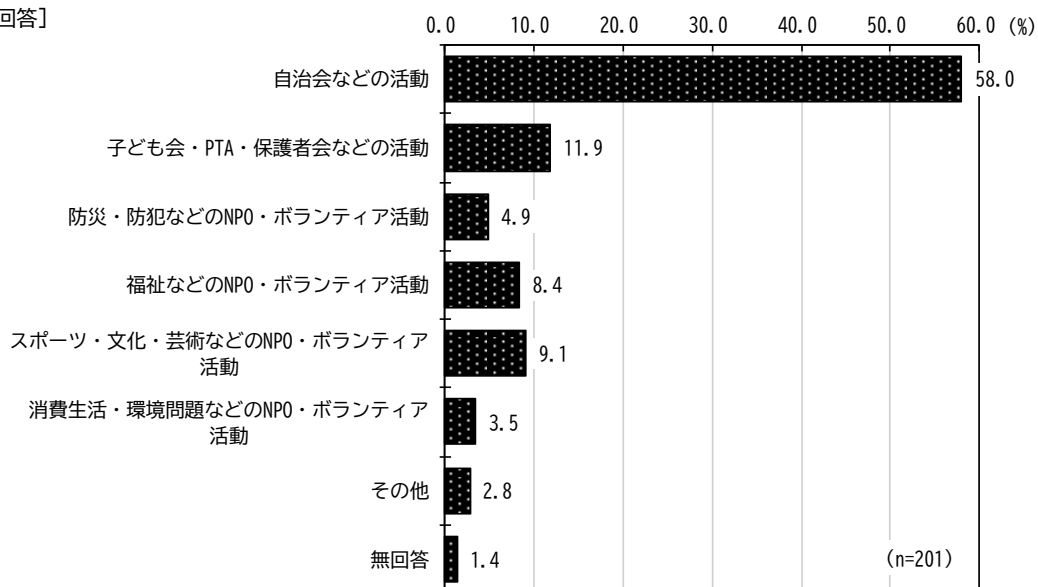
問11-1 問11で「参加している」に○をつけた方のみお答えください。

あなたが参加している地域・社会活動は何ですか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

参加している活動については「自治会の活動」が58.0%と最も多く、次いで「子ども会・PTA・保護者会などの活動」が11.9%、「スポーツ・文化・芸術などのNPO・ボランティア活動」が9.1%と続いている。

【全体】

[複数回答]

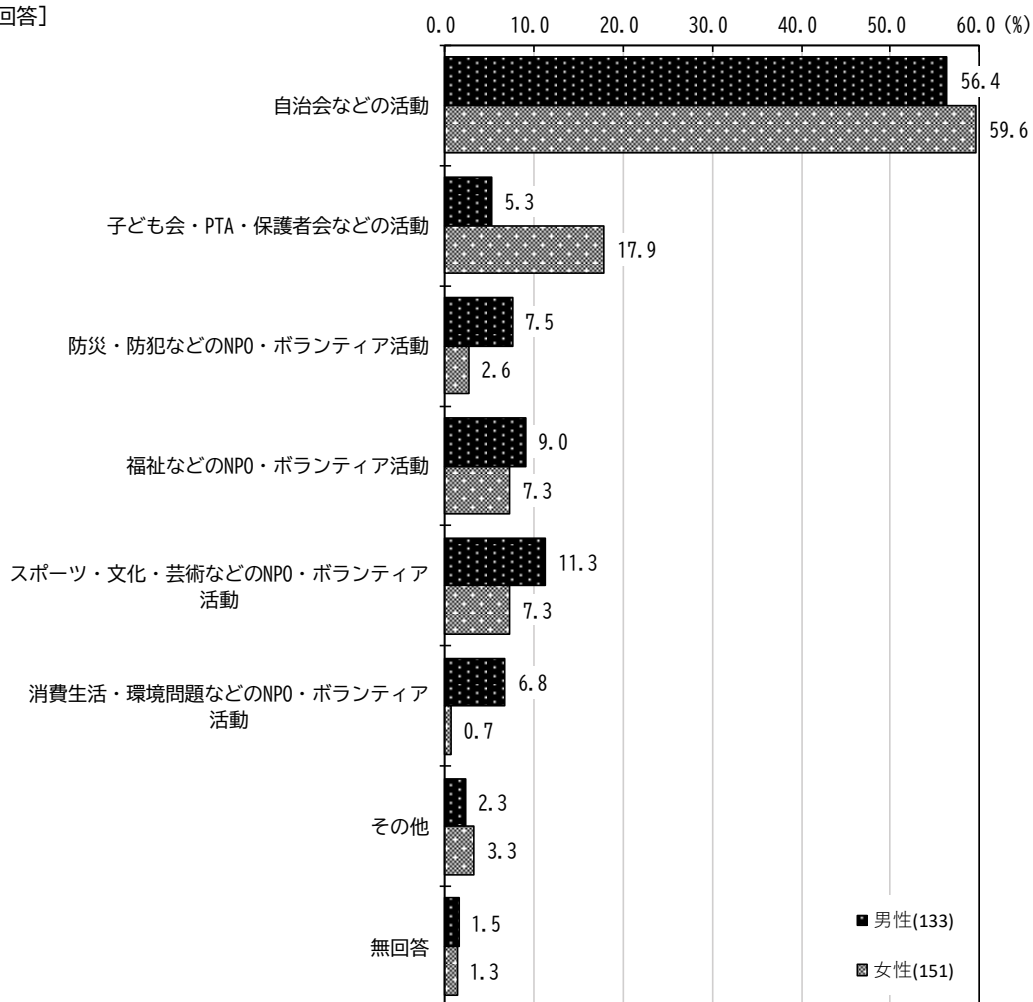


回答数：286

性別では、男性、女性ともに「自治会活動」が最も多く、次いで男性は「スポーツ・文化・芸術などのNPO・ボランティア活動」が、女性は「子ども会・PTA・保護者会などの活動」が多くなっている。

【性別】

〔複数回答〕



() : 回答数

性別・年代別では、男性、女性ともに概ね「自治会の活動」が最も多く、女性は20歳代から30歳代で「子ども会・PTA・保護者会などの活動」も多くなっている。

【性・年代別】

※太字は上位3つ（「その他」・「無回答」を除く）、下線は最上位

〔複数回答〕	全体 (286)	男性							
		10歳代 (1)	20歳代 (2)	30歳代 (4)	40歳代 (12)	50歳代 (14)	60歳代 (27)	70歳代 (45)	80歳代 以上 (28)
自治会などの活動	58.0	0.0	100.0	75.0	58.3	71.4	74.1	44.4	46.4
子ども会・PTA・保護者会などの活動	11.9	0.0	0.0	0.0	25.0	21.4	3.7	0.0	0.0
防災・防犯などのNP0・ボランティア活動	4.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	7.4	15.6	3.6
福祉などのNP0・ボランティア活動	8.4	0.0	0.0	25.0	0.0	0.0	3.7	15.6	10.7
スポーツ・文化・芸術などのNP0・ボランティア活動	9.1	0.0	0.0	0.0	8.3	7.1	11.1	13.3	14.3
消費生活・環境問題などのNP0・ボランティア活動	3.5	100.0	0.0	0.0	8.3	0.0	0.0	6.7	14.3
その他	2.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.2	7.1
無回答	1.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.2	3.6

単位：％

※太字は上位3つ（「その他」・「無回答」を除く）、下線は最上位

〔複数回答〕	全体 (286)	女性							
		10歳代 (3)	20歳代 (3)	30歳代 (16)	40歳代 (34)	50歳代 (18)	60歳代 (27)	70歳代 (36)	80歳代 以上 (14)
自治会などの活動	58.0	66.7	0.0	56.3	47.1	66.7	74.1	63.9	57.1
子ども会・PTA・保護者会などの活動	11.9	0.0	33.3	43.8	47.1	16.7	0.0	0.0	0.0
防災・防犯などのNP0・ボランティア活動	4.9	0.0	0.0	0.0	0.0	5.6	7.4	0.0	7.1
福祉などのNP0・ボランティア活動	8.4	0.0	33.3	0.0	0.0	5.6	3.7	16.7	14.3
スポーツ・文化・芸術などのNP0・ボランティア活動	9.1	0.0	0.0	0.0	5.9	5.6	11.1	11.1	7.1
消費生活・環境問題などのNP0・ボランティア活動	3.5	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
その他	2.8	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	3.7	2.8	14.3
無回答	1.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	5.6	0.0

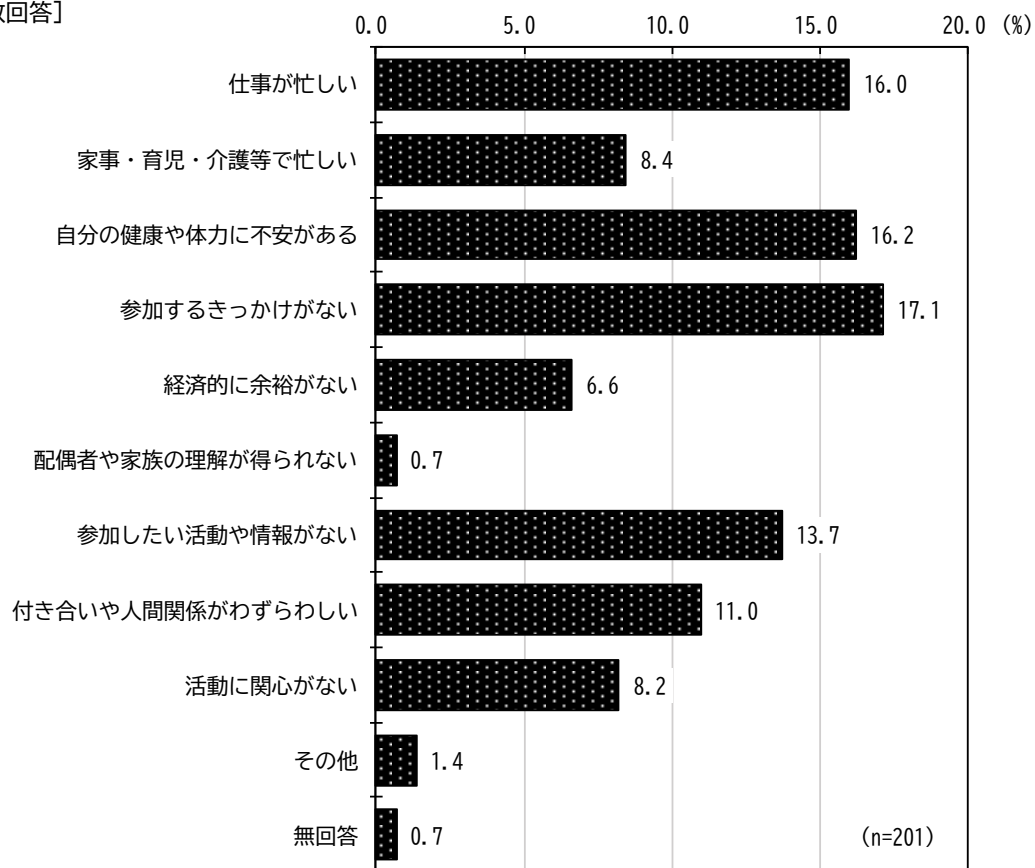
単位：％

問11-2 問11で「参加したいが参加できない」、「何もしていない」に○をつけた方のみお答えください。
あなたが、地域・社会活動に参加しにくい、できない理由は何ですか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

「参加するきっかけがない」が17.1%と最も多く、次いで「自分の健康や体力に不安がある」が16.2%、「仕事が忙しい」が16.0%となっている。

【全体】

〔複数回答〕

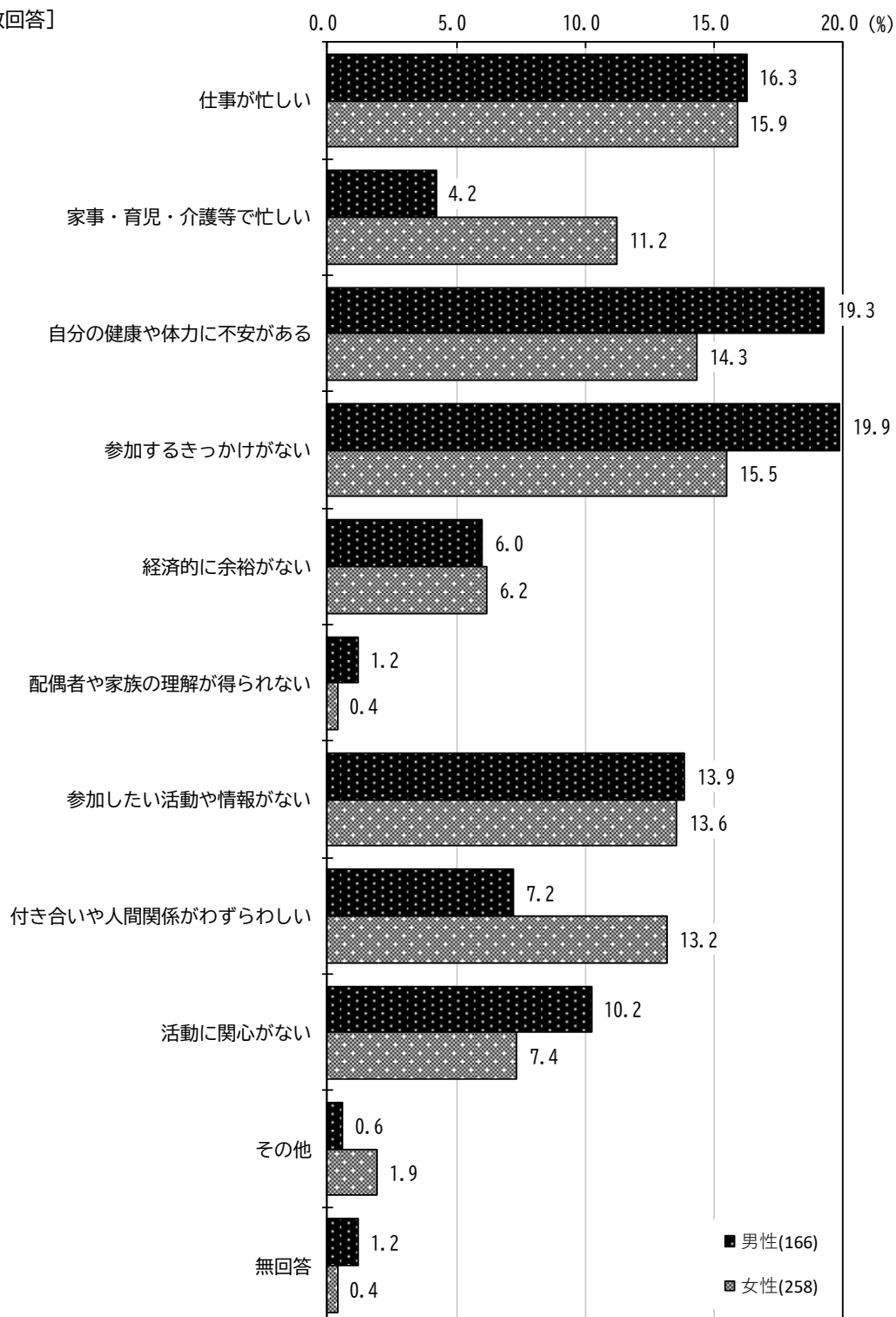


回答数：438

性別では、男性は「参加するきっかけがない」が19.9%と最も多く、次いで「自分の健康や体力に不安がある」が19.3%、「仕事が忙しい」が16.3%と続いている。女性は「仕事が忙しい」が15.9%と最も多く、次いで「参加するきっかけがない」が15.5%、「自分の健康や体力に不安がある」が14.3%と続いている。

【性別】

[複数回答]



() : 回答数

【性・年代別】

※太字は上位3つ（「その他」・「無回答」を除く）、下線は最上位

():回答数		男性							
〔複数回答〕	全体 (438)	10歳代 (11)	20歳代 (25)	30歳代 (16)	40歳代 (15)	50歳代 (22)	60歳代 (17)	70歳代 (29)	80歳代 以上 (31)
仕事が忙しい	16.0	18.2	20.0	31.3	53.3	18.2	11.8	0.0	3.2
家事・育児・介護等で忙しい	8.4	0.0	4.0	12.5	0.0	0.0	5.9	6.9	3.2
自分の健康や体力に不安がある	16.2	0.0	4.0	0.0	6.7	13.6	29.4	31.0	41.9
参加するきっかけがない	17.1	45.5	24.0	31.3	6.7	22.7	11.8	13.8	16.1
経済的に余裕がない	6.6	0.0	12.0	0.0	13.3	9.1	0.0	6.9	3.2
配偶者や家族の理解が得られない	0.7	0.0	0.0	6.3	0.0	4.5	0.0	0.0	0.0
参加したい活動や情報がない	13.7	27.3	16.0	0.0	13.3	18.2	11.8	20.7	6.5
付き合いや人間関係がわずらわしい	11.0	0.0	0.0	6.3	0.0	4.5	17.6	17.2	6.5
活動に関心がない	8.2	9.1	16.0	12.5	6.7	9.1	11.8	3.4	12.9
その他	1.4	0.0	4.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
無回答	0.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	6.5

単位：%

※太字は上位3つ（「その他」・「無回答」を除く）、下線は最上位

():回答数		女性							
〔複数回答〕	全体 (438)	10歳代 (15)	20歳代 (22)	30歳代 (56)	40歳代 (35)	50歳代 (32)	60歳代 (38)	70歳代 (43)	80歳代 以上 (17)
仕事が忙しい	16.0	6.7	22.7	19.6	25.7	18.8	10.5	9.3	5.9
家事・育児・介護等で忙しい	8.4	0.0	4.5	19.6	20.0	6.3	18.4	0.0	5.9
自分の健康や体力に不安がある	16.2	6.7	0.0	3.6	2.9	25.0	10.5	32.6	41.2
参加するきっかけがない	17.1	20.0	27.3	14.3	20.0	9.4	15.8	14.0	5.9
経済的に余裕がない	6.6	0.0	4.5	5.4	2.9	6.3	7.9	14.0	0.0
配偶者や家族の理解が得られない	0.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.3	0.0
参加したい活動や情報がない	13.7	26.7	4.5	8.9	11.4	15.6	21.1	14.0	11.8
付き合いや人間関係がわずらわしい	11.0	13.3	18.2	17.9	11.4	12.5	13.2	7.0	11.8
活動に関心がない	8.2	26.7	18.2	10.7	5.7	0.0	2.6	2.3	5.9
その他	1.4	0.0	0.0	0.0	0.0	6.3	0.0	2.3	11.8
無回答	0.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.3	0.0

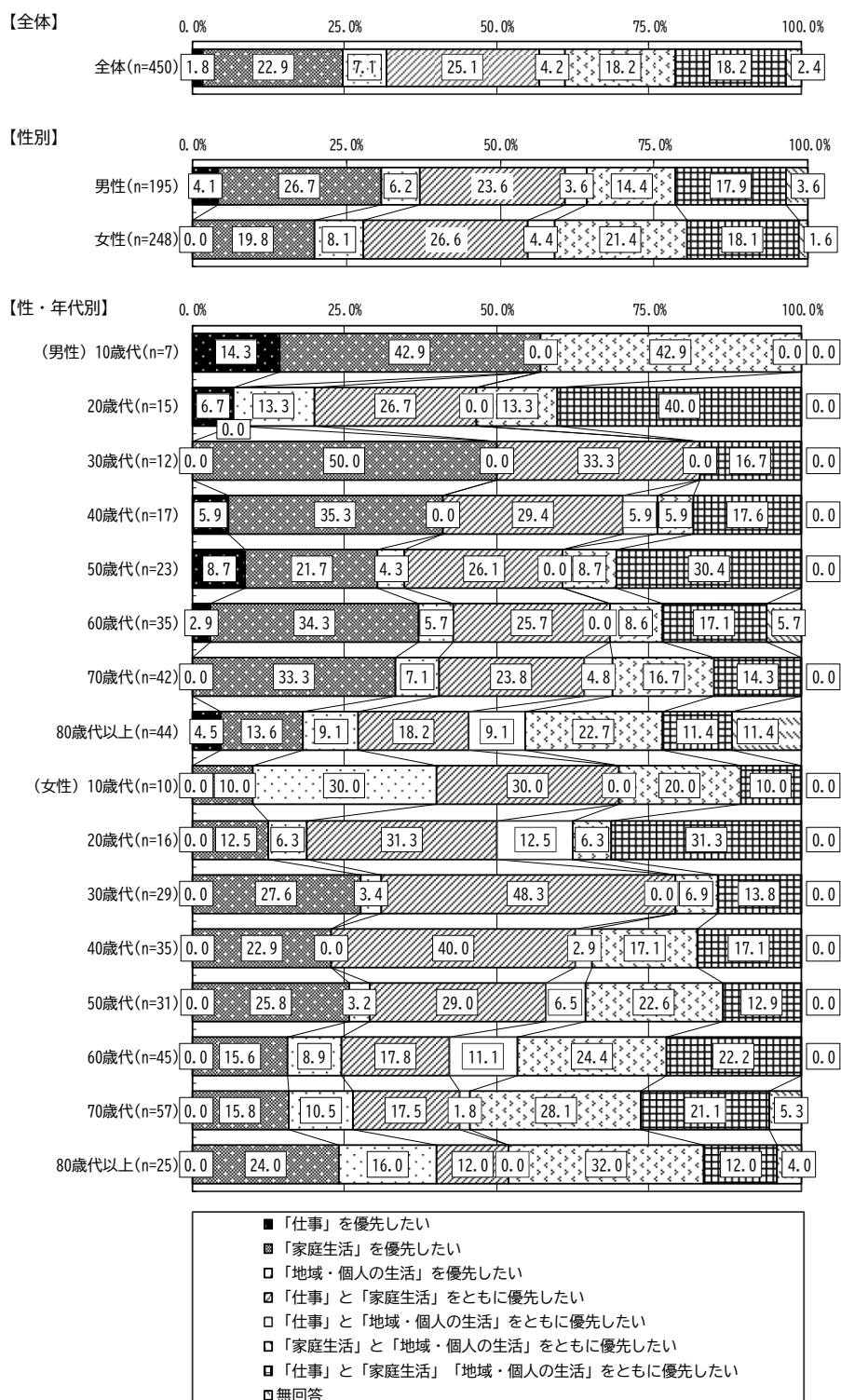
単位：％

問12-1 あなたが考える「理想の生活」の中で優先したいものは何ですか。次の「仕事」、「家庭生活」、「地域・社会活動、学習、趣味、付き合いなどの『地域・個人の生活』」について、もっともあなたの考えに近いもの1つに○をつけてください。

「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい」が25.1%と最も多く、次いで「家庭生活」を優先したい」が22.9%、「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい」「仕事」と「家庭生活」「地域・個人の生活」をともに優先したい」が同率で18.2%と続いている。

性別では男性、女性ともに全体と同様の傾向となっている。

性・年代別では、男性は概ねどの年代も「家庭生活」を優先したい」が多くなっている。女性は50歳以下で「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい」が、60歳以上で「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい」が最も多くなっている。

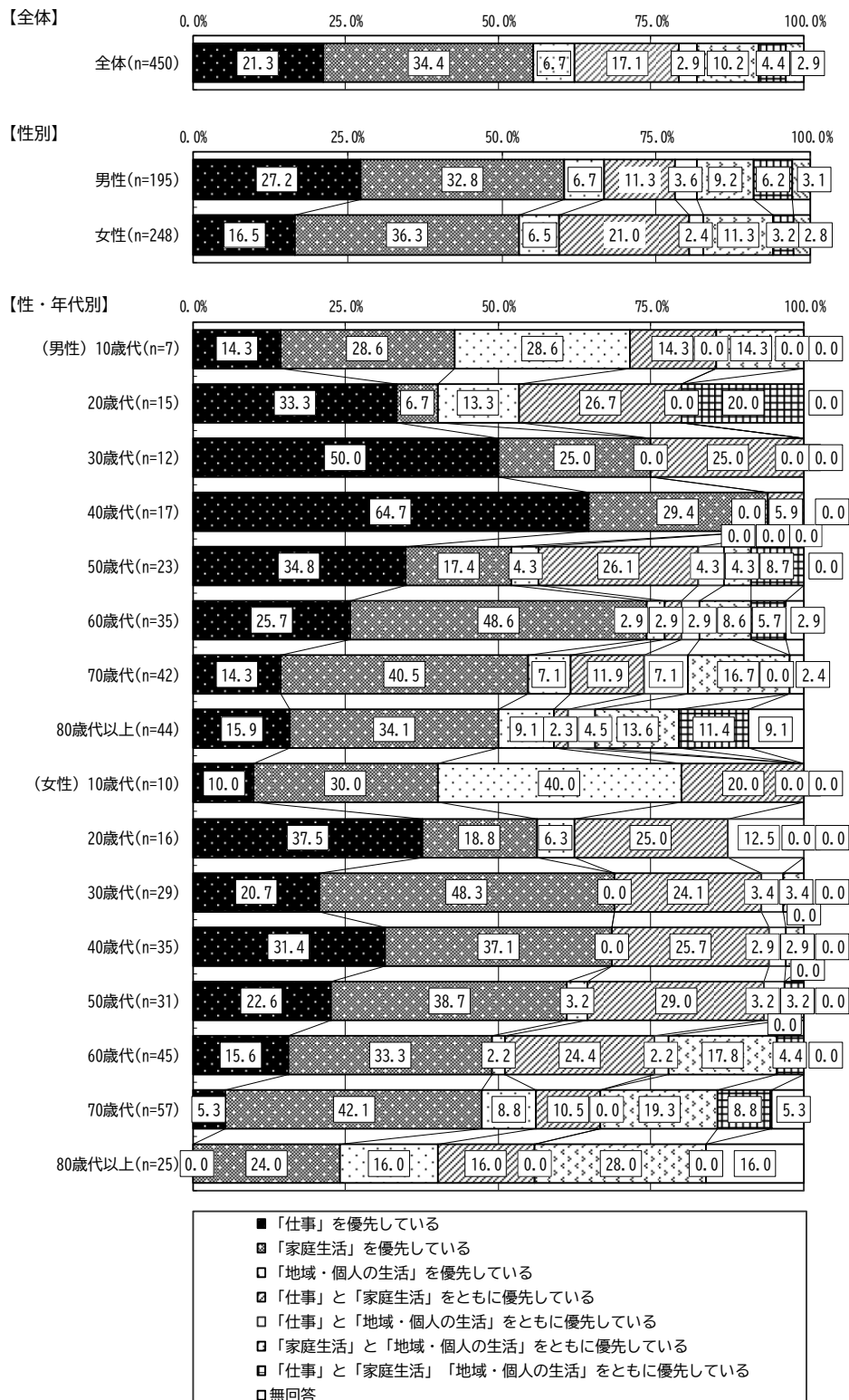


問12-2 次にあなたの「現実の生活」の中で優先されているものは何ですか。もっとも現実に近いもの1つに○をつけてください。

「家庭生活」を優先している」が34.4%と最も多く、次いで「仕事」を優先している」が21.3%、「家庭生活」と「仕事」と「家庭生活」をともに優先している」が17.1%と続いている。

性別では男性、女性ともに全体と同様の傾向となっている。

性・年代別では、男性は20歳代から50歳代で「仕事」を優先している」が、女性は30歳代から70歳代で「家庭生活」を優先している」が最も多くなっている。

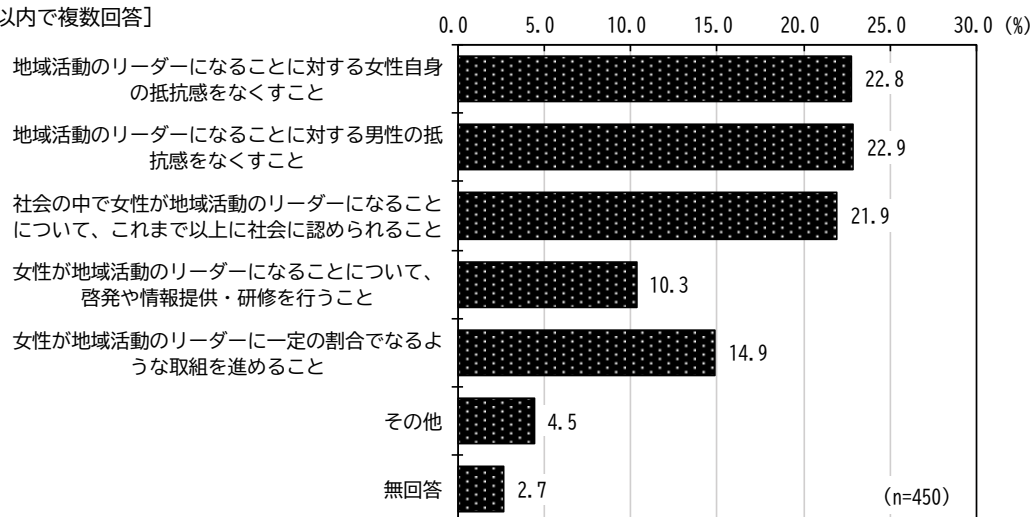


問13 あなたは、女性が自治会長やPTA会長などの地域活動のリーダーになるためには、どのようなことが必要だと思いますか。特に必要だと思うもの3つまで選び、○をつけてください。

「地域活動のリーダーになることに対する男性の抵抗感をなくすこと」が22.9%と最も多く、次いで「地域活動のリーダーになることに対する女性自身の抵抗感をなくすこと」が22.8%、「社会の中で女性が地域活動のリーダーになることについて、これまで以上に社会に認められること」が21.9%と続いている。

【全体】

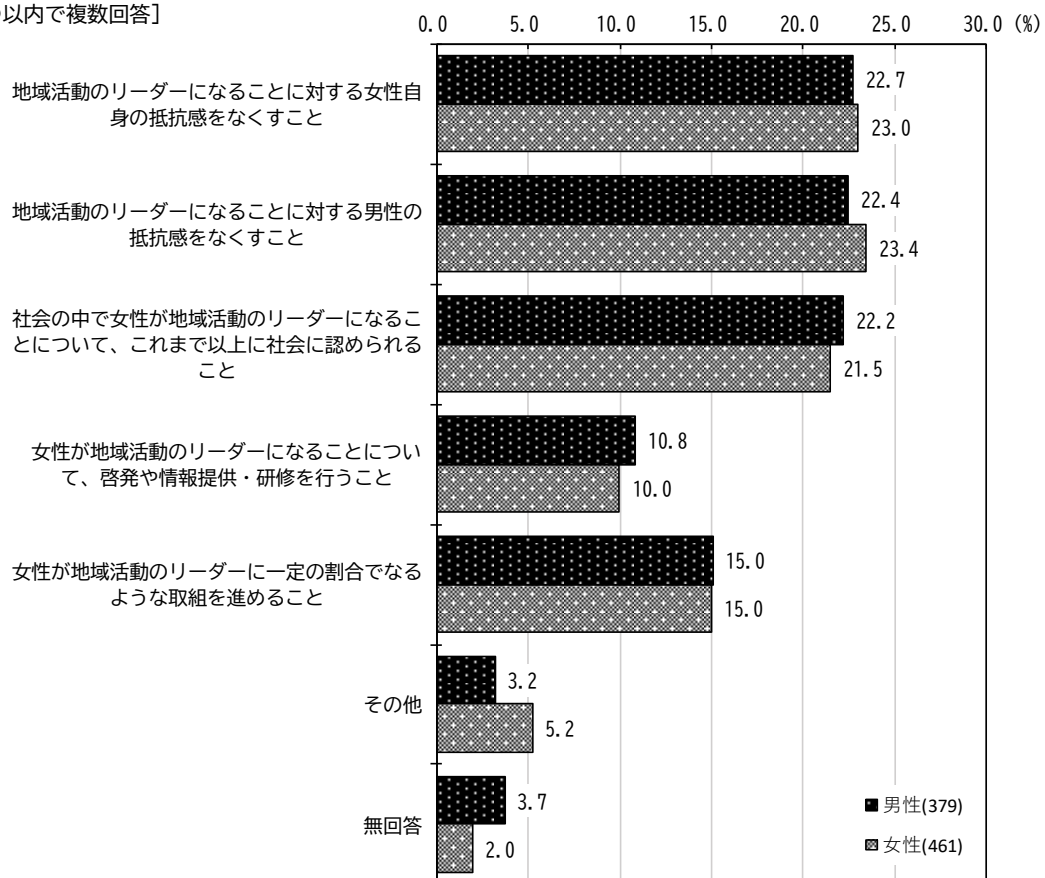
〔3つ以内で複数回答〕



回答数：852

【性別】

[3つ以内で複数回答]



() : 回答数

【性・年代別】

※太字は上位3つ（「その他」・「無回答」を除く）、下線は最上位

[3つ以内で複数回答]	全体 (852)	男性							
		10歳代 (16)	20歳代 (23)	30歳代 (20)	40歳代 (41)	50歳代 (42)	60歳代 (62)	70歳代 (91)	80歳代 以上 (84)
地域活動のリーダーになることに対する女性自身の抵抗感をなくすこと	22.8	25.0	21.7	25.0	26.8	26.2	22.6	23.1	17.9
地域活動のリーダーになることに対する男性の抵抗感をなくすこと	22.9	18.8	26.1	30.0	26.8	21.4	25.8	18.7	20.2
社会の中で女性が地域活動のリーダーになることについて、これまで以上に社会に認められること	21.9	37.5	26.1	10.0	26.8	31.0	19.4	20.9	17.9
女性が地域活動のリーダーになることについて、啓発や情報提供・研修を行うこと	10.3	18.8	17.4	5.0	7.3	7.1	4.8	9.9	17.9
女性が地域活動のリーダーに一定の割合でなるような取組を進めること	14.9	0.0	0.0	15.0	9.8	11.9	22.6	22.0	13.1
その他	4.5	0.0	8.7	15.0	2.4	0.0	1.6	4.4	1.2
無回答	2.7	0.0	0.0	0.0	0.0	2.4	3.2	1.1	11.9

単位：％

※太字は上位3つ（「その他」・「無回答」を除く）、下線は最上位

[3つ以内で複数回答]	全体 (852)	女性							
		10歳代 (16)	20歳代 (32)	30歳代 (46)	40歳代 (66)	50歳代 (56)	60歳代 (83)	70歳代 (110)	80歳代 以上 (52)
地域活動のリーダーになることに対する女性自身の抵抗感をなくすこと	22.8	50.0	25.0	19.6	18.2	25.0	25.3	19.1	25.0
地域活動のリーダーになることに対する男性の抵抗感をなくすこと	22.9	12.5	28.1	26.1	24.2	25.0	25.3	21.8	19.2
社会の中で女性が地域活動のリーダーになることについて、これまで以上に社会に認められること	21.9	18.8	21.9	19.6	24.2	25.0	21.7	20.0	19.2
女性が地域活動のリーダーになることについて、啓発や情報提供・研修を行うこと	10.3	6.3	9.4	4.3	12.1	5.4	8.4	13.6	13.5
女性が地域活動のリーダーに一定の割合でなるような取組を進めること	14.9	12.5	9.4	15.2	15.2	8.9	16.9	17.3	17.3
その他	4.5	0.0	6.3	13.0	6.1	8.9	1.2	4.5	1.9
無回答	2.7	0.0	0.0	2.2	0.0	1.8	1.2	3.6	3.8

単位：％

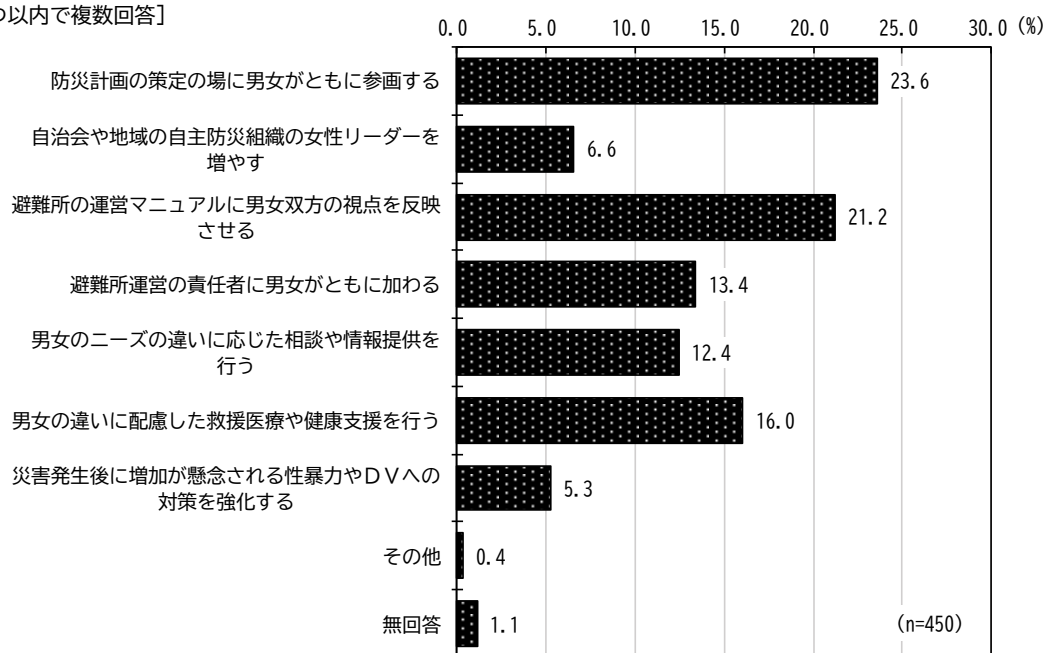
4 防災について

問14 あなたは、防災・災害対策において、男女共同参画を推進するために、どのようなことが必要だと思いますか。特に必要だと思うもの3つまで選び、○をつけてください。

「防災計画の策定の場に男女がともに参画する」が23.6%と最も多く、次いで「避難所の運営マニュアルに男女双方の視点を反映させる」が21.2%、「男女の違いに配慮した救援医療や健康支援を行う」が16.0%となっている。

【全体】

[3つ以内で複数回答]

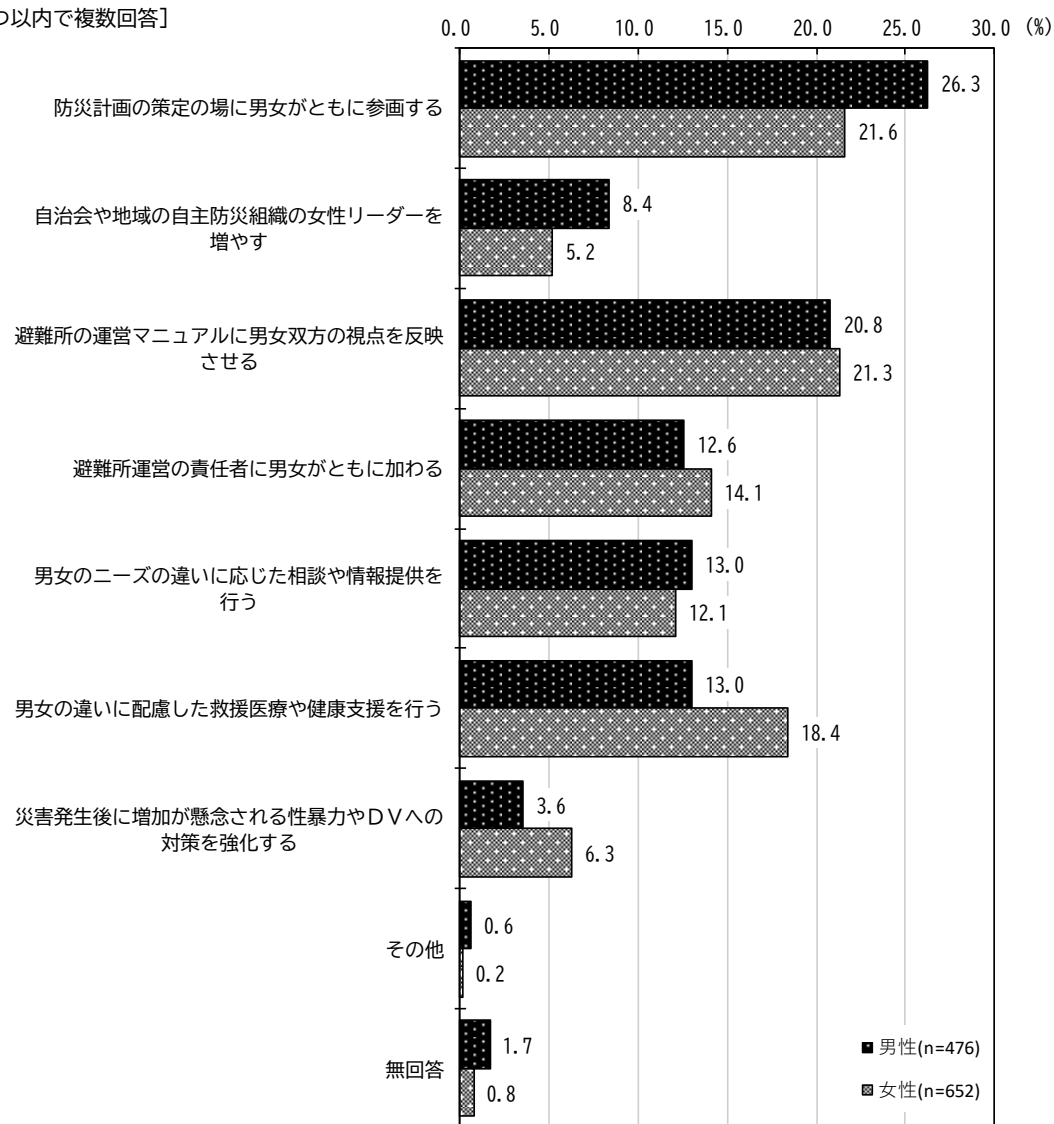


回答数：1,141

性別では、男性、女性ともに概ね全体と同様の傾向となっている。

【性別】

[3つ以内で複数回答]



() : 回答数

【性・年代別】

※太字は上位3つ（「その他」・「無回答」を除く）、下線は最上位

[3つ以内で複数回答]	全体 (1,141)	男性							
		10歳代 (19)	20歳代 (35)	30歳代 (27)	40歳代 (44)	50歳代 (55)	60歳代 (86)	70歳代 (108)	80歳代 以上 (102)
防災計画の策定の場に男女がともに参画する	23.6	0.0	20.0	22.2	31.8	29.1	24.4	29.6	28.4
自治会や地域の自主防災組織の女性リーダーを増やす	6.6	10.5	2.9	11.1	9.1	5.5	10.5	7.4	9.8
避難所の運営マニュアルに男女双方の視点を反映させる	21.2	21.1	20.0	22.2	22.7	20.0	22.1	22.2	17.6
避難所運営の責任者に男女がともに加わる	13.4	21.1	14.3	14.8	18.2	14.5	7.0	12.0	11.8
男女のニーズの違いに応じた相談や情報提供を行う	12.4	26.3	20.0	11.1	9.1	16.4	14.0	13.0	7.8
男女の違いに配慮した救援医療や健康支援を行う	16.0	21.1	11.4	7.4	9.1	9.1	14.0	14.8	14.7
災害発生後に増加が懸念される性暴力やDVへの対策を強化する	5.3	0.0	11.4	7.4	0.0	3.6	4.7	0.9	3.9
その他	0.4	0.0	0.0	3.7	0.0	1.8	1.2	0.0	0.0
無回答	1.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.3	0.0	5.9

単位：％

※太字は上位3つ（「その他」・「無回答」を除く）、下線は最上位

[3つ以内で複数回答]	全体 (1,141)	女性							
		10歳代 (25)	20歳代 (39)	30歳代 (79)	40歳代 (89)	50歳代 (85)	60歳代 (120)	70歳代 (151)	80歳代 以上 (64)
防災計画の策定の場に男女がともに参画する	23.6	16.0	23.1	12.7	18.0	22.4	24.2	24.5	26.6
自治会や地域の自主防災組織の女性リーダーを増やす	6.6	12.0	5.1	3.8	2.2	4.7	5.0	6.0	7.8
避難所の運営マニュアルに男女双方の視点を反映させる	21.2	28.0	10.3	24.1	22.5	20.0	25.0	21.2	15.6
避難所運営の責任者に男女がともに加わる	13.4	8.0	12.8	15.2	19.1	11.8	9.2	14.6	20.3
男女のニーズの違いに応じた相談や情報提供を行う	12.4	12.0	12.8	12.7	14.6	15.3	12.5	11.9	3.1
男女の違いに配慮した救援医療や健康支援を行う	16.0	24.0	20.5	19.0	11.2	18.8	17.5	19.2	23.4
災害発生後に増加が懸念される性暴力やDVへの対策を強化する	5.3	0.0	12.8	11.4	12.4	7.1	6.7	0.7	1.6
その他	0.4	0.0	2.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
無回答	1.1	0.0	0.0	1.3	0.0	0.0	0.0	2.0	1.6

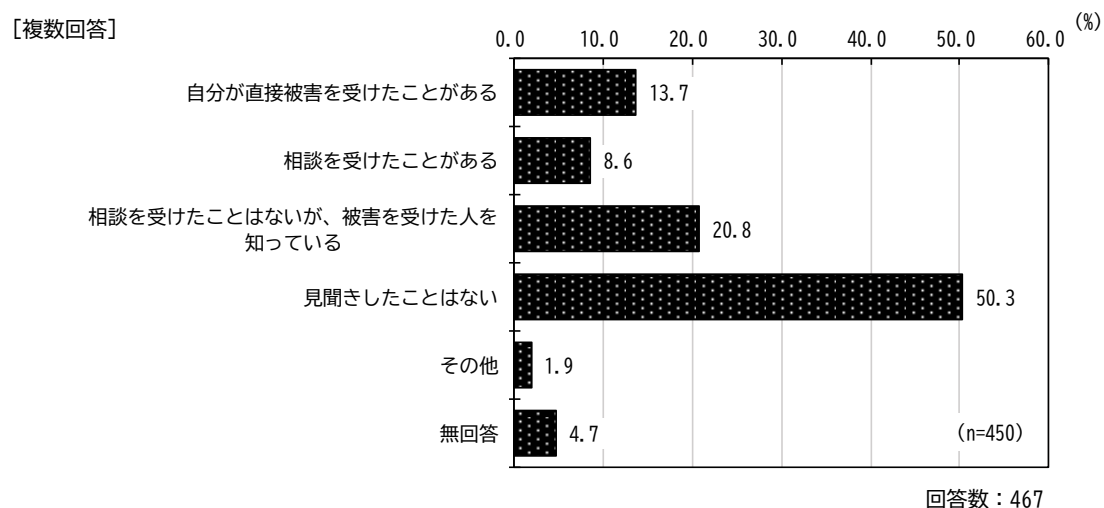
単位：％

5 セクハラ・DVについて

問15 あなたは、セクシュアルハラスメント^(※1)について、自分が経験したり、そのような話を身近で見聞きしたりしたことがありますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

「見聞きしたことはない」が50.3%と最も多く、次いで「相談を受けたことはないが、被害を受けた人を知っている」が20.8%、「自分が直接被害を受けたことがある」が13.7%と続いている。

【全体】

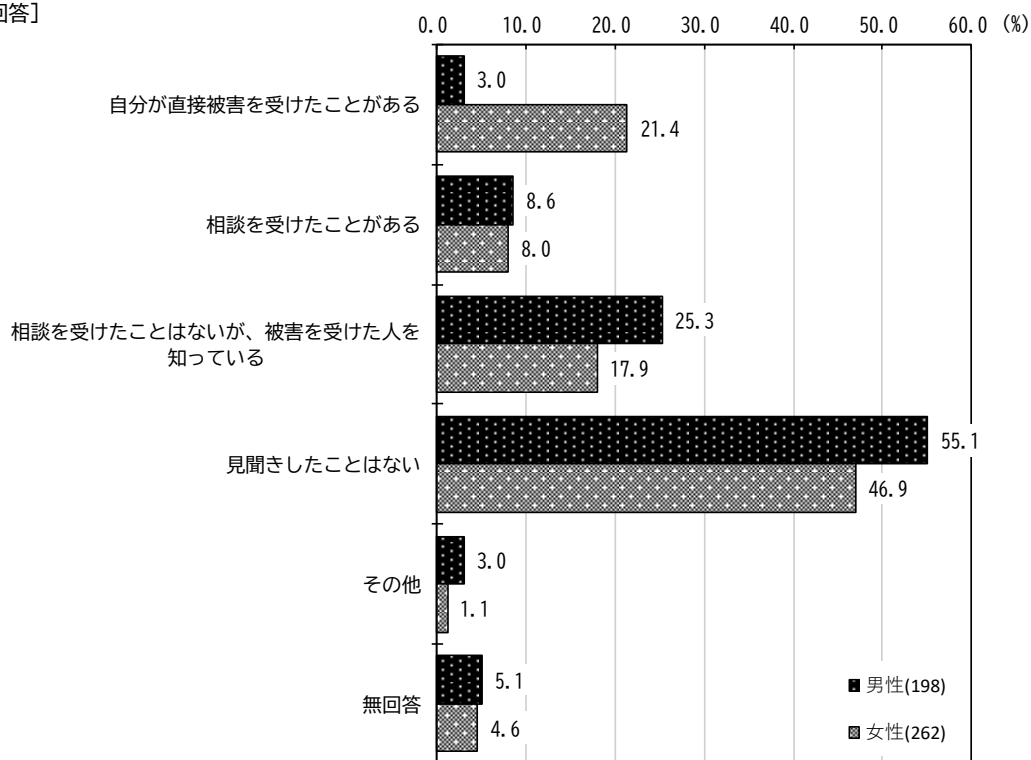


※1 セクシュアルハラスメント…相手の意に反する性的言動により、相手方に不快感や苦痛を与える行為。

性別では、「見聞きしたことはない」を除くと男性は「相談を受けたことはないが、被害を受けた人を知っている」が25.3%、女性は「自分が直接被害を受けたことがある」が21.4%と多くなっている。

【性別】

〔複数回答〕



() : 回答数

性別・年代別では、女性では40歳代、50歳代で「自分が直接被害を受けたことがある」が3割を超えている。

【性・年代別】

※太字は上位3つ（「その他」・「無回答」を除く）、下線は最上位

[複数回答]	全体 (467)	男性							
		10歳代 (7)	20歳代 (15)	30歳代 (13)	40歳代 (17)	50歳代 (25)	60歳代 (35)	70歳代 (42)	80歳代 以上 (44)
自分が直接被害を受けたことがある	13.7	0.0	0.0	7.7	5.9	4.0	2.9	2.4	2.3
相談を受けたことがある	8.6	0.0	6.7	7.7	11.8	8.0	14.3	7.1	6.8
相談を受けたことはないが、被害を受けた人を知っている	20.8	14.3	13.3	30.8	<u>41.2</u>	32.0	28.6	23.8	18.2
見聞きしたことはない	<u>50.3</u>	<u>85.7</u>	<u>80.0</u>	<u>53.8</u>	<u>41.2</u>	<u>56.0</u>	<u>42.9</u>	<u>61.9</u>	<u>50.0</u>
その他	1.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	5.7	2.4	6.8
無回答	4.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	5.7	2.4	15.9

単位：%

※太字は上位3つ（「その他」・「無回答」を除く）、下線は最上位

[複数回答]	全体 (467)	女性							
		10歳代 (10)	20歳代 (16)	30歳代 (32)	40歳代 (36)	50歳代 (37)	60歳代 (46)	70歳代 (59)	80歳代 以上 (26)
自分が直接被害を受けたことがある	13.7	0.0	18.8	28.1	<u>33.3</u>	<u>43.2</u>	17.4	13.6	0.0
相談を受けたことがある	8.6	0.0	6.3	9.4	5.6	21.6	6.5	5.1	3.8
相談を受けたことはないが、被害を受けた人を知っている	20.8	10.0	25.0	12.5	27.8	8.1	23.9	18.6	11.5
見聞きしたことはない	<u>50.3</u>	<u>90.0</u>	<u>43.8</u>	<u>50.0</u>	<u>33.3</u>	24.3	<u>50.0</u>	<u>55.9</u>	<u>53.8</u>
その他	1.9	0.0	6.3	0.0	0.0	2.7	0.0	1.7	0.0
無回答	4.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.2	5.1	30.8

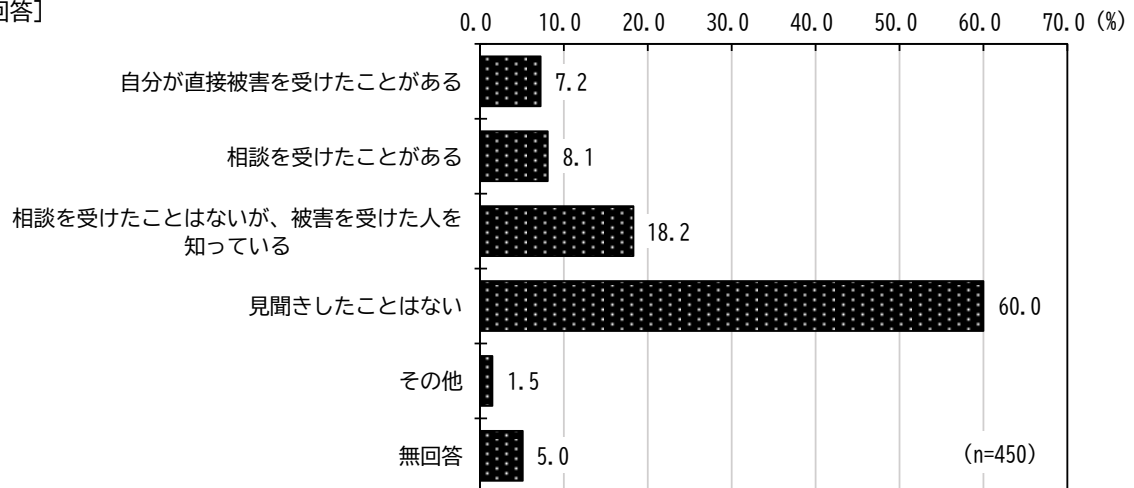
単位：%

問16 あなたは、「配偶者・パートナーや恋人などから身体的・心理的な暴力（ドメスティック・バイオレンス（DV））」を経験したり、身近で見聞きしたりしたことはありますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

「見聞きしたことはない」が60.0%と最も多く、次いで「相談を受けたことはないが、被害を受けた人を知っている」が18.2%、「相談を受けたことがある」が8.1%と続いている。

【全体】

[複数回答]

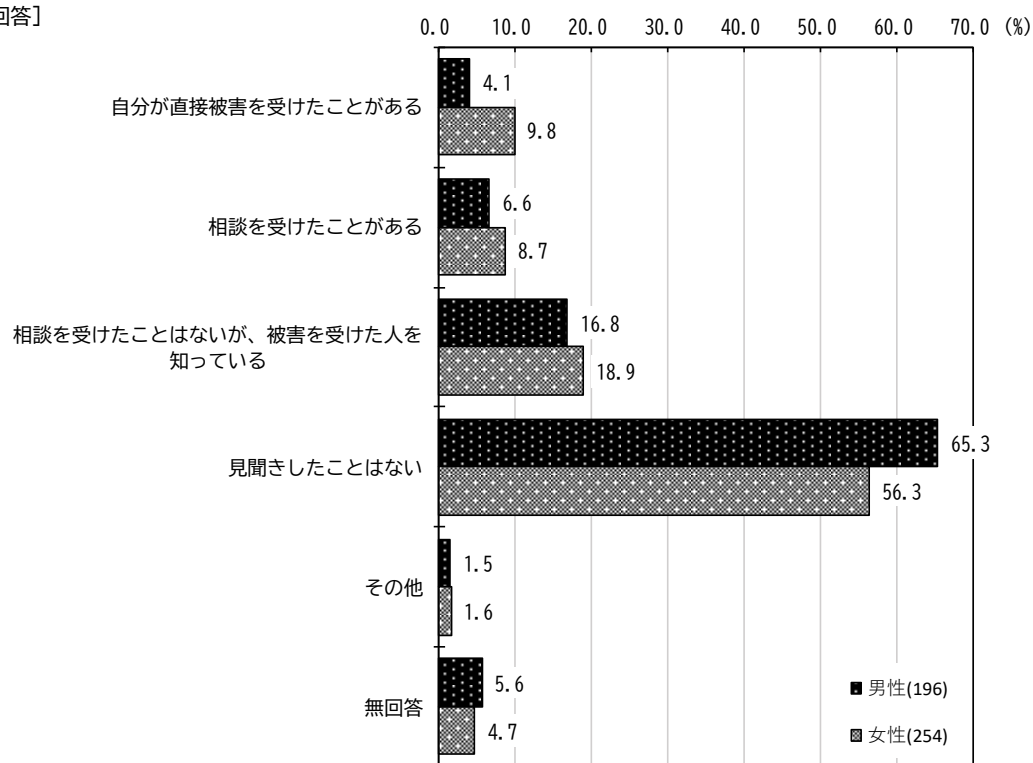


回答数：457

性別では、女性は「自分が直接被害を受けたことがある」が9.8%となっている。

【性別】

〔複数回答〕



() : 回答数

性別・年代別では、女性では50歳代で「自分が直接被害を受けたことがある」が他の年代と比べて多くなっている。

【性・年代別】

※太字は上位3つ（「その他」・「無回答」を除く）、下線は最上位

[複数回答]	全体 (457)	男性							
		10歳代 (7)	20歳代 (16)	30歳代 (12)	40歳代 (17)	50歳代 (23)	60歳代 (35)	70歳代 (42)	80歳代 以上 (44)
自分が直接被害を受けたことがある	7.2	0.0	6.3	8.3	5.9	0.0	5.7	4.8	2.3
相談を受けたことがある	8.1	0.0	6.3	0.0	5.9	4.3	14.3	7.1	4.5
相談を受けたことはないが、被害を受けた人を知っている	18.2	0.0	12.5	8.3	23.5	17.4	22.9	21.4	11.4
見聞きしたことはない	<u>60.0</u>	<u>100.0</u>	<u>75.0</u>	<u>75.0</u>	<u>64.7</u>	<u>78.3</u>	<u>51.4</u>	<u>64.3</u>	<u>59.1</u>
その他	1.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.9	2.4	2.3
無回答	5.0	0.0	0.0	8.3	0.0	0.0	2.9	0.0	20.5

単位：％

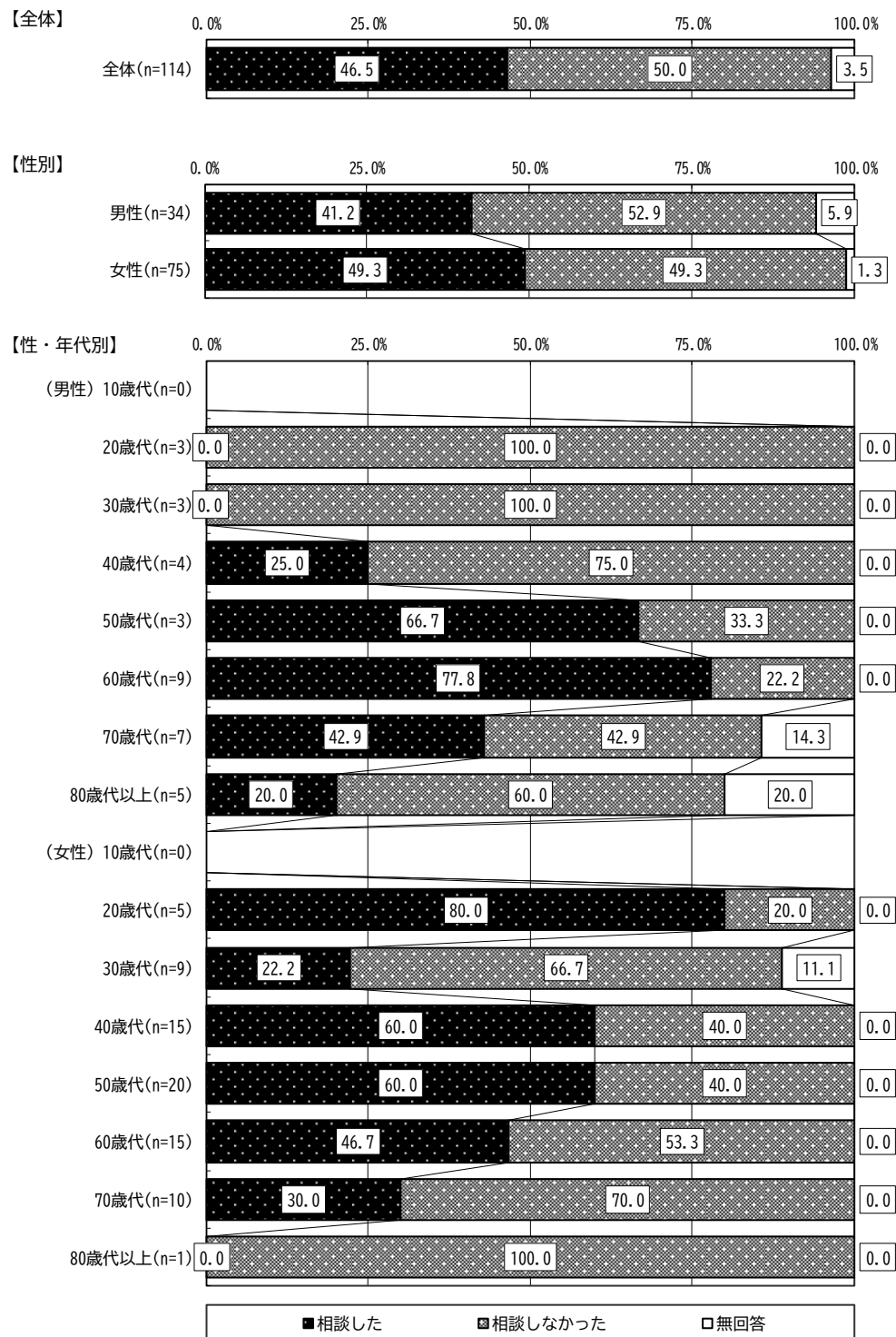
※太字は上位3つ（「その他」・「無回答」を除く）、下線は最上位

[複数回答]	全体 (457)	女性							
		10歳代 (10)	20歳代 (16)	30歳代 (30)	40歳代 (35)	50歳代 (34)	60歳代 (47)	70歳代 (57)	80歳代 以上 (25)
自分が直接被害を受けたことがある	7.2	0.0	6.3	0.0	11.4	26.5	17.0	5.3	0.0
相談を受けたことがある	8.1	0.0	18.8	6.7	11.4	17.6	6.4	5.3	4.0
相談を受けたことはないが、被害を受けた人を知っている	18.2	10.0	18.8	20.0	28.6	17.6	19.1	21.1	4.0
見聞きしたことはない	<u>60.0</u>	<u>90.0</u>	<u>50.0</u>	<u>73.3</u>	<u>48.6</u>	<u>35.3</u>	<u>55.3</u>	<u>56.1</u>	<u>68.0</u>
その他	1.5	0.0	6.3	0.0	0.0	2.9	0.0	3.5	0.0
無回答	5.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.1	8.8	24.0

単位：％

問17 問15、16で「セクシュアルハラスメント」や「ドメスティック・バイオレンス（DV）」のいずれかについて「自分が直接被害を受けたことがある」または「相談を受けたことがある」と答えた方におたずねします。あなたはその時、誰かに相談しましたか。

「相談した」が46.5%、「相談しなかった」が50.0%となっている。
性別では、男性、女性ともに概ね全体と同じ傾向となっている。

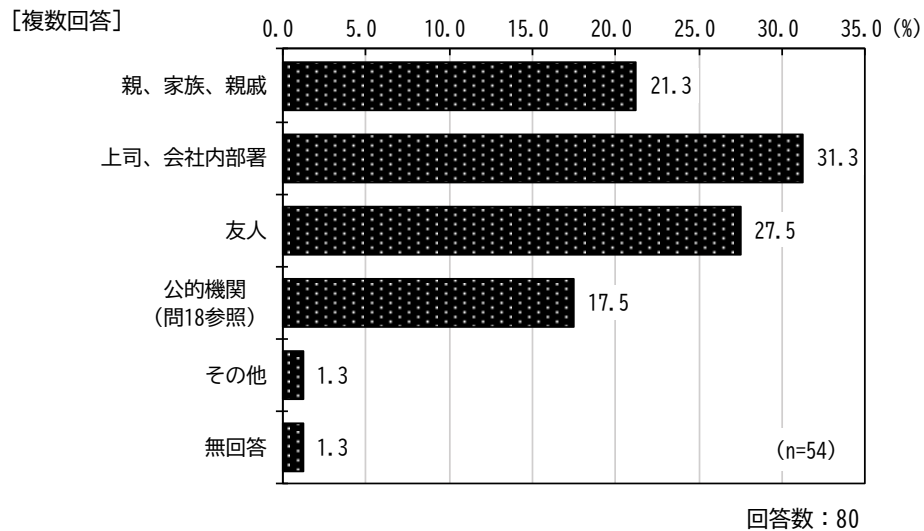


問17-1 問17で「相談した」に○をつけた方のみお答えください。

あなたが相談した相談先について、あてはまるものすべてに○をつけてください。

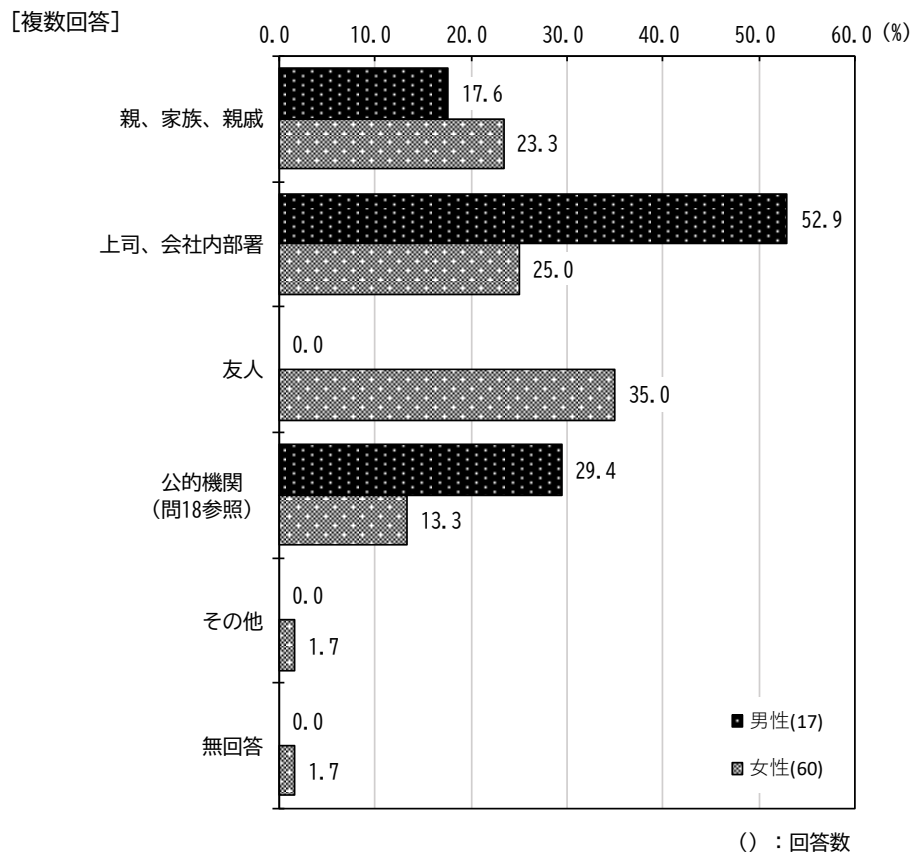
「上司、会社内部署」が31.3%と最も多く、次いで「友人」が27.5%、「親、家族、親戚」が21.3%と続いている。

【全体】



性別では、男性は「上司、会社内部署」が52.9%、女性は「友人」が35.0%と最も多くなっている。

【性別】

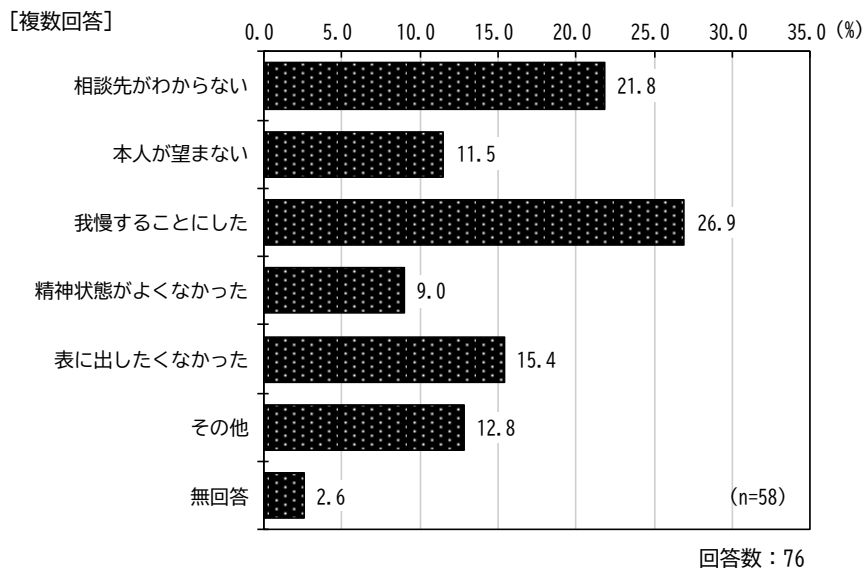


問17-2 問17で「相談しなかった」に○をつけた方のみお答えください。

あなたが相談しなかった理由について、あてはまるものすべてに○をつけてください。

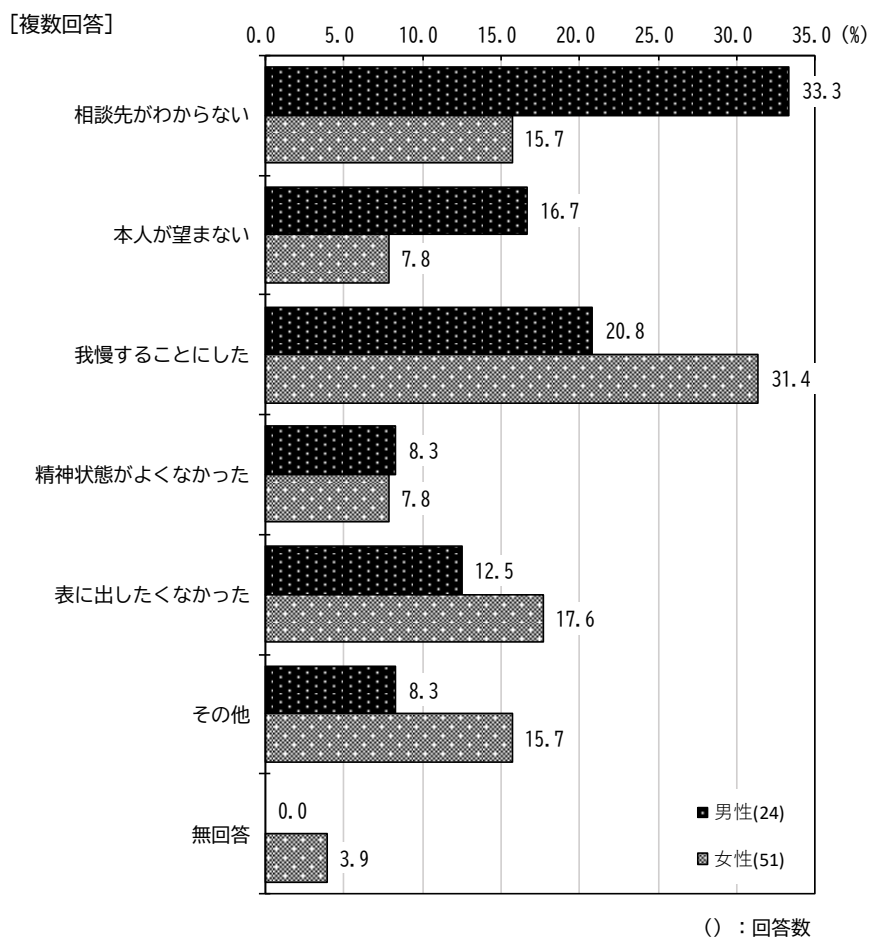
「我慢することにした」が26.9%と最も多く、次いで「相談先がわからない」が21.8%、「表に出したくなかった」が15.4%と続いている。

【全体】



性別では、男性は「相談先がわからない」が33.3%、女性は「我慢することにした」が31.4%と最も多くなっている。

【性別】

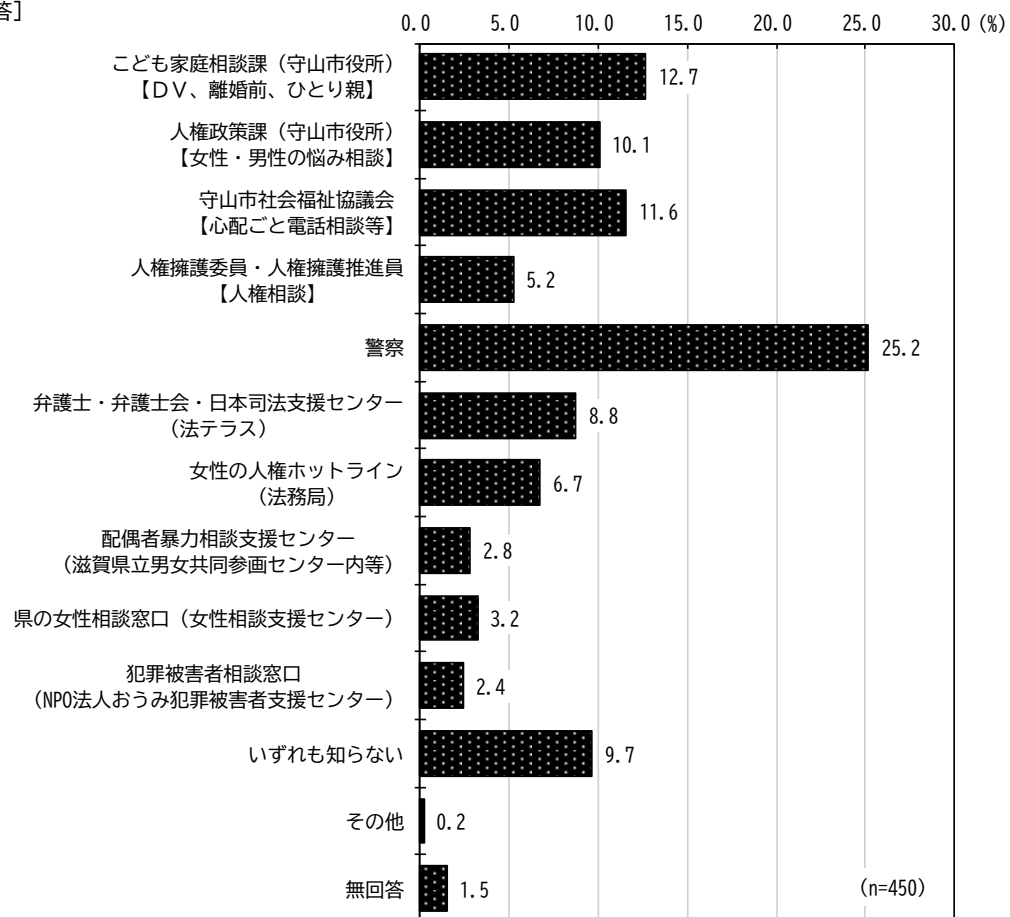


問18 あなたは、セクシュアルハラスメントやドメスティック・バイオレンスについて、下記の相談窓口を知っていますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

「警察」が25.2%と最も多く、次いで「こども家庭相談課（守山市役所）【DV、離婚前、ひとり親】」が12.7%、「守山市社会福祉協議会【心配ごと電話相談等】」が11.6%と続いている。一方で、「いずれも知らない」が9.7%となっている。

【全体】

〔複数回答〕

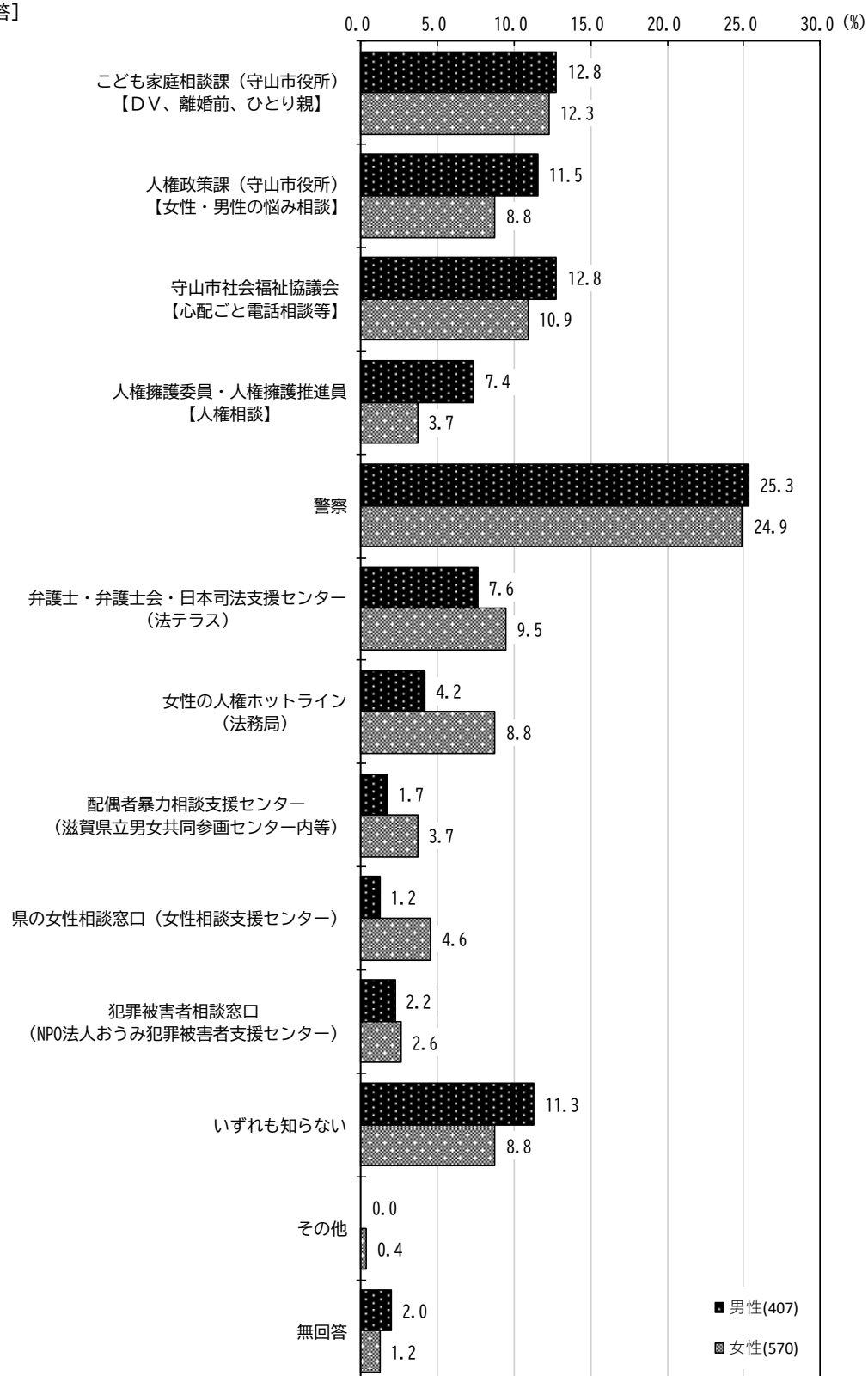


回答数：994

性別では、男性、女性ともに概ね全体と同じ傾向となっている。

【性別】

〔複数回答〕



（ ）：回答数

【性・年代別（男性）】

※太字は上位3つ（「その他」・「無回答」を除く）、下線は最上位

[複数回答]	全体 (994)	男性							
		10歳代 (16)	20歳代 (24)	30歳代 (18)	40歳代 (29)	50歳代 (32)	60歳代 (78)	70歳代 (109)	80歳代 以上 (101)
子ども家庭相談課（守山市役所） 【DV、離婚前、ひとり親】	12.7	18.8	16.7	5.6	13.8	12.5	7.7	16.5	11.9
人権政策課（守山市役所） 【女性・男性の悩み相談】	10.1	0.0	12.5	5.6	3.4	0.0	11.5	18.3	12.9
守山市社会福祉協議会 【心配ごと電話相談等】	11.6	6.3	0.0	0.0	10.3	9.4	10.3	16.5	18.8
人権擁護委員・人権擁護推進員 【人権相談】	5.2	0.0	0.0	5.6	3.4	3.1	10.3	11.0	6.9
警察	25.2	37.5	45.8	22.2	34.5	40.6	21.8	19.3	20.8
弁護士・弁護士会・日本司法支援センター （法テラス）	8.8	12.5	8.3	11.1	17.2	9.4	7.7	6.4	4.0
女性の人権ホットライン （法務局）	6.7	18.8	8.3	5.6	0.0	3.1	6.4	1.8	3.0
配偶者暴力相談支援センター （滋賀県立男女共同参画センター内等）	2.8	0.0	0.0	0.0	3.4	0.0	2.6	0.0	4.0
県の女性相談窓口 （女性相談支援センター）	3.2	0.0	0.0	5.6	0.0	0.0	1.3	0.0	3.0
犯罪被害者相談窓口（NPO法人おうみ犯罪 被害者支援センター）	2.4	6.3	0.0	0.0	0.0	3.1	5.1	1.8	1.0
いずれも知らない	9.7	0.0	8.3	38.9	13.8	18.8	12.8	6.4	9.9
その他	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
無回答	1.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.6	1.8	4.0

単位：％

【性・年代別（女性）】

※太字は上位3つ（「その他」・「無回答」を除く）、下線は最上位

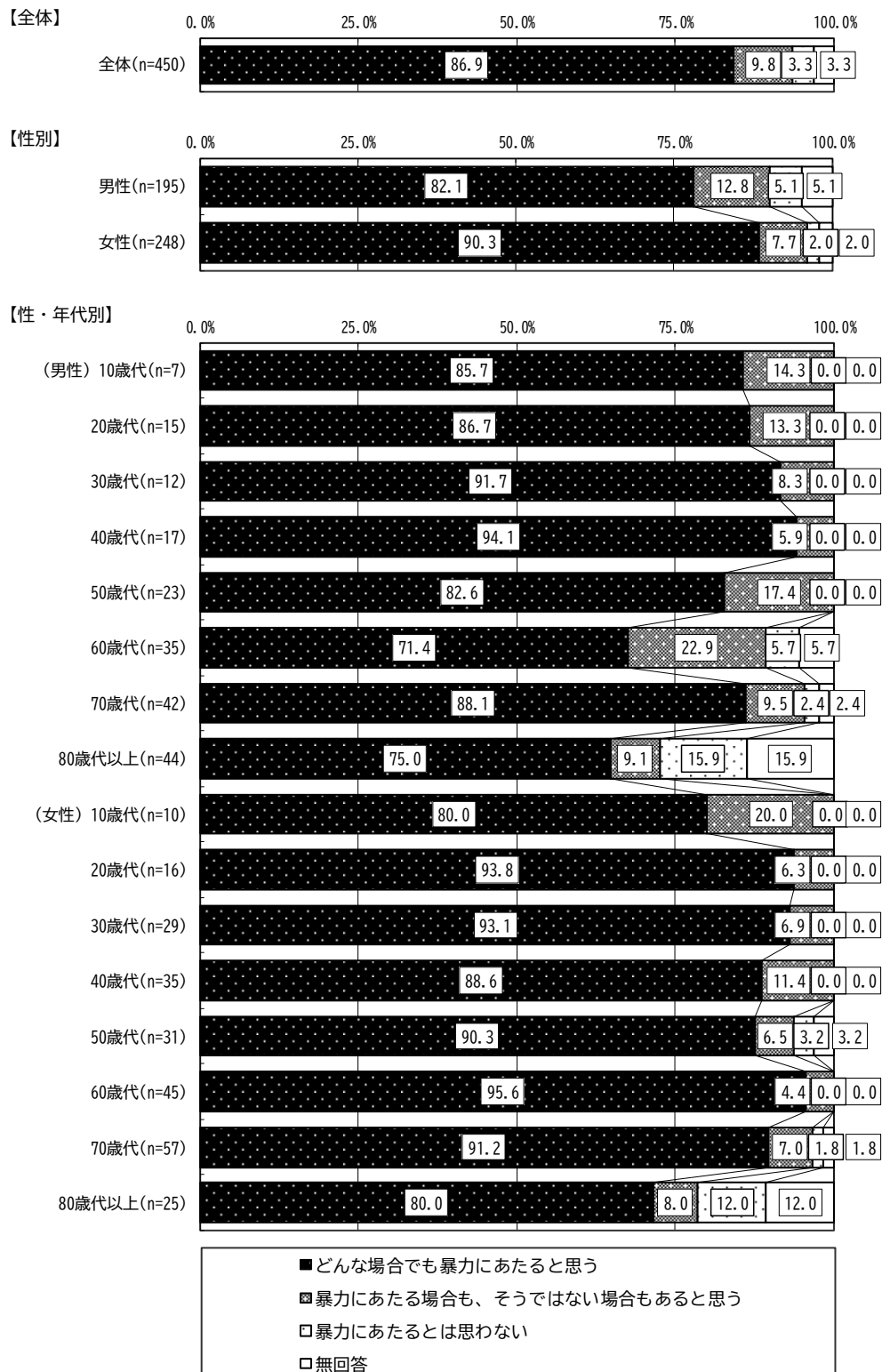
[複数回答]	全体 (994)	女性							
		10歳代 (31)	20歳代 (48)	30歳代 (75)	40歳代 (73)	50歳代 (66)	60歳代 (101)	70歳代 (127)	80歳代 以上 (49)
子ども家庭相談課（守山市役所） 【DV、離婚前、ひとり親】	12.7	19.4	14.6	17.3	13.7	12.1	7.9	11.0	8.2
人権政策課（守山市役所） 【女性・男性の悩み相談】	10.1	3.2	8.3	8.0	8.2	7.6	8.9	11.8	8.2
守山市社会福祉協議会 【心配ごと電話相談等】	11.6	0.0	4.2	5.3	8.2	6.1	12.9	15.7	26.5
人権擁護委員・人権擁護推進員 【人権相談】	5.2	3.2	4.2	1.3	2.7	3.0	3.0	6.3	4.1
警察	25.2	32.3	22.9	30.7	27.4	27.3	27.7	18.9	16.3
弁護士・弁護士会・日本司法支援センター （法テラス）	8.8	19.4	10.4	9.3	9.6	9.1	12.9	6.3	4.1
女性の人権ホットライン （法務局）	6.7	19.4	18.8	6.7	12.3	9.1	7.9	3.9	4.1
配偶者暴力相談支援センター （滋賀県立男女共同参画センター内等）	2.8	0.0	8.3	6.7	2.7	4.5	3.0	2.4	2.0
県の女性相談窓口 （女性相談支援センター）	3.2	3.2	4.2	8.0	1.4	6.1	3.0	3.9	8.2
犯罪被害者相談窓口（NPO法人おうみ犯罪 被害者支援センター）	2.4	0.0	0.0	2.7	4.1	0.0	3.0	4.7	2.0
いずれも知らない	9.7	0.0	2.1	4.0	9.6	15.2	8.9	11.8	10.2
その他	0.2	0.0	2.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.8	0.0
無回答	1.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.0	2.4	6.1

単位：％

問19 ドメスティック・バイオレンスについて、次のようなことが配偶者・パートナーや恋人間で行われた場合、あなたはそれを暴力だと思いますか。(〇はそれぞれ1つ)

① なぐったり、蹴ったり、物を投げつけたりする

「どんな場合でも暴力にあたると思う」が86.9%と最も多く、次いで「暴力にあたる場合も、そうではない場合もあると思う」が9.8%、「暴力にあたるとは思わない」が3.3%となっている。性別では、男性、女性ともに概ね全体と同様の傾向となっている。

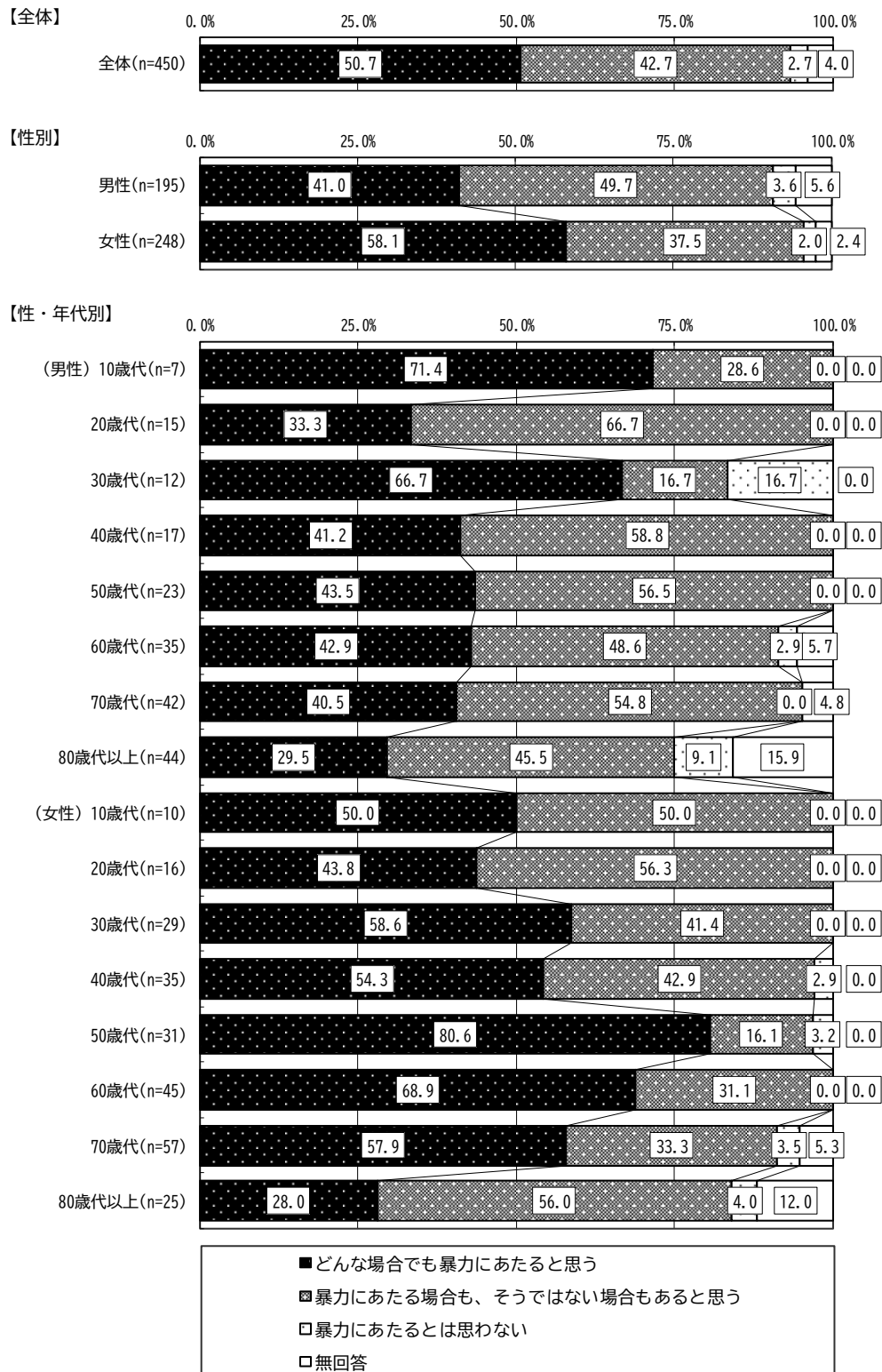


② 大声でどなる

「どんな場合でも暴力にあたると思う」が50.7%と最も多く、次いで「暴力にあたる場合も、そうではない場合もあると思う」が42.7%、「暴力にあたるとは思わない」が2.7%と続いている。

性別では、男性は「暴力にあたる場合も、そうではない場合もあると思う」が、女性は「どんな場合でも暴力にあたると思う」が最も多くなっている。

性・年代別では、男性は10歳代、30歳代、女性は10歳代、30歳代から70歳代で「どんな場合でも暴力にあたると思う」が最も多くなっている。

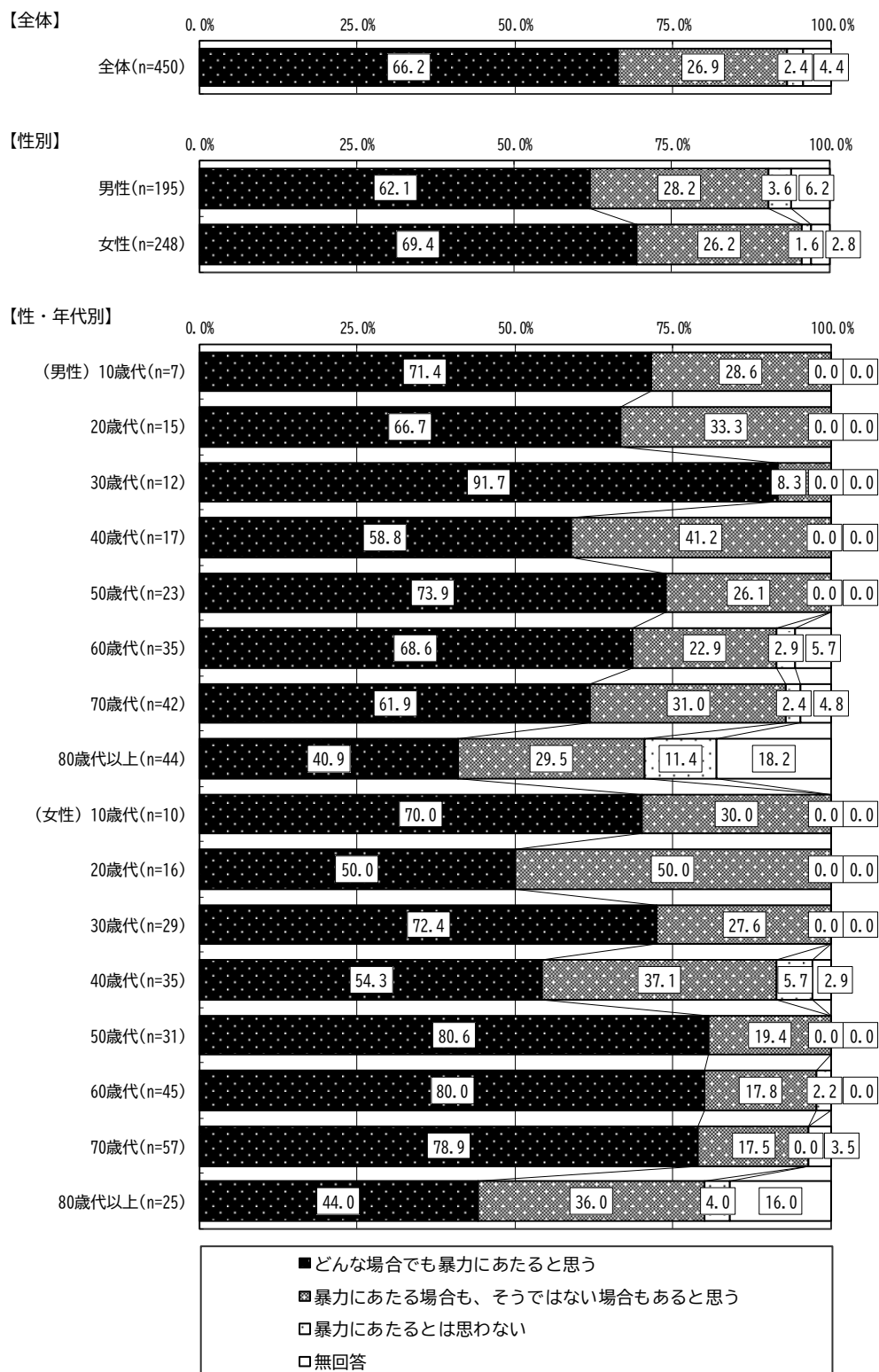


③ 人前でバカにしたり、命令するような口調でものを言ったりする

「どんな場合でも暴力にあたると思う」が66.2%と最も多く、次いで「暴力にあたる場合も、そうではない場合もあると思う」が26.9%、「暴力にあたるとは思わない」が2.4%となっている。

性別では、男性、女性ともに概ね全体と同様の傾向となっている。

性・年代別では、男性、女性ともに「どんな場合でも暴力にあたると思う」が最も多くなっている。

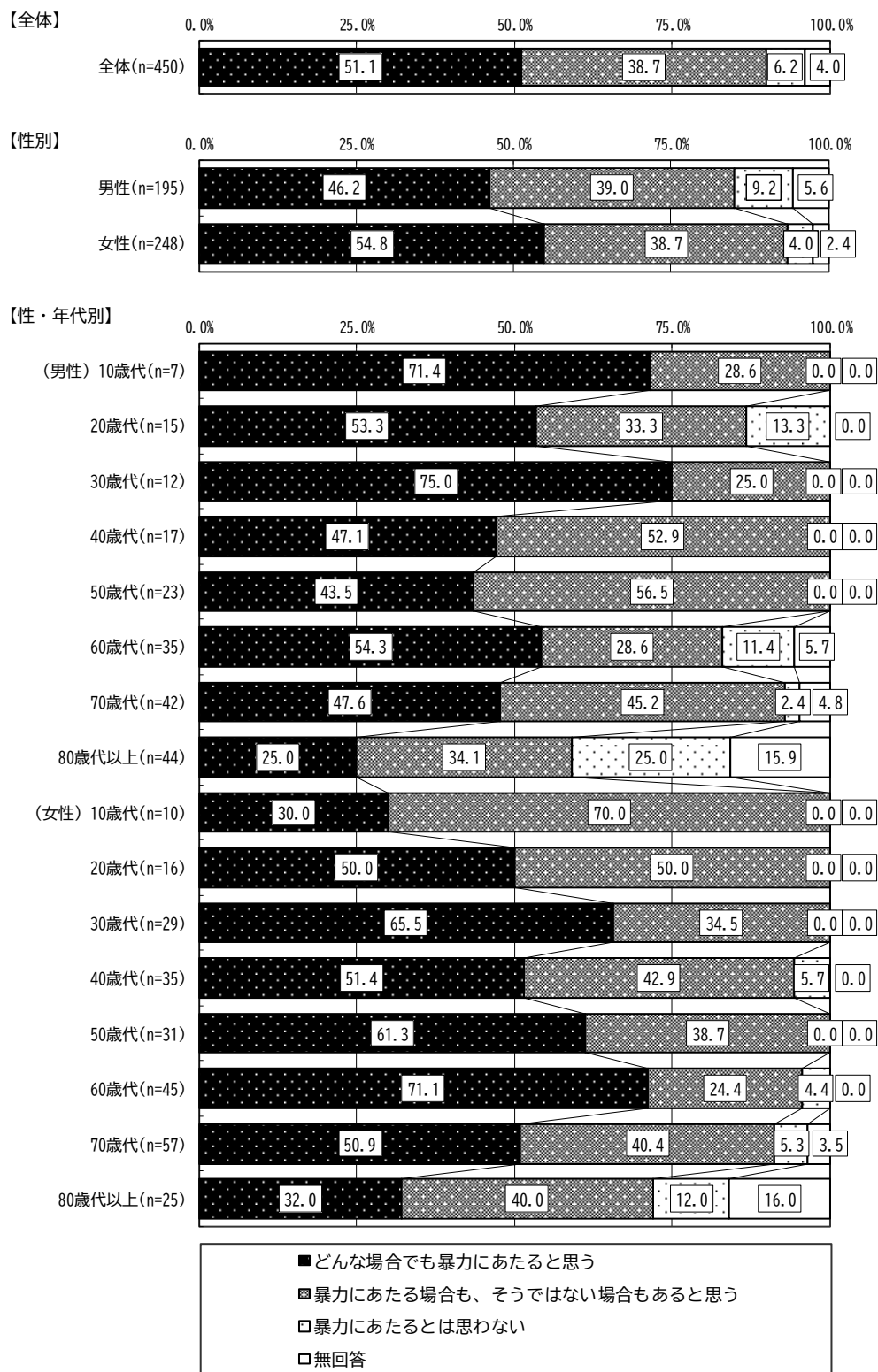


④ 何を言っても無視する

「どんな場合でも暴力にあたると思う」が51.1%と最も多く、次いで「暴力にあたる場合も、そうではない場合もあると思う」が38.7%、「暴力にあたるとは思わない」が6.2%が続いている。

性別では、男性、女性ともに概ね全体と同様の傾向となっている。

性・年代別では、男性は10歳代から30歳代と60歳代から70歳代、女性は20歳代から70歳代で「どんな場合でも暴力にあたると思う」が最も多くなっている。

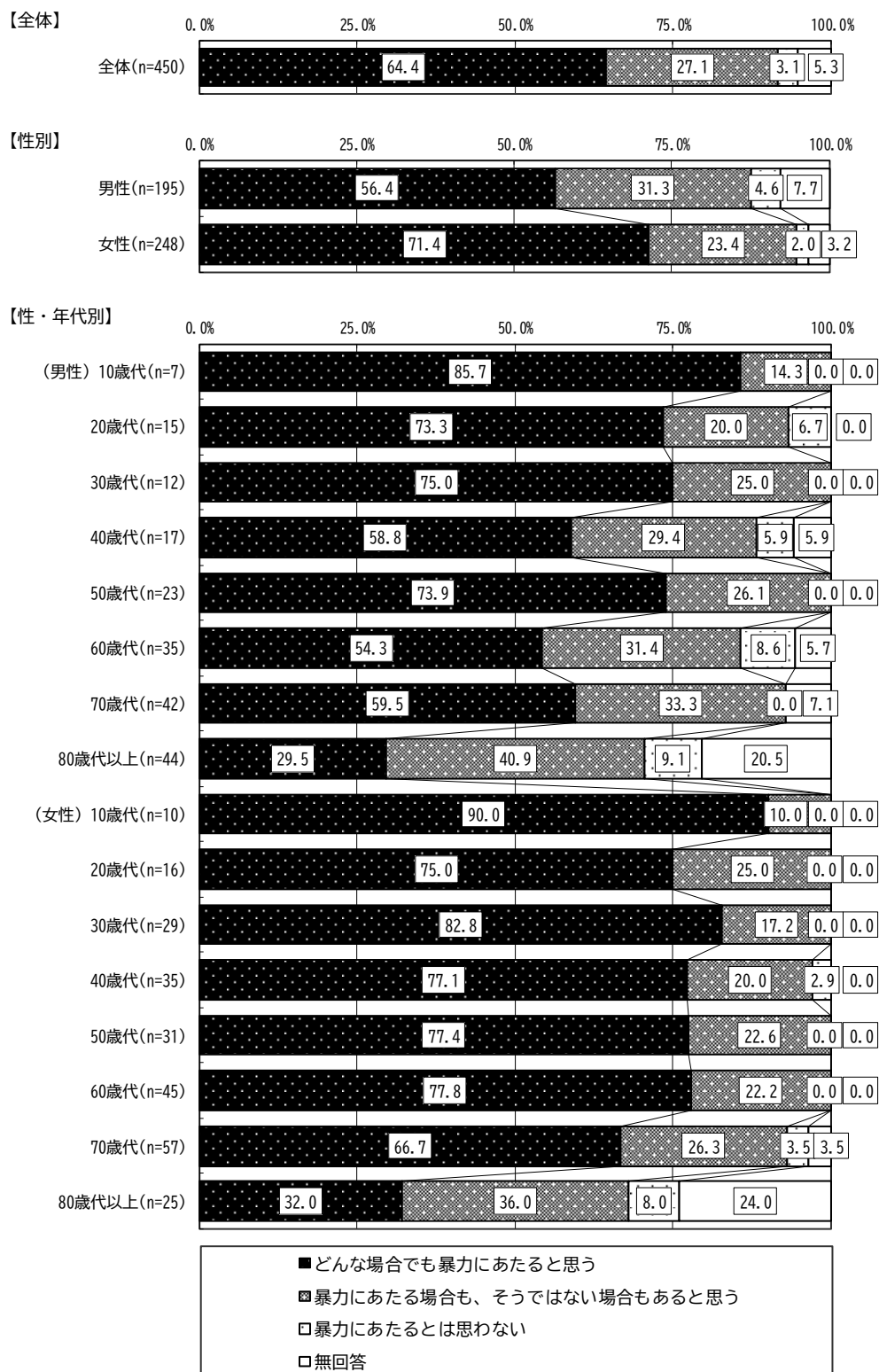


⑤ 外で働くなと言ったり、仕事を辞めさせたりする

「どんな場合でも暴力にあたると思う」が64.4%と最も多く、次いで「暴力にあたる場合も、そうではない場合もあると思う」が27.1%、「暴力にあたるとは思わない」が3.1%と続いている。

性別では、男性、女性ともに概ね全体と同様の傾向となっている。

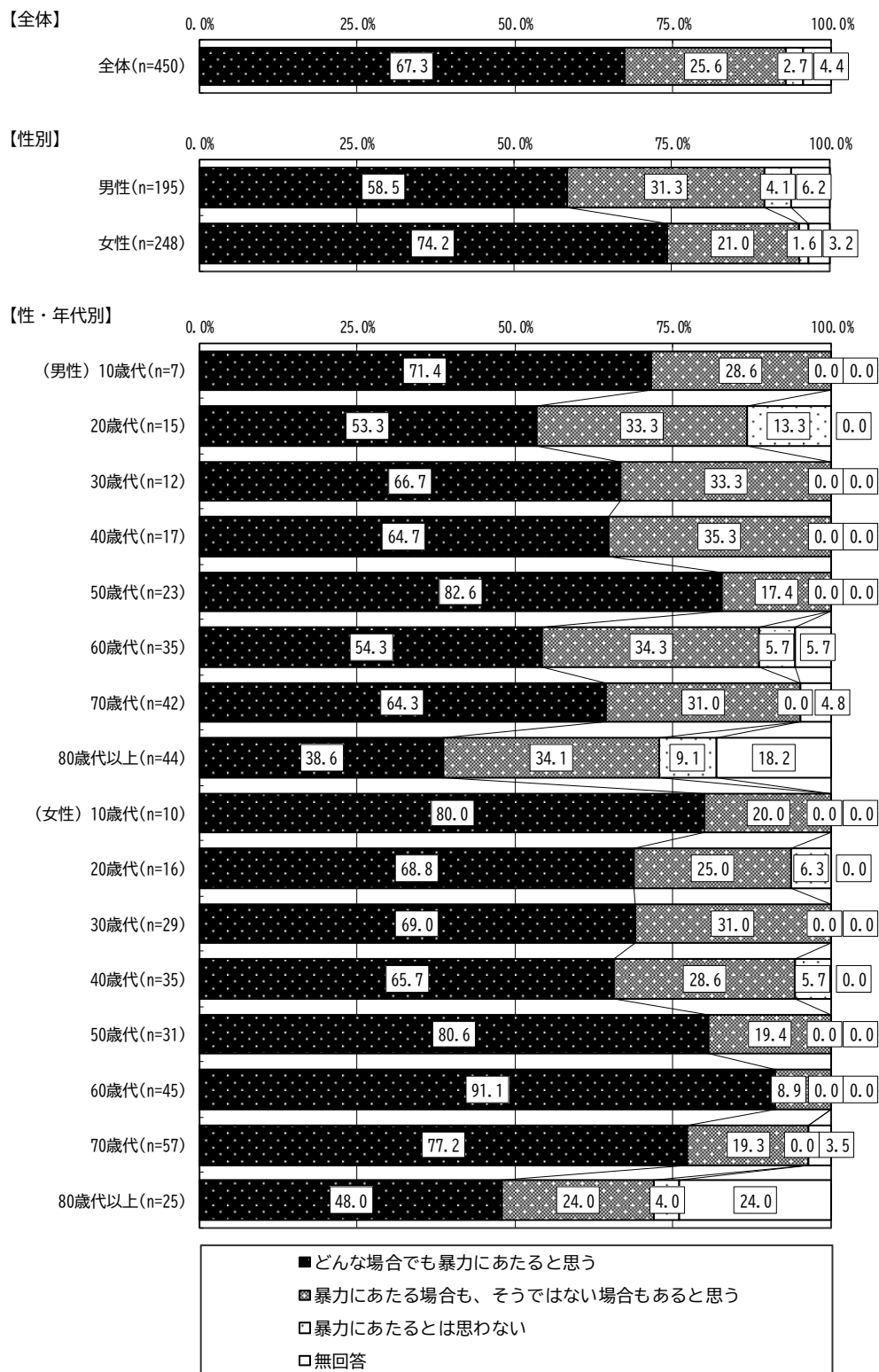
性・年代別では、男性、女性ともに80歳代以上は「暴力にあたる場合も、そうではない場合もあると思う」が最も多くなっている。



⑥ 交友関係や電話・メールを細かく監視したり制限したりする

「どんな場合でも暴力にあたると思う」が67.3%と最も多く、次いで「暴力にあたる場合も、そうではない場合もあると思う」が25.6%、「暴力にあたるとは思わない」が2.7%が続いている。

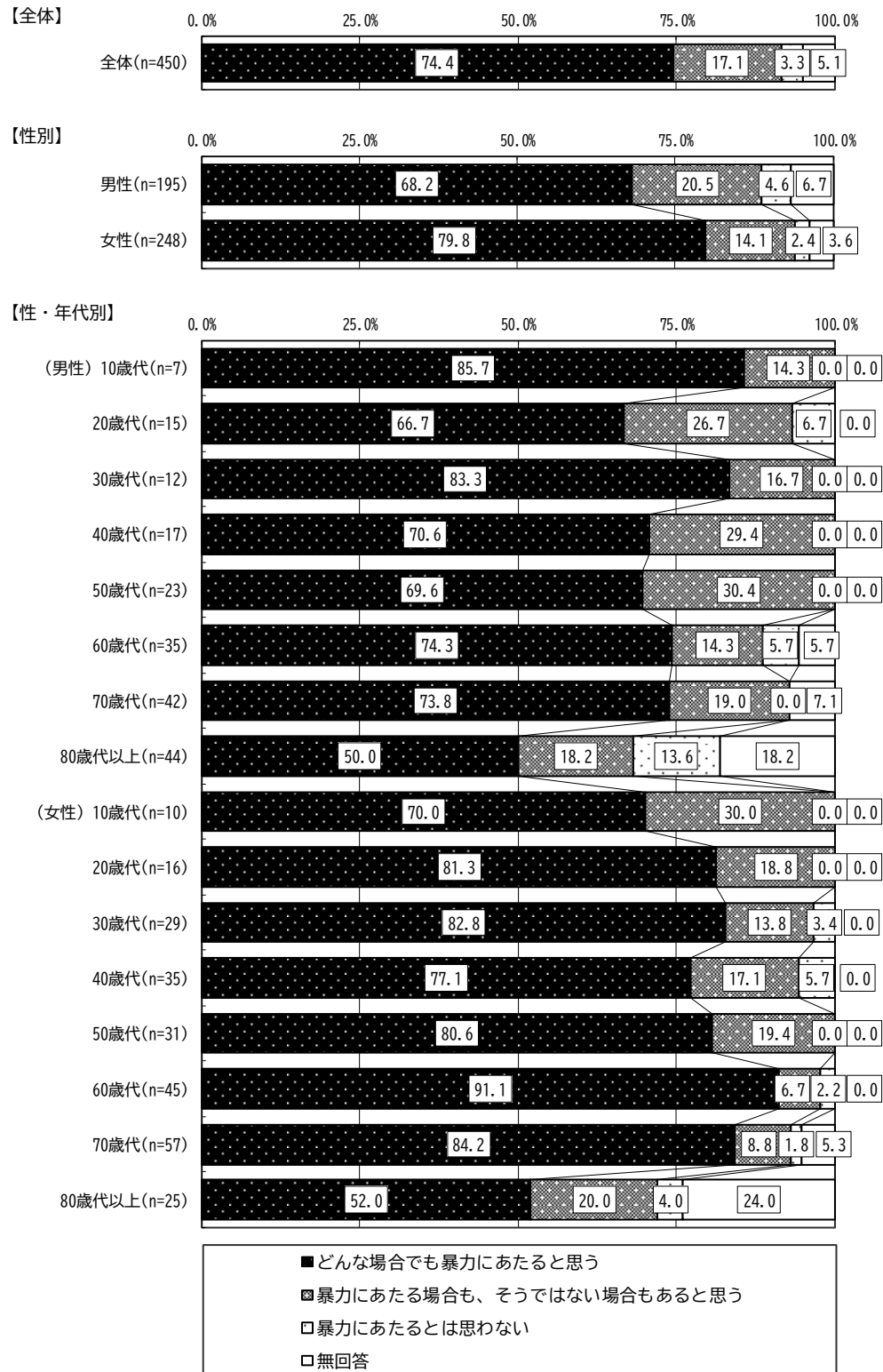
性別では、女性は男性よりも「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合が高く、7割を超えている。



⑦ 生活費を渡さない

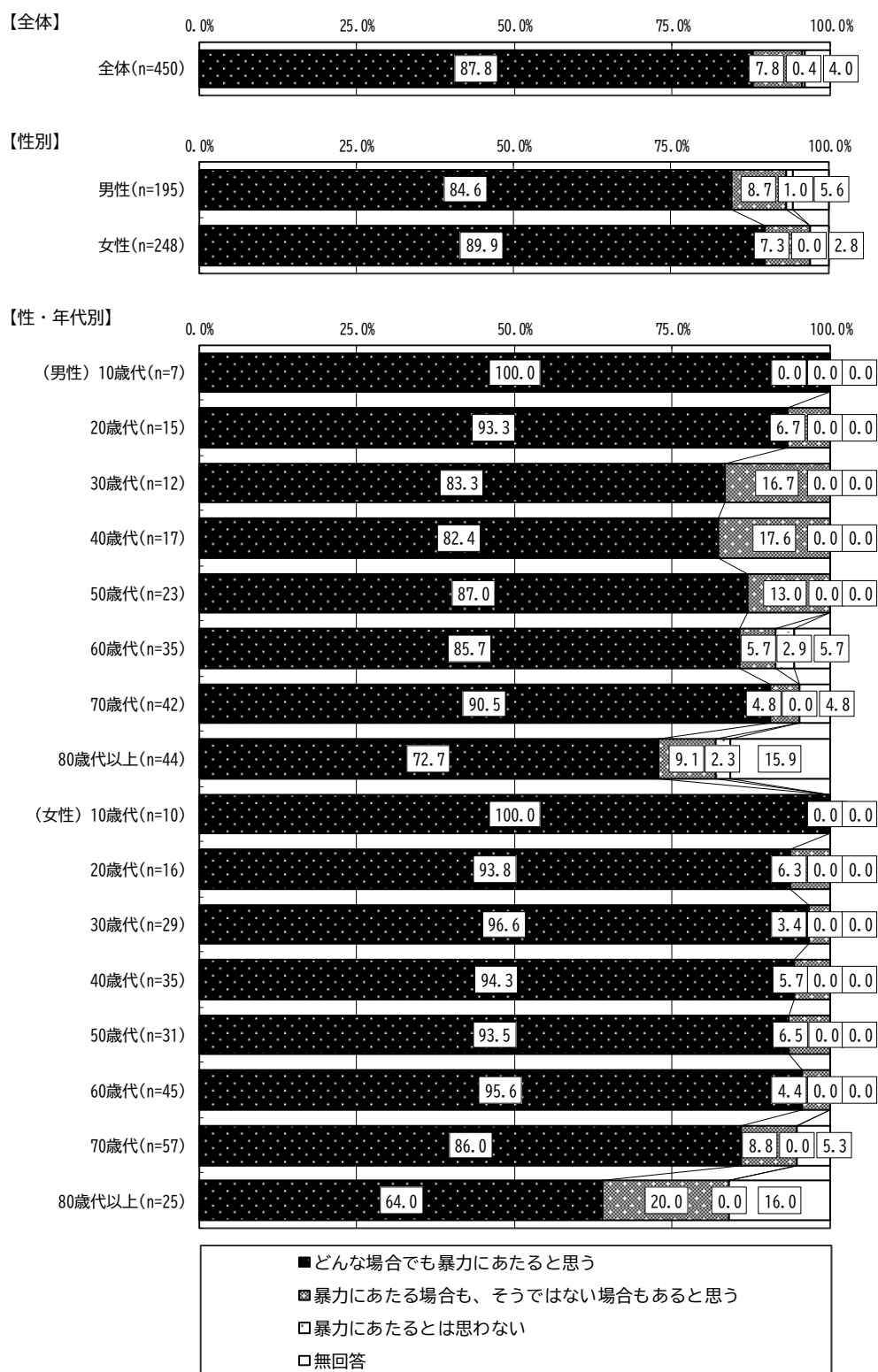
「どんな場合でも暴力にあたると思う」が74.4%と最も多く、次いで「暴力にあたる場合も、そうではない場合もあると思う」が17.1%、「暴力にあたるとは思わない」が3.3%と続いている。

性別では、女性は男性よりも「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合が高く、約8割となっている。



⑧ いやがっているのに性的な行為を強要する

「どんな場合でも暴力にあたると思う」が87.8%と最も多く、次いで「暴力にあたる場合も、そうではない場合もあると思う」が7.8%、「暴力にあたるとは思わない」が0.4%と続いている。
性別では、男性、女性ともに概ね全体と同様の傾向となっている。



「困難な問題を抱える女性への支援に関する法律」(※2)が本年4月から施行されました。

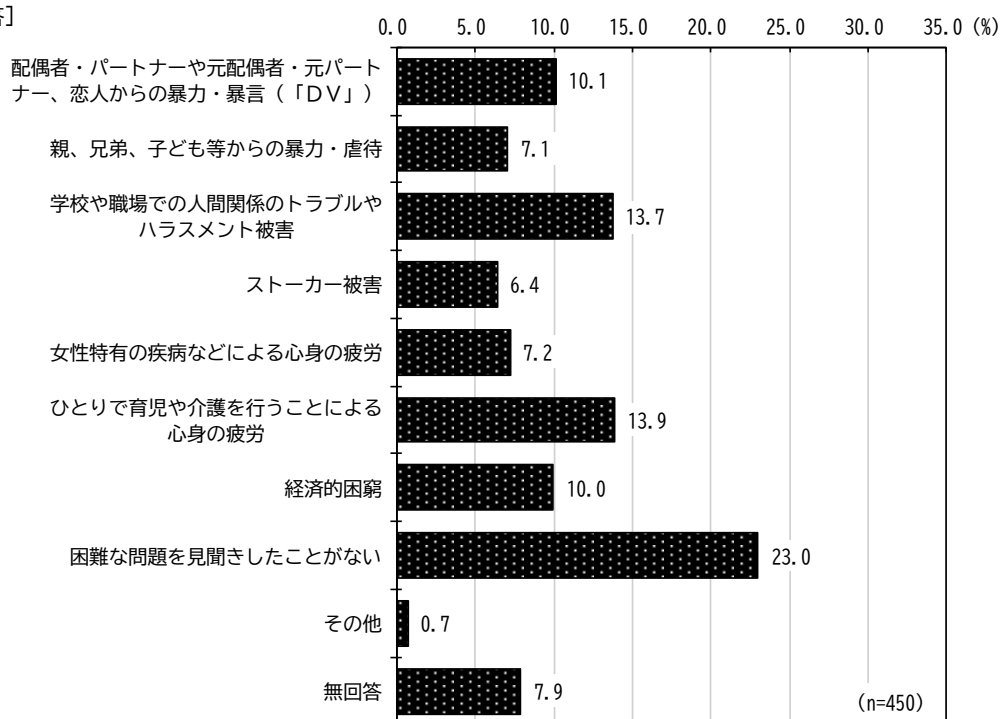
6 女性への支援について

問20 あなた自身もしくは身近な女性で、女性であることを理由として、困難な問題(※3)を経験したり、見聞きしたことがありますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

「困難な問題を見聞きしたことがない」が23.0%と最も多く、次いで「ひとりで育児や介護を行うことによる」が13.9%、「学校や職場での人間関係のトラブルやハラスメント被害」が13.7%と続いている。

【全体】

〔複数回答〕



回答数：721

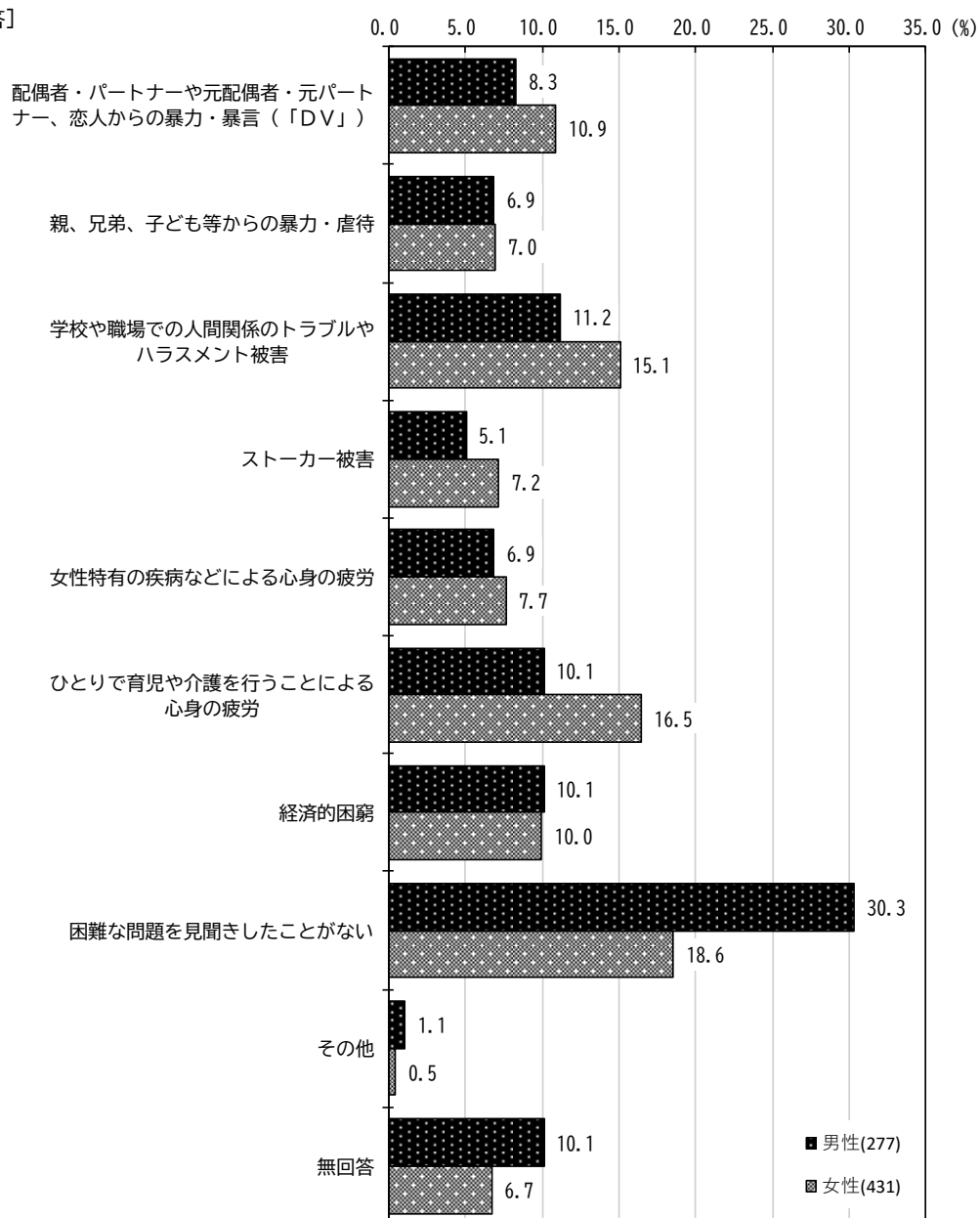
※2 困難な問題を抱える女性への支援に関する法律…困難な問題を抱える女性の福祉の増進および自立に向けて、保護だけでなく総合的な相談・支援を実施する目的で制定された法律のこと。

※3 困難な問題…「性被害に関する問題」、「家庭の問題」、「お金の問題」などのこと。

性別では、男性、女性ともに概ね全体と同様の傾向となっている。

【性別】

[複数回答]



() : 回答数

【性・年代別】

※太字は上位3つ（「その他」・「無回答」を除く）、下線は最上位

[複数回答]	全体 (n=721)	男性							
		10歳代 (n=7)	20歳代 (n=27)	30歳代 (n=15)	40歳代 (n=23)	50歳代 (n=32)	60歳代 (n=55)	70歳代 (n=62)	80歳代 以上 (n=56)
配偶者・パートナーや元配偶者・元パートナー、恋人からの暴力・暴言（「DV」）	10.1	0.0	7.4	0.0	8.7	6.3	12.7	9.7	7.1
親、兄弟、子ども等からの暴力・虐待	7.1	0.0	14.8	0.0	4.3	6.3	9.1	6.5	5.4
学校や職場での人間関係のトラブルやハラスメント被害	13.7	0.0	11.1	13.3	17.4	9.4	9.1	11.3	12.5
ストーカー被害	6.4	0.0	7.4	13.3	0.0	6.3	3.6	4.8	5.4
女性特有の疾病などによる心身の疲労	7.2	14.3	11.1	20.0	8.7	3.1	9.1	4.8	1.8
ひとりで育児や介護を行うことによる心身の疲労	13.9	0.0	7.4	6.7	13.0	9.4	12.7	12.9	7.1
経済的困窮	10.0	0.0	11.1	6.7	8.7	12.5	10.9	11.3	8.9
困難な問題を見聞きしたことがない	23.0	85.7	29.6	33.3	39.1	43.8	23.6	24.2	25.0
その他	0.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4.8	0.0
無回答	7.9	0.0	0.0	6.7	0.0	3.1	9.1	9.7	26.8

単位：％

※太字は上位3つ（「その他」・「無回答」を除く）、下線は最上位

[複数回答]	全体 (n=721)	女性							
		10歳代 (n=16)	20歳代 (n=35)	30歳代 (n=50)	40歳代 (n=90)	50歳代 (n=66)	60歳代 (n=75)	70歳代 (n=71)	80歳代 以上 (n=28)
配偶者・パートナーや元配偶者・元パートナー、恋人からの暴力・暴言（「DV」）	10.1	6.3	8.6	8.0	12.2	18.2	10.7	9.9	3.6
親、兄弟、子ども等からの暴力・虐待	7.1	0.0	5.7	8.0	10.0	7.6	5.3	5.6	7.1
学校や職場での人間関係のトラブルやハラスメント被害	13.7	6.3	14.3	22.0	15.6	15.2	21.3	11.3	0.0
ストーカー被害	6.4	12.5	20.0	10.0	10.0	4.5	4.0	2.8	0.0
女性特有の疾病などによる心身の疲労	7.2	25.0	2.9	2.0	12.2	9.1	4.0	8.5	3.6
ひとりで育児や介護を行うことによる心身の疲労	13.9	12.5	20.0	22.0	17.8	16.7	17.3	8.5	17.9
経済的困窮	10.0	0.0	11.4	10.0	12.2	9.1	14.7	7.0	3.6
困難な問題を見聞きしたことがない	23.0	37.5	14.3	16.0	10.0	16.7	20.0	22.5	35.7
その他	0.7	0.0	2.9	0.0	0.0	1.5	0.0	0.0	0.0
無回答	7.9	0.0	0.0	2.0	0.0	1.5	2.7	23.9	28.6

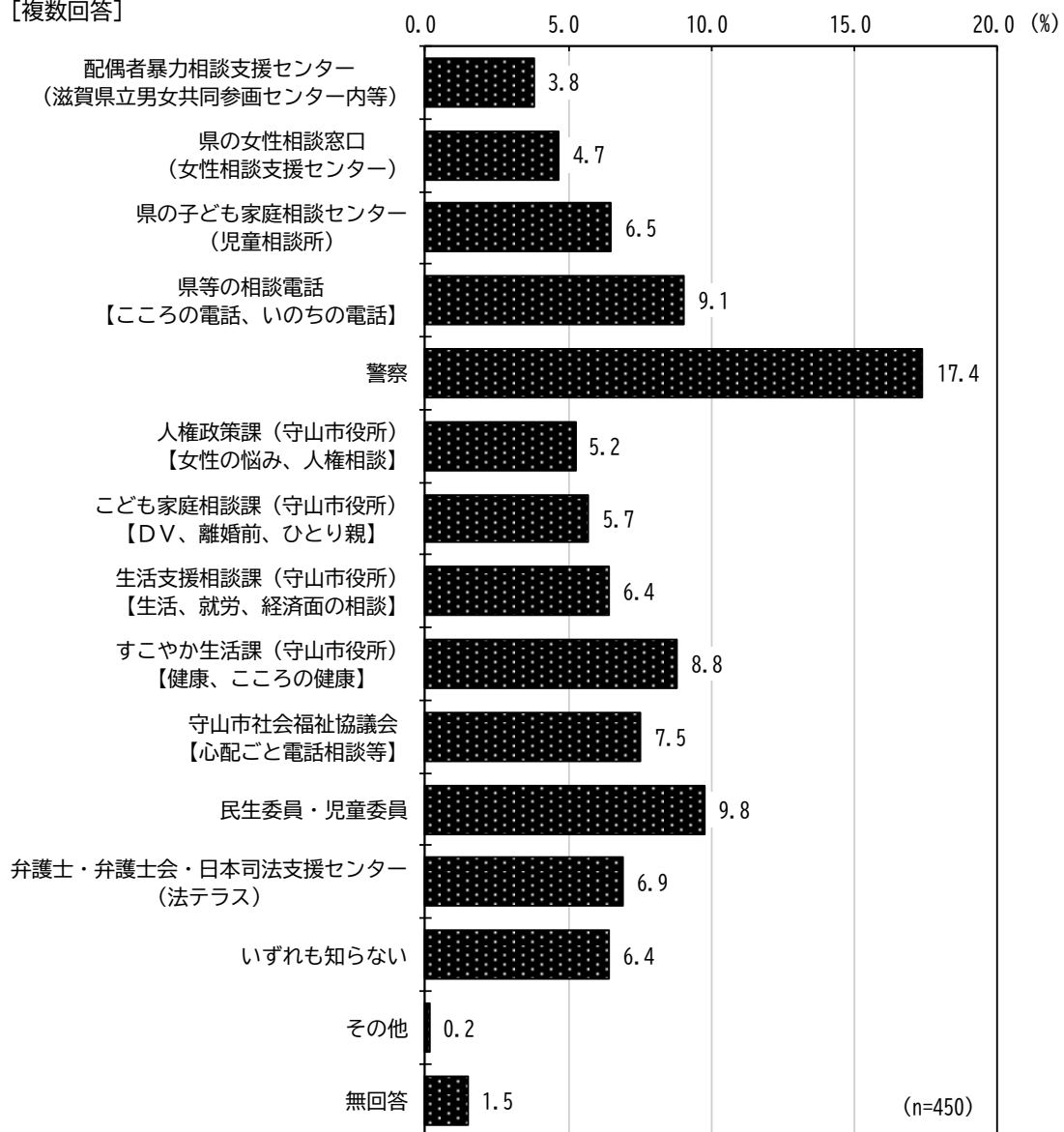
単位：％

問21 あなたは、困難な状況にあるときに次の相談機関を利用できることを知っていますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

「警察」が17.4%と最も多く、次いで「民生委員・児童委員」が9.8%、「県等の相談電話【こころの電話、いのちの電話】」が9.1%と続いている。一方で、「いずれも知らない」が6.4%となっている。

【全体】

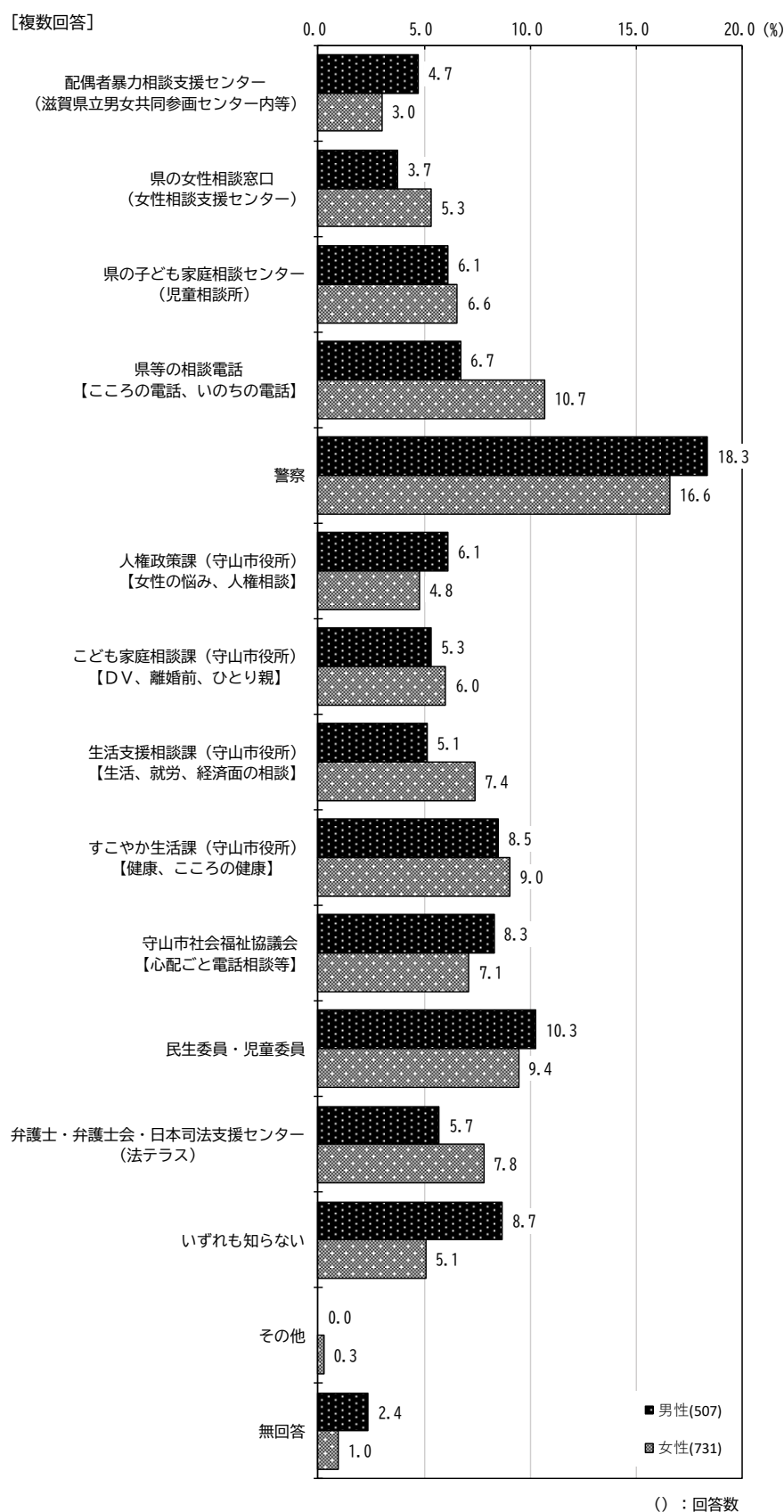
〔複数回答〕



回答数：1,259

性別では、男性、女性ともに概ね全体と同様の傾向となっている。

【性別】



【性・年代別（男性）】

※太字は上位3つ（「その他」・「無回答」を除く）、下線は最上位

[複数回答]	全体 (1,259)	男性							
		10歳代 (14)	20歳代 (26)	30歳代 (18)	40歳代 (37)	50歳代 (42)	60歳代 (84)	70歳代 (145)	80歳代 以上 (141)
配偶者暴力相談支援センター （滋賀県立男女共同参画センター内等）	3.8	0.0	3.8	5.6	2.7	4.8	6.0	4.1	5.7
県の女性相談窓口 （女性相談支援センター）	4.7	0.0	3.8	5.6	0.0	9.5	4.8	3.4	2.8
県の子ども家庭相談センター （児童相談所）	6.5	0.0	3.8	5.6	2.7	9.5	4.8	8.3	5.7
県等の相談電話 【こころの電話、いのちの電話】	9.1	28.6	3.8	11.1	2.7	9.5	7.1	5.5	5.7
警察	17.4	35.7	30.8	22.2	27.0	26.2	20.2	13.1	13.5
人権政策課（守山市役所） 【女性の悩み、人権相談】	5.2	7.1	0.0	0.0	5.4	0.0	4.8	10.3	6.4
こども家庭相談課（守山市役所） 【DV、離婚前、ひとり親】	5.7	7.1	3.8	5.6	5.4	4.8	4.8	7.6	3.5
生活支援相談課（守山市役所） 【生活、就労、経済面の相談】	6.4	0.0	0.0	5.6	8.1	0.0	2.4	6.2	7.8
すこやか生活課（守山市役所） 【健康、こころの健康】	8.8	7.1	7.7	5.6	5.4	4.8	8.3	6.9	12.8
守山市社会福祉協議会 【心配ごと電話相談等】	7.5	0.0	3.8	0.0	8.1	2.4	3.6	11.7	12.1
民生委員・児童委員	9.8	0.0	3.8	5.6	8.1	2.4	10.7	13.8	12.1
弁護士・弁護士会・日本司法支援セン ター（法テラス）	6.9	14.3	11.5	11.1	10.8	7.1	7.1	4.1	2.1
いずれも知らない	6.4	0.0	23.1	16.7	13.5	16.7	13.1	3.4	5.0
その他	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
無回答	1.5	0.0	0.0	0.0	0.0	2.4	2.4	1.4	5.0

単位：％

【性・年代別（女性）】

※太字は上位3つ（「その他」・「無回答」を除く）、下線は最上位

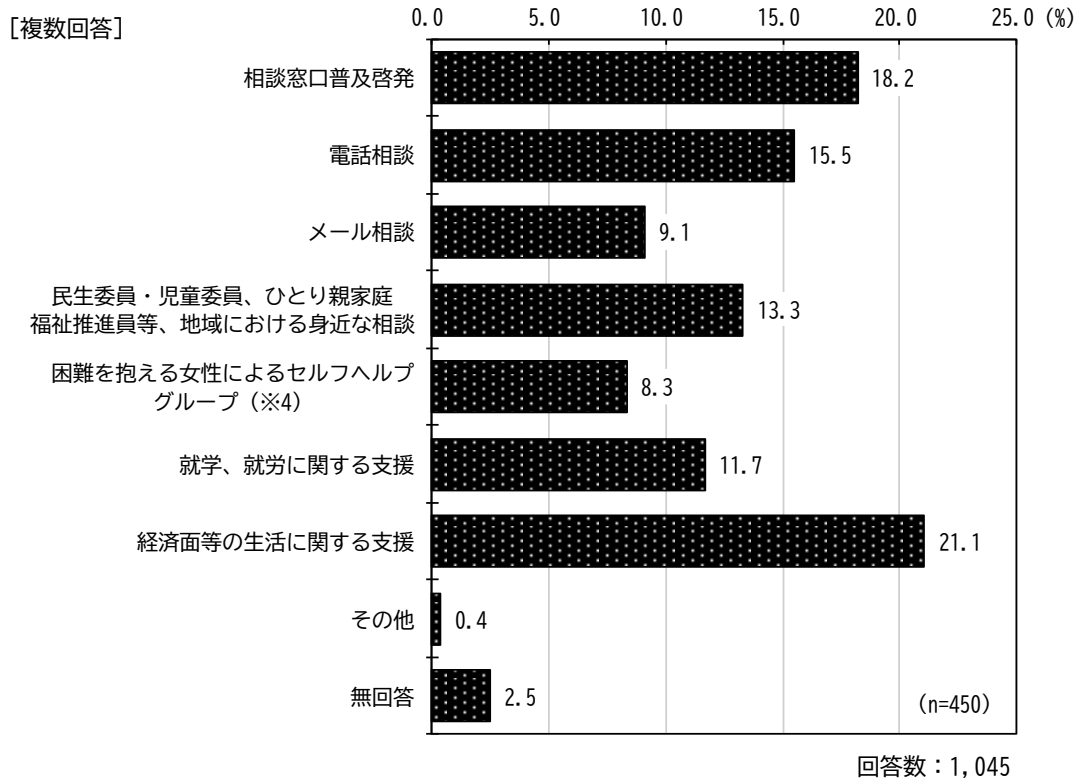
[複数回答]	全体 (1,259)	女性							
		10歳代 (37)	20歳代 (63)	30歳代 (92)	40歳代 (91)	50歳代 (88)	60歳代 (114)	70歳代 (183)	80歳代 以上 (63)
配偶者暴力相談支援センター (滋賀県立男女共同参画センター内等)	3.8	0.0	6.3	5.4	2.2	3.4	1.8	2.7	1.6
県の女性相談窓口 (女性相談支援センター)	4.7	2.7	9.5	5.4	1.1	8.0	5.3	6.0	3.2
県の子ども家庭相談センター (児童相談所)	6.5	8.1	6.3	12.0	9.9	4.5	5.3	5.5	1.6
県等の相談電話 【こころの電話、いのちの電話】	9.1	13.5	14.3	13.0	14.3	13.6	7.0	8.7	4.8
警察	17.4	21.6	17.5	15.2	26.4	19.3	20.2	10.9	6.3
人権政策課（守山市役所） 【女性の悩み、人権相談】	5.2	2.7	4.8	5.4	2.2	2.3	6.1	6.6	4.8
こども家庭相談課（守山市役所） 【DV、離婚前、ひとり親】	5.7	13.5	9.5	8.7	5.5	3.4	3.5	5.5	4.8
生活支援相談課（守山市役所） 【生活、就労、経済面の相談】	6.4	5.4	6.3	5.4	7.7	3.4	8.8	9.3	9.5
すこやか生活課（守山市役所） 【健康、こころの健康】	8.8	8.1	12.7	9.8	7.7	4.5	5.3	10.4	15.9
守山市社会福祉協議会 【心配ごと電話相談等】	7.5	2.7	3.2	3.3	3.3	4.5	10.5	9.3	15.9
民生委員・児童委員	9.8	5.4	1.6	5.4	4.4	11.4	12.3	12.6	15.9
弁護士・弁護士会・日本司法支援セン ター（法テラス）	6.9	16.2	6.3	6.5	8.8	11.4	8.8	5.5	4.8
いずれも知らない	6.4	0.0	0.0	4.3	6.6	9.1	5.3	4.9	6.3
その他	0.2	0.0	1.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.5	0.0
無回答	1.5	0.0	0.0	0.0	0.0	1.1	0.0	1.6	4.8

単位：％

問22 あなたは、困難な問題を抱える女性に対する支援として、どのような支援が効果的であると思いますか。特に効果的だと思うもの3つまで選び、○をつけてください。

「経済面等の生活に関する支援」が21.1%と最も多く、次いで「相談窓口普及啓発」が18.2%、「電話相談」が15.5%と続いている。

【全体】

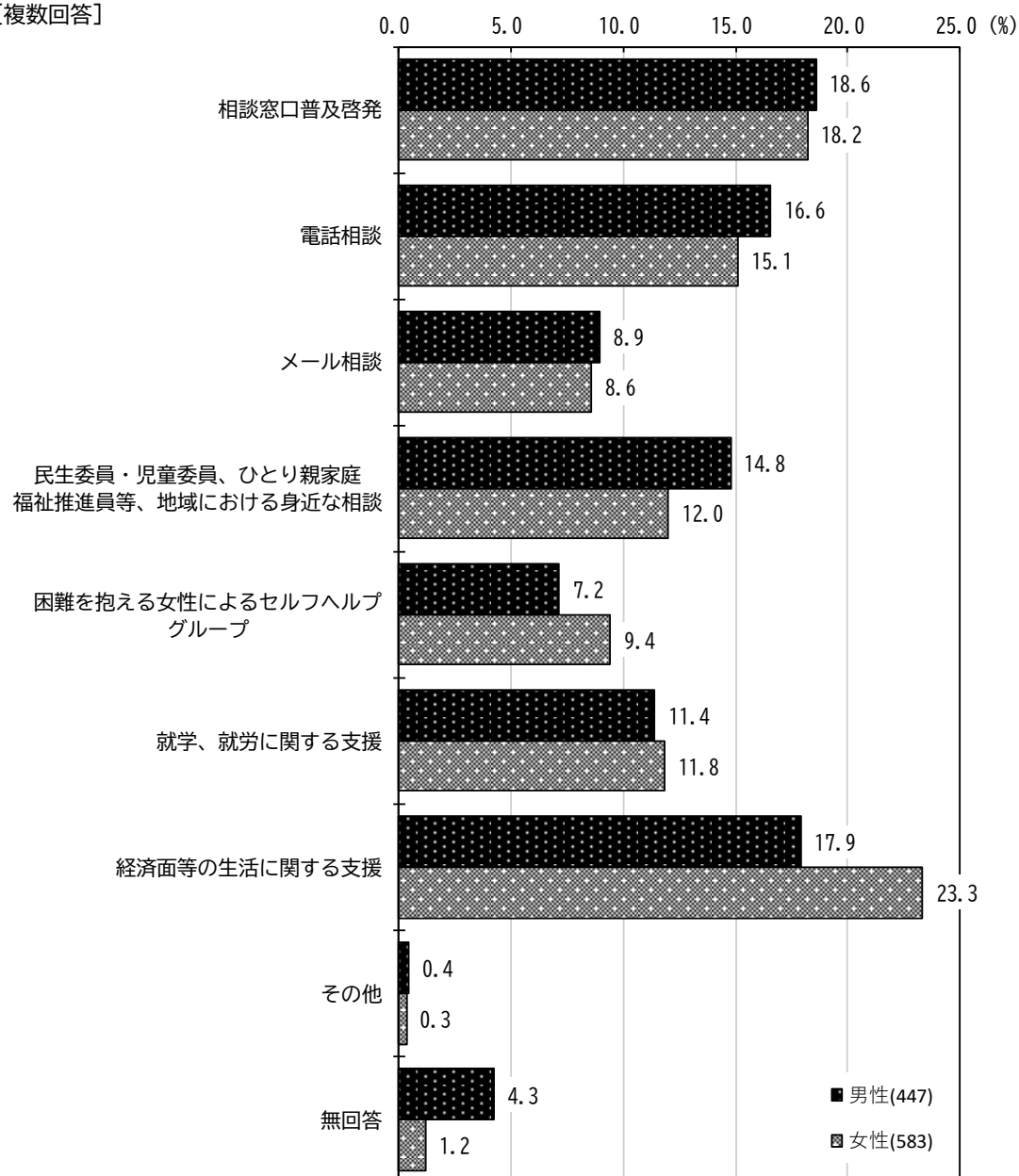


※4 セルフヘルプグループ…同じ境遇の人々が悩みを共有する自助グループのこと。

性別では、男性、女性ともに概ね全体と同様の傾向となっている。

【性別】

[複数回答]



() : 回答数

【性・年代別】

※太字は上位3つ（「その他」・「無回答」を除く）、下線は最上位

〔複数回答〕	全体 (1,045)	男性							
		10歳代 (20)	20歳代 (34)	30歳代 (26)	40歳代 (39)	50歳代 (49)	60歳代 (77)	70歳代 (105)	80歳代 以上 (97)
相談窓口普及啓発	18.2	10.0	8.8	19.2	12.8	14.3	<u>20.8</u>	<u>24.8</u>	19.6
電話相談	15.5	<u>20.0</u>	14.7	<u>23.1</u>	10.3	<u>26.5</u>	15.6	16.2	13.4
メール相談	9.1	<u>20.0</u>	8.8	15.4	7.7	14.3	9.1	9.5	2.1
民生委員・児童委員、ひとり親家庭 福祉推進員等、地域における身近な相談	13.3	5.0	8.8	11.5	15.4	8.2	18.2	14.3	<u>20.6</u>
困難を抱える女性によるセルフヘルプ グループ	8.3	5.0	11.8	15.4	10.3	4.1	9.1	6.7	3.1
就学、就労に関する支援	11.7	<u>20.0</u>	14.7	3.8	15.4	14.3	7.8	10.5	11.3
経済面等の生活に関する支援	<u>21.1</u>	<u>20.0</u>	<u>29.4</u>	7.7	<u>28.2</u>	16.3	14.3	15.2	18.6
その他	0.4	0.0	2.9	0.0	0.0	0.0	1.3	0.0	0.0
無回答	2.5	0.0	0.0	3.8	0.0	2.0	3.9	2.9	11.3

単位：％

※太字は上位3つ（「その他」・「無回答」を除く）、下線は最上位

〔複数回答〕	全体 (1,045)	女性							
		10歳代 (23)	20歳代 (36)	30歳代 (73)	40歳代 (81)	50歳代 (76)	60歳代 (108)	70歳代 (132)	80歳代 以上 (54)
相談窓口普及啓発	18.2	13.0	16.7	15.1	11.1	14.5	19.4	<u>25.8</u>	<u>20.4</u>
電話相談	15.5	8.7	11.1	12.3	12.3	11.8	18.5	17.4	<u>20.4</u>
メール相談	9.1	8.7	2.8	6.8	9.9	<u>17.1</u>	13.0	3.8	3.7
民生委員・児童委員、ひとり親家庭 福祉推進員等、地域における身近な相談	13.3	<u>21.7</u>	8.3	9.6	9.9	7.9	7.4	16.7	<u>20.4</u>
困難を抱える女性によるセルフヘルプ グループ	8.3	8.7	5.6	5.5	11.1	<u>14.5</u>	7.4	11.4	7.4
就学、就労に関する支援	11.7	13.0	22.2	19.2	17.3	11.8	8.3	6.1	7.4
経済面等の生活に関する支援	<u>21.1</u>	<u>26.1</u>	<u>30.6</u>	<u>30.1</u>	<u>28.4</u>	<u>21.1</u>	<u>25.9</u>	17.4	13.0
その他	0.4	0.0	2.8	0.0	0.0	1.3	0.0	0.0	0.0
無回答	2.5	0.0	0.0	1.4	0.0	0.0	0.0	1.5	7.4

単位：％

7 男女平等意識について

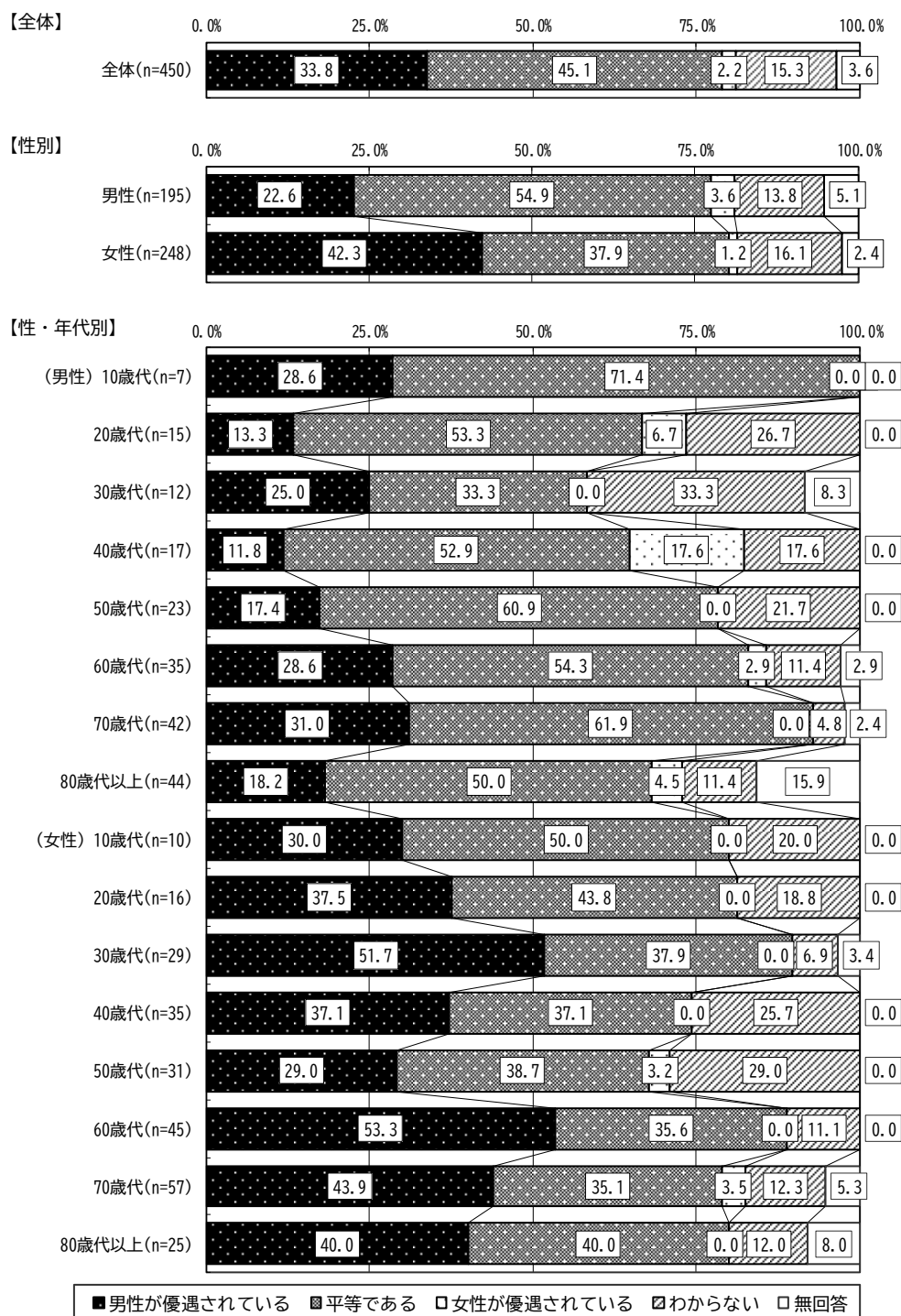
問23 あなたは、次の分野において男女は平等になっていると思いますか。(〇はそれぞれ1つ)

① 家庭生活で

「平等である」が45.1%と最も多く、次いで「男性が優遇されている」が33.8%、「女性が優遇されている」が2.2%となっている。

性別では、男性は「平等である」54.9%であり、女性は「男性が優遇されている」が42.3%と最も多くなっている。

性別・年代別では、男性はどの年代も「平等である」が、女性は30歳代、40歳代、60歳代以上で「男性が優遇されている」が最も多くなっている。(女性40歳代、80歳代以上は「平等である」と同率)

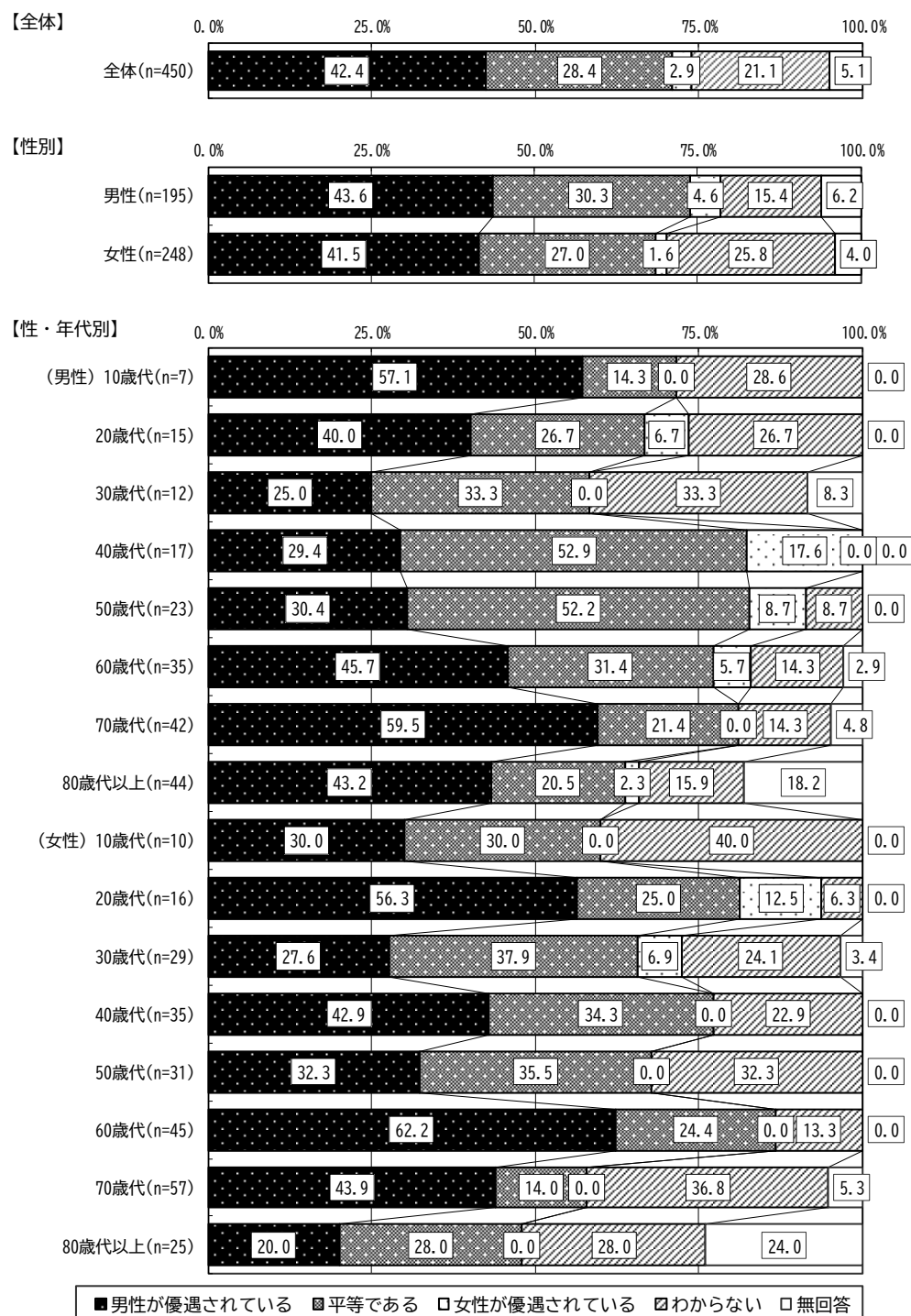


② 職場の中で

「男性が優遇されている」が42.4%と最も多く、次いで「平等である」が28.4%、「女性が優遇されている」が2.9%となっている。

性別では、男性、女性ともに概ね全体と同じ傾向となっている。

性別・年代別では、男性は10歳代、20歳代で「男性が優遇されている」が、その他の年代で「平等である」が最も多くなっている。女性は20歳代、40歳代、60歳代、70歳代で「男性が優遇されている」が、その他の年代で「平等である」が最も多くなっている。

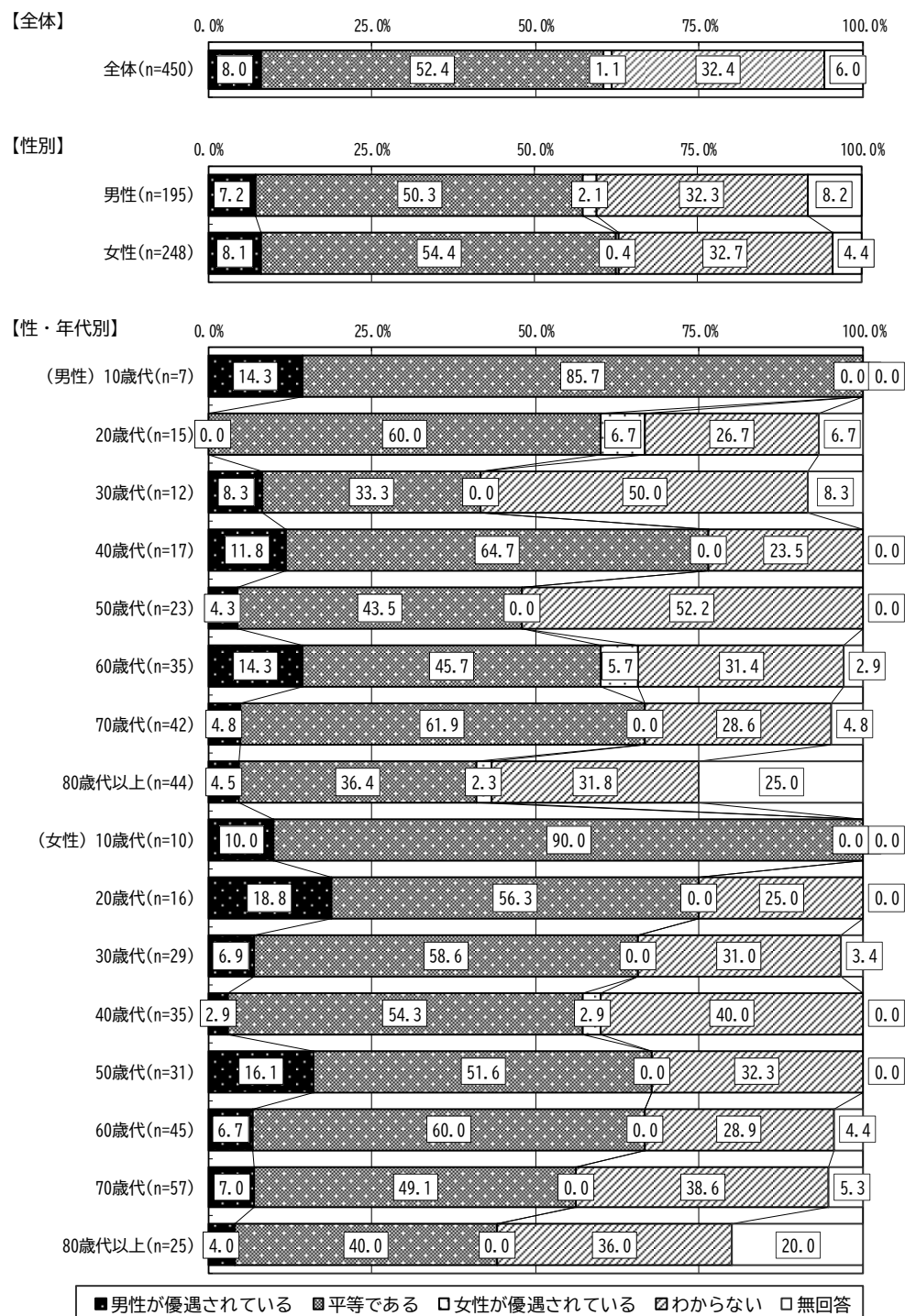


③ 学校の中で

「平等である」が52.4%と最も多く、次いで「男性が優遇されている」が8.0%、「女性が優遇されている」が1.1%となっている。

性別では、男性、女性ともに概ね全体と同じ傾向となっている。

性別・年代別では、男性、女性ともに概ねどの年代も「平等である」が最も多くなっている。

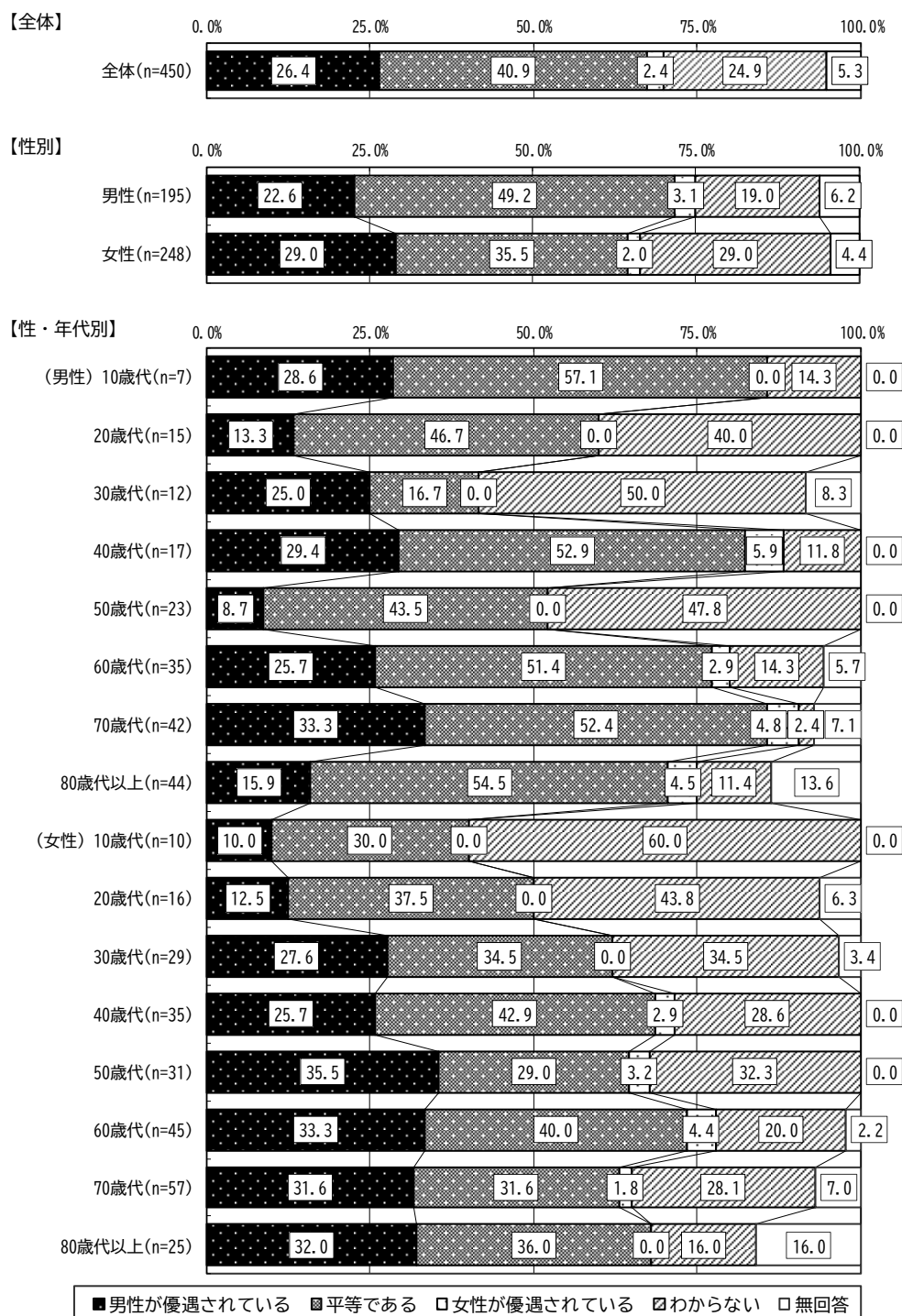


④ 地域活動の場で

「平等である」が 40.9%と最も多く、次いで「男性が優遇されている」が 26.4%、「女性が優遇されている」が 2.4%となっている。

性別では、男性、女性ともに概ね全体と同じ傾向となっている。

性別・年代別では、男性はどの年代も「平等である」が最も多くなっている。女性は 50 歳代、70 歳代で「男性が優遇されている」が、その他の年代で「平等である」が最も多くなっている。(70 歳代は「平等である」と同率)

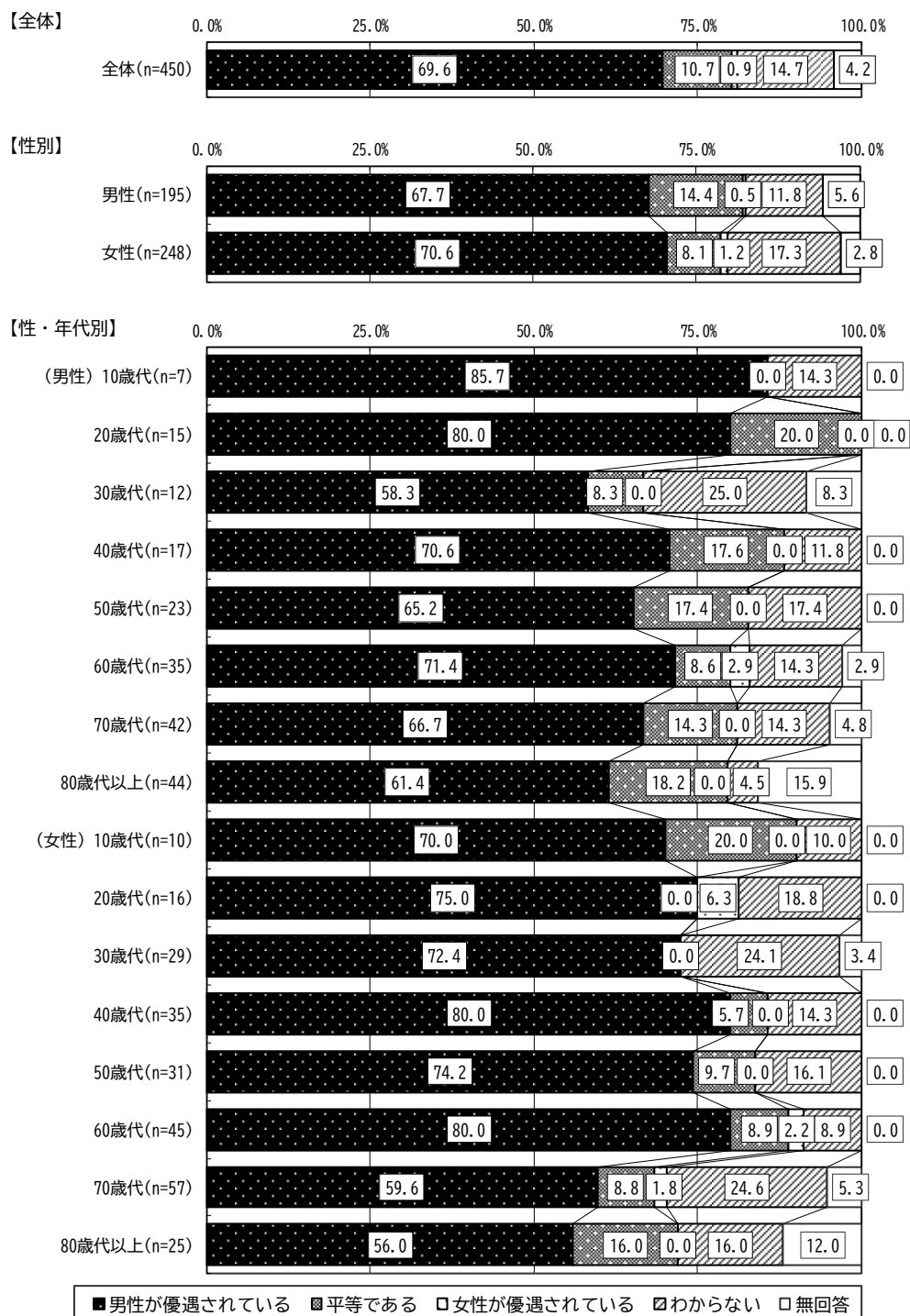


⑤ 政治の場で

「男性が優遇されている」が69.6%と最も多く、次いで「平等である」が10.7%、「女性が優遇されている」が0.9%となっている。

性別では、男性、女性ともに概ね全体と同じ傾向となっている。

性別・年代別では、男性、女性ともにどの年代も「平等である」が最も多くなっている。

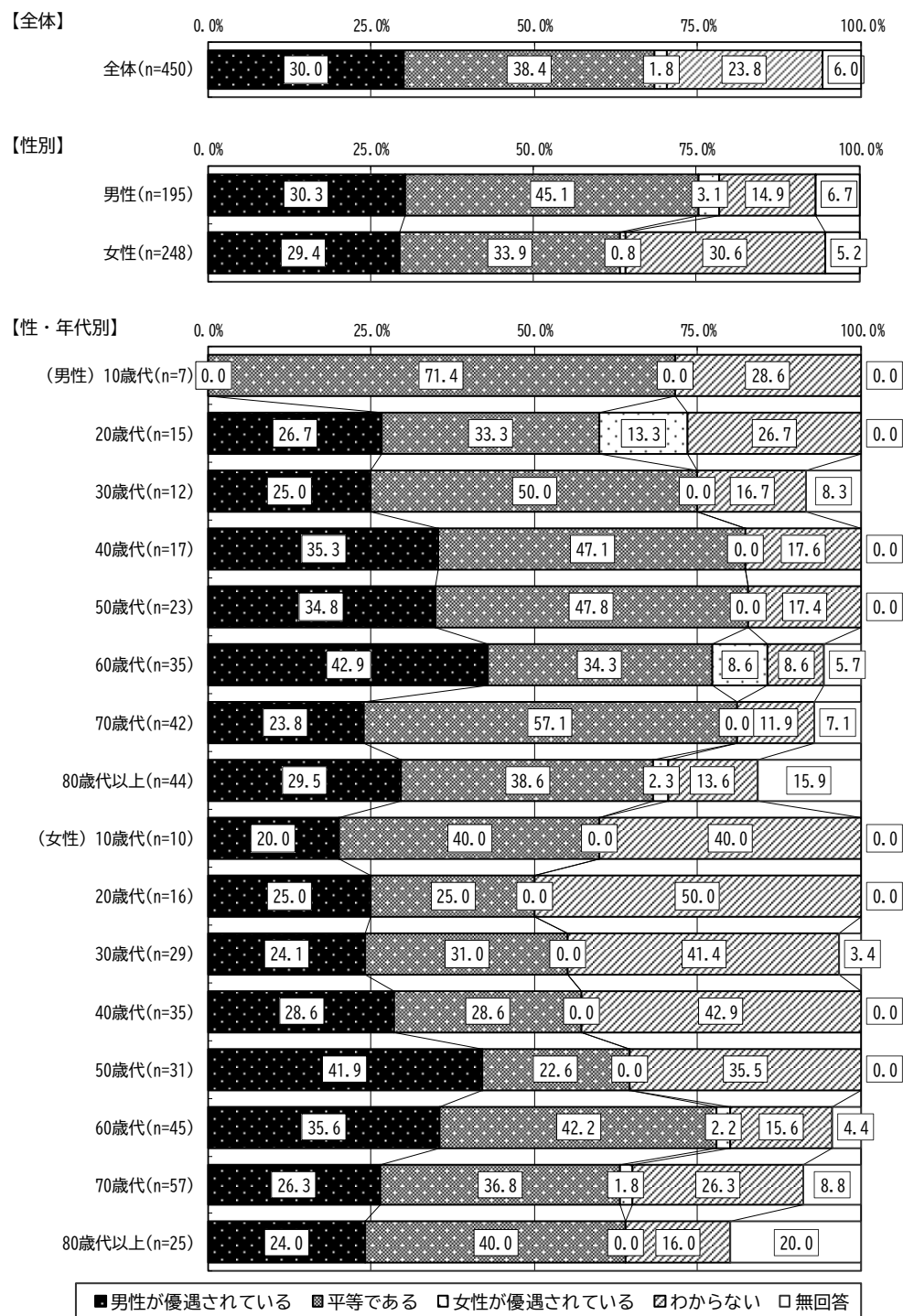


⑥ 法律や制度の上で

「平等である」が 38.4%と最も多く、次いで「男性が優遇されている」が 30.0%、「女性が優遇されている」が 1.8%となっている。

性別では、男性、女性ともに概ね全体と同じ傾向となっている。

性別・年代別では、男性は 60 歳代、女性は 50 歳代で「男性が優遇されている」が最も多くなっている。

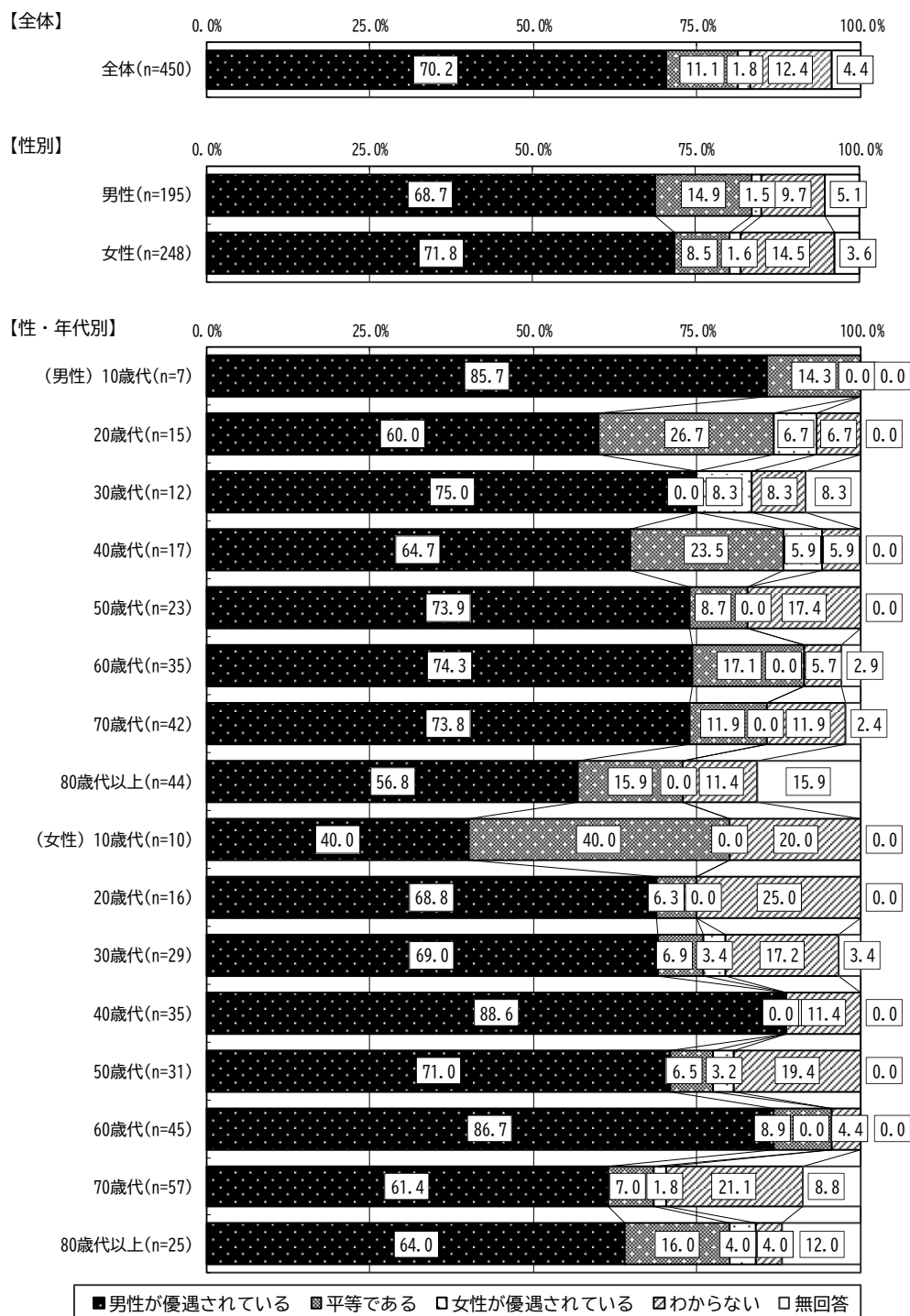


⑦ 社会通念・慣習・しきたりなど

「男性が優遇されている」が70.2%と最も多く、次いで「平等である」が11.1%、「女性が優遇されている」が1.8%となっている。

性別では、男性、女性ともに概ね全体と同じ傾向となっている。

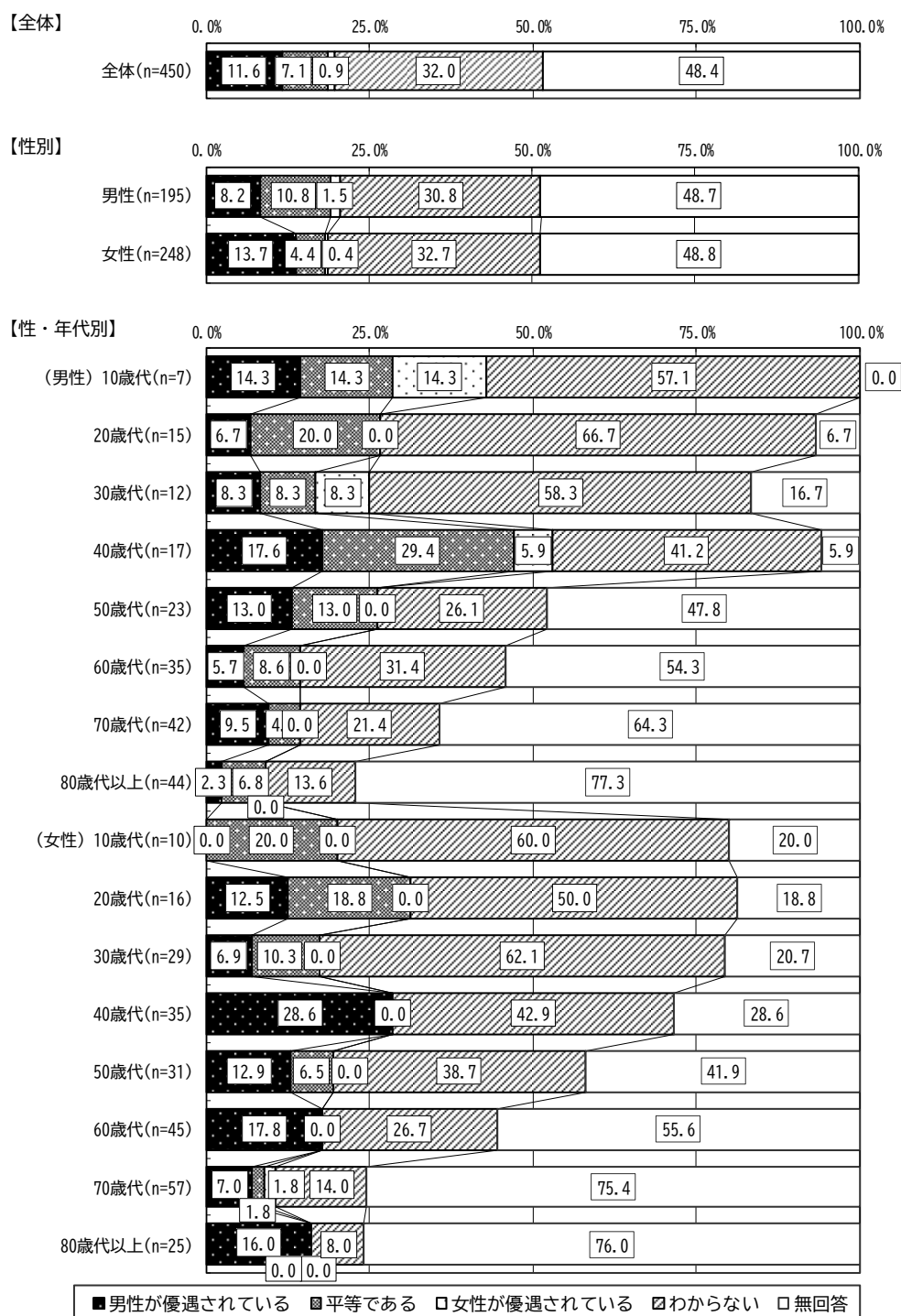
性別・年代別では、男性、女性ともにどの年代も「男性が優遇されている」が最も多くなっている。（女性10歳代は「平等である」と同率）



⑧ その他

「男性が優遇されている」が11.6%と最も多く、次いで「平等である」が7.1%、「女性が優遇されている」が0.9%となっている。

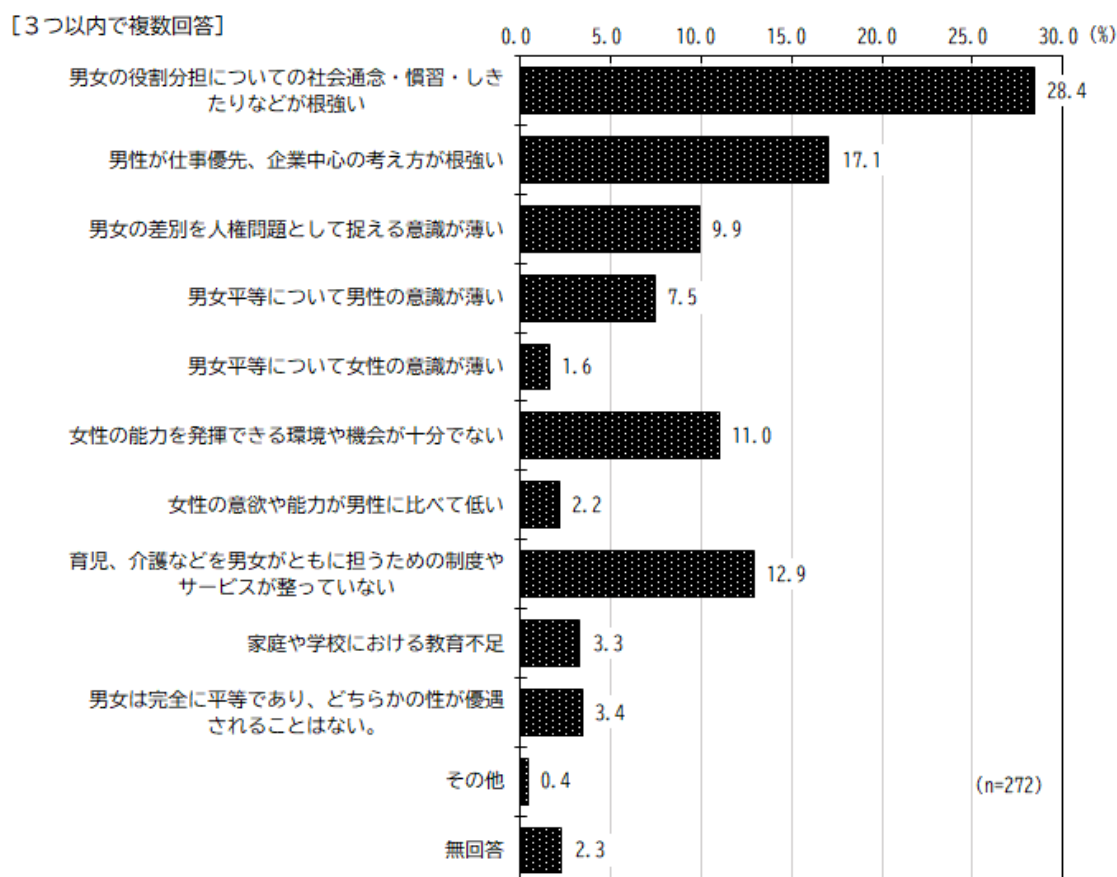
性別では、男性、女性ともに概ね全体と同じ傾向となっている。



問24 あなたは、男女不平等の原因は、どこにあると思われますか。特に重要だと思うもの3つまで選び、○をつけてください。

「男女の役割分担についての社会通念・慣習・しきたりなどが根強い」が28.4%と最も多く、次いで「男性が仕事優先、企業中心の考え方が根強い」が17.1%、「育児、介護などを男女がともに担うための制度やサービスが整っていない」が12.9%と続いている。

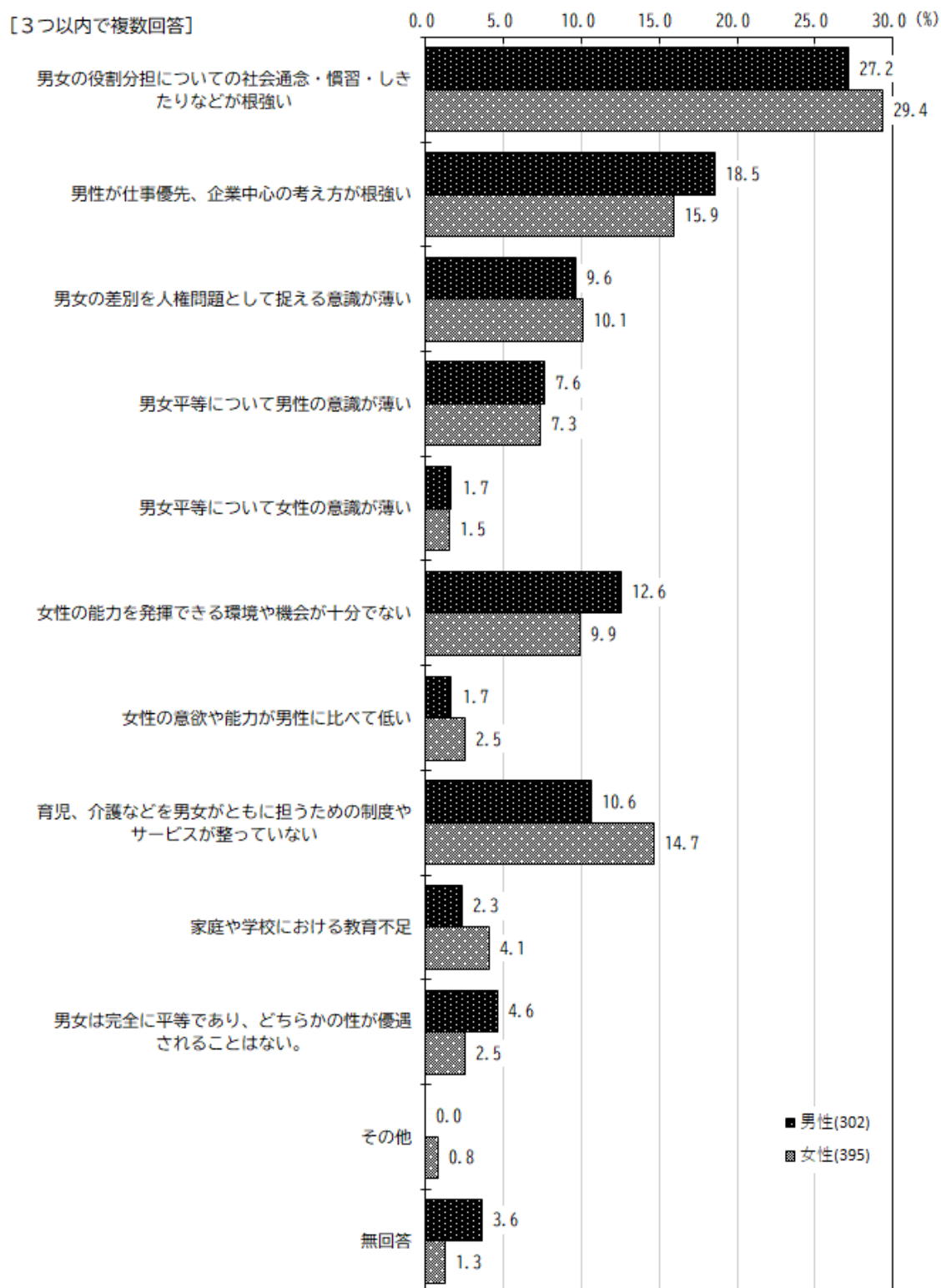
【全体】



回答数：697

性別では、男性、女性ともに概ね全体と同じ傾向となっている。

【性別】



() : 回答数

【性・年代別】

※太字は上位3つ（「その他」・「無回答」を除く）、下線は最上位

[3つ以内で複数回答]	全体 (n=697)	男性							
		10歳代 (n=0)	20歳代 (n=5)	30歳代 (n=5)	40歳代 (n=12)	50歳代 (n=29)	60歳代 (n=59)	70歳代 (n=82)	80歳代 以上 (n=110)
男女の役割分担についての社会通念・慣習・しきたりなどが根強い	28.5	0.0	40.0	20.0	25.0	34.5	32.2	24.4	24.5
男性が仕事優先、企業中心の考え方が根強い	17.2	0.0	0.0	40.0	25.0	13.8	22.0	17.1	18.2
男女の差別を人権問題として捉える意識が薄い	9.9	0.0	20.0	0.0	0.0	10.3	15.3	4.9	10.9
男女平等について男性の意識が薄い	7.4	0.0	20.0	0.0	0.0	13.8	6.8	8.5	6.4
男女平等について女性の意識が薄い	1.6	0.0	0.0	0.0	8.3	0.0	1.7	2.4	0.9
女性の能力を発揮できる環境や機会が十分でない	11.0	0.0	0.0	0.0	16.7	6.9	1.7	15.9	18.2
女性の意欲や能力が男性に比べて低い	2.1	0.0	0.0	20.0	0.0	0.0	1.7	1.2	1.8
育児、介護などを男女がともに担うための制度やサービスが整っていない	12.9	0.0	0.0	0.0	0.0	13.6	11.4	13.4	9.1
家庭や学校における教育不足	3.4	0.0	0.0	20.0	8.3	3.4	1.7	1.2	1.8
男女は完全に平等であり、どちらかの性が優遇されることはない	3.6	0.0	20.0	0.0	0.0	3.4	1.7	8.5	3.6
その他	0.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
無回答	2.0	0.0	0.0	0.0	14.3	3.4	1.7	2.4	4.5

単位：%

※太字は上位3つ（「その他」・「無回答」を除く）、下線は最上位

[3つ以内で複数回答]	全体 (n=697)	女性							
		10歳代 (n=8)	20歳代 (n=8)	30歳代 (n=13)	40歳代 (n=31)	50歳代 (n=46)	60歳代 (n=87)	70歳代 (n=138)	80歳代 以上 (n=64)
男女の役割分担についての社会通念・慣習・しきたりなどが根強い	28.5	25.0	12.5	30.8	29.0	34.8	28.7	29.0	29.7
男性が仕事優先、企業中心の考え方が根強い	17.2	12.5	12.5	23.1	19.4	10.9	21.8	13.8	14.1
男女の差別を人権問題として捉える意識が薄い	9.9	25.0	12.5	0.0	0.0	13.0	11.5	12.3	6.3
男女平等について男性の意識が薄い	7.4	0.0	12.5	0.0	6.5	8.7	8.0	7.2	7.8
男女平等について女性の意識が薄い	1.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.2	4.7
女性の能力を発揮できる環境や機会が十分でない	11.0	12.5	12.5	7.7	12.9	4.3	9.2	10.9	10.9
女性の意欲や能力が男性に比べて低い	2.1	12.5	0.0	0.0	3.2	2.2	0.0	3.6	3.1
育児、介護などを男女がともに担うための制度やサービスが整っていない	12.9	12.5	0.0	23.1	22.6	10.9	16.1	13.0	15.6
家庭や学校における教育不足	3.4	0.0	25.0	7.7	6.5	10.9	3.4	2.2	0.0
男女は完全に平等であり、どちらかの性が優遇されることはない	3.6	0.0	0.0	0.0	0.0	2.2	0.0	3.6	6.3
その他	0.4	0.0	12.5	0.0	0.0	0.0	1.1	0.7	0.0
無回答	2.0	0.0	0.0	7.7	0.0	2.2	0.0	1.4	1.6

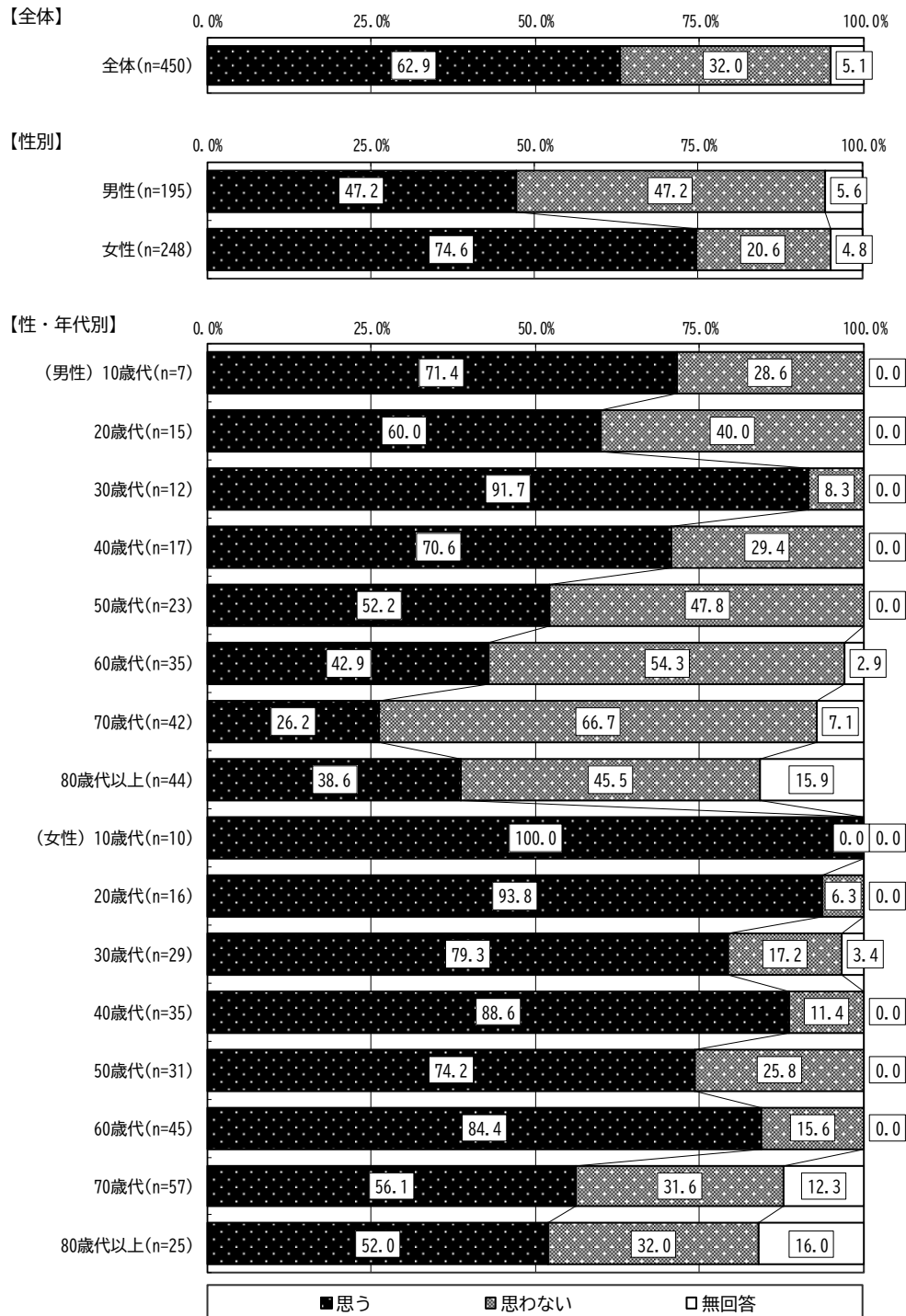
単位：%

問25-1 あなたは、男性も、「男性だから」といった固定概念やプレッシャーなどで「生きづらさ」を感じていると、思いますか。

「思う」が62.9%、「思わない」が32.0%となっている。

性別では、女性は男性よりも「思う」の割合が高く、7割を超えている。

性・年代別では、男性は50歳代以下で「思う」が、60歳代以上で「思わない」が最も多くなっている。女性はどの年代も「思う」が最も多くなっている。また、男性は30歳代、女性は20歳代で「思う」の割合が高く、9割を超えている。



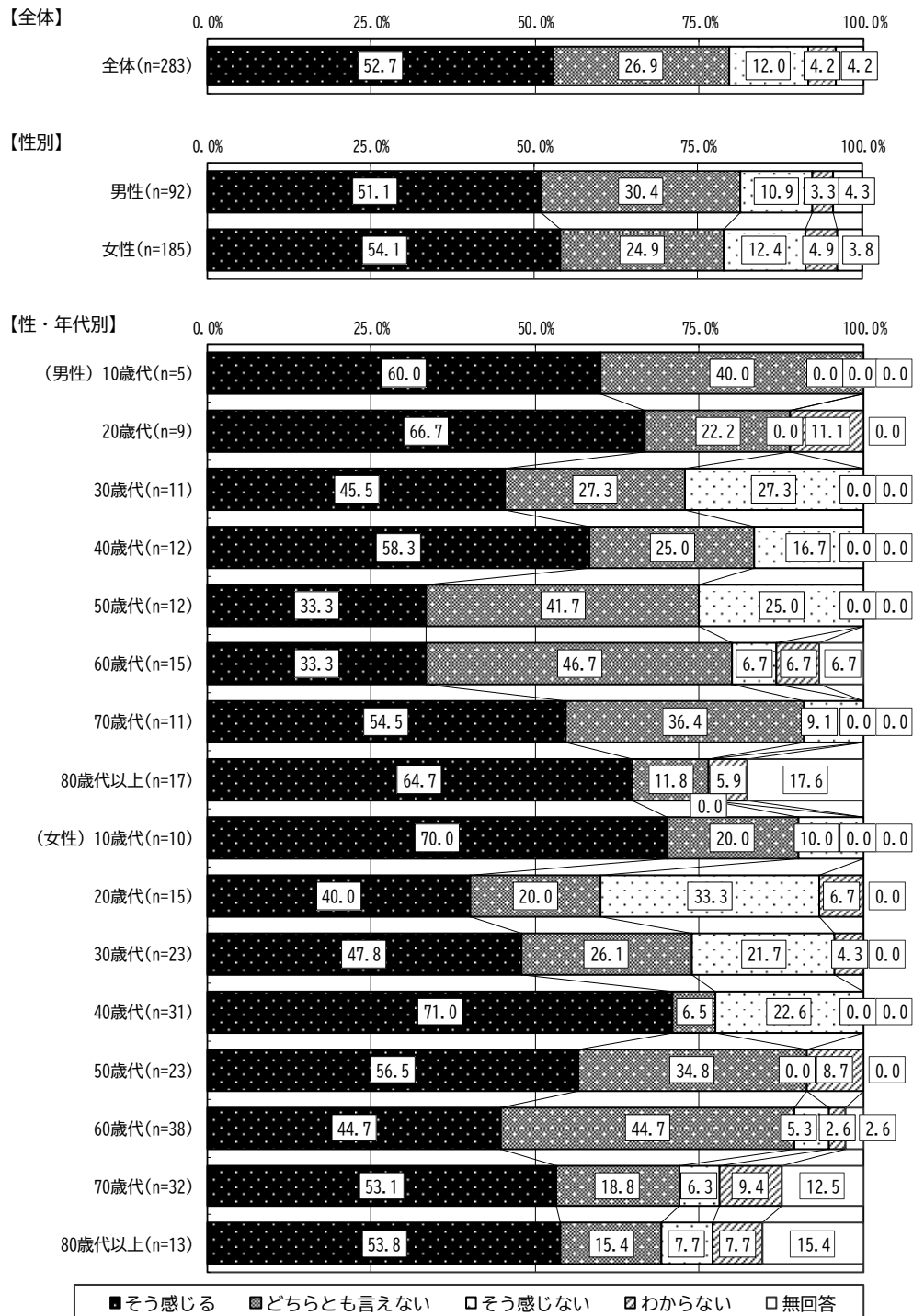
問25-2 問25-1で「思う」と答えた方におたずねします。あなたが思う「生きづらさ」は次のどれに近い
 ですか。(〇はそれぞれ1つ)

① 弱音を吐いてはいけない

「そう感じる」が52.7%と最も多く、次いで「どちらとも言えない」が26.9%、「そう感じない」が12.0%となっている。

性別では、男性、女性ともに概ね全体と同じ傾向となっている。

性・年代別では、男性は50歳代、60歳代で「どちらとも言えない」が、その他の年代で「そう感じる」が最も多くなっている。女性ではどの年代も「そう感じる」が最も多くなっている。(60歳代は「どちらとも言えない」と同率)

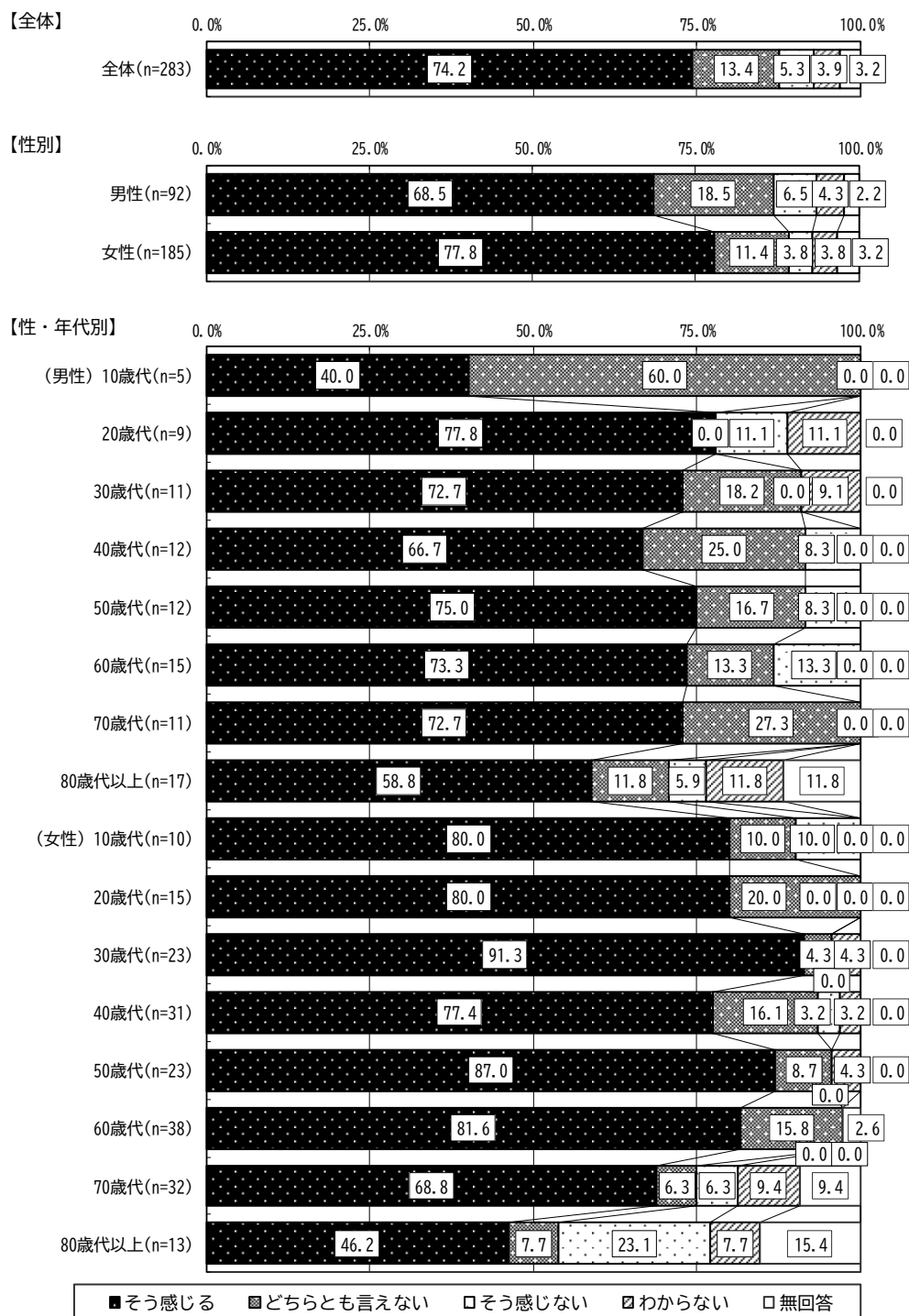


② 力仕事や危険な仕事を任される

「そう感じる」が74.2%と最も多く、次いで「どちらとも言えない」が13.4%、「そう感じない」が5.3%となっている。

性別では、男性、女性ともに概ね全体と同じ傾向となっている。

性・年代別では、男性、女性ともに概ねどの年代も「そう感じる」が最も多くなっている。

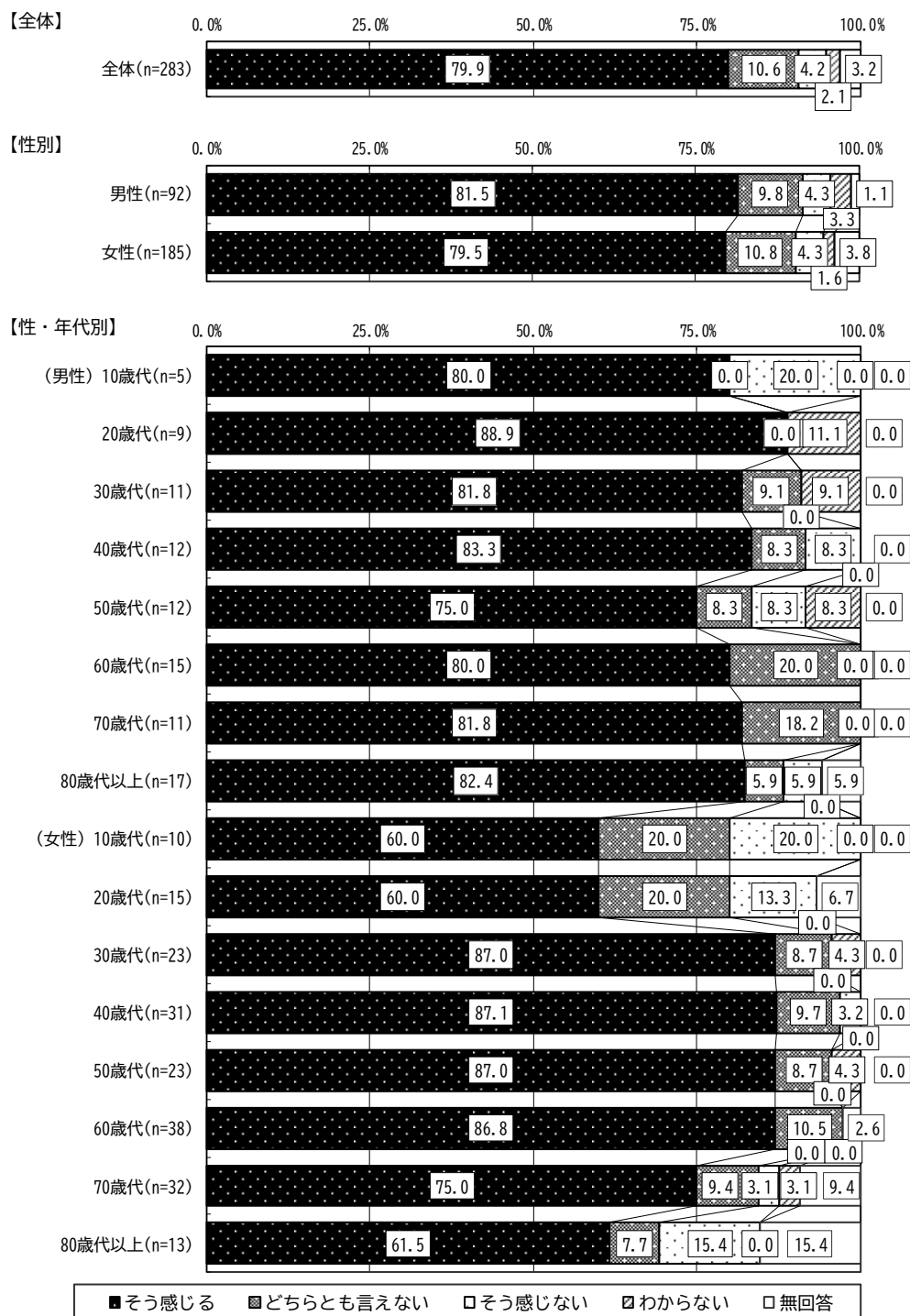


③ 家族を養う経済力を求められる

「そう感じる」が79.9%と最も多く、次いで「どちらとも言えない」が10.6%、「そう感じない」が4.2%となっている。

性別では、男性、女性ともに概ね全体と同じ傾向となっている。

性・年代別では、男性、女性ともにどの年代も「そう感じる」が最も多くなっている。

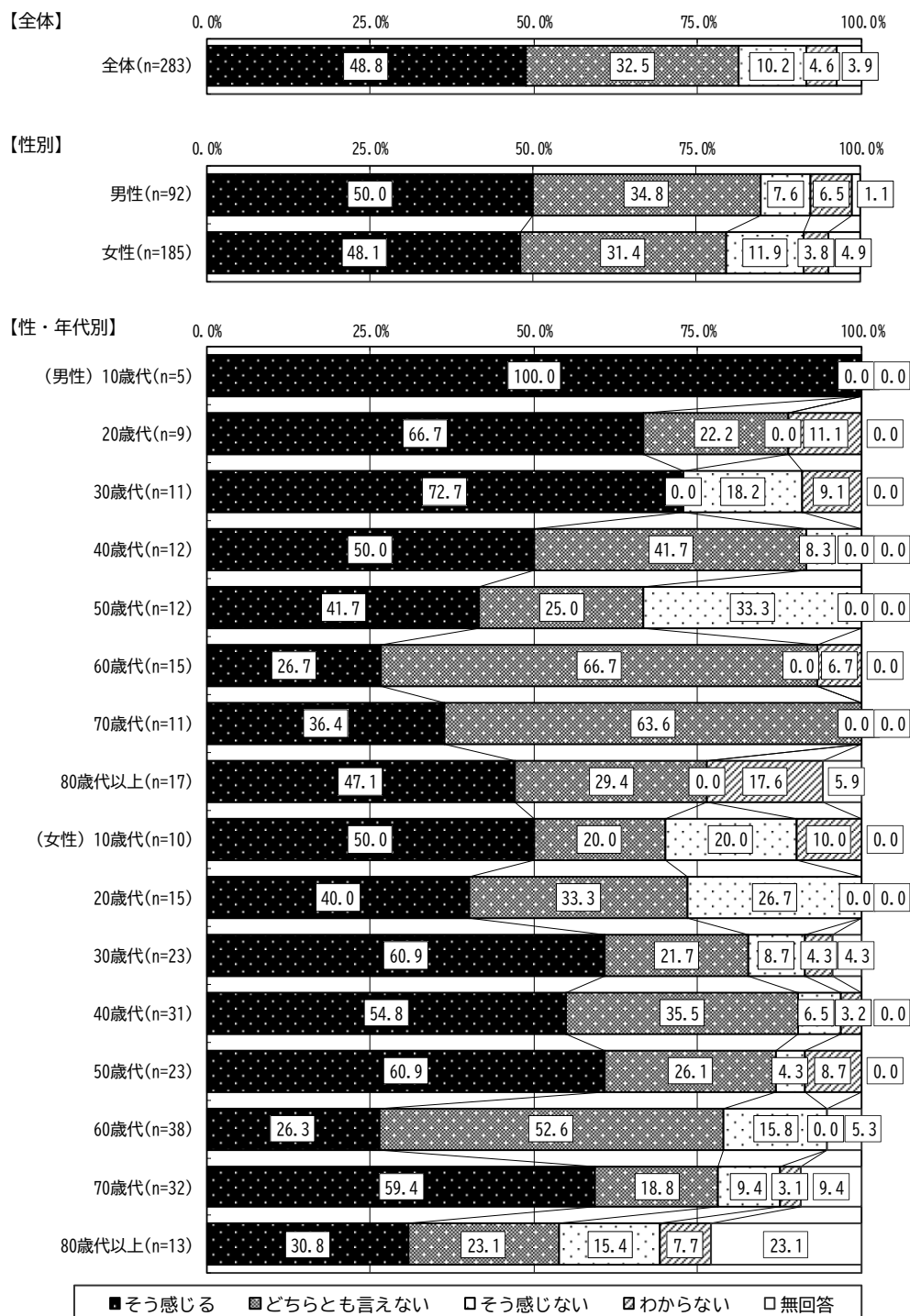


④ 仕事で成功しなければならない

「そう感じる」が48.8%と最も多く、次いで「どちらとも言えない」が32.5%、「そう感じない」が10.2%となっている。

性別では、男性、女性ともに概ね全体と同じ傾向となっている。

性・年代別では、男性は60歳代、70歳代、女性は60歳代で「どちらとも言えない」が、その他の年代で「そう感じる」が最も多くなっている。

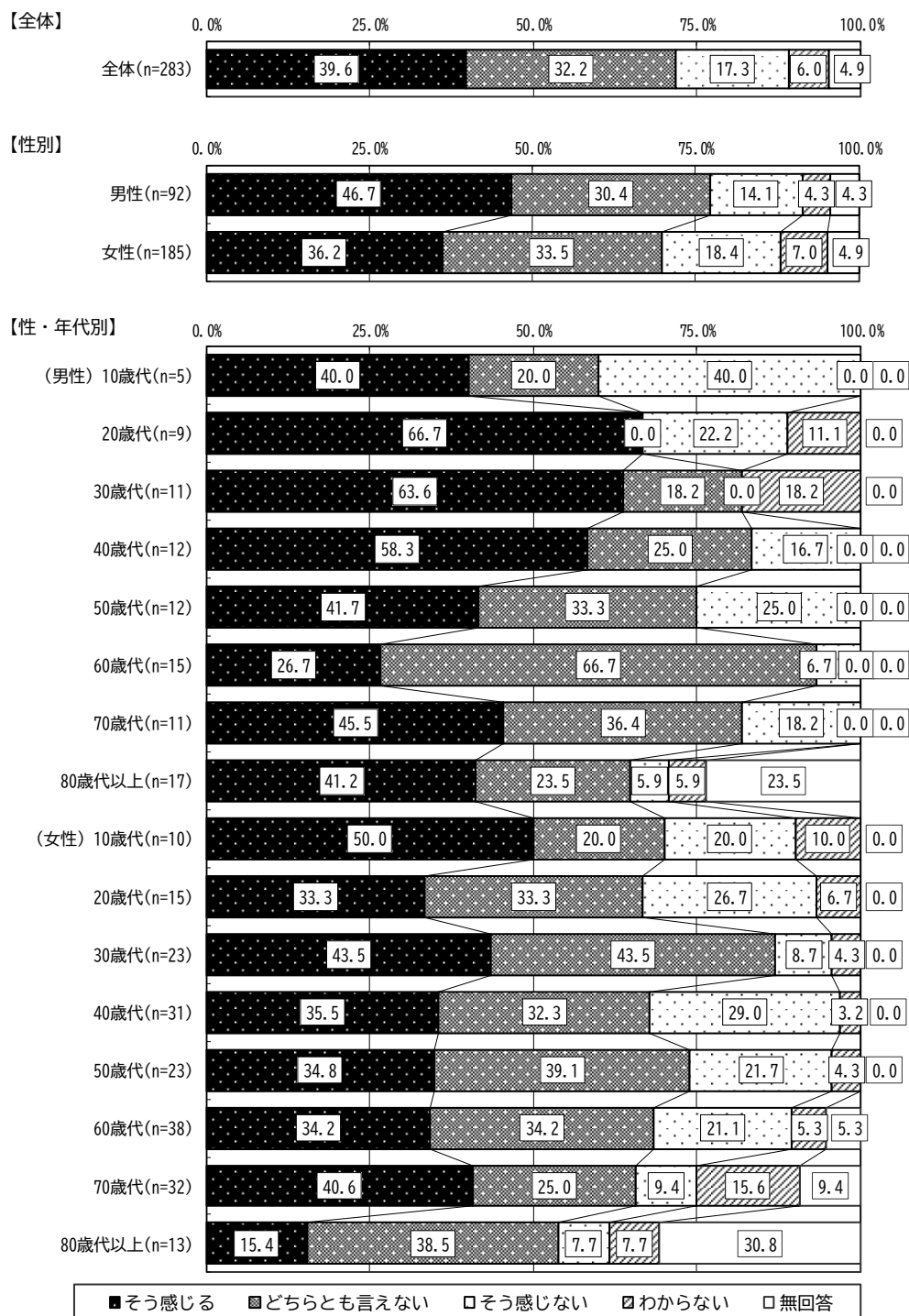


⑤ 食事代（デート代）を相手より多く支払う

「そう感じる」が39.6%と最も多く、次いで「どちらとも言えない」が32.2%、「そう感じない」が17.3%となっている。

性別では、男性は女性よりも「そう感じる」の割合が高くなっている。

性・年代別では、男性は20歳代、30歳代で「そう感じる」の割合が高く、6割を超えている。

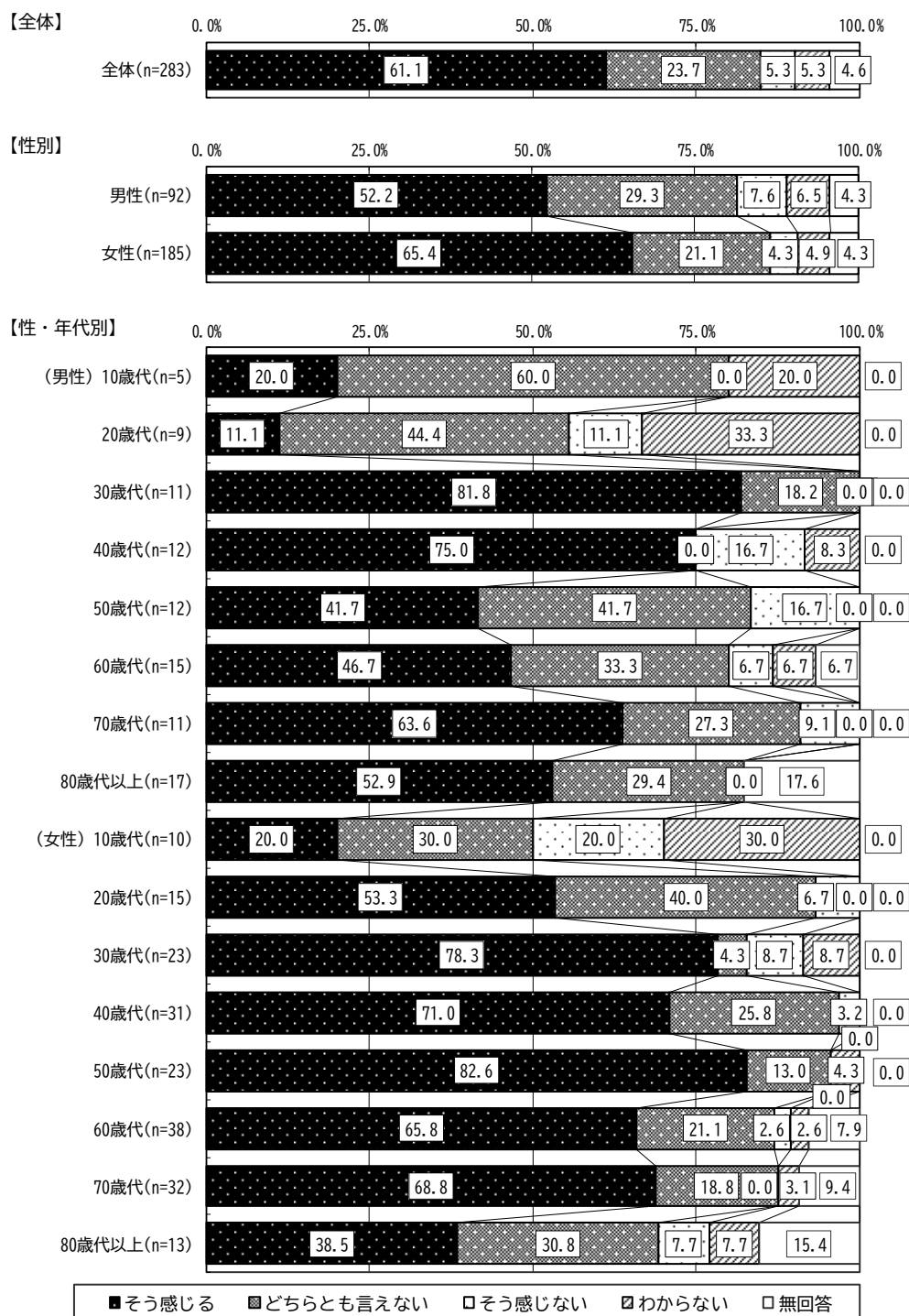


⑥ 家事・育児より仕事を優先される

「そう感じる」が61.1%と最も多く、次いで「どちらとも言えない」が23.7%、「そう感じない」が5.3%となっている。

性別では、女性は男性よりも「そう感じる」の割合が高くなっている。

性・年代別では、男性は10歳代、20歳代、女性は10歳代で「どちらとも言えない」が、その他の年代で「そう感じる」が最も多くなっている。(男性50歳代は「どちらとも言えない」と同率)



8 そのほかのことについて

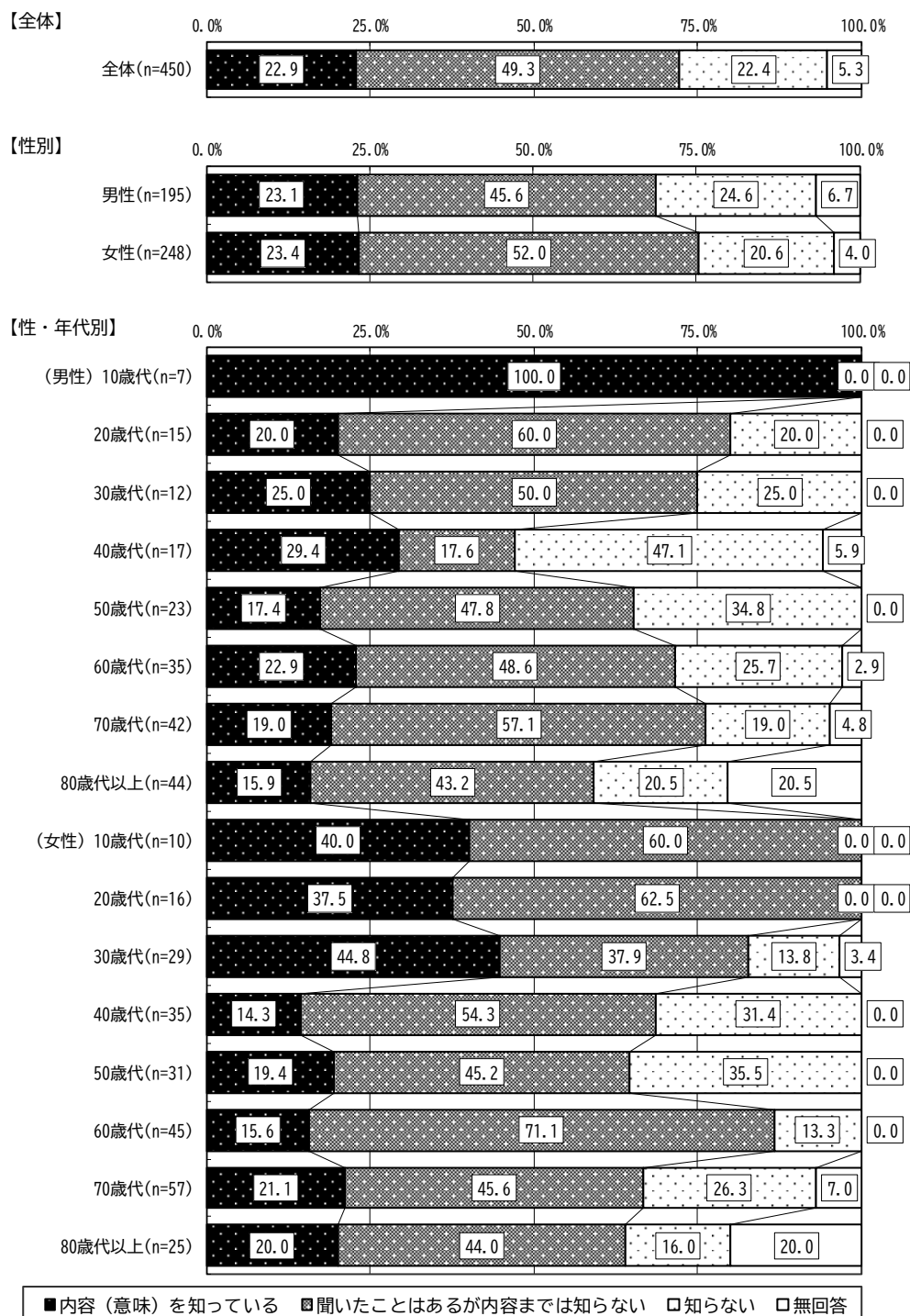
問26 あなたは、次の男女共同参画に関する言葉を知っていますか。(○はそれぞれ1つ)

① 男女共同参画社会基本法

「聞いたことはあるが内容までは知らない」が49.3%と最も多く、次いで「内容（意味）を知っている」が22.9%、「知らない」が22.4%となっている。

性別では、男性、女性ともに全体と同様の傾向となっている。

性別・年代別では、男性は10歳代、女性は30歳代で「内容（意味）を知っている」が、概ねその他の年代で「聞いたことはあるが内容までは知らない」が最も多くなっている。

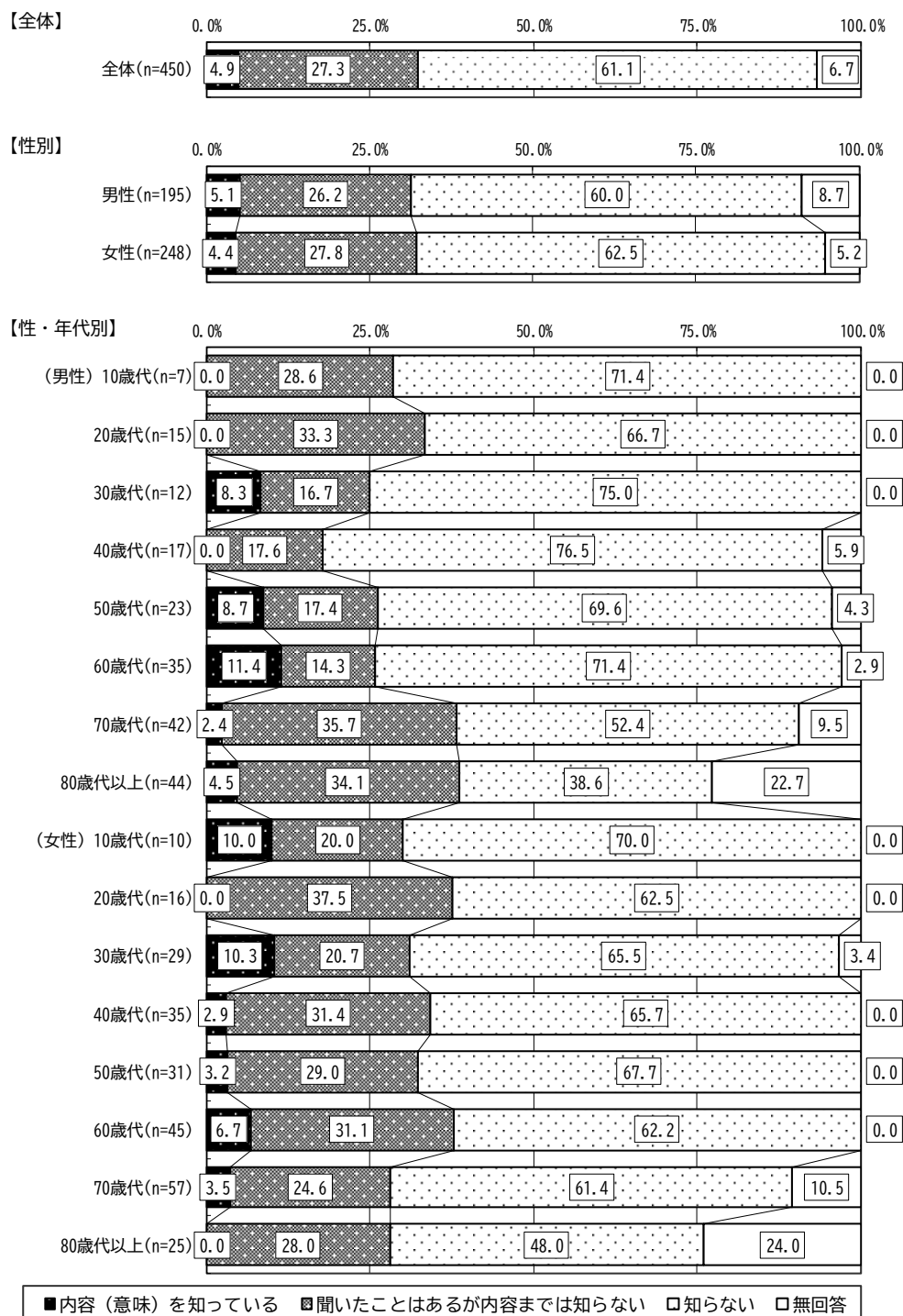


② 困難女性支援法（困難な問題を抱える女性への支援に関する法律）

「知らない」が 61.1%と最も多く、次いで「聞いたことはあるが内容までは知らない」が 27.3%、「内容（意味）を知っている」が 4.9%となっている。

性別では、男性、女性ともに全体と同様の傾向となっている。

性別・年代別では、男性、女性ともにどの年代も「知らない」が最も多くなっている。

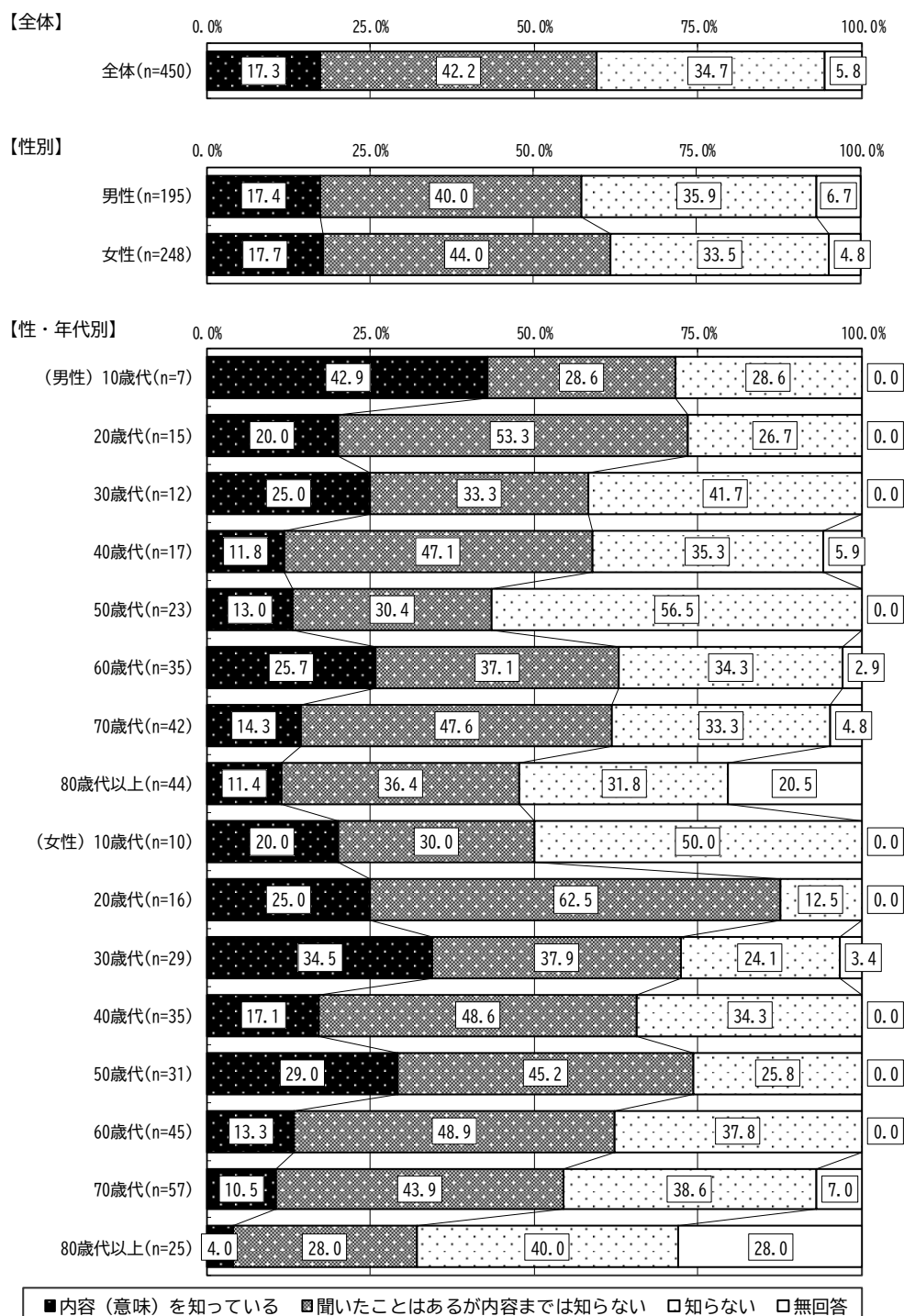


③ L G B T理解増進法（性的指向及びジェンダーアイデンティティの多様性に関する国民の理解の増進に関する法律）

「聞いたことはあるが内容までは知らない」が 42.2%と最も多く、次いで「知らない」が 34.7%、「内容（意味）を知っている」が 17.3%となっている。

性別では、男性、女性ともに全体と同様の傾向となっている。

性別・年代別では、男性は10歳代で「内容（意味）を知っている」が、概ねその他の年代で「聞いたことはあるが内容までは知らない」が最も多くなっている。

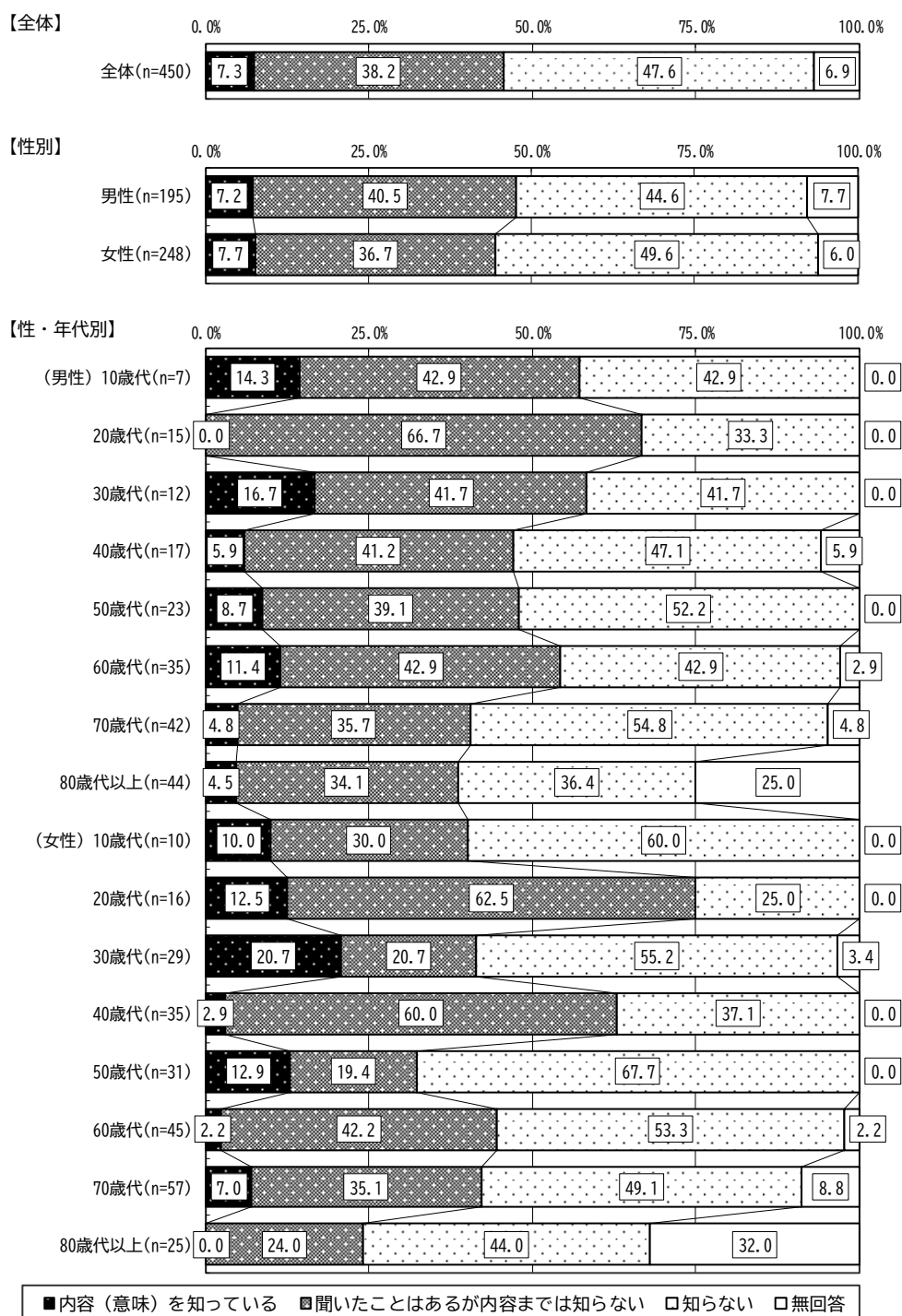


④ 女性活躍推進法（女性の職業生活における活躍の推進に関する法律）

「知らない」が47.6%と最も多く、次いで「聞いたことはあるが内容までは知らない」が38.2%、「内容（意味）を知っている」が7.3%となっている。

性別では、男性、女性ともに全体と同様の傾向となっている。

性別・年代別では、男性、女性ともに概ねどの年代も「知らない」が最も多くなっている。

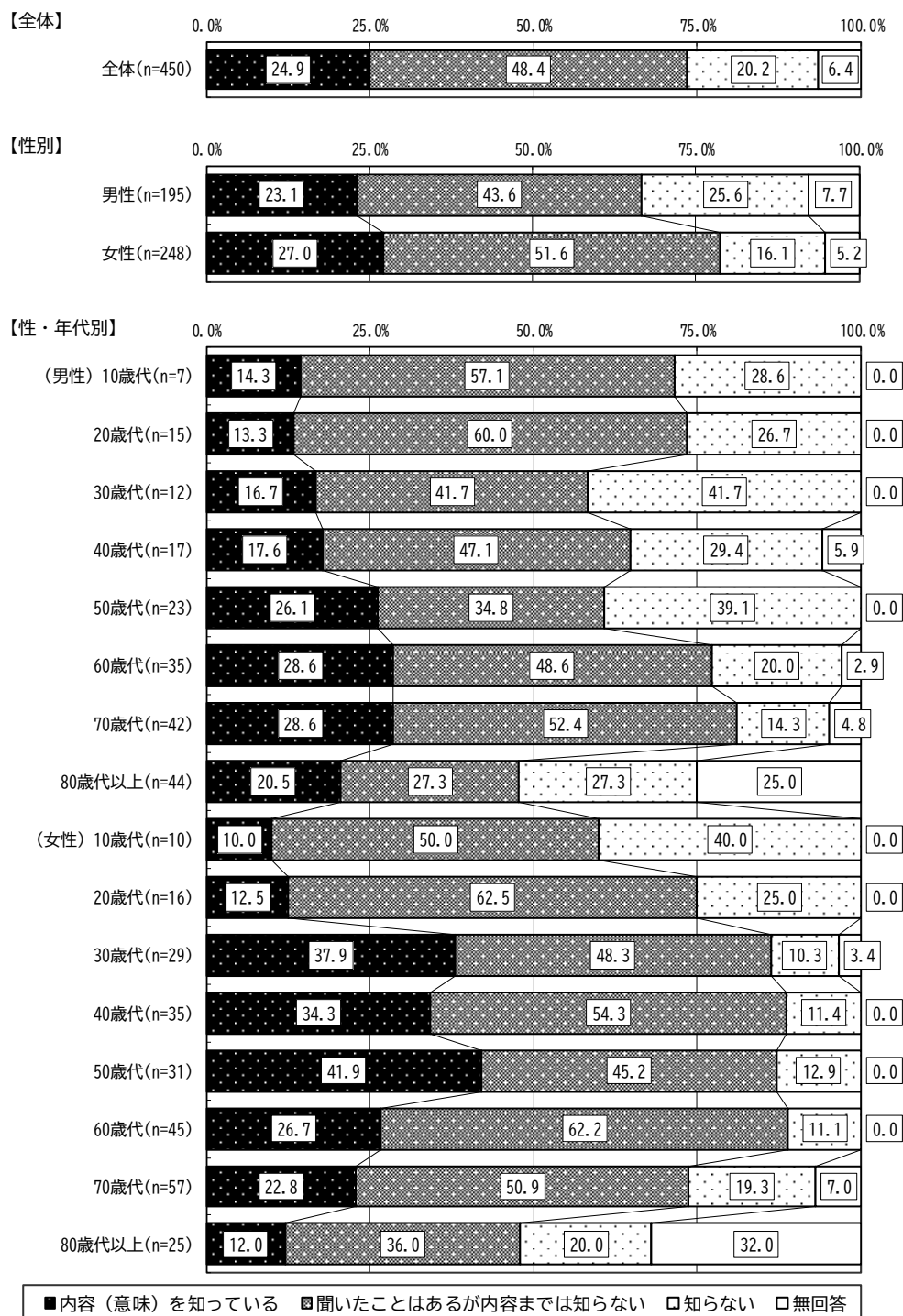


⑤ DV防止法（配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律）

「聞いたことはあるが内容までは知らない」が48.4%と最も多く、次いで「内容（意味）を知っている」が24.9%、「知らない」が20.2%となっている。

性別では、男性、女性ともに全体と同様の傾向となっている。

性別・年代別では、男性、女性ともに概ねどの年代も「聞いたことはあるが内容までは知らない」が最も多くなっている。

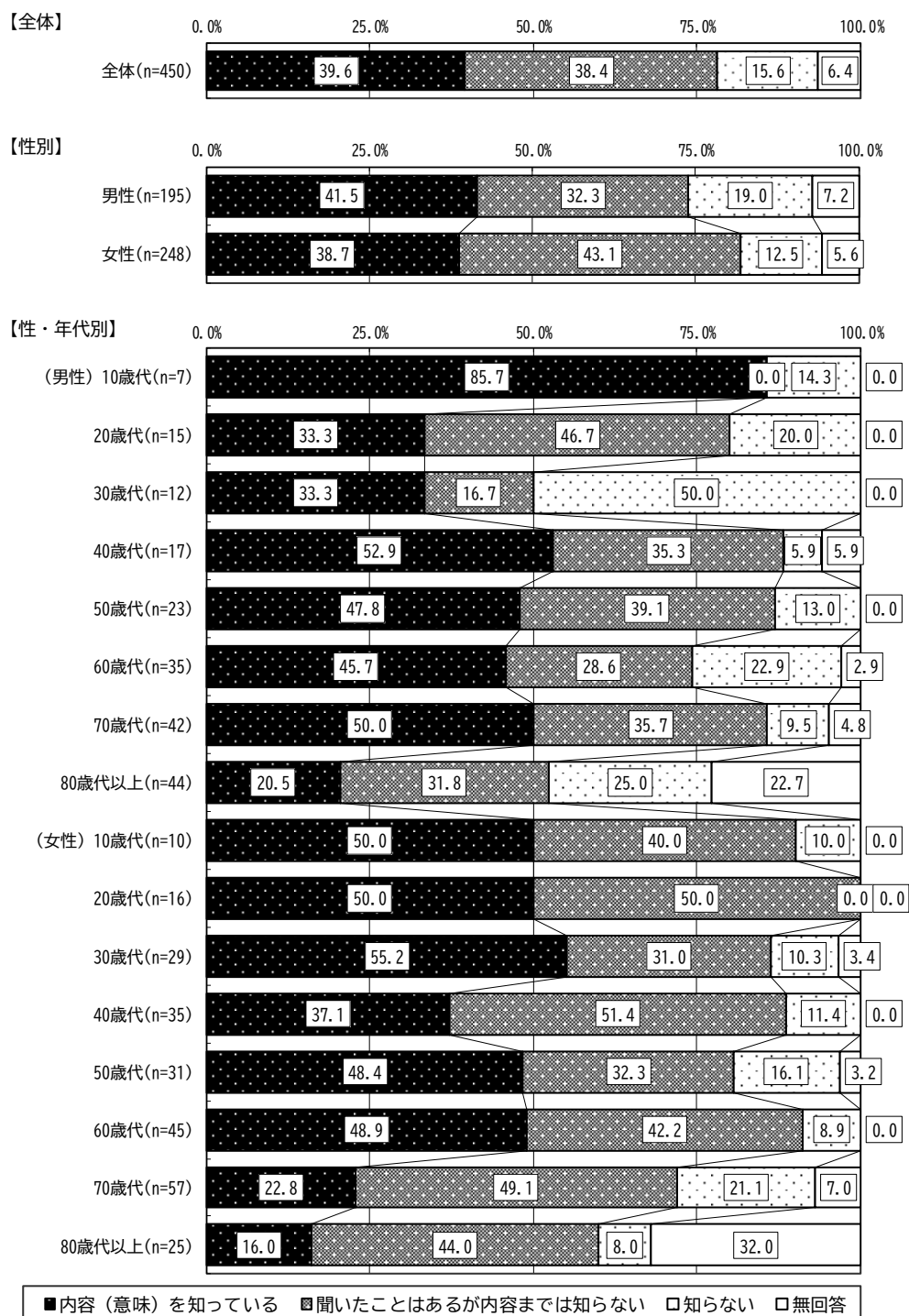


⑥ 男女雇用機会均等法（雇用の分野における男女の均等な機会及び待遇の確保等に関する法律）

「内容（意味）を知っている」が 39.6%と最も多く、次いで「聞いたことはあるが内容までは知らない」が 38.4%、「知らない」が 15.6%となっている。

性別では、男性、女性ともに全体と同様の傾向となっている。

性別・年代別では、男性は 10 歳代と 40 歳代から 70 歳代、女性は 10 歳代から 30 歳代と 50 歳代、60 歳代で「内容（意味）を知っている」が最も多くなっている。（女性 20 歳代は「聞いたことはあるが内容までは知らない」と同率）

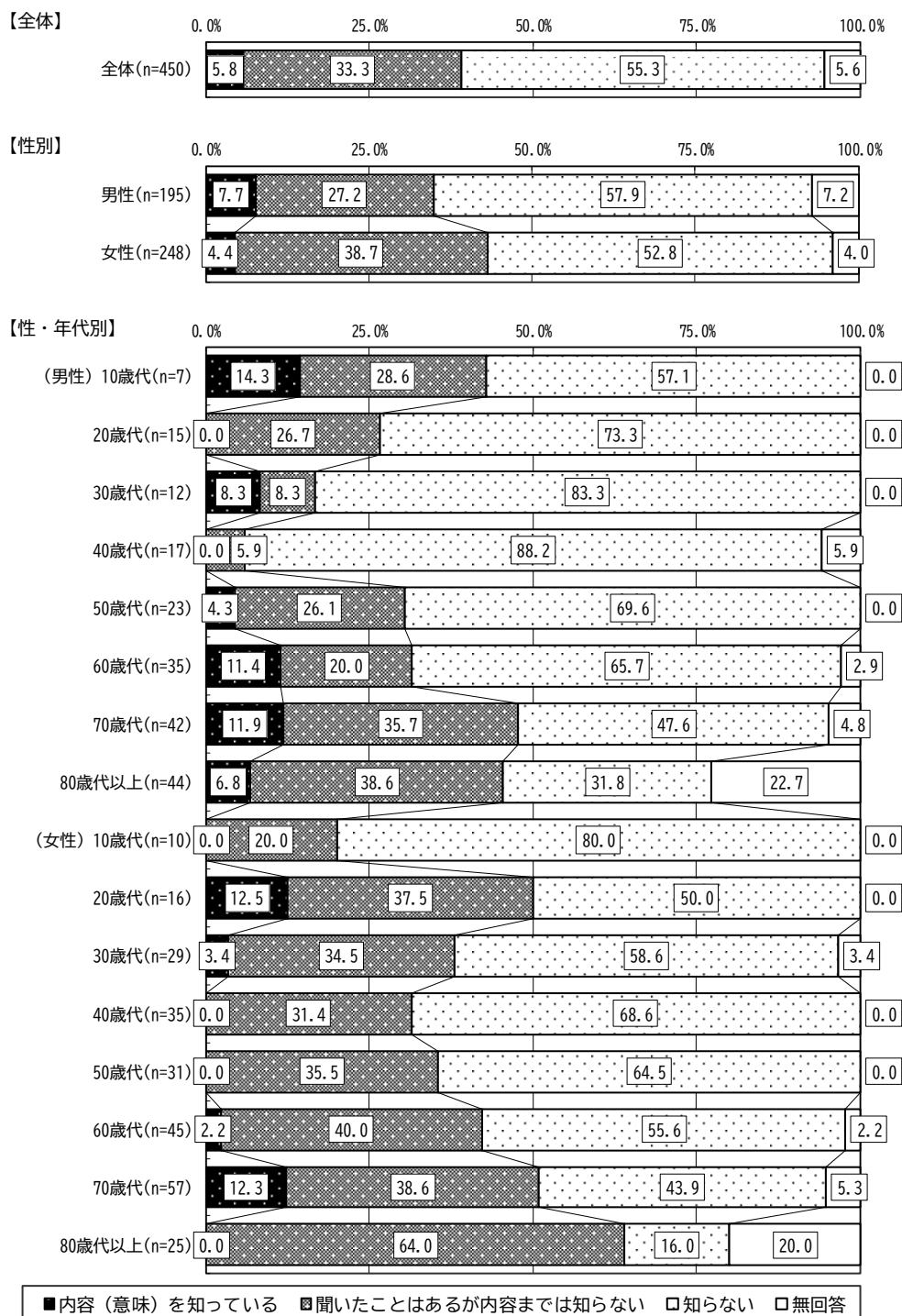


⑦ 守山市男女共同参画推進条例

「知らない」が 55.3%と最も多く、次いで「聞いたことはあるが内容までは知らない」が 33.3%、「内容（意味）を知っている」が 5.8%となっている。

性別では、男性、女性ともに全体と同様の傾向となっている。

性別・年代別では、男性、女性ともに概ねどの年代も「知らない」が最も多くなっている。

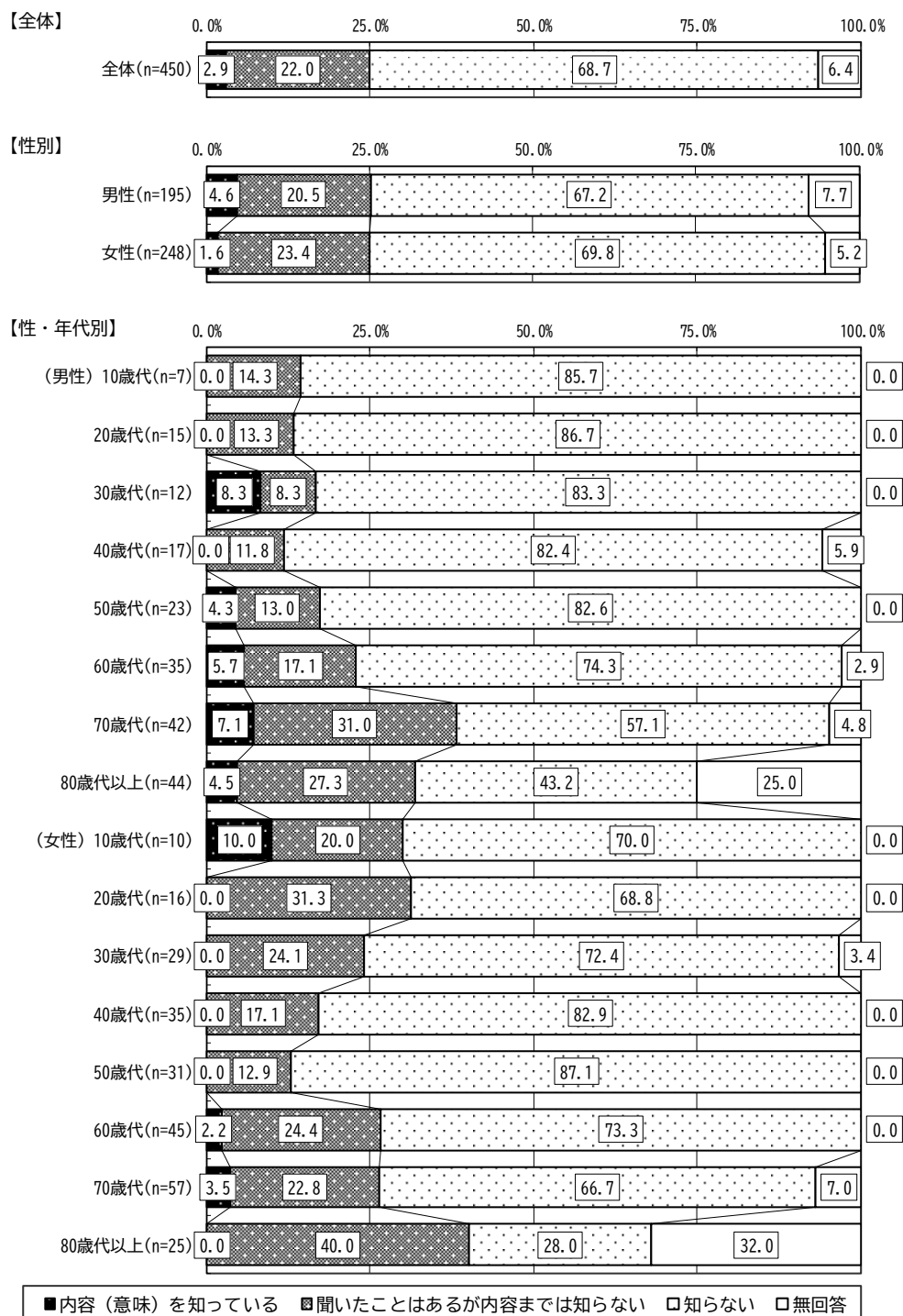


⑧ 第4次守山市男女共同参画計画

「知らない」が68.7%と最も多く、次いで「聞いたことはあるが内容までは知らない」が22.0%、「内容（意味）を知っている」が2.9%となっている。

性別では、男性、女性ともに全体と同様の傾向となっている。

性別・年代別では、男性、女性ともに概ねどの年代も「知らない」が最も多くなっている。

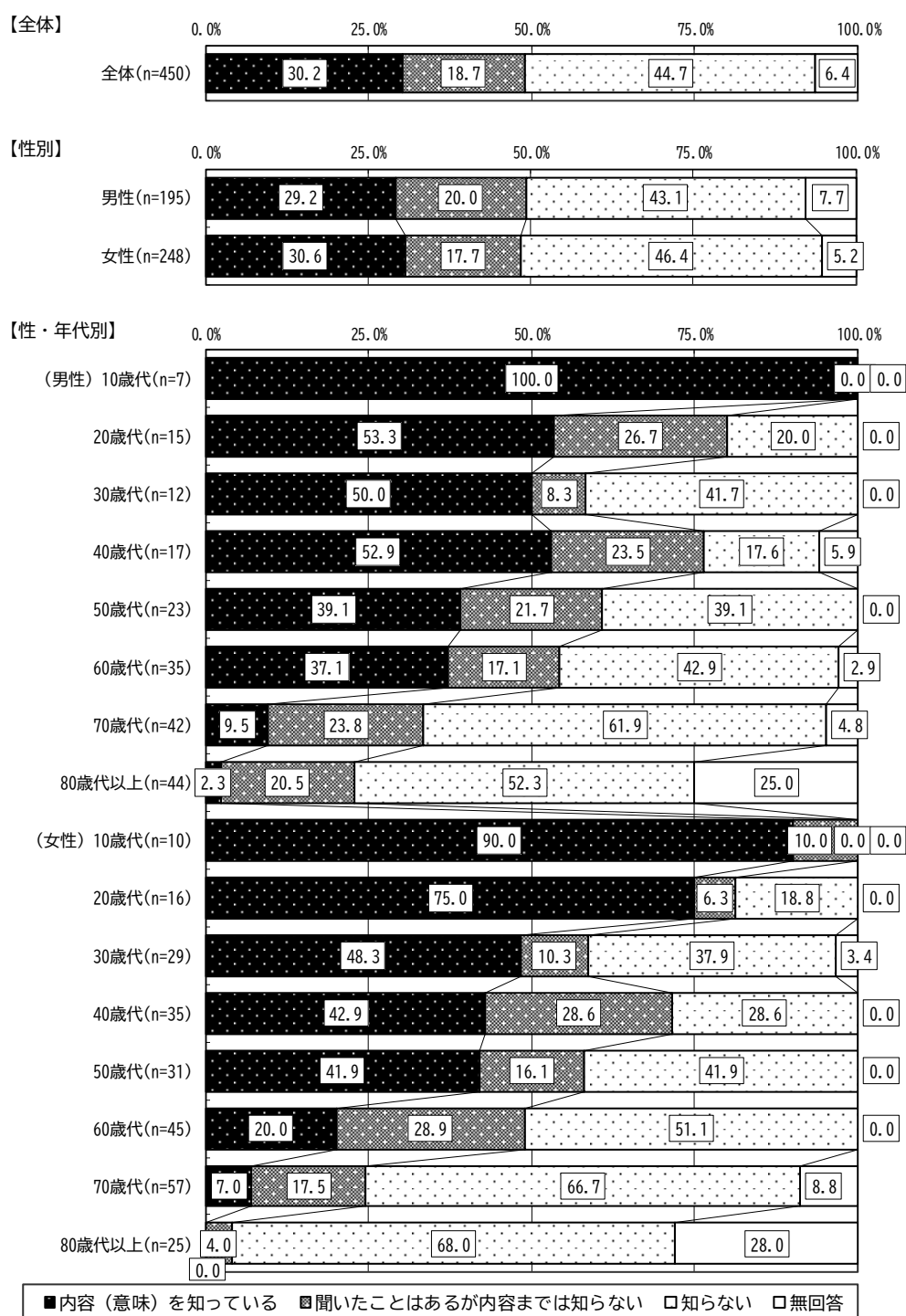


⑨ ワーク・ライフ・バランス (※5)

「知らない」が44.7%と最も多く、次いで「内容（意味）を知っている」が30.2%、「聞いたことはあるが内容までは知らない」が18.7%となっている。

性別では、男性、女性ともに全体と同様の傾向となっている。

性別・年代別では、男性、女性ともに50歳代以下で「内容（意味）を知っている」が、その他の年代で「知らない」が最も多くなっている。（男性50歳代、女性50歳代は「知らない」と同率）



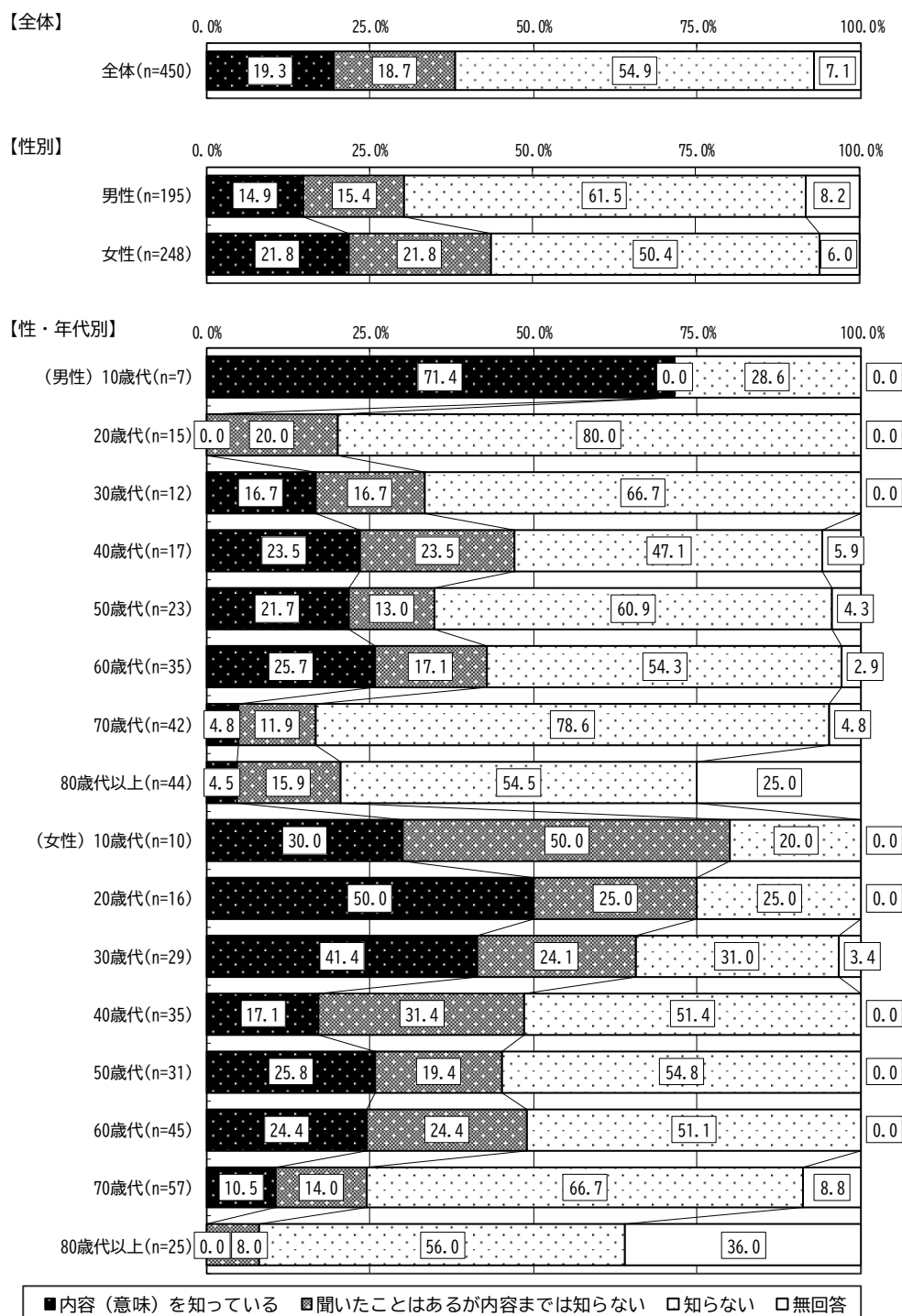
※5 ワーク・ライフ・バランス…「仕事と生活の調和」の意味で働きながら、私生活を充実させるように職場や社会の環境を整えること。

⑩ デートDV (※6)

「知らない」が54.9%と最も多く、次いで「内容（意味）を知っている」が19.3%、「聞いたことはあるが内容までは知らない」が18.7%となっている。

性別では、女性は男性よりも「内容（意味）を知っている」の割合が高くなっている。

性別・年代別では、男性は10歳代、女性は20歳代、30歳代で「内容（意味）を知っている」が、概ねその他の年代で「知らない」が最も多くなっている。



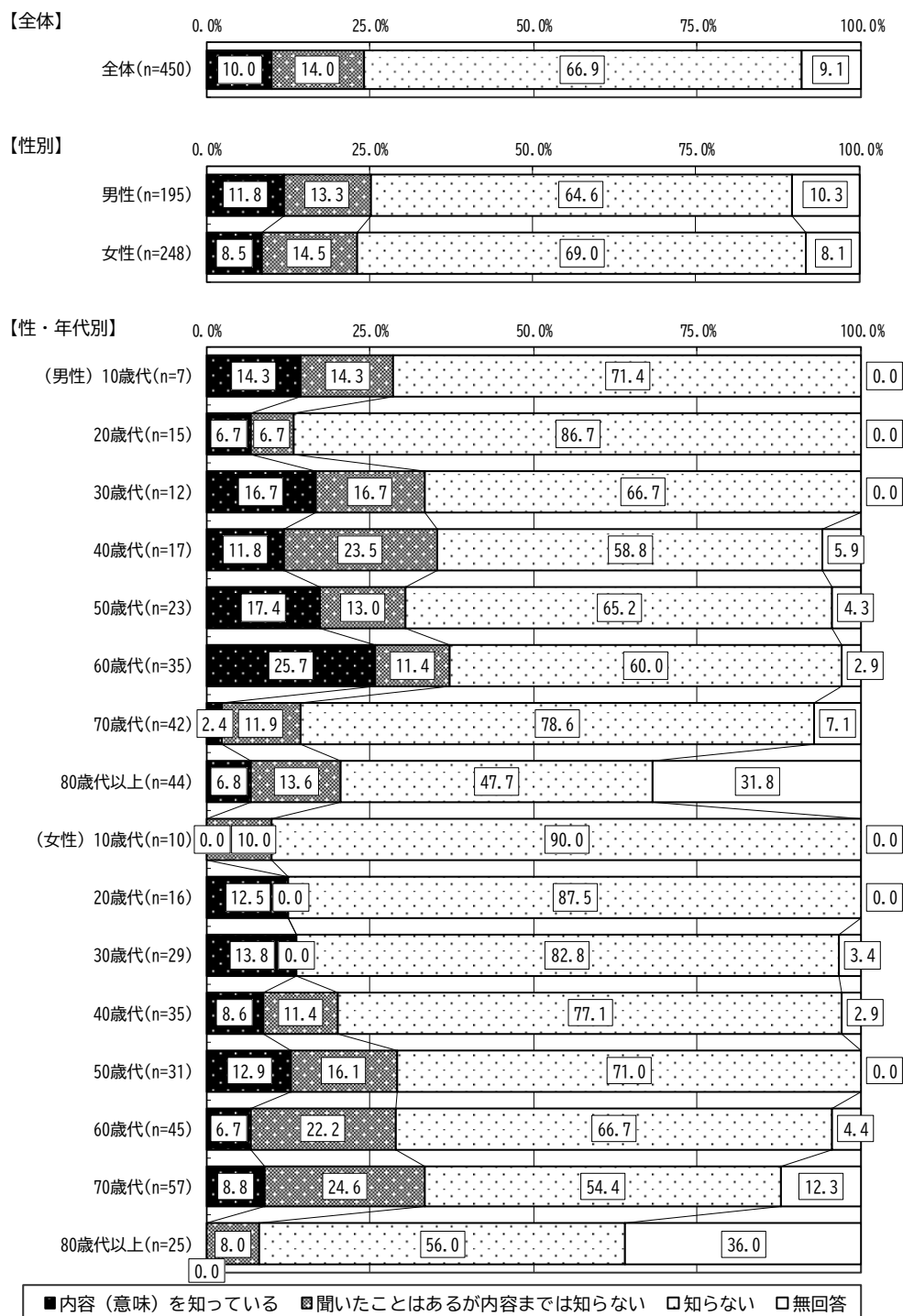
※6 デートDV…配偶者ではなく交際関係にある人の間で起こる暴力のこと。

⑪ イクボス（※7）

「知らない」が66.9%と最も多く、次いで「聞いたことはあるが内容までは知らない」が14.0%、「内容（意味）を知っている」が10.0%となっている。

性別では、男性、女性ともに全体と同様の傾向となっている。

性別・年代別では、男性、女性ともにどの年代も「知らない」が最も多くなっている。



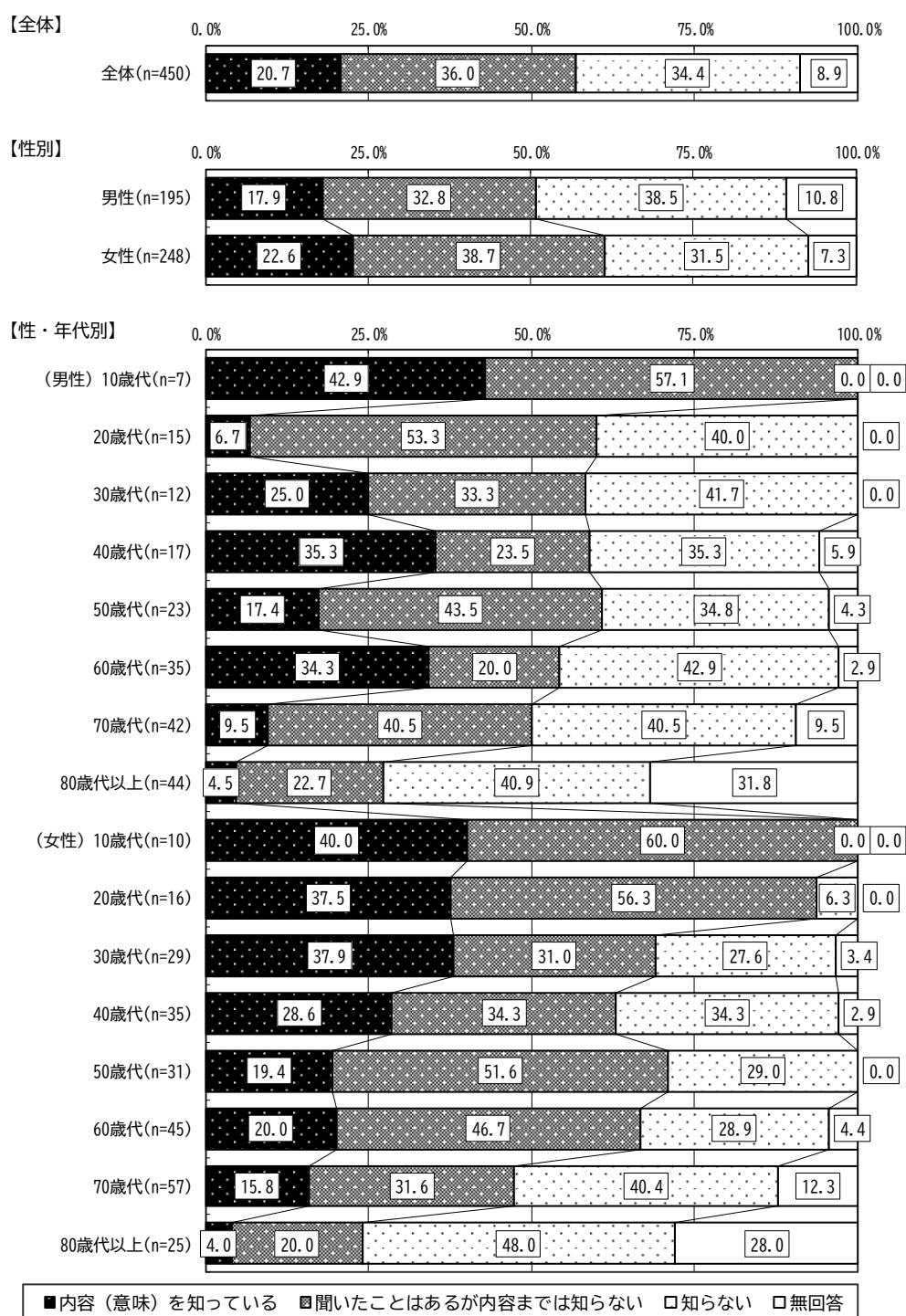
※7 イクボス…職場で共に働く部下のワーク・ライフ・バランスについて応援しながら業績を出し、自らの生活も充実させる上司のこと。

⑫ パートナーシップ制度 ※8

「聞いたことはあるが内容までは知らない」が 36.0%と最も多く、次いで「知らない」が 34.4%、「内容（意味）を知っている」が 20.7%となっている。

性別では、男性、女性ともに全体と同様の傾向となっている。

性別・年代別では、男性は 40 歳代、女性は 30 歳代で「内容（意味）を知っている」が、概ねその他の年代で「聞いたことはあるが内容までは知らない」が最も多くなっている。（男性 40 歳代は「知らない」と同率）



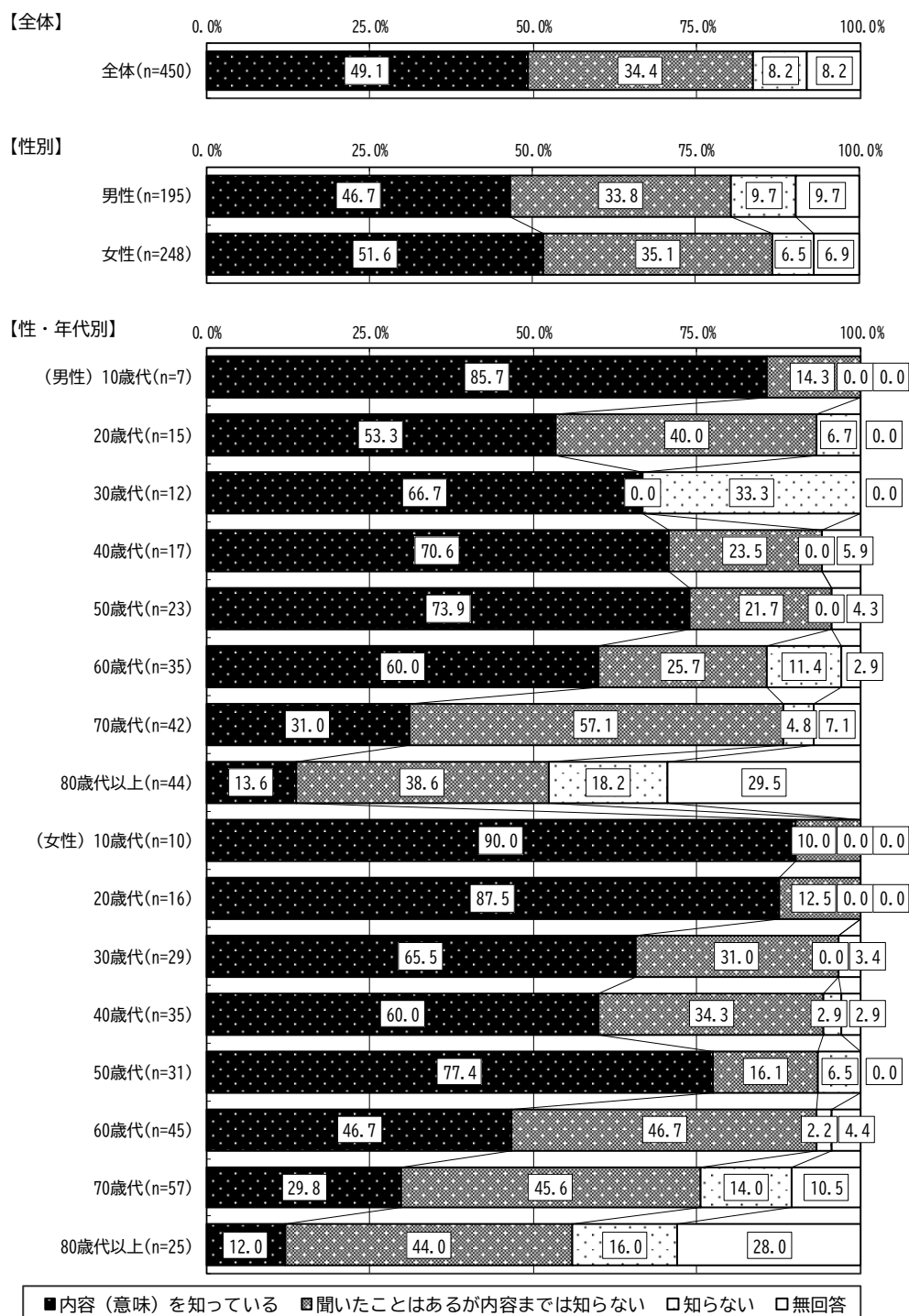
※8 パートナーシップ制度…同性同士の婚姻が法的に認められていない日本で、自治体が独自に LGBTQ カップルに対して、「結婚に相当する関係」とする証明書を発行し、様々なサービスや社会的配慮を受けやすくする制度のこと。

⑬ 働き方改革

「内容（意味）を知っている」が49.1%と最も多く、次いで「聞いたことはあるが内容までは知らない」が34.4%、「知らない」が8.2%となっている。

性別では、男性、女性ともに全体と同様の傾向となっている。

性別・年代別では、男性、女性ともに60歳代以下で「内容（意味）を知っている」が、その他の年代で「聞いたことはあるが内容までは知らない」が最も多くなっている。（女性60歳代は「聞いたことはあるが内容までは知らない」と同率）

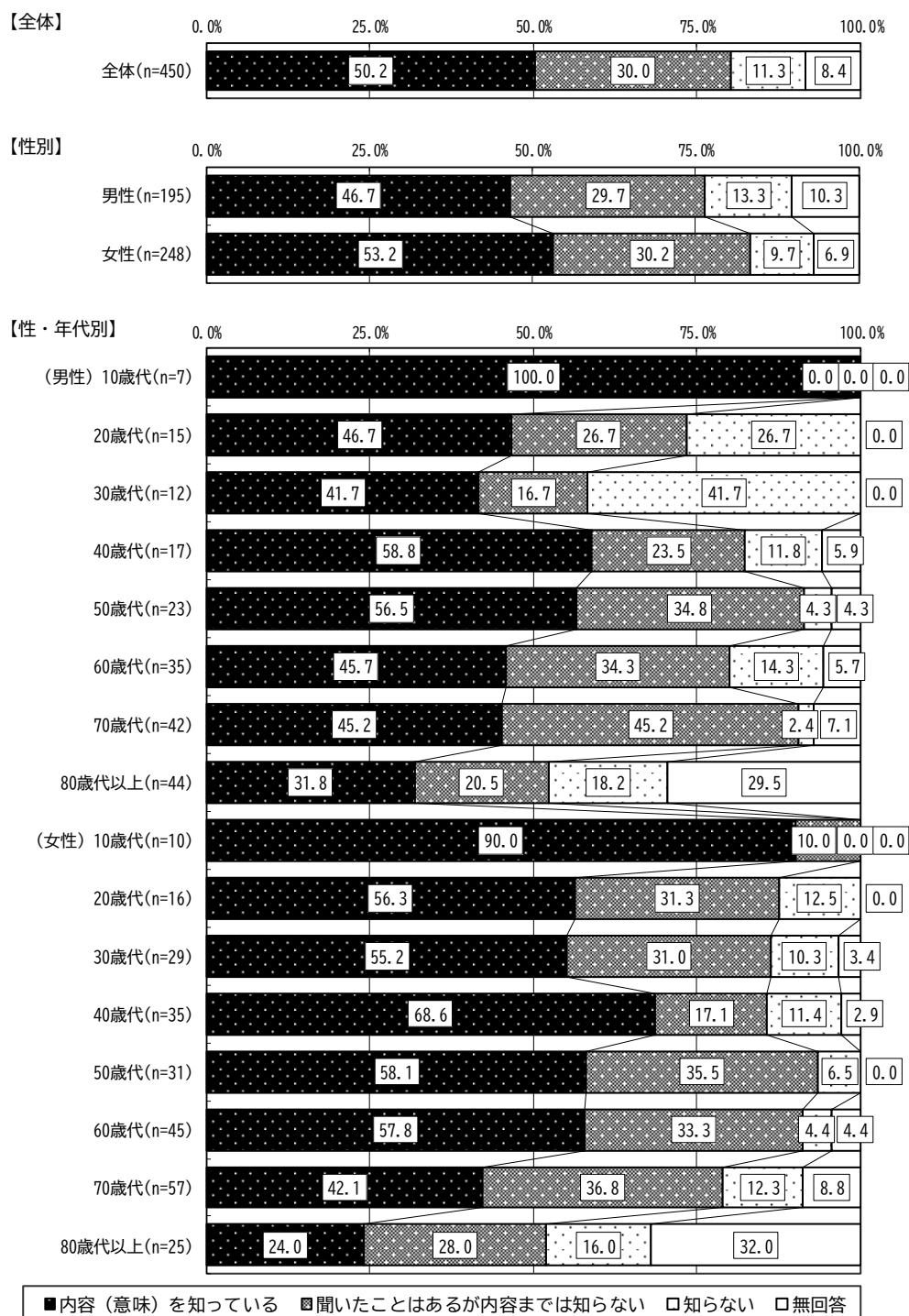


⑭ 選択的夫婦別氏制度（選択的夫婦別姓制度）（※9）

「内容（意味）を知っている」が50.2%と最も多く、次いで「聞いたことはあるが内容までは知らない」が30.0%、「知らない」が11.3%となっている。

性別では、男性、女性ともに全体と同様の傾向となっている。

性別・年代別では、男性、女性ともに概ねどの年代も「内容（意味）を知っている」が最も多くなっている。



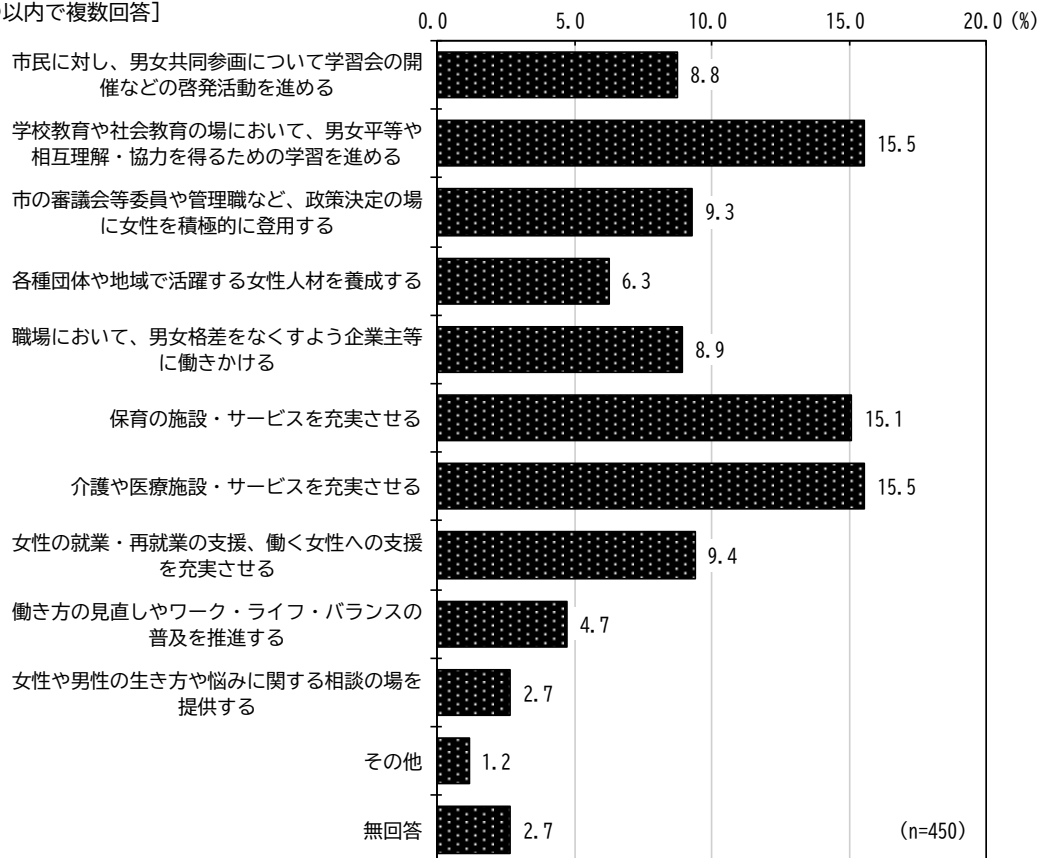
※9 選択的夫婦別氏制度（選択的夫婦別姓制度）…夫婦が望む場合には、結婚後も夫婦がそれぞれ結婚前の氏を称することを認める制度のこと。

問27 あなたは、男女共同参画社会づくりに向けて、守山市では今後どのようなことに特に力を入れていくべきだと思いますか。特に必要だと思うもの3つまで選び、○をつけてください。

「学校教育や社会教育の場において、男女平等や相互理解・協力を得るための学習を進める」「介護や医療施設・サービスを充実させる」が同率で15.5%と最も多く、次いで「保育の施設・サービスを充実させる」が15.1%と続いている。

【全体】

[3つ以内で複数回答]

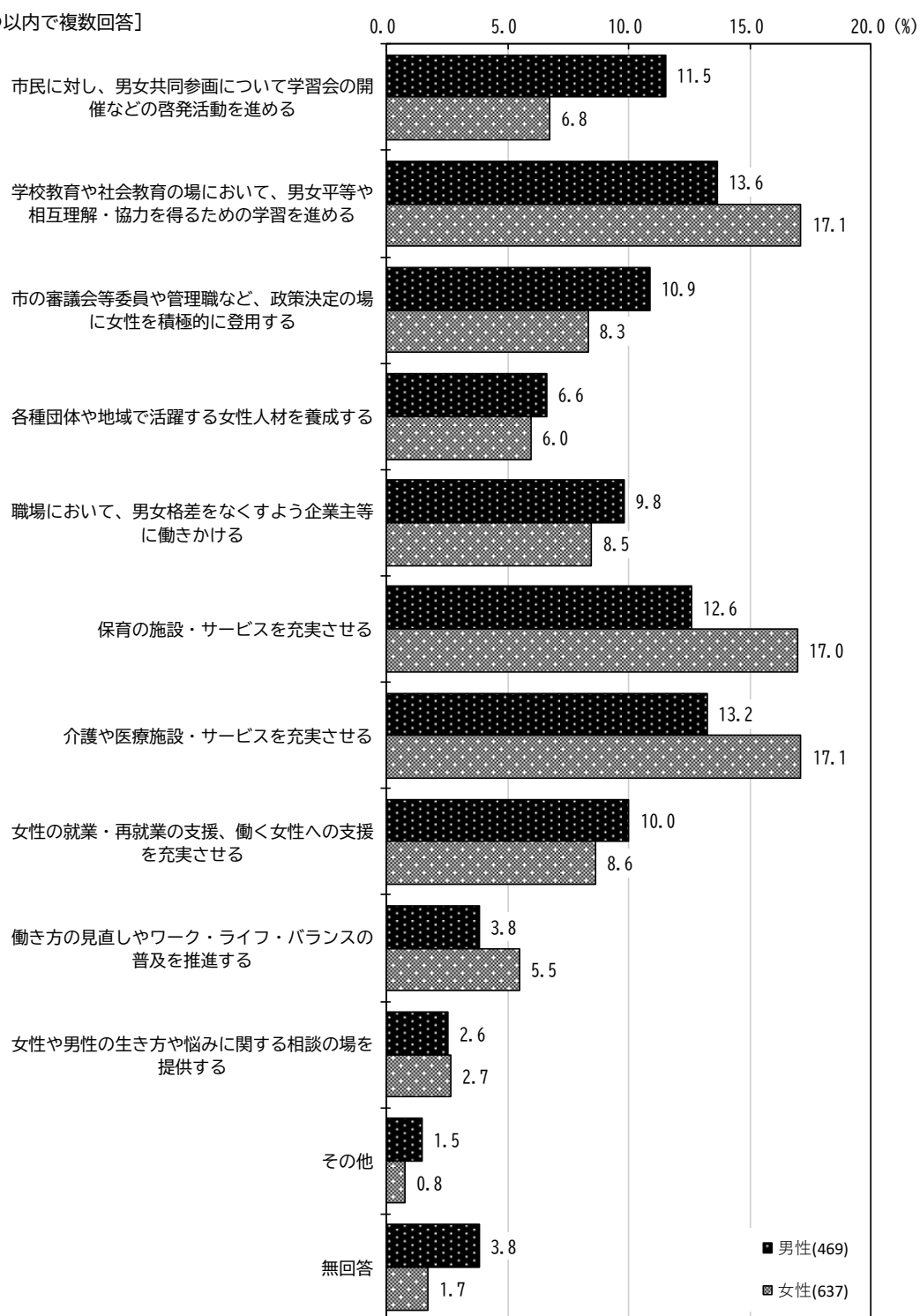


回答数：1,120

性別では、男性、女性ともに概ね全体と同様の傾向である。

【性別】

[3つ以内で複数回答]



() : 回答数

【性・年代別】

※太字は上位3つ（「その他」・「無回答」を除く）、下線は最上位

[3つ以内で複数回答]	全体 (1,120)	男性							
		10歳代 (15)	20歳代 (33)	30歳代 (25)	40歳代 (43)	50歳代 (52)	60歳代 (94)	70歳代 (107)	80歳代 以上 (100)
市民に対し、男女共同参画について学習会の開催などの啓発活動を進める	8.8	6.7	6.1	4.0	9.3	5.8	<u>14.9</u>	10.3	<u>18.0</u>
学校教育や社会教育の場において、男女平等や相互理解・協力を得るための学習を進める	<u>15.5</u>	<u>26.7</u>	21.2	8.0	<u>16.3</u>	11.5	13.8	13.1	11.0
市の審議会等委員や管理職など、政策決定の場に女性を積極的に登用する	9.3	6.7	6.1	8.0	9.3	7.7	10.6	<u>17.8</u>	9.0
各種団体や地域で活躍する女性人材を養成する	6.3	6.7	3.0	8.0	7.0	7.7	7.4	7.5	5.0
職場において、男女格差をなくすよう企業主等に働きかける	8.9	13.3	15.2	12.0	14.0	13.5	7.4	10.3	5.0
保育の施設・サービスを充実させる	<u>15.1</u>	6.7	<u>24.2</u>	<u>20.0</u>	14.0	<u>17.3</u>	10.6	9.3	10.0
介護や医療施設・サービスを充実させる	<u>15.5</u>	6.7	18.2	16.0	14.0	15.4	13.8	10.3	13.0
女性の就業・再就業の支援、働く女性への支援を充実させる	9.4	<u>20.0</u>	3.0	8.0	9.3	9.6	9.6	12.1	10.0
働き方の見直しやワーク・ライフ・バランスの普及を推進する	4.7	0.0	3.0	4.0	0.0	3.8	6.4	2.8	5.0
女性や男性の生き方や悩みに関する相談の場を提供する	2.7	6.7	0.0	4.0	4.7	3.8	2.1	1.9	2.0
その他	1.2	0.0	0.0	4.0	2.3	1.9	2.1	1.9	0.0
無回答	2.7	0.0	0.0	4.0	0.0	1.9	1.1	2.8	12.0

単位：％

※太字は上位3つ（「その他」・「無回答」を除く）、下線は最上位

[3つ以内で複数回答]	全体 (1,120)	女性							
		10歳代 (24)	20歳代 (39)	30歳代 (69)	40歳代 (87)	50歳代 (83)	60歳代 (120)	70歳代 (146)	80歳代 以上 (69)
市民に対し、男女共同参画について学習会の開催などの啓発活動を進める	8.8	4.2	5.1	4.3	4.6	3.6	9.2	6.8	13.0
学校教育や社会教育の場において、男女平等や相互理解・協力を得るための学習を進める	<u>15.5</u>	<u>20.8</u>	10.3	14.5	<u>19.5</u>	<u>20.5</u>	17.5	16.4	15.9
市の審議会等委員や管理職など、政策決定の場に女性を積極的に登用する	9.3	<u>16.7</u>	5.1	10.1	6.9	8.4	7.5	9.6	5.8
各種団体や地域で活躍する女性人材を養成する	6.3	4.2	0.0	2.9	2.3	6.0	5.8	<u>10.3</u>	8.7
職場において、男女格差をなくすよう企業主等に働きかける	8.9	4.2	7.7	7.2	12.6	12.0	10.8	4.8	5.8
保育の施設・サービスを充実させる	<u>15.1</u>	<u>20.8</u>	<u>28.2</u>	<u>24.6</u>	16.1	19.3	<u>20.0</u>	9.6	10.1
介護や医療施設・サービスを充実させる	<u>15.5</u>	12.5	23.1	14.5	13.8	13.3	16.7	<u>21.2</u>	<u>18.8</u>
女性の就業・再就業の支援、働く女性への支援を充実させる	9.4	4.2	12.8	14.5	11.5	7.2	7.5	4.8	10.1
働き方の見直しやワーク・ライフ・バランスの普及を推進する	4.7	8.3	2.6	2.9	3.4	4.8	3.3	<u>10.3</u>	5.8
女性や男性の生き方や悩みに関する相談の場を提供する	2.7	4.2	2.6	0.0	6.9	2.4	0.8	2.7	2.9
その他	1.2	0.0	2.6	1.4	1.1	1.2	0.0	0.0	1.4
無回答	2.7	0.0	0.0	2.9	1.1	1.2	0.8	3.4	1.4

単位：％

Ⅲ. 自由回答記述について

男女共同参画に関して、ご意見などありましたら、ご自由にお書きください。

最後に、男女共同参画についてご意見・ご要望を自由記述方式でたずねたところ、以下のとおりとなっている。

性別	年齢	自由記述
男性	20 歳代	個人にとってはいい事なのだと思います。しかし社会にとっては独身者の増加と少子化の促進になるだろうなと思います。これが悪いこととは言いませんし、この予想が外れてくれれば幸いです。ただ、平等も不平等もバランスが大事なのではないでしょうか。極端になりすぎず、個人を尊重しつつ社会も上手く回るような世の中になればいいですが、理想的すぎますかね。
男性	20 歳代	同時期にLGBTQに関する調査や当調査でパートナーシップ制度に言及しているのに反して、Q14では「男女共同の仕事であり、男女が分担して行うべきである」など、家庭は男女が持つものであり、個人の事情ではなく、性別によって分担が決まることが前提となった設問となっているなど、全体的にちぐはぐで、性別に関する偏見が強いアンケートだと感じた。また、父親と息子のみや、母親と娘のみで構成される家庭では、当然Q12は片方に偏る訳だが、調査のデータとしてはそれでよいのか疑問に感じた。
男性	30 歳代	女性が社会で活躍するためには男性が家事育児をしなければいけない。そのために、男性の意識改革や長時間労働の是正を社会全体でしていく必要があると思います
男性	30 歳代	平等とは男女がどの分野においても全て同じ扱いと言う今で言われるのなら間違っていると思う。お互いが補い合って助け合い成り立つ事が多いはず。無理に一緒にしようとせず、お互いが尊重しあい、「違い」を理解しあう事が出来れば互いに向いている事向かない事が見えてくるのでは？なんでも平等と言って同じを求める考えに対して疑問を持ちます。
男性	30 歳代	なし
男性	50 歳代	行政・立法の場では、女性の意見も尊重すべきであり、それぞれに半分女性の定員を設けるべき。一方、日本古来の女性と男性の役割について、無理に壊す必要はない。つまり、女性と男性が同じ様に働くことを目指さなくて良いと思う。男性が女性を守る社会や家庭が良いと思う。
男性	50 歳代	必要なものを選ぶ質問で、回答が3つしか選べないと言うのは質問の意図がわからないです。優先順位を決める？わけでもないのでは。
男性	60 歳代	男は女性によって完全な男になるように、女性も男によってはじめて完全な女性になる。男女ともそれぞれに完成への媒体は反対の性のなかにしかないのである。もし女性が「母」という自然の原理を深く生きることなく、単に男の論理に従った仮装男性であれば、男が人間として生きるべき根源方向を女性のなかに見出すことはできない。それでは男が女性の完成に手を貸すこともできない。
男性	60 歳代	特にありません。

男性	60 歳代	女性がリーダーや管理職になるにあたり、男性だけでなく女性の意識改革も必要である。
男性	60 歳代	ジェンダーは、あると理解しているが、それぞれの特徴、特性を理解して共に協働できる社会を目指すことが、大切であり、教育、啓発、社会の受け入れがスムーズに進むことに期待しております。
男性	70 歳代	とにかく設問が多い。回答するのに時間がかかった、高齢者にとっては大変。よく似た内容の設問があり、もっと精選すべきである調査結果が、条例や政策で反映されることを望む。キャッシュレスが進み、高齢者が住みにくく、生活しにくい社会になってきている。高齢者に優しい守山にしてほしい。
男性	70 歳代	その他意見・質問項目、選択数が多すぎる・もっと手短かで集約すること・10項目が妥当◎アンケートに応じる側の権利（立場）を考えてほしい！時間がかかりすぎる！
男性	70 歳代	価値感も多様化し、生活費も上がり自分の生活・身の処し方も人それぞれ、人の行動・言動に異和感をおぼえても対応が難しい。行政が手を差し伸べる活動をして自分との関わりがよく理解できず、経済的な余裕がないので参加したいとは思わない。”恒産なくして恒心なし”と言うが、行政の考えている施策と個人の現況には大きな乖離がある。
男性	70 歳代	<男女共同参画>啓発活動を進めるよりも、現実的に女性人材の養成・登用して、現実が変わりつつあることを示す必要がある。
男性	70 歳代	男性は男性としての得意分野で、女性は女性としての得意分野で、社会貢献をしていけばよい。
男性	70 歳代	特になし
男性	80 歳代以上	以前に「守山市男女共同」委員会の副委員長の経験がある。その時メンバーの片寄りがあった。（学校の先生上りが多かった）もっと男女、年齢、公務員、市民の中から公平に選ぶべき！
男性	80 歳代以上	男女共同参画の社会進出は、どんどん発展していて問題ない。
男性	80 歳代以上	女性自身の参加への自覚と積極性が必要と理解。
男性	80 歳代以上	年取りすぎて分からない、知らない事だらけでした。
男性	80 歳代以上	男・女は勿論同様であるが、イコールではない。男らしさ、女らしさはある意味で保存したい。相互が理解し共調を心がけたい。
男性	80 歳代以上	とにかく、『意識改革推進』と徹底した『啓蒙』をはかるべきです。その為の独立したプロジェクトチームを構築しては、如何でしょうか？
女性	20 歳代	特にないです

女性	30 歳代	共同親権には反対です。守山市から国へ働きかけていただけると幸いです。
女性	30 歳代	先日夫が育児休業を取りました。家事などはやってくれていたのですが、やり方が違う、細かいところが出来ていない、中途半端なことも多く、少しイライラしてしまいました。男性が家事などをするのを学ぶ場所が必要だと思います。（例えばオムツは替えて終わりではなくきちんと捨てる、揚げ物をしたら油の処理まで行うなど細かいことを教えてくれるところ）また、保育園などを増やすためにも、保育士さんの給料をもっとあげる必要があると思います。
女性	40 歳代	男の子を育てる両親、祖父母が男女平等の意識が強いかどうかで、最初のスタート地点が環境によって違ってくるように感じます。社会の意識は高まっても、身近な人の意識が変わらない限り、男性の特別感はずっと時代を超えて引き継がれるので、3世代へのわかりやすい周知や教育がこれからも大切だと感じます。
女性	40 歳代	女性が働く為に、子供をあずけるサービスが少ない。学童と塾が一緒になっているようなサービスがあったらいいと思った。お金が高くても入れる保護者は多いと思う。
女性	40 歳代	守山市は保育園の待機児童も多く、学童も3年生までしか預けられない場合が多いので、草津市や大津市に比べて、子育て中の女性は働きにくいと感じます。マンションや戸建ても増え、公園や店、病院等も整備されてきて住みやすいので、働きやすい環境がもっと整ってきたらありがたいです。特に、学童においては他の市では民間学童が多い点もありますが、お弁当を頼めたり、習い事に連れて行ってくれたり、サービスが充実している様に思います。働いていても、子供の教育には力をいれたいので、その様な分野にも参入してもらえたら嬉しいです。職場の理解については、10～20年前に比べてかなり子育てに優しくなっていると感じます。ただ、男性の育休はまだあまり見ないので、まだまだ雇用する側も雇用される側も意識改革が必要かなと思います。あと、子育てしながら働きたいと思っている女性が多いと感じるので、守山市内での就職口がもっとあるといいと思います。
女性	40 歳代	今現在、仕事をしながら不妊治療を行っています。もし子供を授かる事が出来たら、子育てをしながら早急に仕事復帰を行いたいと思いますが、やはり子育ては母親、仕事は父親というように母親の負担が妊娠から子育てまで多すぎます。男の方は正直結婚しても生活は変わりませんが、女性は結婚すると苗字が変わる事へ手続きから家事、妊娠、出産、子育て、社会復帰までの道のりが大変です。せめて、不妊治療から出産後に対しての市からの子育て支援を充実していただき、出産に対しての不安要素を少しでも軽くしていただけると、子供なんて必要ないと思う原因が軽減されると思います。あと、不妊治療に対しての援助をお願いします。近江八幡市では先進医療の補助をされています。市民が守山市に住んで良かったと思える政策をどうかよろしくお願いします。
女性	50 歳代	そもそも、男女共同参画の意味がよくわかっていない。
女性	50 歳代	男性も女性も、その性であるために残念な事があれば、助かると思う場面もあるはず、残念である面だけに声を上げるのはどうかと思う。男女差ではなく全ては能力差でそれが男女という色が濃く現れているだけで、男女の不平等ではない様に思う。
女性	50 歳代	選択的夫婦別氏制度に反対し、差別を容認する自民党員の力が強い滋賀県の自治体では、なかなか改善が困難だと思います。

女性	60 歳代	1人1人に男女区別なく生まれた価値があるのだと思います。職場、家庭においてもそれぞれの能力がありますが、上の立場の方や家庭においてのそれぞれのやり方において1人1人を尊重、助け合う、協力しあうことを忘れずに過ごしていきたいものです。
女性	60 歳代	京都から引越してきましたが、滋賀県の方がずっと男女差別が激しいと思いました。家の前を通られる年配の男性に「おはようございます。」と挨拶しましたが、無視されました。日々感じる事があります。夫も岐阜の田舎の方ですが、男女差別が激しいです。
女性	60 歳代	もう少し簡単なアンケートでいいのではないかな？余りにも細部にわたり過ぎている。
女性	60 歳代	特になし
女性	70 歳代	男女共同参画という言葉が生まれて何年が過ぎたでしょう。いろいろな法律で囲い込んで変革を図ろうとしても、この言葉が派生する前の年代を生きた者達の中には、根強く残る女は家を守る者という思いがあります。
女性	70 歳代	70を過ぎた者をアンケートの対象にするより、現在、働きながら子育てをしている方々の意見を多く取り入れた方が良くと思った。
女性	70 歳代	保育園などに子供を預けられるのは、母親も仕事をしてなければダメというのは今も昔も同じだけど、子供はいろんな環境で成長していく、人と関わっている時間の多い子の成長はすごいものです。いつでも仕事に出、社会の一員として生活出来る予備群として認め、誰でも子供預かってくれたら、もっと女性も社会に飛び出していけるのでは。
女性	70 歳代	急に男女平等は難しいと思います。男女と言うよりすぐれた部分を見てあげるべきだと思います。管理職昇進など男性だから女性だからと言うよりすぐれた部分がある方がいいと思います。
女性	70 歳代	一般に男女共同参画と求められているが、その先頭に政府が示していただく事を接に希望します。
女性	80 歳代以上	本人は高齢者の為、このアンケートに答える力がありません。
女性	80 歳代以上	特になし。
女性	80 歳代以上	問27②④⑤⑥⑧⑨⑩アンケート80歳以上無理です。
女性	80 歳代以上	LGBT理解に関係するかわからないが、同姓同志の結婚を認めたり、性転換しない人が、性別変更する事には反対する。又、夫婦別氏も、職業で旧姓を使用するのは認めても、戸籍上同姓でないと子どもの混乱をまねくのではないかと感じる。

IV. 考察

◇家庭生活における男女の協力を進めるために

「夫は外で働き、妻は家庭を守る」という考え方に「同感しない」「どちらかというと同感しない」と考える人が7割を超えている。また、「家事や育児は、家族共同の仕事であり、男女で分担して行うべきである」と考える人は約6割という結果となった。今回調査で家庭での役割分担の状況を見ても、多くの分野で女性が中心となっている。

- 課題¹⁾・夫婦や家族間での役割分担についてコミュニケーションの促進
- ・男性自身の意識改革（男性自身が家事・育児・介護への抵抗感をなくす）
 - ・社会全体の意識改革（男性による家事・育児・介護が社会で認められること）
 - ・環境整備（男性による家事・育児・介護を促進する仕組みを整えること）

◇女性が仕事を続けられるために

女性が仕事に就くことについて「ずっと仕事を続ける方がよい」と考える人が約4割、「子どもができれば仕事をやめ、大きくなったら再び仕事をもつ方がよい」と考える人も4割近くである。

男性の育児休業の取得については、「積極的に取った方がよい」「どちらかといえば取った方がよい」を合わせると9割以上となっている。一方で、女性に比べ男性の方が「女性は子どもができれば仕事をやめ、大きくなったら再び仕事をもつ方がよい」という考え方が多い結果となった。

- 課題¹⁾・職場における育児・介護との両立支援制度の充実
- ・職場の意識改革（管理職・上司の意識改革、経営層による風土づくり）
 - ・職場への支援（両立支援等助成金等）
 - ・不利益にならない人事評価制度の確立・周知
 - ・女性の就業・再就業への支援

◇女性が地域でリーダーになるために

女性が地域活動のリーダーになるためには、男女ともに「地域活動のリーダーになることに対する男性の抵抗感をなくすこと」「地域活動のリーダーになることに対する女性の抵抗感をなくすこと」の回答が上位を占めている。

- 課題¹⁾・地域活動のリーダーになるための啓発や情報提供・研修会
- ・地域活動のリーダーの人材育成
 - ・女性をとりまく周囲の人の意識改革

◇防災・災害対策での男女共同参画を推進するために

「防災計画の策定の際に男女がともに参画する」、「避難所の運営マニュアルに男女双方の視点を反映させる」の回答が上位を占めている。

- 課題¹⁾・計画の策定やマニュアルの作成段階での、男女双方の意見や視点の採用

◇異性からの暴力を防止するために

セクシャル・ハラスメントやDVについて、「自分が直接被害を受けたことがある」人は、全体では1割程度であるが、誰かに「相談した」と回答した人は約4割で、「相談しなかった」と回答した人は5割という結果となった。また、相談窓口の認知度も警察を除くと、1割程度か1割以下である。

課題 ¹²⁸ ・あらゆる男女間の暴力をなくすための啓発や、相談窓口の周知の促進 ・被害者支援
--

◇あらゆる分野で男女が活躍できるように

男女不平等の原因として「男女の役割分担についての社会通念・慣習・しきたりなどが根強い」「男性が仕事中心・企業中心の考え方が根強い」の回答が上位を占める。

また、「育児、介護などを男女がともに担うための制度やサービスが整っていない」「女性の能力を発揮できる環境や機会が十分でない」の回答も多かった。

課題 ¹²⁸ ・「男だから」「女だから」という先入観をなくし、個人個人の能力に合わせた役割分担 ・性別にとらわれず個性や能力を伸ばす教育の推進 ・仕事と家庭生活の両立支援
--

男女共同参画に関する 市民意識調査

調査ご協力のお願い

市民の皆さまには、日頃から市政の推進にご理解とご協力をいただき、厚くお礼申し上げます。

守山市では、市民が互いに認め支えあい、誰もが平等に参加できる社会の実現を目指して、様々な取り組みを進めています。

このたび、「第4次守山市男女共同参画計画」の2025年度から5年間の方向性を定め、「だれもが自分らしく暮らせる 見守りあうまち もりやま」を目指すため、市内にお住まいの18歳以上の方の中から2,000人を無作為に選ばせていただき、ご協力をお願いするものです。調査票は無記名で、お答えは、すべて統計的に処理いたしますので、個人が特定されることはありません。また、この調査目的以外に使用することはありません。

お忙しいところ誠に恐縮ではございますが、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

令和6年(2024年)7月 守山市

ご回答にあたってのお願い

1. この調査は無記名式です。ご記入いただいた内容はすべて統計的に処理いたしますので、個人が特定されること、他の目的に使用されることは一切ありません。
2. 封筒のあて名の方、ご本人がお答えください。(代筆は可能です)
3. 回答の方法については、①インターネットまたは②調査票に記入して返信用封筒で郵送のいずれかでお願いいたします。
 - ① スマートフォン、タブレット、パソコンからインターネットで回答する。
インターネットで回答いただくと QUOカード Pay※100円分プレゼント!
※スマートフォンで使えるデジタルギフト
…詳しくは次ページをご覧ください。
 - ② 調査票(紙)に回答を記入し、同封の封筒で郵送する。
(返信用封筒に、切手や差出人の記載は不要です)
…詳しくは次ページをご覧ください。
4. **令和6年7月22日(月)までに回答いただきますようお願いいたします。**
※郵送は、**令和6年7月22日(月)まで(消印有効)**

【調査に関するお問い合わせ先】

守山市 総合政策部 人権政策課
〒524-8585 守山市吉身二丁目5番22号
電話：077-582-1116(直) FAX：077-582-0539
E-Mail jinkenseisaku@city.moriyama.lg.jp

【市民意識調査のご説明】

○この調査は無記名式です。ご回答いただいたことにより、個人のお名前やご住所、回答内容が特定されることはありません。

○ご回答いただいた内容は、調査目的以外に使用せず、調査終了後、守山市が責任をもって処分いたします。

スマートフォン、タブレット、パソコンからインターネットで回答する方

①右の QR コードを読み取りまたは以下の URL へアクセス
＜回答用 URL＞

<https://logoform.jp/form/hYti/580082>



②右の調査票 No（数字 6 桁）を回答の一番初めに入力（必須）して、
回答してください。

※調査票 No は郵送との重複回答を防ぐために無作為にふられた
番号です。個人を特定する番号ではございません。

調査票 No.

③専用フォームから回答送信

インターネットによる回答をいただいた方には、**郵送経費相当(100 円分)の QUO カード Pay** をお送りします。QUO カード Pay の受け取りには、スマートフォン等の **e-mail アドレスが必要**となります。

プレゼント進呈時期は、**9 月上旬**を予定しています。

【周知事項】

※市民意識調査の回答内容と e-mail アドレスとは切り離しており、個人は特定されません。

※e-mail アドレスを万が一、間違えて入力されますと、QUO カード Pay の受け取りができなくなりますので、ご注意ください。

※スマートフォンで使えるデジタルギフト

詳細は、<https://www.quocard.com/pay/>



郵送 で回答する方

①本調査票（紙）に回答を直接ご記入下さい。

②本調査票を同封の返信用封筒（切手不要）に入れて、郵便ポストに投函願います。

○ご回答の期限

令和 6 年 **7 月 22 日（月）まで（消印有効）**

男女共同参画に関することについて

家庭生活についておたずねします。

問1 あなたの家庭では、次のような事を主として男性・女性どちらがされていますか。(○はそれぞれ1つ)

	主として 男性	男女同じ 程度	主として 女性	わからない 該当しない
① 生活費をかせぐ	1	2	3	4
② 食事のしたく	1	2	3	4
③ 食事の後片付け	1	2	3	4
④ 掃除	1	2	3	4
⑤ 洗濯	1	2	3	4
⑥ ごみ出し	1	2	3	4
⑦ 家計の管理	1	2	3	4
⑧ 介護が必要な高齢者や病人の世話	1	2	3	4
⑨ 子育てや子どもの世話	1	2	3	4
⑩ 地域活動への参加（自治会活動など）	1	2	3	4
⑪ 学校行事、PTAなどの参加	1	2	3	4

問2 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方がありますが、あなたはこの考え方に同感しますか。もっともあてはまるもの1つに○をつけてください。

- 1 同感しない 2 どちらかといえば同感しない
3 どちらかといえば同感する 4 同感する
5 わからない

問3 家事と育児について、あなたの考えに近いものをお答えください。(○はそれぞれ1つ)

	家族共同の仕事であり、男女で分担して行うべきである	男女で分担すべきだが、男性は仕事が忙しくて分担できないのはやむをえない	女性の仕事であるが、男性は手伝うことも必要だ	女性の仕事であり、男性はしなくてよい
① 家事	1	2	3	4
② 育児	1	2	3	4

問4 あなたは、高齢者の介護を誰が担うべきだと思いますか。もっともあてはまるもの1つに○をつけてください。

- 1 男性も女性もともに介護をするべきだ
- 2 男女に関わらず子どもが親の介護をするべきだ
- 3 主に女性が介護することは仕方がない
- 4 その他 ()

問5 あなた自身の介護が必要になった場合、誰に介護をしてもらいたいですか。あなたが希望する担い手を2つまで選び、○をつけてください。

- | | | |
|----------|-----------|-----------|
| 1 配偶者 | 2 息子 | 3 娘 |
| 4 息子の配偶者 | 5 娘の配偶者 | 6 ホームヘルパー |
| 7 介護施設 | 8 その他 () | |

問6 今後、男性が女性とともに家事・育児・介護を行うためには、あなたはどのようなことが必要だと思いますか。特に必要だと思うものを3つまで選び、○をつけてください。

- 1 男性が家事・育児などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすること
- 2 男性が家事・育児などに参加することに対する女性の抵抗感をなくすること
- 3 夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること
- 4 まわりの人が、夫婦の役割分担などについての当事者の考え方を尊重すること
- 5 男性による家事・育児・介護を促進する仕組みを整えること
- 6 男性による家事・育児・介護がこれまで以上に社会に認められること
- 7 男性の家事・育児などについて、啓発や情報提供、相談窓口の設置を行うこと
- 8 男性が家事・育児などを行うための、仲間（ネットワーク）づくりをすすめること
- 9 その他 ()

職業生活についておたずねします。

問7 日本の女性の年齢別の就労率は、子育て世代において著しく低下し、子育てが一段落すると回復する、いわゆる「M字カーブ」を示していましたが、現在は解消しつつあります。

そのような中、あなたは、女性が子育て（または家庭生活）と仕事を両立することについて、どのようにお考えですか。もっともあてはまるもの1つに○をつけてください。

- 1 ずっと仕事を続ける方がよい
- 2 子どもができたら仕事をやめ、子育てが一段落したら再び仕事をもつ方がよい
- 3 子どもができたら、仕事をやめ子育てに専念したほうがよい
- 4 家庭をもったら仕事をやめ、家事に専念したほうがよい
- 5 女性は仕事をもたない方がよい
- 6 その他 ()

問 8 職場において、男女の格差があると思いますか。特に格差があると思うものを 3 つまで選び、○をつけてください。

- 1 採用条件が女性に不利である
- 2 女性は男性より賃金が低い、昇進が遅い
- 3 能力評価が男女平等ではない
- 4 女性は管理職に登用されにくい
- 5 配置転換に性別による差がある
- 6 女性の方がパート（非常勤）勤務が多い
- 7 補助的な仕事や雑用が女性に偏っている
- 8 結婚や出産に際して、女性が働き続けることが難しい
- 9 男性の方が育児休業や介護休業を取りにくい
- 10 男性の方が残業が多い
- 11 格差はない
- 12 その他（ ）

問 9 女性が離職せずに同じ職場で働き続けるために、あなたが家庭・社会・職場において必要なことは何だと思いますか。特に必要だと思うものを 3 つまで選び、○をつけてください。

- 1 保育所や学童クラブなど、子どもを預けられる環境の整備
- 2 介護支援サービスの充実
- 3 家事・育児支援サービスの充実
- 4 男性の家事参加への理解・意識改革
- 5 女性が働き続けることへの周囲の理解・意識改革
- 6 働き続けることへの女性自身の意識改革
- 7 男女双方の長時間労働の改善を含めた働き方改革
- 8 職場における育児・介護との両立支援制度の充実
- 9 短時間勤務制度や在宅勤務制度などの導入
- 10 育児や介護による仕事への制約を理由とした昇進などへの不利益な取扱いの禁止
- 11 その他（ ）

問10-1 育児や家族介護を行うために、法律に基づき育児休業や介護休業を取得できる制度があります。この制度を利用して、男性が育児休業や介護休業を取ることにについて、あなたはどのように思いますか。（○はそれぞれ 1 つ）

	積極的に取った方がよい	どちらかといえば取った方がよい	どちらかといえば取らない方がよい	取らない方がよい
① 育児休業	1	2	3	4
② 介護休業	1	2	3	4

問10-2 男性が育児休業や介護休業の取得をより進めるために、職場においてどのような取組が必要だと思われますか。特に必要だと思うものを3つまで選び、○をつけてください。

- 1 取得対象者となる男性自身の意識改革
- 2 管理職・上司の意識改革
- 3 経営層による職場風土づくり
- 4 育児休業や介護休業の取得が不利益にならない人事評価制度の確立・周知
- 5 有給の育児休業・介護休業制度の整備
- 6 長時間労働の削減等の働き方改革
- 7 休業者の仕事を補完できる人員体制の整備
- 8 休業者の仕事を補完する同僚等に対する特別手当の付与
- 9 その他 ()

地域・社会活動など仕事以外の活動についておたずねします。

問11 現在、あなたは地域・社会活動に参加していますか。

- 1 参加している
- 2 参加したいが参加できない → 問11-2へお進みください
- 3 何もしていない → 問11-2へお進みください

問11-1【問11で「1 参加している」に○をつけた方のみお答えください】

あなたが参加している地域・社会活動は何ですか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

- 1 自治会などの活動
- 2 子ども会・PTA・保護者会などの活動
- 3 防災・防犯などのNPO・ボランティア活動
- 4 福祉などのNPO・ボランティア活動
- 5 スポーツ・文化・芸術などのNPO・ボランティア活動
- 6 消費生活・環境問題などのNPO・ボランティア活動
- 7 その他 ()

問11-2【問11で「2 参加したいが参加できない」、「3 何もしていない」に○をつけた方のみお答えください。】

あなたが、地域・社会活動に参加しにくい、できない理由は何ですか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

- 1 仕事が忙しい
- 2 家事・育児・介護等で忙しい
- 3 自分の健康や体力に不安がある
- 4 参加するきっかけがない
- 5 経済的に余裕がない
- 6 配偶者や家族の理解が得られない
- 7 参加したい活動や情報がない
- 8 付き合いや人間関係がわずらわしい
- 9 活動に関心がない
- 10 その他 ()

問12-1 あなたが考える「理想の生活」の中で優先したいものは何ですか。次の「仕事」、「家庭生活」、「地域・社会活動、学習、趣味、付き合いなどの『地域・個人の生活』」について、もっともあなたの考えに近いもの1つに○をつけてください。

- 1 「仕事」を優先したい
- 2 「家庭生活」を優先したい
- 3 「地域・個人の生活」を優先したい
- 4 「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい
- 5 「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先したい
- 6 「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい
- 7 「仕事」と「家庭生活」「地域・個人の生活」をともに優先したい

問12-2 次にあなたの「現実の生活」の中で優先されているものは何ですか。もっとも現実に近いもの1つに○をつけてください。

- 1 「仕事」を優先している
- 2 「家庭生活」を優先している
- 3 「地域・個人の生活」を優先している
- 4 「仕事」と「家庭生活」をともに優先している
- 5 「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先している
- 6 「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先している
- 7 「仕事」と「家庭生活」「地域・個人の生活」をともに優先している

問13 あなたは、女性が自治会長やPTA会長などの地域活動のリーダーになるためには、どのようなことが必要だと思いますか。特に必要だと思うもの3つまで選び、○をつけてください。

- 1 地域活動のリーダーになることに対する女性自身の抵抗感をなくすこと
- 2 地域活動のリーダーになることに対する男性の抵抗感をなくすこと
- 3 社会の中で女性が地域活動のリーダーになることについて、これまで以上に社会に認められること
- 4 女性が地域活動のリーダーになることについて、啓発や情報提供・研修を行うこと
- 5 女性が地域活動のリーダーに一定の割合でなるような取組を進めること
- 6 その他 ()

防災についておたずねします。

問14 あなたは、防災・災害対策において、男女共同参画を推進するために、どのようなことが必要だと思いますか。特に必要だと思うもの3つまで選び、○をつけてください。

- 1 防災計画の策定の場に男女がともに参画する
- 2 自治会や地域の自主防災組織の女性リーダーを増やす
- 3 避難所の運営マニュアルに男女双方の視点を反映させる
- 4 避難所運営の責任者に男女がともに加わる
- 5 男女のニーズの違いに応じた相談や情報提供を行う
- 6 男女の違いに配慮した救援医療や健康支援を行う
- 7 災害発生後に増加が懸念される性暴力やDV※への対策を強化する ※DVについては問16参照
- 8 その他 ()

セクハラ・DVについておたずねします。

問15 あなたは、セクシュアルハラスメント(※1)について、自分が経験したり、そのような話を身近で見聞きしたりしたことがありますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

- 1 自分が直接被害を受けたことがある
- 2 相談を受けたことがある
- 3 相談を受けたことはないが、被害を受けた人を知っている
- 4 見聞きしたことはない
- 5 その他 ()

※1：セクシュアルハラスメント…相手の意に反する性的言動により、相手方に不快感や苦痛を与える行為。

問16 あなたは、「配偶者・パートナーや恋人などから身体的・心理的な暴力（ドメスティック・バイオレンス（DV）」を経験したり、身近で見聞きしたりしたことはありますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

- 1 自分が直接被害を受けたことがある
- 2 相談を受けたことがある
- 3 相談を受けたことはないが、被害を受けた人を知っている
- 4 見聞きしたことはない
- 5 その他 ()

問17 【問15、16で「セクシュアルハラスメント」や「ドメスティック・バイオレンス（DV）」のいずれかについて「1」または「2」と答えた方におたずねします。】

あなたはその時、誰かに相談しましたか。

- 1 相談した →問17-1 にお進みください
- 2 相談しなかった→問17-2 にお進みください

問17-1【問17で「1 相談した」に○をつけた方のみお答えください。】

あなたが相談した相談先について、あてはまるものすべてに○をつけてください。

- 1 親、家族、親戚
- 2 上司、会社内部署
- 3 友人
- 4 公的機関（問18参照）
- 5 その他 ()

問17-2【問17で「2 相談しなかった」に○をつけた方のみお答えください。】

あなたが相談しなかった理由について、あてはまるものすべてに○をつけてください。

- 1 相談先がわからない
- 2 本人が望まない
- 3 我慢することにした
- 4 精神状態がよくなかった
- 5 表に出したくなかった
- 6 その他 ()

問18 あなたは、セクシュアルハラスメントやドメスティック・バイオレンスについて、下記の相談窓口を知っていますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

- 1 こども家庭相談課（守山市役所）【DV、離婚前、ひとり親】
- 2 人権政策課（守山市役所）【女性・男性の悩み相談】
- 3 守山市社会福祉協議会【心配ごと電話相談等】
- 4 人権擁護委員・人権擁護推進員【人権相談】
- 5 警察
- 6 弁護士・弁護士会・日本司法支援センター（法テラス）
- 7 女性の人権ホットライン（法務局）
- 8 配偶者暴力相談支援センター（滋賀県立男女共同参画センター内等）
- 9 県の女性相談窓口（女性相談支援センター）
- 10 犯罪被害者相談窓口（NPO 法人おうみ犯罪被害者支援センター）
- 11 いずれも知らない
- 12 その他（ ）

問19 ドメスティック・バイオレンスについて、次のようなことが配偶者・パートナーや恋人間で行われた場合、あなたはそれを暴力だと思いますか。（○はそれぞれ1つ）

	どんな場合でも暴力にあたると思う	暴力にあたる場合も、そうではない場合もあると思う	暴力にあたるとは思わない
① なぐったり、蹴ったり、物を投げつけたりする	1	2	3
② 大声でどなる	1	2	3
③ 人前でバカにしたり、命令するような口調でものを言ったりする	1	2	3
④ 何を言っても無視する	1	2	3
⑤ 外で働くなど言ったり、仕事を辞めさせたりする	1	2	3
⑥ 交友関係や電話・メールを細かく監視したり制限したりする	1	2	3
⑦ 生活費を渡さない	1	2	3
⑧ いやがっているのに性的な行為を強要する	1	2	3

「困難な問題を抱える女性への支援に関する法律」（※2）が本年4月から施行されました。女性への支援についておたずねします。

問20 あなた自身もしくは身近な女性で、女性であることを理由として、困難な問題（※3）を経験したり、見聞きしたことがありますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

- 1 配偶者・パートナーや元配偶者・元パートナー、恋人からの暴力・暴言（「DV」）
- 2 親、兄弟、子ども等からの暴力・虐待
- 3 学校や職場での人間関係のトラブルやハラスメント被害
- 4 ストーカー被害
- 5 女性特有の疾病などによる心身の疲労
- 6 ひとりで育児や介護を行うことによる心身の疲労

7 経済的困窮

8 困難な問題を見聞きしたことがない

9 その他 ()

※2：困難な問題を抱える女性への支援に関する法律…困難な問題を抱える女性の福祉の増進および自立に向けて、保護だけでなく総合的な相談・支援を実施する目的で制定された法律のこと。

※3：困難な問題…「性被害に関する問題」、「家庭の問題」、「お金の問題」などのこと。

問21 あなたは、困難な状況にあるときに次の相談機関を利用できることを知っていますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

1 配偶者暴力相談支援センター（滋賀県立男女共同参画センター内等）

2 県の女性相談窓口（女性相談支援センター）

3 県の子ども家庭相談センター（児童相談所）

4 県等の相談電話【こころの電話、いのちの電話】

5 警察

6 人権政策課（守山市役所）【女性の悩み、人権相談】

7 こども家庭相談課（守山市役所）【DV、離婚前、ひとり親】

8 生活支援相談課（守山市役所）【生活、就労、経済面の相談】

9 すこやか生活課（守山市役所）【健康、こころの健康】

10 守山市社会福祉協議会【心配ごと電話相談等】

11 民生委員・児童委員

12 弁護士・弁護士会・日本司法支援センター(法テラス)

13 いずれも知らない

14 その他 ()

問22 あなたは、困難な問題を抱える女性に対する支援として、どのような支援が効果的であると思いますか。特に効果的だと思うもの3つまで選び、○をつけてください。

1 相談窓口普及啓発

2 電話相談

3 メール相談

4 民生委員・児童委員、ひとり親家庭福祉推進員等、地域における身近な相談

5 困難を抱える女性によるセルフヘルプグループ（※4）

6 就学、就労に関する支援

7 経済面等の生活に関する支援

8 その他 ()

※4：セルフヘルプグループ…同じ境遇の人々が悩みを共有する自助グループのこと。

男女平等意識についておたずねします。

問 23 あなたは、次の分野において男女は平等になっていると思いますか。(○はそれぞれ 1 つ)

	男性が優遇されている	平等である	女性が優遇されている	わからない
① 家庭生活で	1	2	3	4
② 職場の中で	1	2	3	4
③ 学校の中で	1	2	3	4
④ 地域活動の場で	1	2	3	4
⑤ 政治の場で	1	2	3	4
⑥ 法律や制度の上で	1	2	3	4
⑦ 社会通念・慣習・しきたりなど	1	2	3	4
⑧ その他 (具体的に)	1	2	3	4

問 24 あなたは、男女不平等の原因は、どこにあると思われますか。特に重要だと思うもの 3 つまで選び、○をつけてください。

- 1 男女の役割分担についての社会通念・慣習・しきたりなどが根強い
- 2 男性が仕事優先、企業中心の考え方が根強い
- 3 男女の差別を人権問題として捉える意識が薄い
- 4 男女平等について男性の意識が薄い
- 5 男女平等について女性の意識が薄い
- 6 女性の能力を発揮できる環境や機会が十分でない
- 7 女性の意欲や能力が男性に比べて低い
- 8 育児、介護などを男女がともに担うための制度やサービスが整っていない
- 9 家庭や学校における教育不足
- 10 男女は完全に平等であり、どちらかの性が優遇されることはない。
- 11 その他 ()

問 25-1 あなたは、男性も、「男性だから」といった固定概念やプレッシャーなどで「生きづらさ」を感じていると、思いますか。

- 1 思う
- 2 思わない → 問 26 にお進みください

問 25-2 【問 25-1 で「1 思う」と答えた方におたずねします。】

あなたが思う「生きづらさ」は次のどれに近いですか。(○はそれぞれ 1 つ)

	そう感じる	どちらとも言えない	そう感じない	わからない
① 弱音を吐いてはいけない	1	2	3	4
② 力仕事や危険な仕事を任される	1	2	3	4
③ 家族を養う経済力を求められる	1	2	3	4
④ 仕事で成功しなければならない	1	2	3	4
⑤ 食事代（デート代）を相手より多く支払う	1	2	3	4
⑥ 家事・育児より仕事を優先される	1	2	3	4

そのほかのことについておたずねします。

問 26 あなたは、次の男女共同参画に関する言葉を知っていますか。(○はそれぞれ 1 つ)

	内容（意味） 知っている	聞いたことは あるが内容ま では知らない	知らない
① 男女共同参画社会基本法	1	2	3
② 困難女性支援法(困難な問題を抱える女性への支援に関する法律)	1	2	3
③ L G B T 理解増進法(性的指向及びジェンダーアイデンティティの多様性に関する国民の理解の増進に関する法律)	1	2	3
④ 女性活躍推進法(女性の職業生活における活躍の推進に関する法律)	1	2	3
⑤ D V 防止法(配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律)	1	2	3
⑥ 男女雇用機会均等法(雇用の分野における男女の均等な機会及び待遇の確保等に関する法律)	1	2	3
⑦ 守山市男女共同参画推進条例	1	2	3
⑧ 第 4 次守山市男女共同参画計画	1	2	3
⑨ ワーク・ライフ・バランス(※ 5)	1	2	3
⑩ デートDV (※ 6)	1	2	3

⑫ イクボス（※ 7）	1	2	3
⑬ パートナーシップ制度（※ 8）	1	2	3
⑬ 働き方改革	1	2	3
⑭ 選択的夫婦別氏制度（選択的夫婦別姓制度）（※ 9）	1	2	3

※ 5：ワーク・ライフ・バランス…「仕事と生活の調和」の意味で働きながら、私生活を充実させるように職場や社会の環境を整えること。

※ 6：デートDV…配偶者ではなく交際関係にある人の間で起こる暴力のこと。

※ 7：イクボス…職場で共に働く部下のワーク・ライフ・バランスについて応援しながら業績を出し、自らの生活も充実させる上司のこと。

※ 8：パートナーシップ制度…同性同士の婚姻が法的に認められていない日本で、自治体が独自にLGBTQ カップルに対して、「結婚に相当する関係」とする証明書を発行し、様々なサービスや社会的配慮を受けやすくする制度のこと。

※ 9：選択的夫婦別氏制度（選択的夫婦別姓制度）…夫婦が望む場合には、結婚後も夫婦がそれぞれ結婚前の氏を称することを認める制度のこと。

問27 あなたは、男女共同参画社会づくりに向けて、守山市では今後どのようなことに特に力を入れていくべきだと思いますか。特に必要だと思うもの3つまで選び、○をつけてください。

- 1 市民に対し、男女共同参画について学習会の開催などの啓発活動を進める
- 2 学校教育や社会教育の場において、男女平等や相互理解・協力を得るための学習を進める
- 3 市の審議会等委員や管理職など、政策決定の場に女性を積極的に登用する
- 4 各種団体や地域で活躍する女性人材を養成する
- 5 職場において、男女格差をなくすよう企業主等に働きかける
- 6 保育の施設・サービスを充実させる
- 7 介護や医療施設・サービスを充実させる
- 8 女性の就業・再就業の支援、働く女性への支援を充実させる
- 9 働き方の見直しやワーク・ライフ・バランスの普及を推進する
- 10 女性や男性の生き方や悩みに関する相談の場を提供する
- 11 その他（ ）

男女共同参画に関して、ご意見などありましたら、ご自由にお書きください。

.....

.....

.....

.....

.....

— ご協力ありがとうございました —

守山市 男女共同参画に関する市民意識調査 報告書

令和 年（ 年） 月

守山市総合政策部人権政策課

〒524 - 8585 滋賀県守山市吉身二丁目5番22号

TEL：(077) 582 - 1116 FAX：(077) 582 - 0539
